令和元(2019)年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

ＦＤ活動報告書



大妻女子大学人間関係学部ＦＤ委員会

令和元(2019)年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

ＦＤ活動報告書

大妻女子大学人間関係学部ＦＤ委員会

令和元年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

人間関係学部の FD 活動は、全学の中でも定評のあるところである。それは、全学 FD 研修会や学部 FD 研修会への参加率からも客観的に言えることであるし、内容面に関しても、日々の取り組みにから裏づけられているところである。また、ここ数年は本学部の教育・研究理念である「共生社会の実現」の一環として、障害学生支援にも先駆け的な取り組みを果たしてきた。それらのエビデンスの一環として本報告書をお届けしたい。

まず全学的な取り組みとして、令和元年度においては前年度に引き続き伊藤正直理事長・学長による方針の下、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業タイプ 1「教育の質的転換」の採択を目指し、教育の質に関わる取り組みを見直し、それらを改善する様々な取り組みが行われた。さらに、タイプ 5「プラットフォーム形成」として「各大学等の特色化・資源集中を促し、複数大学間の連携、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進」に関しても、積極的に取り組んだ。

その結果、上記の 2 タイプに関して、基準点を大きく超える点数で選定された。これはそもそも、文部科学省の選定を目指すというよりも、大学全体の取り組みとしてその教育の質を上げるために、種々の取り組みをした結果として選定も得ようというものであった。

本学部においては、既に学部 FD 活動が活発に行われ、日常的に様々な改善が進められており、全体としては通常行っていることを上記支援事業の基準に沿って確認する作業が中心となった。具体的にはアクティブラーニングの積極的導入と学修補助 Web システムである manaba の活用、そして毎回の授業間の自習課題などの明文化である。それらを外的基準に照らして評価、再点検する良い機会になった。また昨年度からの新たな取り組みとして、学部 FD 委員会に学友会代表を招いて学生の視点から授業の改善すべき点、その他学生生活に関する意見などの聞き取りを行った。今後はこれを定例化するとともに、さらに学部の多くの学生から意見を聴取する方法を模索したいと考えている。

大妻女子大学は伊藤学長のリーダーシップにより、「教育の大妻」から「教育と研究の大妻」へと転換しつつある。そもそも大学教育において、教員の資質は「教育者」としての能力やスキルが重視されるべきか、研究者としての実績こそ重視されるべきかの議論がある。それは「一流の研究者でなければ一流の大学教員たりえない」という主張と「教育技術なき研究者は教育者ではない」という主張とのぶつかり合いである。私個人としては、「高い教育技術を伴った一流研究者こそ、これからの大学教員たるべき」という考えである。その意味で、人間関係学部は課題を抱えつつも実績を誇れる状況だと考えている。

人間関係学部長　福島哲夫

令和元年度 FD 活動報告書　目次および執筆担当

令和元年度 FD 活動報告書の刊行にあたって（学部長）

Ⅰ　令和元年度人間関係学部の FD 活動について（学部 FD 委員長）……1

Ⅱ－１　授業に関するアンケート（社会・臨床心理学専攻委員）……3

Ⅱ－２　授業アンケートへの対応（社会学専攻委員）……53
　１　前期授業アンケートへの教員の主な回答 ……53
　２　後期授業アンケートへの教員の主な回答 ……55

Ⅲ　学科・専攻における令和元年度 FD 活動への取り組み ……61
　１　人間関係学科 ……61
　（１）社会学専攻における FD 活動に関する取り組み（社会学専攻委員）‥61
　（２）社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み
　　（社会・臨床心理学専攻委員）……67
　２　人間福祉学科 ……78
　（１）人間福祉学科における FD 活動に関する取り組み
　　（人間福祉学科委員）……86

Ⅳ　保護者懇談会（社会・臨床心理学専攻委員）……111

Ⅴ　オフィスアワー（人間福祉学科長）……117

Ⅵ　クラス指導について（人間関係学科長）……121

Ⅶ　人間関係学部 FD 研修会について（学部 FD 委員長）……127

Ⅷ　人間関係学部授業改善 FD について（学部 FD 委員長）……133

Ⅸ　非常勤講師との教育懇談会（人間福祉学科委員）……135

Ⅹ　人間関係学部における FD 活動の課題（学部 FD 委員長）……141

資　料……143

Ⅰ　令和元年度人間関係学部のＦＤ活動について

１．人間関係学部におけるＦＤ活動の取り組み

令和元年度においても、昨年度と同じく教育内容の向上のために下記のような取り組みを行った。

１）学部 FD 研修会の実施

「授業をよりよくするための Tips－その 4－」という研修を実施した（令和元年 12 月 6 日）。研修会の内容と参加者の意見については、本報告書の中で詳しく紹介されている。

２）学生による授業評価

令和元年度においても、前期・後期の年 2 回、学生による授業アンケートを実施した。アンケートの結果に対しては、全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している。なお、昨年度より、学生の出席状況を問う項目とのクロス集計を 5 つの項目で実施し、より詳細な分析結果を教員にフィードバックした。

３）授業改善を図る制度的取組としての学生代表者との意見交換

教育の質の更なる向上に向けて、昨年度に引き続き、授業改善について学生代表者との意見交換を行った（令和 2 年 1 月 10 日（金））。意見交換の内容については、本報告書の中で詳しく紹介されている。

４）保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

令和元年度においても、前期（6 月 1 日：千代田キャンパス）・後期（10 月 19 日：多摩キャンパス）の年 2 回、父母懇談会を実施した。懇談会の実施後には保護者から出された質問、意見､そしてそれに対する大学の改善策を集約して､教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を本報告書の中でも公開している。

５）オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本報告書の中でも、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

６）各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

7）各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、本報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8）クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。本報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

9）その他

昨年度、授業評価アンケートに対する教員のコメントとして、教室にレーザーポインターを配置してほしいという要望がいくつも寄せられた。FD 委員会として授業改善に資する要望であると判断し、今年度複数の教室にレーザーポインターを配置した。今後も教育の質向上に向けて、学生・教員双方の意見を丁寧に取り上げ、対応していければと考えている。

Ⅱ－１　授業に関するアンケート（前期・後期）

１．はじめに

学部授業の質の向上を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。授業アンケートは、2 ヵ年にわたって全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）に対して実施し、授業改善に努めてきた。ただし、やむを得ない事由により実施対象から除外すべきと思われる科目の場合は FD 委員会において審議を行った上で、判断している（人間関係学部「授業に関するアンケート」の実施要綱）。なお、現状は毎年度担当科目のほぼ全科目を対象に授業アンケートを行ってきた。今年度より、全学でアンケート実施を決めていくこととなり、前期の段階で、年間の授業アンケートを実施する科目を学部で取りまとめ、全学の FD 委員会で承認するという手続きとなった。そして、次年度より、Web によるアンケート実施に実施形態が変わるため、紙媒体でのアンケートは今年度で終わりである。

アンケート実施後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２．調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３．調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、令和元年 7 月 1 日（月）～7 月 20 日（土）の 3 週間に実施し、後期は、令和元年 11 月 25 日（月）～12 月 14 日（土）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式をとっている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 244 のうち 238 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 8,921 名であった。そのうち有効回答者は 7,002 名であり、回答率は 78.5%であった。

後期の調査は、総科目数 247 のうち 241 科目で実施した。調査対象者は、調査対象科目の履修者 9,389 名であった。そのうち有効回答者は 6,521 名であり、回答率は 69.5%であった。

前期・後期合わせて、総科目数 491 のうち 479 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 18,310 名であった。そのうち有効回答者は 13,523 名であり、回収率は 73.9%（昨年度 75.3%）であった。

（３）調査項目

授業アンケートの表面には、以下の 5 カテゴリー、21 項目があり、「5．そう思う」、「4．ややそう思う」、「3．どちらともいえない」、「2．あまりそう思わない」、「1．そう思わない」「0．わからない／判断しづらい」の 6 段階評定によって回答を求める形式であった。「0．わからない／判断しづらい」については今年度より新しく追加された。なお、No.14（この授業にどの程度出席しましたか）の回答ラベルは「5．100%」、「4．90%以上」、「3．80%以上」、「2．70%以上」、「1．70%未満」とした。昨年度より、当該項目と No.1（教員の話し方は明瞭で聞きやすかった）、No.8（授業は、学習の目標がはっきり示された）、No.9（授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた）、No.10（授業の内容は興味深いものだった）、No.11（授業の内容はよく理解できるものであった）の 5 項目について、クロス集計を新たに行い、各教員へフィードバックすることとした。また、No.15 について、昨年度から「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という文章を「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」と変更した。なお、回答ラベルは「5．3 時間以上」、「4．2 時間以上」、「3．1 時間以上」、「2．1 時間未満」、「1．していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

① 教員の授業の進め方について（7 項目）
② 授業の内容について（6 項目）
③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について（5 項目）
④ 総合的な印象（1 項目）
⑤ 自由設定＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問（2 項目）

自由記入欄

① 良かったと思う点
② 改善した方が良いと思う点
③ その他の意見や要望など

（4）授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。昨年度より、上述の通り、出席とのクロス集計の結果（5 項目）を追加で作成し、フィードバックする。

② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を FD 委員会に提出する。

③ ②の意見や改善策等は、FD 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。

④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、FD 委員会の責任により、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学　「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の［自由記入欄］には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1．科目名・教員名

科目名	教員名

【注意】 1．ＨＢの黒鉛筆のみ可。 2．折り曲げ厳禁。 ※右例のようなマークは、読みとることができません。（悪い例）　良いマーク⇒ ●　悪い例：うすい、はみ出し

2．所属学科（学科専攻・学年・組にマークしてください）

										学年	組
学部	被服学科	㋐	英語英文学科１年／英文学科２、３、４年	㋒	人間福祉学科	１、２年生	㋔				
	食物学科	食物学専攻 ㋑	コミュニケーション文化学科	㋓		人間福祉学専攻	㋕				
		管理栄養士専攻 ㋖	社会情報学科	社会生活情報学専攻 ㋗		介護福祉学専攻	㋘				
	児童学科	児童学専攻 ㋙		環境情報学専攻 ㋚	比較文化学科	１年生	㋛			①	Ⓐ
		児童教育専攻 ㋜		情報デザイン専攻 ㋝		アジア文化コース	㋞			②	Ⓑ
	ライフデザイン学科	㋟	人間関係学科	社会学専攻 ㋠		アメリカ文化コース	㋡			③	Ⓒ
	日本文学科	㋢		社会・臨床心理学専攻 ㋣		ヨーロッパ文化コース	㋤			④	Ⓓ

短期大学部	家政科	家政専攻 ㋥	国文科	㋦
		生活総合ビジネス専攻 ㋧	英文科	㋨
		食物栄養専攻 ㋩		

3.次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

	そう思う 5	ややそう思う 4	どちらともいえない 3	あまりそう思わない 2	そう思わない 1	わからない／判断しづらい 0
①この授業の進め方について						
1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	⑤	④	③	②	①	⓪
2 教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	⑤	④	③	②	①	⓪
3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※（授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク）	⑤	④	③	②	①	⓪
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	⑤	④	③	②	①	⓪
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	⑤	④	③	②	①	⓪
6 教員の学生に対する接し方は公平だった	⑤	④	③	②	①	⓪
7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	⑤	④	③	②	①	⓪
②この授業の内容について						
8 授業は学習の目標がはっきり示された	⑤	④	③	②	①	⓪
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	⑤	④	③	②	①	⓪
10 授業の内容は興味深いものだった	⑤	④	③	②	①	⓪
11 授業の内容はよく理解できるものであった	⑤	④	③	②	①	⓪
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	⑤	④	③	②	①	⓪
13 「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	⑤	④	③	②	①	⓪
③この授業への取り組みとその成果について						
14 この授業にどの程度出席しましたか	100％ ⑤	90％以上 ④	80％以上 ③	70％以上 ②	70％未満 ①	
15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	3時間以上 ⑤	2時間以上 ④	1時間以上 ③	1時間未満 ②	していない ①	
16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	⑤	④	③	②	①	
17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	⑤	④	③	②	①	
18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	⑤	④	③	②	①	
④総合的な印象						
19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	⑤	④	③	②	①	
⑤自由設定欄（学部独自：ex担当教員がその場で設定する質問）						
20	⑤	④	③	②	①	⓪
21	⑤	④	③	②	①	⓪

自由記入欄は裏面にあります ▶▶▶

K14903T 110kg

【自由記入欄】

【自由記入欄】には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

①良かったと思う点

②改善した方が良いと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

４．調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均点（5 点満点）について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度の結果を比較しながら分析する。なお、分析に際して、「0. わからない／判断しづらい」を除いて平均値を算出している。

①　「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5 点満点）は 4.22（前年度 4.27）であり、後期は 4.24（前年度 4.29）であった。前期後期共昨年度と大きな違いはみとめられず、「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、前期は 2014 年度の評価平均値が 4.27、2015 年度は 4.20、2016 年度は 4.22、2017 年度は 4.18、2018 年度は 4.27 であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期は 2014 年度の評価平均値が 4.28、2015 年度は 4.23、2016 年度は 4.23、2017 年度は 4.20、2018 年度は 4.29 であり、こちらもそこまで大きな変化は見られない。十分に高い水準で安定して推移していることから、これまでの継続的な FD 活動の成果が示されているといえるだろう。

②　「教員の授業の進め方」の評価

今年度の授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の 7 項目の評価平均値（5 点満点）は、前期が 4.32（前年度 4.34）であり、後期は 4.35（前年度 4.39）であった。前後期共に前年度同様、高い数値となっており、「教員の授業の進め方」について着実に改善されていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2014 年度が 4.29、2015 年度は 4.22、2016 年度は 4.27、2017 年度は 4.27、2018 年度は 4.34 であり、昨年度から 2 年続けて 4.3 以上の数値となった。後期については、2014 年度が 4.30、2015 年度は 4.28、2016 年度は 4.30、2017 年度は 4.29、2018 年度は 4.39 であり、こちらも昨年度に引き続き、高い数値となった。

「教員の授業の進め方」を構成する 7 項目の中で、今年度最も評価平均点の高かった項目は、前期が「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.49）」であり、後期も「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.47）」とどちらも同じであった。これは、前年度とほぼ同じ結果であった。そして、前期・後期ともに 2 番目に評価平均点の高かった項目は「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた（4.45、4.46）」であった。これは昨年度と同様の結果であり、2 年連続で教員の授業に対する熱意について高い評価が得られていた。教員の熱意は、学生に伝わりやすく、それが授業に対する動機づけを高め、高い学習効果に繋がるものと考えられる。教育に熱心な先生方の努力が数値としても現れたのであろう。本学教員の教育の質の高さは大変貴重なものであり、これを継続していくことが重要だと考えられる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期が「質問や意見を引き出し、学生の積

極的な参加を促した（4.12)」であり、後期は「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた（4.16)」であった。ただ、低いとはいえ 5 点満点中 4 点以上であることを踏まえると、学生からある程度評価されていると判断できるのではないだろうか。

③　「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.22（前年度 4.26）であり、後期は 4.24（前年度 4.29）であった。前期後期共に昨年度とあまり変わらず、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2014 年度が 4.20、2015 年度は 4.15、2016 年度は 4.19、2017 年度は 4.17、2018 年度は 4.26 であり、昨年度に次いで高い数値となっている。後期に関して、2014 年度が 4.21、2015 年度、2016 年度は 4.20、2017 年度は 4.19、2018 年度は 4.29 であり、こちらも前期と同様、昨年度に次いで高い数値となっている。昨年度からの高いレベルの教育内容が維持されていることを示しているものと考えられる。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期は 4.33、後期は 4.34 であり、過年度においても、毎年、最も評価平均点が高い項目となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、「「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった」であり、前期が 4.12、後期が 4.14 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた。決して低い値ではないが、今年度実施した「授業改善に向けた学生の代表者（学友会）との意見交換」において、シラバスの活用の仕方が判らないという意見が出てきたことを踏まえると、シラバスの内容の改善というよりも、シラバスの活用の仕方について学生に丁寧に伝えることがポイントになるのではないだろうか。

④　「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の 5 項目の評価平均値（5 点満点）は 3.49（前年度 3.44）であり、後期は 3.49（前年度 3.49）であった。前期後期共に 4 点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2014 年度が 3.31、2015 年度は 3.29、2016 年度は 3.33、2017 年度は 3.29、2018 年度は 3.44 であり、近年最も高かった昨年度よりもポイントが増加している。後期に関して、2014 年度が 3.29、2015 年度は 3.32、2016 年度は 3.35、2017 年度は 3.34、2018 年度は 3.49 でありこちらも近年最も高かった昨年度と同じ数値であった。つまり、他のカテゴリーと比べると低いことは確かであるが、着実に改善がなされてきており、この点はポジティブに捉えてよいのではないだろうか。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する 5 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が 4.23（前年度 4.23)、後期が 4.16（前年度 4.19）であった。授業出席に関しては、出席することが当然であると考え

られ、授業に関するアンケートとしては適切な項目ではないかもしれない。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」であり、前期が 2.31（前年度 2.08）、後期が 2.27（前年度 2.13）であった。なお、この項目はこれまでに項目の改善要望が多く出されており、昨年度より、項目の表現をより実態に即したものに変更している。その結果、昨年度は過年度と比べて 0.4 点近く上昇していた。今年度は、さらに数値が上昇しており、授業外学習の促進が着実に進んでいることの一つの証左であると考えている。

５．授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ―２において報告する。

2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（全体）

大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	9,389
回答者数	6,521

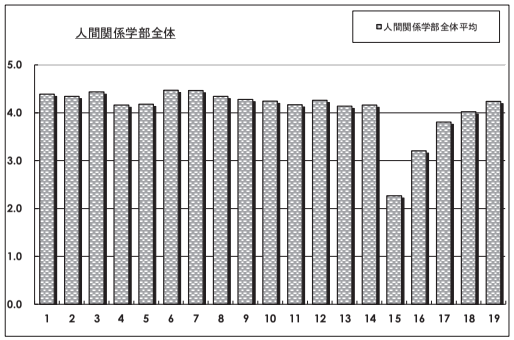
Ⅰ．教員のこの授業の進め方について									当カテゴリー平均点		4.35
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.39**	57.7	29.7	7.6	3.2	1.6	0.2	6,513	8	0.88
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.34**	54.5	30.7	9.6	3.2	1.5	0.4	6,511	10	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.43**	61.2	24.9	9.9	2.3	1.2	0.6	6,506	15	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.16**	47.9	30.4	13.8	5.0	2.6	0.3	6,505	16	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.18**	49.1	29.0	13.6	4.8	2.6	0.8	6,499	22	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	62.6	25.4	8.3	2.0	1.1	0.6	6,500	21	0.82
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.46**	61.2	27.4	8.3	1.8	1.0	0.2	6,492	29	0.81

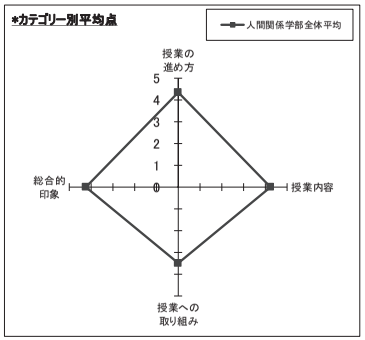
Ⅱ．この授業の内容について									当カテゴリー平均点		4.24
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.34**	54.5	30.4	10.8	2.6	1.4	0.3	6,507	14	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.28**	52.6	29.8	11.2	4.2	1.8	0.3	6,500	21	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.25**	51.3	30.2	12.1	4.1	2.1	0.2	6,499	22	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.17**	47.6	31.1	13.6	4.9	2.6	0.2	6,499	22	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.26**	51.2	30.2	13.0	3.2	2.1	0.4	6,495	26	0.94
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	43.8	31.2	18.6	3.2	1.7	1.6	6,472	49	0.95

Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について									当カテゴリー平均点		3.49
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.16**	48.2	29.2	14.6	6.7	1.2		6,490	31	0.99
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.27**	9.1	8.9	17.5	28.8	35.9		6,485	36	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.21**	24.4	21.0	24.7	10.8	19.1		6,417	104	1.42
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.81**	33.9	30.9	21.8	8.5	4.9		6,483	38	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.02**	41.3	31.6	18.2	5.6	3.2		6,467	54	1.05

Ⅳ．総合的な印象									当カテゴリー平均点		4.24
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.24**	51.4	29.2	13.4	4.0	2.1		6,279	242	0.97

Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（全体）

大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	8,921
回答者数	7,002

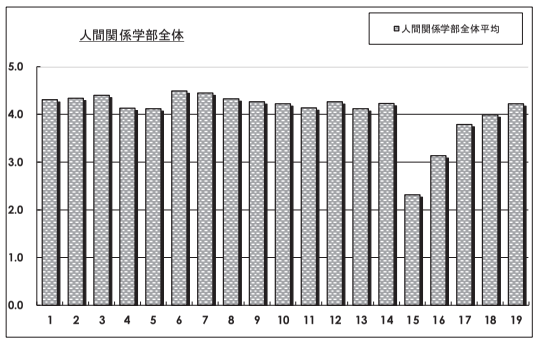
Ⅰ．教員のこの授業の進め方について									当カテゴリー平均点		4.32
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.31**	54.1	29.9	10.1	3.8	1.9	0.3	6,948	54	0.93
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.34**	52.6	32.2	10.9	2.8	0.9	0.5	6,928	74	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.40**	58.5	26.3	10.9	2.6	0.9	0.8	6,933	69	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.13**	44.8	32.4	15.1	5.3	1.9	0.5	6,909	93	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.12**	45.1	29.5	16.7	5.1	2.2	1.4	6,908	94	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	62.8	25.5	9.0	1.4	0.6	0.6	6,908	94	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.45**	59.4	29.0	9.1	1.6	0.7	0.2	6,896	106	0.78

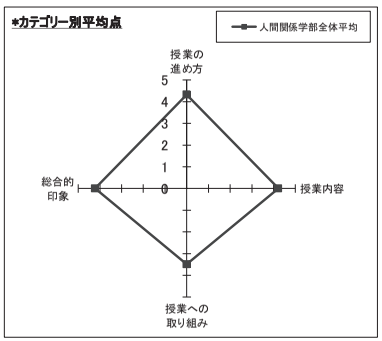
Ⅱ．この授業の内容について									当カテゴリー平均点		4.22
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.33**	51.9	32.4	11.8	2.6	0.7	0.5	6,915	87	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.27**	49.7	32.7	12.4	3.5	1.3	0.4	6,893	109	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.22**	48.5	32.2	13.6	4.0	1.6	0.3	6,885	117	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.13**	44.7	32.5	15.2	5.4	1.8	0.4	6,883	119	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.27**	50.0	31.9	13.4	3.0	1.3	0.4	6,863	139	0.90
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.12**	41.4	32.8	19.1	3.3	1.3	2.0	6,815	187	0.93

Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について									当カテゴリー平均点		3.49
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.23**	52.7	26.4	13.8	5.8	1.4		6,885	117	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.31**	9.2	9.2	18.5	29.6	33.4		6,865	137	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.13**	21.8	20.8	26.2	10.9	20.2		6,793	209	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.79**	31.9	31.7	24.1	7.8	4.4		6,846	156	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.99**	38.3	33.5	20.0	4.9	3.2		6,812	190	1.04

Ⅳ．総合的な印象									当カテゴリー平均点		4.22
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.22**	49.4	30.5	14.7	3.7	1.7		6,643	359	0.94

Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間関係学科　社会学専攻

履修者数	―
回答者数	1,888

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.21

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.24**	49.8	32.4	11.0	4.8	1.8	0.1	1,886	2	0.95
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.21**	48.0	32.2	13.2	4.6	1.6	0.4	1,884	4	0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.36**	56.0	27.4	12.6	2.0	1.2	0.9	1,879	9	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.99**	40.0	31.0	19.5	6.2	2.9	0.4	1,881	7	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.02**	41.5	30.9	17.0	6.5	3.2	0.8	1,879	9	1.07
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.34**	54.1	29.1	11.8	2.6	1.2	1.2	1,880	8	0.88
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.34**	53.4	30.7	11.8	3.0	0.7	0.5	1,878	10	0.85

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.18**	45.6	34.0	14.8	3.9	1.6	0.2	1,884	4	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.12**	44.3	33.2	14.6	5.5	2.1	0.3	1,880	8	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.08**	41.1	35.5	16.2	4.5	2.6	0.1	1,878	10	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.01**	38.5	35.5	17.2	5.6	3.1	0.1	1,880	8	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.07**	40.5	34.3	18.6	4.0	2.2	0.3	1,878	10	0.98
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.02**	36.8	34.0	22.3	4.0	1.5	1.4	1,868	20	0.95

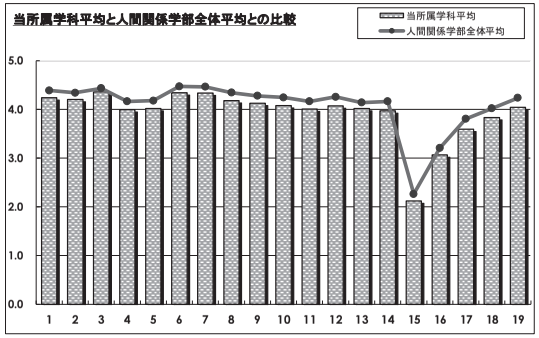
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.32

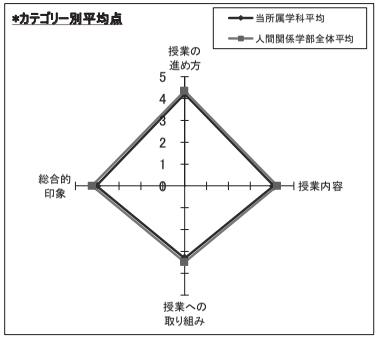
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.97**	39.3	31.1	18.9	9.1	1.6		1,880	8	1.04
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.12**	7.3	8.7	15.0	26.5	42.5		1,879	9	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.06**	19.6	20.7	27.7	10.7	21.4		1,854	34	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.59**	24.3	32.1	27.2	11.2	5.1		1,877	11	1.12
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.84**	32.6	32.7	23.7	7.7	3.3		1,872	16	1.07

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.04

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.04**	40.4	33.3	18.7	5.3	2.3		1,818	70	1.01

Q1−Q19の当区分平均値	3.93
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間関係学科　社会学専攻

履修者数	―
回答者数	2,221

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.20**	48.0	33.2	11.8	4.4	2.4	0.3	2,205	16	0.98
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.25**	47.2	34.9	13.6	2.9	1.0	0.5	2,191	30	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.39**	56.5	27.7	11.9	2.1	0.7	1.1	2,195	26	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.03**	38.6	35.3	17.7	5.7	2.2	0.5	2,187	34	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.06**	41.2	31.3	18.6	4.9	2.5	1.5	2,195	26	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.43**	58.6	28.3	10.4	1.4	0.7	0.5	2,188	33	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.39**	54.4	32.8	10.3	1.6	0.6	0.3	2,189	32	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.12

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.24**	46.0	35.4	14.8	2.5	0.8	0.5	2,197	24	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.18**	43.9	35.5	15.3	3.6	1.3	0.4	2,180	41	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.12**	42.2	35.2	16.4	4.4	1.6	0.2	2,180	41	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.99**	37.0	35.6	18.6	6.2	2.3	0.2	2,183	38	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.15**	43.2	34.8	16.3	3.7	1.6	0.5	2,177	44	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.07**	37.3	34.6	21.2	3.1	1.1	2.6	2,174	47	0.91

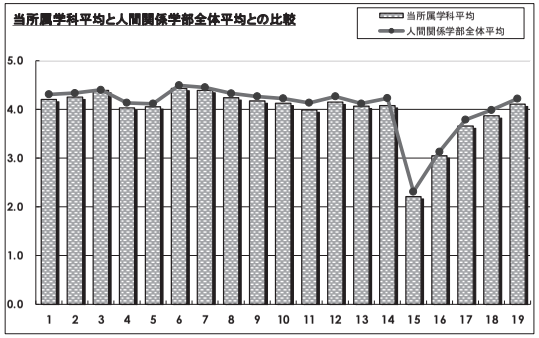
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.38

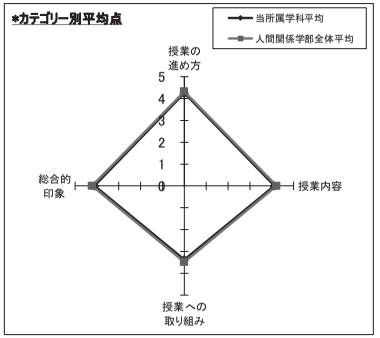
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.08**	45.6	27.9	16.9	7.9	1.6		2,203	18	1.04
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.21**	8.4	8.3	17.0	28.9	37.4		2,178	43	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.05**	18.8	20.6	28.8	10.2	21.6		2,160	61	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.66**	26.0	33.0	26.7	9.5	4.7		2,176	45	1.10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.87**	32.5	35.4	22.2	6.6	3.3		2,167	54	1.04

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.11

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.11**	43.3	32.6	17.6	4.8	1.8		2,100	121	0.97

Q1−Q19の当区分平均値	3.97
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間関係学科　社会・臨床心理学専攻

履修者数	―
回答者数	2,021

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.41

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.44**	58.0	32.8	5.1	3.1	0.8	0.1	2,018	3	0.80
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.42**	56.5	32.2	7.0	3.0	0.6	0.7	2,019	2	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.48**	63.6	24.2	8.3	2.8	0.6	0.5	2,019	2	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.20**	47.1	33.2	12.4	5.6	1.4	0.4	2,017	4	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.22**	48.7	31.5	12.7	4.9	1.4	0.8	2,016	5	0.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.56**	66.2	25.9	5.6	1.7	0.5	0.1	2,016	5	0.73
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.52**	63.2	28.3	6.4	1.4	0.5	0.1	2,017	4	0.72

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.42**	56.2	32.2	8.5	2.3	0.4	0.3	2,017	4	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.35**	54.7	30.7	9.9	3.7	0.7	0.3	2,019	2	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.33**	54.2	30.5	10.3	4.0	1.0	0.0	2,018	3	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.22**	48.3	32.9	12.3	5.4	1.0	0.1	2,015	6	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.31**	52.5	32.0	10.5	3.0	1.5	0.4	2,015	6	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	42.1	32.4	18.6	3.4	1.0	2.4	2,009	12	0.92

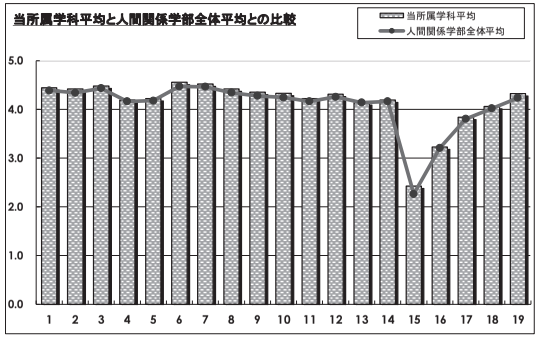
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.55

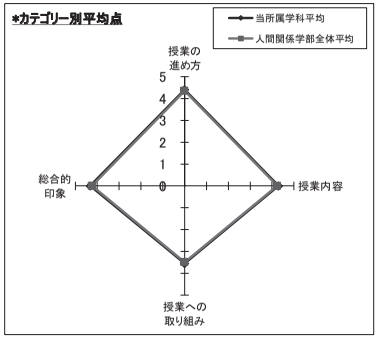
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	50.7	27.3	13.9	6.9	1.2		2,013	8	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.42**	9.8	10.9	19.9	30.6	28.8		2,013	8	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.23**	23.3	22.9	24.7	12.0	17.2		1,991	30	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.84**	33.8	33.4	20.4	7.7	4.7		2,015	6	1.12
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.06**	41.5	34.0	16.3	5.5	2.7		2,010	11	1.02

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.32**	53.7	30.8	11.1	3.4	1.1		1,954	67	0.88

Q1−Q19の当区分平均値	4.14
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間関係学科　社会・臨床心理学専攻

履修者数	―
回答者数	1,999

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.33

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.31**	54.4	29.7	9.5	4.5	1.6	0.4	1,991	8	0.93
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.36**	53.2	33.0	9.6	3.0	0.6	0.6	1,993	6	0.82
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.41**	59.3	26.5	9.6	3.4	0.8	0.6	1,992	7	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.12**	43.2	33.5	15.6	5.6	1.5	0.6	1,990	9	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.08**	43.7	29.2	16.8	6.2	2.1	2.1	1,985	14	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.55**	65.2	25.6	6.8	1.2	0.4	0.8	1,986	13	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.47**	59.9	29.5	8.5	1.4	0.5	0.2	1,985	14	0.75

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.36**	53.3	32.3	10.6	2.6	0.6	0.6	1,988	11	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.29**	50.7	32.9	11.2	3.8	1.0	0.5	1,987	12	0.88
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.25**	49.4	32.5	12.6	3.9	1.5	0.1	1,989	10	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.17**	46.0	33.3	13.5	5.8	1.2	0.3	1,980	19	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.28**	50.2	32.9	12.3	2.9	1.4	0.4	1,980	19	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.06**	38.8	33.4	19.6	3.7	1.8	2.6	1,962	37	0.96

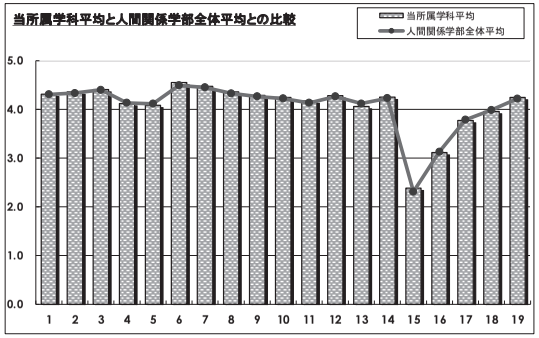
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.50

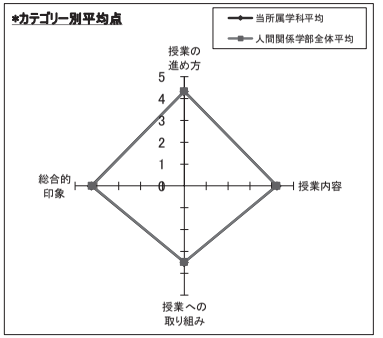
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.25**	53.6	26.5	13.3	5.1	1.6		1,971	28	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.38**	9.2	9.5	20.1	32.6	28.5		1,973	26	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.11**	21.2	20.1	27.7	11.0	20.0		1,946	53	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.78**	31.1	32.4	24.1	7.7	4.7		1,961	38	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	37.3	34.1	19.7	5.0	3.9		1,964	35	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.25**	50.8	29.8	14.1	3.8	1.4		1,927	72	0.93

Q1−Q19の当区分平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　1、2年生

履修者数	ー
回答者数	1,730

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.40

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.44**	62.1	26.5	6.8	2.3	2.2	0.2	1,730	0	0.88
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.37**	57.2	29.2	8.9	2.3	2.2	0.3	1,727	3	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.45**	62.0	25.3	9.0	1.7	1.5	0.5	1,729	1	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.25**	53.3	29.0	10.4	3.8	3.4	0.2	1,728	2	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.23**	53.7	25.8	12.1	4.1	3.5	0.8	1,727	3	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.51**	66.2	22.2	7.7	1.8	1.4	0.6	1,726	4	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.52**	66.5	24.0	6.5	1.2	1.7	0.1	1,720	10	0.81

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.41**	58.9	28.0	9.3	1.3	2.2	0.4	1,727	3	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.33**	56.6	27.8	9.5	3.5	2.3	0.2	1,725	5	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.29**	55.8	26.7	10.2	4.4	2.5	0.4	1,727	3	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.23**	52.5	28.2	11.3	4.0	3.4	0.5	1,727	3	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.34**	57.1	26.5	10.4	3.0	2.3	0.7	1,724	6	0.95
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.19**	47.9	28.8	16.8	2.8	2.3	1.4	1,723	7	0.97

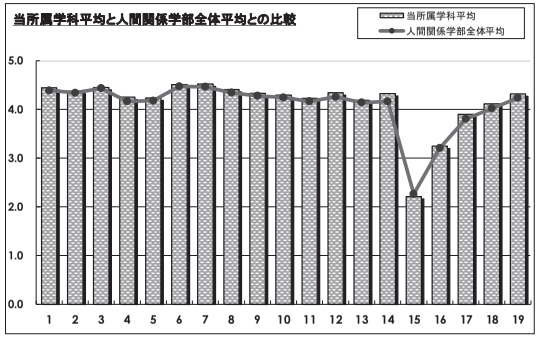
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.56

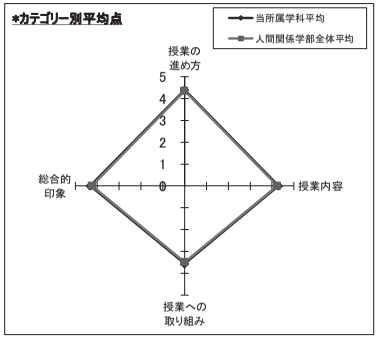
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.32**	54.9	28.3	11.8	3.9	1.0		1,726	4	0.90
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.21**	8.7	6.7	17.6	31.1	35.9		1,722	8	1.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.25**	27.3	20.4	22.1	9.9	20.2		1,709	21	1.46
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.90**	39.2	29.5	18.9	7.4	5.1		1,724	6	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.12**	47.1	29.5	15.3	4.4	3.7		1,718	12	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.32**	58.1	24.9	10.6	3.7	2.8		1,667	63	0.99

Q1−Q19の当区分平均値	4.14
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　1、2年生

履修者数	ー
回答者数	1,701

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.32**	55.6	27.9	10.3	3.7	1.9	0.7	1,689	12	0.94
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.35**	54.6	29.9	10.4	3.1	1.2	0.8	1,688	13	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.36**	57.2	26.0	11.7	2.9	1.3	0.8	1,686	15	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.16**	47.5	30.3	13.7	5.8	2.3	0.4	1,684	17	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.12**	46.3	28.6	16.5	5.1	2.6	1.0	1,681	20	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	64.1	23.4	8.9	2.0	0.9	0.7	1,685	16	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.46**	62.3	25.1	9.1	2.1	1.1	0.4	1,675	26	0.83

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.35**	53.5	31.3	10.8	2.9	0.8	0.7	1,682	19	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.29**	51.3	31.9	11.3	3.5	1.5	0.5	1,679	22	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.23**	49.9	30.4	12.7	4.5	1.9	0.7	1,672	29	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.17**	47.3	30.8	14.4	4.8	2.0	0.7	1,671	30	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.32**	53.1	30.2	12.0	2.7	1.3	0.7	1,667	34	0.88
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	42.6	32.7	18.7	3.2	1.3	1.4	1,656	45	0.92

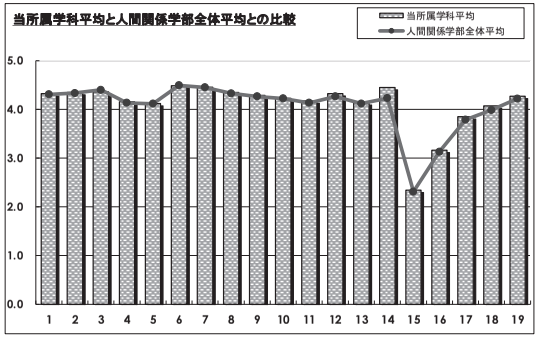
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.58

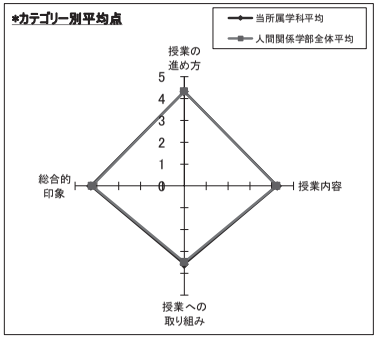
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.45**	62.7	24.1	9.2	3.5	0.4		1,669	32	0.83
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.34**	9.4	9.9	18.9	29.5	32.3		1,679	22	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.16**	22.8	21.3	24.4	12.1	19.3		1,665	36	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.85**	35.0	31.3	22.3	6.9	4.4		1,670	31	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.08**	42.0	33.2	18.2	3.7	3.0		1,653	48	1.01

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.27

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.27**	52.4	29.7	12.8	2.8	2.3		1,621	80	0.95

Q1−Q19の当区分平均値	4.10
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　人間福祉学専攻

履修者数	ー
回答者数	515

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.47

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.54**	67.5	22.4	7.2	1.9	1.0	0.0	514	1	0.79
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.44**	60.9	25.9	9.9	1.4	1.6	0.4	514	1	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.54**	69.2	19.1	8.8	1.6	1.2	0.2	513	2	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.34**	57.8	24.1	13.4	2.7	1.6	0.4	514	1	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.38**	58.4	25.2	13.1	1.8	1.2	0.4	512	3	0.86
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.56**	69.1	20.0	8.6	1.4	0.8	0.2	514	1	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.51**	65.0	23.7	9.1	1.0	1.0	0.2	514	1	0.78

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.36

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.42**	61.9	22.6	12.3	1.8	1.4	0.2	514	1	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.37**	60.2	22.8	12.1	2.7	1.9	0.2	513	2	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.34**	58.7	22.8	13.3	2.7	2.1	0.4	513	2	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.30**	57.8	21.8	15.0	2.5	2.5	0.4	514	1	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.40**	60.5	23.9	12.1	1.4	1.9	0.2	514	1	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.32**	56.0	24.7	14.9	2.0	1.8	0.8	511	4	0.92

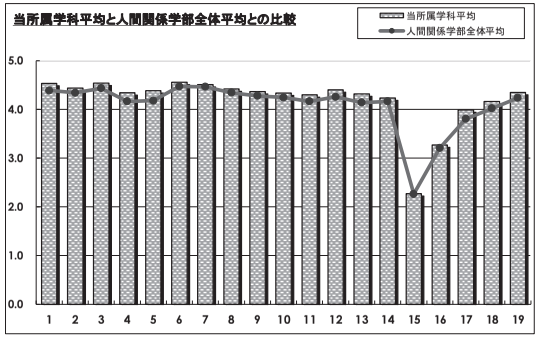
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.59

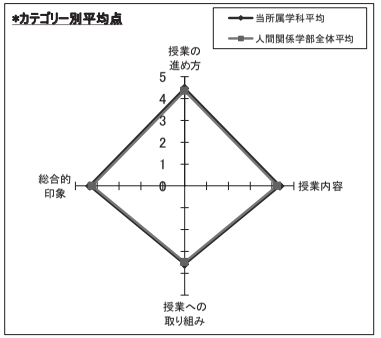
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.23**	50.3	30.5	12.2	6.5	0.6		509	6	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.27**	13.2	4.9	16.9	25.9	39.1		509	6	1.37
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.27**	30.5	13.9	26.5	10.7	18.4		505	10	1.46
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.99**	44.8	22.3	23.7	5.5	3.7		507	8	1.12
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.16**	49.0	25.8	20.1	2.6	2.6		508	7	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.35**	58.2	23.9	14.2	2.0	1.6		493	22	0.91

Q1−Q19の当区分平均値	4.20
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　人間福祉学専攻

履修者数	ー
回答者数	653

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.55

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.60**	71.5	19.7	7.0	0.6	1.2	0.0	646	7	0.75
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.56**	67.9	22.6	7.2	1.2	0.8	0.3	641	12	0.75
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.56**	71.1	16.0	10.1	2.3	0.3	0.2	644	9	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.46**	64.7	20.5	10.0	2.4	1.6	0.8	638	15	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.41**	60.7	22.3	12.3	2.8	0.6	1.3	636	17	0.86
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	72.2	17.8	8.9	0.3	0.5	0.3	640	13	0.70
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.64**	72.0	20.7	6.5	0.5	0.3	0.0	643	10	0.65

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.48

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.55**	67.0	23.2	7.9	1.1	0.6	0.2	642	11	0.74
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.48**	65.4	22.2	9.0	2.3	1.1	0.0	641	12	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.49**	65.4	21.8	9.7	1.4	1.4	0.3	638	15	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.41**	62.8	20.9	11.3	3.3	1.2	0.5	645	8	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.51**	67.1	20.0	10.1	1.7	0.9	0.2	636	17	0.82
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.41**	61.9	20.7	13.9	2.2	0.8	0.5	624	29	0.87

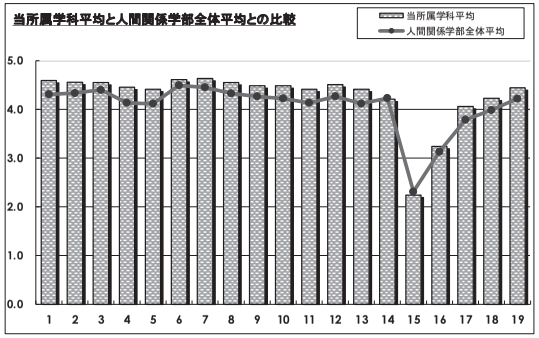
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.60

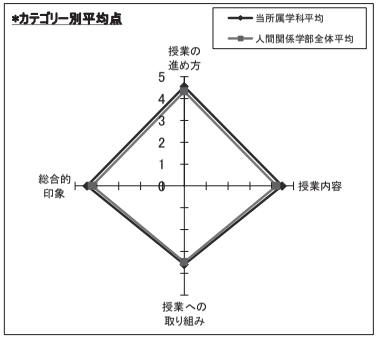
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.21**	53.0	24.9	14.9	4.9	2.4		638	15	1.02
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.24**	11.9	6.5	15.3	26.4	39.9		632	21	1.35
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.24**	30.4	16.7	21.2	10.0	21.7		628	25	1.52
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.06**	46.1	24.6	21.7	4.6	3.0		631	22	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.23**	53.0	23.8	18.3	3.0	1.9		627	26	0.98

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.45

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.45**	62.4	23.8	11.1	1.7	1.2		606	47	0.84

Q1−Q19の当区分平均値	4.27
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　介護福祉学専攻

履修者数	ー
回答者数	105

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.55**	62.9	29.5	4.8	1.9	0.0	1.0	105	0	0.68
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.40**	54.3	36.2	5.7	2.9	1.0	0.0	105	0	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.28**	55.2	27.6	7.6	8.6	1.0	0.0	105	0	1.00
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.33**	52.4	37.1	3.8	4.8	1.9	0.0	105	0	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.41**	57.1	32.4	5.7	3.8	1.0	0.0	105	0	0.84
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.50**	60.0	33.3	3.8	1.9	1.0	0.0	105	0	0.75
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.51**	61.0	33.3	2.9	1.9	1.0	0.0	105	0	0.74

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.36**	57.1	29.5	6.7	5.7	1.0	0.0	105	0	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.37**	56.2	32.4	4.8	5.7	1.0	0.0	105	0	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.30**	51.4	36.2	5.7	4.8	1.9	0.0	105	0	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.32**	55.2	30.5	6.7	6.7	1.0	0.0	105	0	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.38**	53.3	36.2	6.7	2.9	1.0	0.0	105	0	0.81
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.37**	52.4	38.1	4.8	3.8	1.0	0.0	105	0	0.82

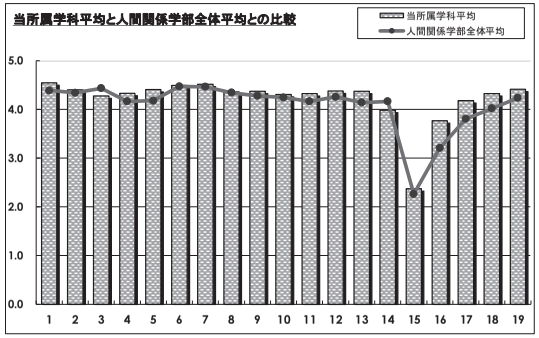
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.73

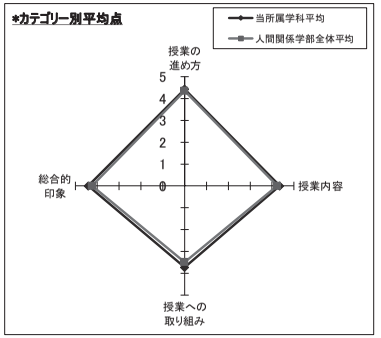
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.98**	34.3	41.0	13.3	11.4	0.0		105	0	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.37**	7.6	13.3	14.3	38.1	26.7		105	0	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.77**	33.7	33.7	18.3	4.8	9.6		104	1	1.24
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.18**	42.9	42.9	5.7	6.7	1.9		105	0	0.95
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.33**	49.0	40.4	5.8	3.8	1.0		104	1	0.83

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.41

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.41**	53.9	36.3	6.9	2.9	0.0		102	3	0.75

Q1−Q19の当区分平均値	4.22
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク所属学科別）　大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科　介護福祉学専攻

履修者数	ー
回答者数	131

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.43**	53.8	38.5	5.4	1.5	0.8	0.0	130	1	0.74
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.33**	45.8	43.5	8.4	2.3	0.0	0.0	131	0	0.73
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.32**	48.5	40.0	7.7	2.3	1.5	0.0	130	1	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.15**	40.3	41.9	11.6	4.7	1.6	0.0	129	2	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.21**	43.1	40.8	10.8	4.6	0.8	0.0	130	1	0.87
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.33**	51.2	34.1	11.6	3.1	0.0	0.0	129	2	0.80
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.34**	47.7	41.4	8.6	1.6	0.8	0.0	128	3	0.77

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.22

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.18**	44.6	38.5	6.9	10.0	0.0	0.0	130	1	0.94
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.23**	44.3	40.5	10.7	3.1	1.5	0.0	131	0	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.29**	45.7	41.1	10.1	3.1	0.0	0.0	129	2	0.77
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.18**	42.7	38.9	12.2	5.3	0.8	0.0	131	0	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.24**	44.1	40.2	11.8	3.1	0.8	0.0	127	4	0.84
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.18**	40.9	42.5	10.2	6.3	0.0	0.0	127	4	0.86

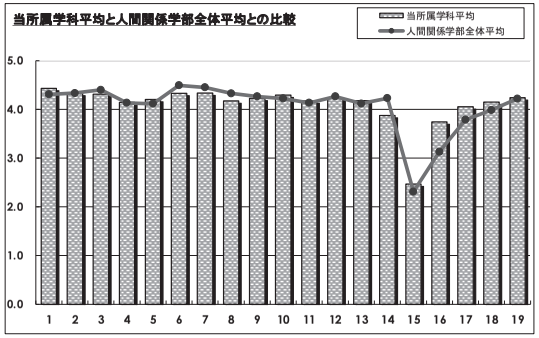
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.66

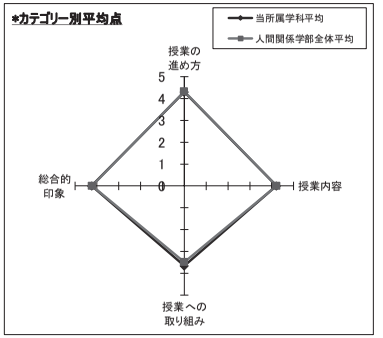
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.87**	34.6	34.6	15.0	15.0	0.8		127	4	1.08
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.47**	10.0	12.3	21.5	26.9	29.2		130	1	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.74**	29.6	41.6	11.2	8.8	8.8		125	6	1.22
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.05**	35.2	44.5	13.3	4.7	2.3		128	3	0.94
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.15**	37.5	46.9	10.9	2.3	2.3		128	3	0.88

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.24**	44.2	40.8	10.8	3.3	0.8		120	11	0.84

Q1−Q19の当区分平均値	4.10
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名

履修者数	661
回答者数	532

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.59

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.65**	70.4	25.0	3.0	0.9	0.4	0.2	531	1	0.63
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.57**	64.0	29.4	5.1	0.9	0.2	0.4	531	1	0.65
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.63**	70.2	23.5	4.1	1.3	0.2	0.6	531	1	0.65
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.49**	63.6	26.2	6.0	2.8	1.1	0.2	530	2	0.82
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.59**	70.8	21.7	4.7	1.9	0.9	0.0	530	2	0.75
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.60**	71.2	20.9	4.5	2.4	0.8	0.2	531	1	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.64**	72.7	21.7	3.2	1.9	0.6	0.0	531	1	0.69

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.49

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.58**	65.8	27.0	5.1	1.1	0.4	0.6	530	2	0.68
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.58**	65.7	27.0	6.2	0.6	0.2	0.4	530	2	0.65
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.49**	60.6	29.4	7.7	1.9	0.2	0.2	531	1	0.74
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.44**	59.5	28.5	8.3	3.2	0.2	0.2	529	3	0.79
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.51**	63.0	26.6	8.5	1.5	0.2	0.2	530	2	0.73
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.33**	52.7	26.7	15.7	2.1	0.2	2.6	529	3	0.83

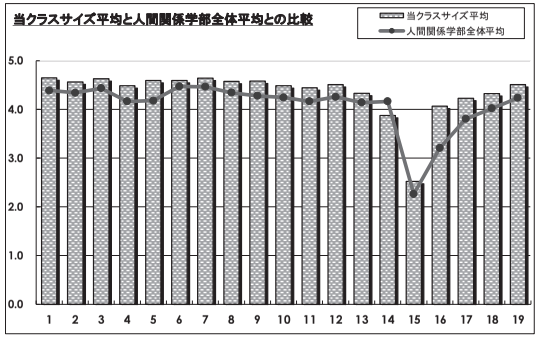
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.80

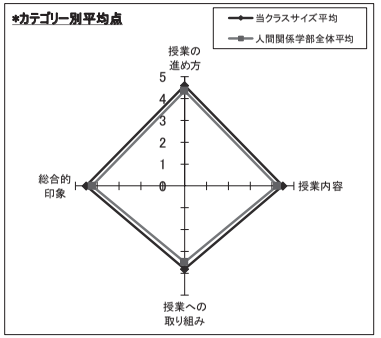
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.88**	33.7	34.3	19.8	10.5	1.7		531	1	1.05
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.52**	10.4	12.1	20.5	33.5	23.5		531	1	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.07**	43.6	30.5	18.2	4.6	3.1		521	11	1.04
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.23**	48.4	31.8	15.3	3.4	1.1		531	1	0.91
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.32**	54.0	28.6	13.6	3.2	0.6		531	1	0.87

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.51

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.51**	64.2	24.9	9.1	1.2	0.6		514	18	0.76

Q1-Q19の当区分平均値	4.35
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名

履修者数	740
回答者数	643

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.54

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.53**	66.7	24.5	5.8	1.4	1.7	0.0	642	1	0.81
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.49**	61.7	28.8	6.9	1.7	0.8	0.2	640	3	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.56**	67.6	23.7	6.3	1.4	0.8	0.3	638	5	0.74
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.44**	62.7	24.7	8.3	2.2	1.9	0.2	636	7	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.57**	68.3	23.2	5.6	1.9	0.8	0.2	638	5	0.75
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	72.9	18.1	6.8	1.3	0.9	0.0	634	9	0.75
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.57**	67.9	24.2	5.7	1.4	0.8	0.0	633	10	0.73

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.46**	62.3	25.9	8.5	2.5	0.8	0.0	637	6	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.44**	59.2	29.7	7.8	1.9	1.1	0.3	639	4	0.81
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.39**	56.8	30.0	9.6	2.0	1.4	0.2	636	7	0.85
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.33**	54.4	30.8	9.0	3.9	1.4	0.5	636	7	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.41**	59.0	27.1	10.9	1.6	1.3	0.2	631	12	0.84
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.18**	46.3	29.3	16.8	3.2	1.9	2.4	624	19	0.96

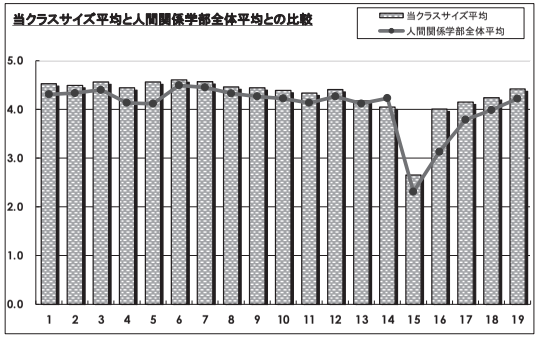
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.82

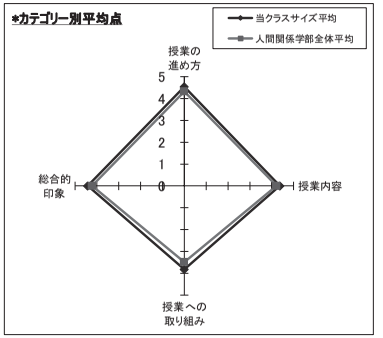
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.05**	42.1	31.3	17.3	8.2	1.1		636	7	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.66**	12.4	12.4	22.6	33.6	19.0		637	6	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.00**	39.5	32.7	19.6	5.1	3.0		626	17	1.03
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.15**	43.4	34.5	17.1	4.3	0.8		632	11	0.91
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.24**	48.6	30.9	16.7	3.0	0.6		627	16	0.88

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.42

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.42**	59.1	28.3	9.3	2.0	1.3		611	32	0.84

Q1-Q19の当区分平均値	4.29
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名

履修者数	2,844
回答者数	2,062

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.49**	62.4	28.5	6.1	2.1	0.9	0.0	2,059	3	0.78
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.42**	58.1	29.4	8.8	2.4	0.8	0.4	2,060	2	0.82
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.53**	65.7	23.0	8.3	1.4	0.8	0.9	2,055	7	0.77
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.26**	52.2	29.5	11.9	4.2	1.9	0.2	2,059	3	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.33**	54.4	29.7	11.1	3.0	1.4	0.4	2,057	5	0.89
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	63.9	23.9	8.5	2.0	1.4	0.3	2,057	5	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.50**	63.4	26.3	7.9	1.5	0.8	0.2	2,053	9	0.77

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.29

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.42**	57.8	29.8	9.8	1.4	1.1	0.1	2,059	3	0.81
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.36**	55.6	29.5	10.9	2.6	1.3	0.1	2,057	5	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.29**	52.8	29.9	12.4	3.1	1.8	0.0	2,054	8	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.21**	49.0	30.8	14.0	3.8	2.2	0.2	2,056	6	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.32**	53.7	29.5	12.7	2.5	1.3	0.4	2,052	10	0.88
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	43.6	30.6	19.9	2.9	1.3	1.7	2,044	18	0.93

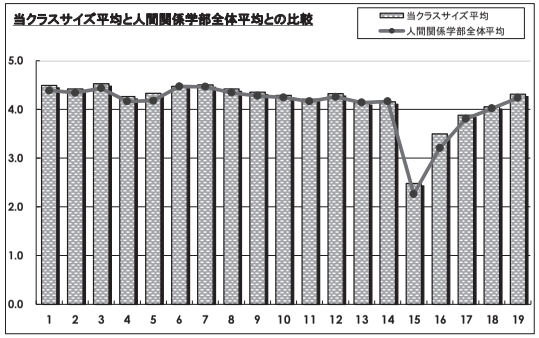
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.61

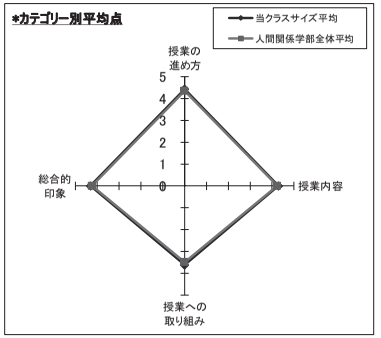
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.16**	48.2	28.7	14.9	6.8	1.3		2,049	13	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.48**	12.8	9.0	21.4	27.2	29.7		2,050	12	1.34
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.50**	29.0	25.1	24.9	8.7	12.3		2,028	34	1.32
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.88**	35.4	31.2	22.7	7.2	3.4		2,045	17	1.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.05**	42.1	31.4	18.9	4.7	2.7		2,043	19	1.02

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.31

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.31**	53.9	29.3	12.5	2.9	1.5		1,994	68	0.90

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名

履修者数	2,875
回答者数	2,339

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.46

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.46**	61.9	26.4	8.1	2.7	0.7	0.2	2,323	16	0.81
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.43**	57.3	30.3	8.7	2.2	0.5	1.0	2,320	19	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.51**	64.0	24.0	8.6	1.6	0.5	1.2	2,321	18	0.77
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.31**	52.5	31.3	10.8	3.6	1.3	0.5	2,316	23	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.33**	53.6	27.9	12.3	3.2	0.9	2.1	2,308	31	0.88
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.59**	68.6	23.2	5.8	1.5	0.4	0.4	2,309	30	0.70
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.56**	65.8	25.9	6.6	1.1	0.3	0.2	2,306	33	0.70

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.34

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.46**	58.9	29.9	8.6	1.9	0.2	0.5	2,309	30	0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.40**	55.7	31.8	9.2	2.3	0.6	0.3	2,306	33	0.80
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.32**	53.1	30.9	11.6	3.3	0.9	0.3	2,306	33	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.27**	50.7	31.0	13.0	3.9	1.1	0.3	2,305	34	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.38**	56.1	29.6	10.4	2.7	1.0	0.3	2,297	42	0.85
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.19**	44.6	31.9	17.1	2.8	1.1	2.5	2,283	56	0.90

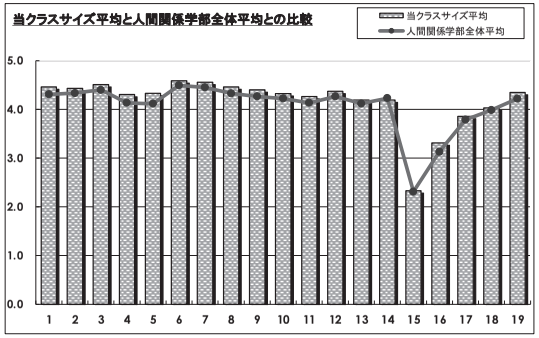
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.54

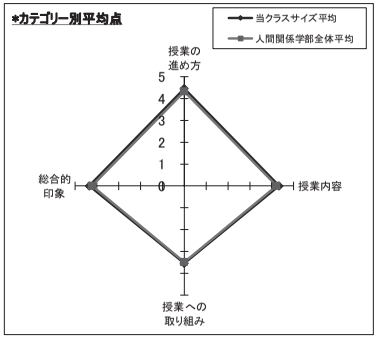
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	49.8	28.2	14.7	6.0	1.3		2,298	41	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.33**	9.6	8.9	18.7	30.6	32.1		2,293	46	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.31**	24.5	24.2	25.3	9.7	16.3		2,270	69	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.86**	34.5	31.8	22.7	6.9	4.1		2,288	51	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.03**	39.5	34.6	18.4	4.4	3.1		2,280	59	1.02

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.35**	55.2	29.2	12.1	2.5	1.0		2,224	115	0.86

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名

履修者数	3,788
回答者数	2,565

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.23

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.25**	52.3	31.0	9.1	4.6	2.8	0.2	2,564	1	1.00
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.21**	49.1	31.8	11.4	4.6	2.6	0.5	2,563	2	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	58.6	25.3	11.1	3.0	1.7	0.3	2,562	3	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.00**	41.5	30.9	16.3	7.0	3.8	0.4	2,560	5	1.10
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.01**	42.9	29.0	16.2	6.7	4.2	1.0	2,557	8	1.12
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.42**	59.5	27.0	9.3	2.0	1.4	0.7	2,556	9	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.37**	56.9	28.8	10.0	2.4	1.6	0.4	2,551	14	0.88

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.25**	51.0	30.3	12.5	3.7	2.1	0.3	2,560	5	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.16**	48.7	29.5	12.7	5.7	2.9	0.5	2,558	7	1.04
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.13**	47.9	29.4	13.5	5.7	3.3	0.3	2,560	5	1.06
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.05**	44.2	30.6	14.8	6.3	4.0	0.3	2,559	6	1.10
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.15**	47.6	30.6	14.0	3.8	3.6	0.5	2,558	7	1.03
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.08**	41.4	32.1	18.5	3.8	2.5	1.7	2,551	14	1.00

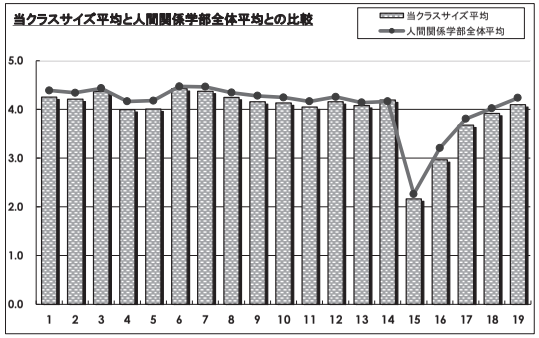
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.38

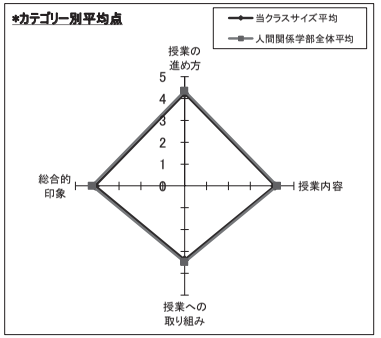
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	49.9	28.8	13.3	6.8	1.3		2,553	12	0.99
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.16**	7.1	9.2	15.3	29.5	38.8		2,551	14	1.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.97**	19.9	18.0	25.2	12.8	24.1		2,526	39	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.68**	30.8	29.9	22.4	10.0	6.9		2,552	13	1.20
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.92**	38.0	31.9	18.5	7.1	4.4		2,540	25	1.12

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.10

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.10**	46.4	29.3	15.7	5.2	3.5		2,463	102	1.06

Q1–Q19の当区分平均値	3.97
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名

履修者数	3,187
回答者数	2,469

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.21

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.17**	46.5	33.2	12.1	5.1	2.6	0.4	2,446	23	1.00
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.27**	47.7	35.4	12.9	2.7	1.0	0.4	2,437	32	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.32**	53.7	28.7	13.0	3.0	1.0	0.5	2,440	29	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.97**	35.7	35.9	18.7	6.7	2.3	0.7	2,433	36	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.92**	35.9	32.2	20.8	6.8	3.0	1.3	2,429	40	1.06
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.44**	57.9	29.4	9.9	1.4	0.5	0.9	2,435	34	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.37**	53.7	32.5	11.1	1.6	0.7	0.3	2,428	41	0.80

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.24**	46.4	34.9	14.2	3.0	0.9	0.7	2,437	32	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.16**	43.4	35.1	15.6	3.9	1.4	0.6	2,422	47	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	43.9	34.0	15.7	4.3	1.8	0.3	2,423	46	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.03**	39.0	34.2	18.3	6.1	2.0	0.4	2,420	49	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.21**	45.4	34.5	15.5	2.7	1.3	0.5	2,418	51	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.07**	38.2	34.0	21.0	3.6	1.1	2.2	2,397	72	0.92

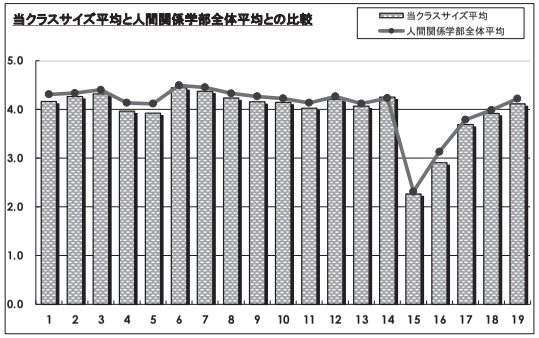
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.41

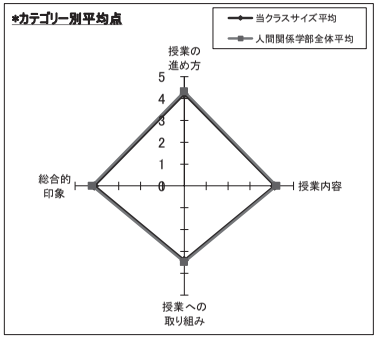
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.25**	53.9	25.9	13.0	5.7	1.4		2,428	41	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.27**	8.6	9.5	17.7	28.4	35.8		2,419	50	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.91**	16.9	17.6	28.9	12.4	24.1		2,397	72	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.69**	28.2	31.7	25.5	10.0	4.6		2,411	58	1.12
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.92**	35.4	33.9	21.1	6.2	3.4		2,406	63	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.11

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.11**	44.2	31.6	17.7	4.7	1.9		2,344	125	0.98

Q1–Q19の当区分平均値	3.97
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上

履修者数	2,096
回答者数	1,362

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.38**	55.7	31.0	8.7	3.2	1.0	0.4	1,359	3	0.85
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.37**	55.4	31.2	9.1	2.8	1.2	0.4	1,357	5	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.35**	55.7	27.4	12.4	2.7	1.1	0.7	1,358	4	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.20**	47.2	32.5	14.8	3.4	1.8	0.3	1,356	6	0.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.11**	44.4	31.0	16.2	5.1	2.2	1.1	1,355	7	1.00
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.51**	63.2	26.1	7.7	1.7	0.4	0.9	1,356	6	0.75
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.50**	61.8	28.5	7.7	1.4	0.5	0.1	1,357	5	0.74

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.31**	51.4	33.0	11.3	2.7	1.2	0.4	1,358	4	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.26**	50.6	32.2	11.0	5.0	1.1	0.1	1,355	7	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.30**	51.6	32.3	10.9	3.8	1.2	0.2	1,354	8	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.21**	47.5	33.4	12.7	4.7	1.4	0.2	1,355	7	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.25**	49.6	31.9	13.4	3.6	1.2	0.3	1,355	7	0.91
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.18**	45.0	32.1	17.9	3.0	1.0	1.0	1,348	14	0.91

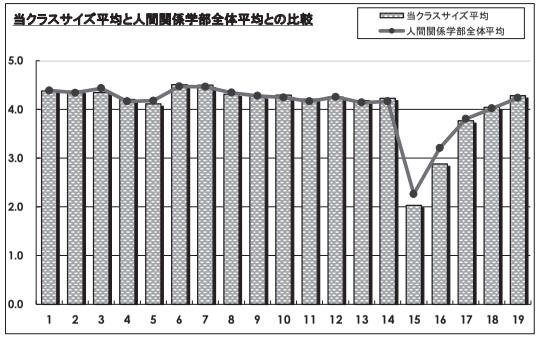
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.39

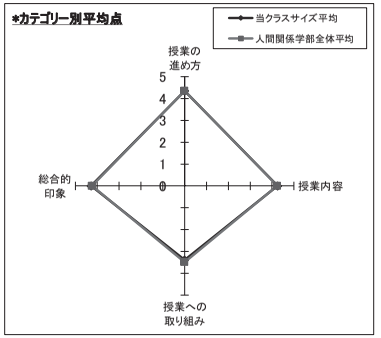
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.23**	50.6	28.7	14.7	4.9	1.0		1,357	5	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.03**	6.6	6.7	14.3	28.0	44.3		1,353	9	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.88**	18.5	16.5	26.0	12.6	26.4		1,342	20	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.77**	31.9	32.1	21.8	9.4	4.7		1,355	7	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.04**	41.2	32.4	18.5	5.1	2.8		1,353	9	1.03

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.28

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.28**	52.0	30.5	12.1	4.6	0.8		1,308	54	0.91

Q1-Q19の当区分平均値	4.06
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（クラスサイズ別）　大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上

履修者数	2,119
回答者数	1,551

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.20

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.21**	49.0	32.0	11.6	4.2	2.7	0.6	1,537	14	0.99
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.24**	49.4	31.6	13.0	4.3	1.4	0.3	1,531	20	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.30**	54.2	27.2	12.8	4.0	1.2	0.5	1,534	17	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.00**	39.9	31.6	18.8	7.0	2.3	0.5	1,524	27	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.92**	37.1	30.1	21.6	6.6	3.3	1.3	1,533	18	1.07
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.38**	57.5	25.9	13.2	1.6	1.1	0.7	1,530	21	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.36**	55.1	30.0	11.3	2.2	1.1	0.3	1,529	22	0.85

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.12

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.21**	46.0	34.7	14.2	3.3	1.3	0.5	1,532	19	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.16**	46.8	31.7	14.0	5.1	2.1	0.3	1,526	25	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.13**	45.3	32.2	14.7	5.2	2.2	0.4	1,520	31	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.02**	40.6	32.6	16.4	7.4	2.6	0.5	1,522	29	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.14**	44.4	33.2	15.5	4.4	1.9	0.6	1,517	34	0.97
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.07**	39.8	33.7	20.3	3.5	1.9	0.9	1,511	40	0.95

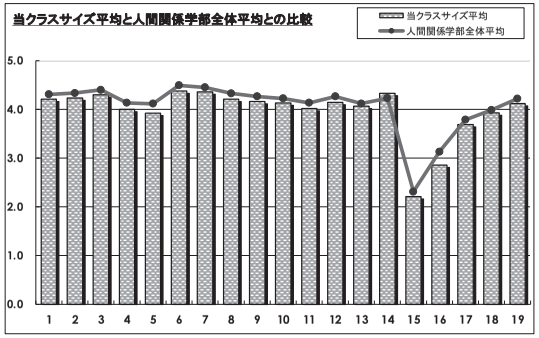
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.40

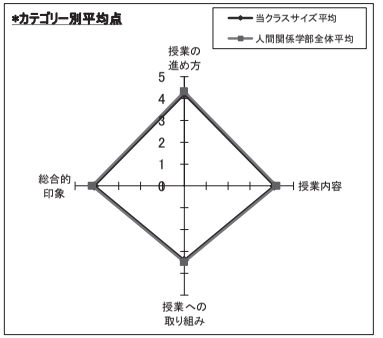
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.33**	59.4	22.3	12.1	4.5	1.7		1,523	28	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.21**	8.4	8.0	17.7	28.3	37.7		1,516	35	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.86**	18.3	15.9	25.9	12.8	27.1		1,500	51	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.69**	29.2	30.5	26.9	7.2	6.3		1,515	36	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.93**	36.8	32.4	22.1	4.5	4.2		1,499	52	1.07

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.12

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.12**	45.1	31.4	16.3	4.8	2.5		1,464	87	1.01

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義

履修者数	6,844
回答者数	4,494

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.33**	54.7	30.5	8.7	3.9	1.8	0.2	4,489	5	0.92
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.29**	52.2	31.3	10.5	3.8	1.8	0.4	4,486	8	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.38**	58.7	25.5	11.3	2.7	1.3	0.6	4,483	11	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.10**	44.3	31.5	15.6	5.5	2.7	0.4	4,483	11	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.08**	44.2	30.2	15.9	5.7	3.1	0.9	4,476	18	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	61.4	26.5	8.6	1.8	1.0	0.7	4,475	19	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.44**	59.4	28.3	9.1	1.9	1.0	0.3	4,473	21	0.81

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.20

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.28**	51.5	31.3	12.0	3.2	1.7	0.3	4,484	10	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.22**	50.5	30.3	11.8	4.9	2.2	0.3	4,478	16	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.22**	50.2	30.5	12.3	4.6	2.3	0.2	4,478	16	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.14**	46.2	31.9	13.6	5.3	2.8	0.2	4,479	15	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.19**	48.4	31.0	13.9	3.8	2.5	0.4	4,475	19	0.98
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.12**	42.9	32.1	18.4	3.5	1.8	1.3	4,459	35	0.96

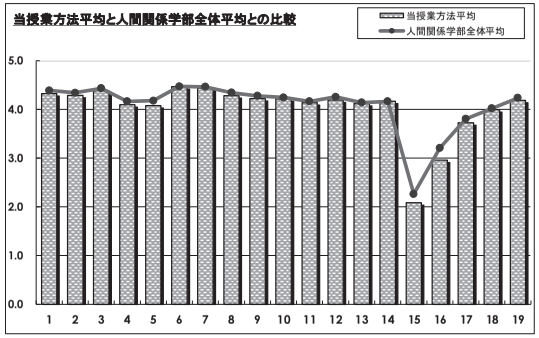
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.39

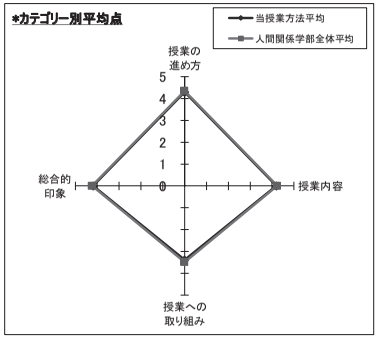
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.17**	48.1	29.3	14.8	6.5	1.2		4,470	24	0.99
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.09**	6.7	7.7	15.2	28.7	41.8		4,467	27	1.21
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.96**	19.4	18.0	26.2	12.4	24.1		4,423	71	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.73**	31.2	30.9	22.7	9.6	5.5		4,463	31	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.99**	39.7	32.6	18.3	5.9	3.5		4,452	42	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.19**	48.9	30.1	14.3	4.5	2.2		4,306	188	0.99

Q1−Q19の当区分平均値	4.02
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義

履修者数	6,333
回答者数	4,756

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.24**	50.3	31.3	11.5	4.3	2.2	0.4	4,711	45	0.97
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.29**	50.3	33.0	12.3	3.1	1.0	0.4	4,695	61	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.34**	55.7	27.1	12.3	3.0	1.0	0.8	4,700	56	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.05**	39.9	33.9	17.9	5.9	1.9	0.6	4,683	73	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.98**	38.6	31.0	20.2	6.1	2.8	1.3	4,687	69	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.45**	59.9	26.9	10.7	1.3	0.6	0.7	4,686	70	0.78
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.41**	56.3	30.7	10.5	1.5	0.7	0.3	4,681	75	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.16

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.26**	47.9	33.9	13.8	3.0	0.9	0.6	4,691	65	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.20**	46.4	33.4	14.2	4.0	1.5	0.4	4,670	86	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.17**	46.0	32.4	15.0	4.5	1.8	0.3	4,660	96	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.06**	41.3	32.9	17.3	6.2	1.9	0.4	4,666	90	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.19**	45.9	32.8	15.6	3.6	1.5	0.6	4,656	100	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.10**	40.4	33.7	19.6	3.4	1.3	1.7	4,626	130	0.92

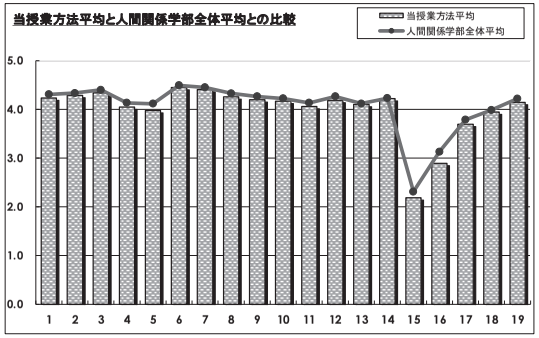
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.39

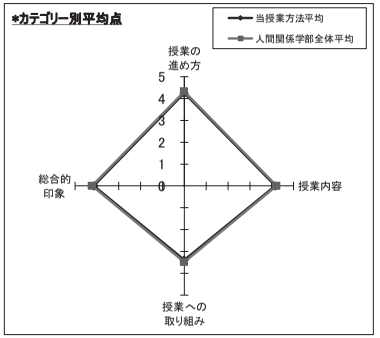
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.22**	52.9	25.7	13.8	5.9	1.6		4,679	77	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.19**	7.7	8.5	17.1	28.3	38.3		4,655	101	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.90**	17.6	17.2	27.7	12.2	25.2		4,607	149	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.69**	29.3	30.2	26.2	9.2	5.1		4,643	113	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.95**	37.1	33.0	21.2	5.4	3.4		4,618	138	1.05

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.14**	45.6	31.2	17.0	4.4	1.8		4,500	256	0.97

Q1−Q19の当区分平均値	3.99
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	演習

履修者数	1,931
回答者数	1,557

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.48

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.52**	64.9	26.8	5.4	1.7	1.2	0.1	1,554	3	0.78
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.44**	59.1	29.3	8.1	2.0	1.1	0.4	1,555	2	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.55**	66.6	23.8	6.9	1.2	0.8	0.7	1,553	4	0.75
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.35**	58.1	26.4	9.5	3.4	2.4	0.2	1,553	4	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.46**	63.8	23.8	7.8	2.5	1.8	0.3	1,553	4	0.88
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	66.2	21.9	7.7	2.4	1.6	0.3	1,555	2	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.52**	66.4	23.5	6.6	2.1	1.1	0.2	1,549	8	0.80

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.48**	61.3	27.8	8.6	1.1	0.9	0.3	1,553	4	0.77
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.42**	58.6	28.2	9.7	2.5	0.8	0.3	1,552	5	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.34**	55.9	28.0	11.0	3.2	1.6	0.2	1,551	6	0.91
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.27**	53.5	27.6	12.7	3.9	2.1	0.2	1,550	7	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.44**	60.6	26.2	9.9	2.0	1.0	0.3	1,550	7	0.83
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.19**	46.5	28.4	18.8	2.7	1.3	2.3	1,544	13	0.93

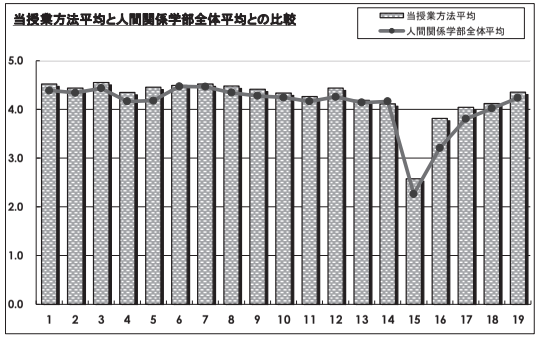
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.73

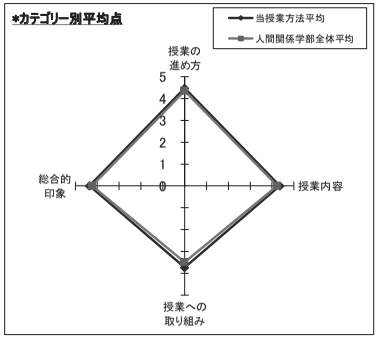
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.12**	46.4	29.6	14.9	7.5	1.6		1,553	4	1.02
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.57**	12.9	10.5	20.9	32.5	23.2		1,551	6	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.81**	37.9	27.4	20.4	7.0	7.3		1,532	25	1.22
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.04**	43.6	29.3	18.4	5.5	3.2		1,552	5	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.12**	47.1	28.6	16.4	4.9	3.0		1,547	10	1.04

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.35**	58.3	25.8	11.0	3.1	1.8		1,514	43	0.93

Q1−Q19の当区分平均値	4.24
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	演習

履修者数	1,914
回答者数	1,663

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.40**	59.1	27.8	8.3	3.1	1.5	0.2	1,656	7	0.88
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.39**	54.8	32.1	9.0	2.5	0.8	0.8	1,652	11	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.51**	63.9	25.2	7.8	1.8	0.5	0.7	1,652	11	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.26**	53.1	29.2	10.0	4.8	2.7	0.2	1,645	18	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.39**	58.4	25.9	9.8	3.3	1.1	1.6	1,645	18	0.88
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.54**	67.2	22.9	6.3	2.2	0.9	0.5	1,646	17	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.51**	64.0	25.9	7.1	2.0	0.7	0.2	1,641	22	0.78

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.44**	58.3	30.0	8.6	2.3	0.5	0.3	1,648	15	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.35**	54.1	32.0	9.9	2.9	1.0	0.2	1,644	19	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.32**	52.6	31.4	11.7	2.9	1.2	0.3	1,645	18	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.26**	50.8	31.1	11.5	4.6	1.6	0.4	1,641	22	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.44**	59.2	29.4	8.5	1.7	1.0	0.2	1,630	33	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.11**	41.8	30.6	19.5	3.5	1.6	3.0	1,619	44	0.96

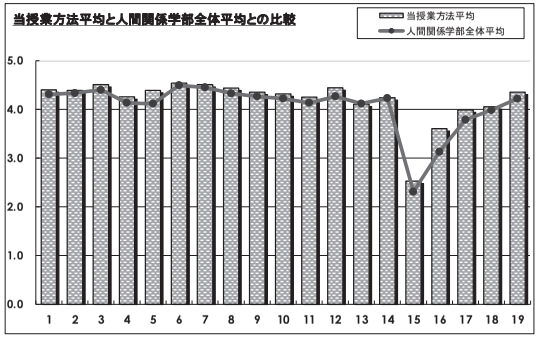
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.68

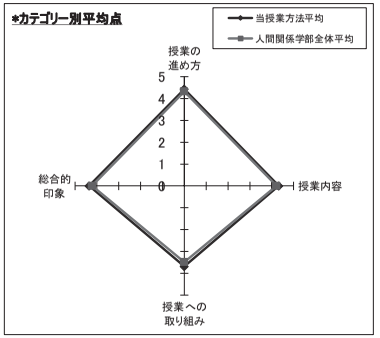
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.24**	51.3	28.4	14.1	5.3	0.9		1,632	31	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.53**	11.4	10.3	20.6	35.6	22.1		1,639	24	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.60**	29.3	29.0	23.7	8.7	9.3		1,619	44	1.25
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.99**	37.6	34.8	19.7	4.9	3.0		1,631	32	1.02
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.05**	40.6	34.3	17.7	4.5	2.8		1,625	38	1.01

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.36

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.36**	56.1	29.1	10.5	2.7	1.6		1,593	70	0.89

Q1−Q19の当区分平均値	4.19
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	実習

履修者数	11
回答者数	11

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.94

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.00
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.82**	90.9	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	11	0	0.60
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.00
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.00

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.88

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
10	授業の内容は興味深いものだった	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11	0	0.30
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.64**	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	11	0	0.67

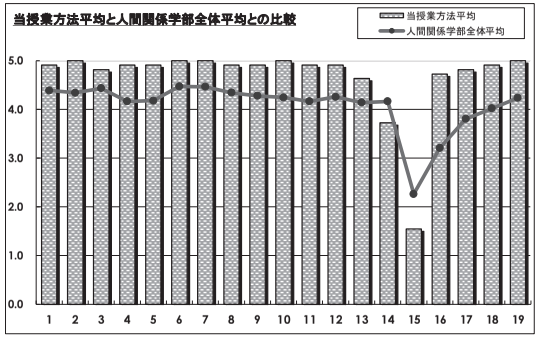
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.95

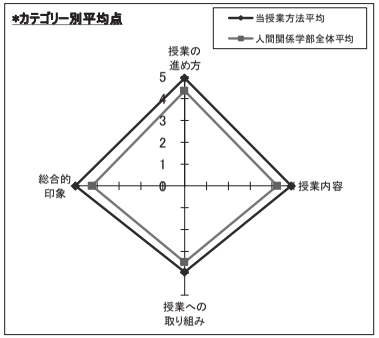
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.73**	27.3	27.3	36.4	9.1	0.0		11	0	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.55**	0.0	0.0	18.2	18.2	63.6		11	0	0.82
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.73**	81.8	9.1	9.1	0.0	0.0		11	0	0.65
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.82**	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		11	0	0.40
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0		11	0	0.30

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 5.00

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		11	0	0.00

Q1−Q19の当区分平均値	4.66
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	実習

履修者数	11
回答者数	8

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.98

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.00
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.00
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**5.00**	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	8	0	0.00
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.88**	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.35
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.00
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.00
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**5.00**	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.00

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.75

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.88**	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.35
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.88**	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.35
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.75**	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.46
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.75**	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0	0.46
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.38**	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	8	0	0.74
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.86**	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	8	0	0.38

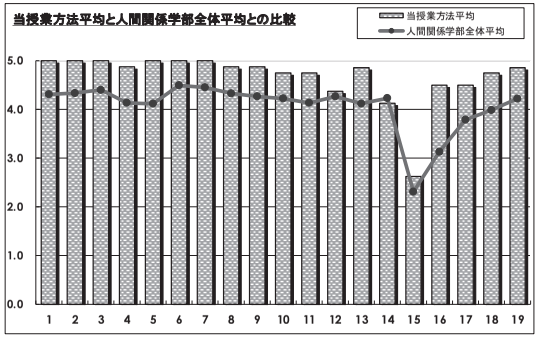
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 4.10

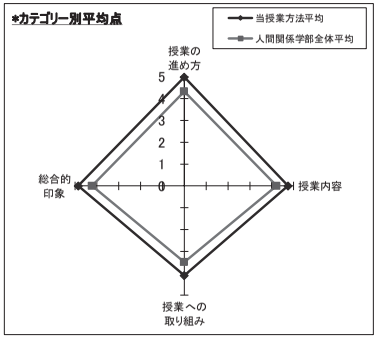
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.13**	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0		8	0	0.64
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.63**	12.5	12.5	37.5	0.0	37.5		8	0	1.51
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.50**	75.0	12.5	0.0	12.5	0.0		8	0	1.07
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.50**	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0		8	0	0.76
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.75**	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		8	0	0.46

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.86

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.86**	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		7	1	0.38

Q1−Q19の当区分平均値	4.66
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	実技

履修者数	96
回答者数	51

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.57

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.59**	66.7	25.5	7.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.64
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.43**	49.0	33.3	9.8	0.0	0.0	7.8	51	0	0.68
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.63**	68.6	27.5	2.0	2.0	0.0	0.0	51	0	0.63
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.55**	64.7	25.5	9.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.67
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.55**	64.7	25.5	9.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.67
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	70.6	19.6	9.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.67
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.67**	72.5	21.6	5.9	0.0	0.0	0.0	51	0	0.59

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.51

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.50**	56.9	33.3	7.8	0.0	0.0	2.0	51	0	0.65
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.53**	62.7	27.5	9.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.67
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.57**	68.6	21.6	7.8	2.0	0.0	0.0	51	0	0.73
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.55**	62.7	29.4	7.8	0.0	0.0	0.0	51	0	0.64
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.41**	60.8	23.5	13.7	0.0	2.0	0.0	51	0	0.88
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.48**	64.0	22.0	12.0	2.0	0.0	0.0	50	1	0.79

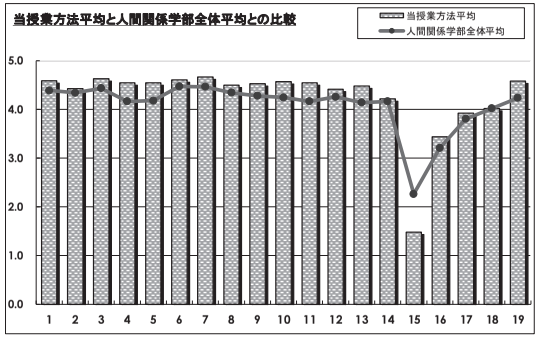
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.42

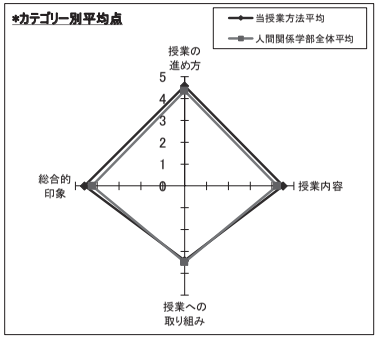
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.22**	47.1	35.3	11.8	3.9	2.0		51	0	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.48**	8.0	2.0	2.0	6.0	82.0		50	1	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.44**	30.0	28.0	18.0	4.0	20.0		50	1	1.47
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.92**	33.3	31.4	29.4	5.9	0.0		51	0	0.93
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.02**	37.3	29.4	31.4	2.0	0.0		51	0	0.88

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.58

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.58**	66.0	28.0	4.0	2.0	0.0		50	1	0.67

Q1-Q19の当区分平均値	4.25
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	実技

履修者数	127
回答者数	105

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.65

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.74**	80.0	16.2	2.9	0.0	1.0	0.0	105	0	0.60
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.43**	56.7	22.1	13.5	0.0	1.0	6.7	104	1	0.82
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.61**	70.2	19.2	9.6	0.0	0.0	1.0	104	1	0.66
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.63**	70.5	21.9	3.8	1.0	1.0	1.9	105	0	0.70
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.57**	65.0	23.3	7.8	1.0	0.0	2.9	103	2	0.69
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.81**	82.9	15.2	1.9	0.0	0.0	0.0	105	0	0.44
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.78**	79.6	18.4	1.9	0.0	0.0	0.0	103	2	0.46

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.57

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.58**	68.9	20.4	5.8	2.9	0.0	1.9	103	2	0.74
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.68**	68.6	27.6	1.9	0.0	0.0	1.9	105	0	0.51
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.59**	66.7	25.7	4.8	1.9	0.0	1.0	105	0	0.68
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.68**	71.6	24.5	3.9	0.0	0.0	0.0	102	3	0.55
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.43**	56.7	31.7	9.6	1.9	0.0	0.0	104	1	0.75
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.48**	61.8	24.5	9.8	1.0	1.0	2.0	102	3	0.80

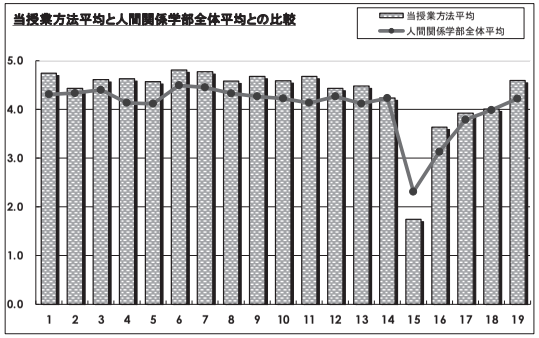
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.51

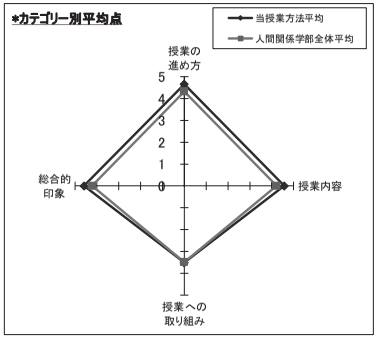
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.24**	49.0	31.4	13.7	5.9	0.0		102	3	0.90
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.74**	12.9	4.0	3.0	5.0	75.2		101	4	1.43
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.64**	44.4	13.1	19.2	8.1	15.2		99	6	1.49
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.92**	43.6	21.8	22.8	6.9	5.0		101	4	1.18
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.01**	45.1	22.5	25.5	2.0	4.9		102	3	1.11

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.59

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.59**	69.4	21.4	8.2	1.0	0.0		98	7	0.69

Q1-Q19の当区分平均値	4.33
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義・演習

履修者数	477
回答者数	383

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.54**	62.1	32.6	2.9	1.6	0.8	0.0	383	0	0.70
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.54**	63.4	29.5	5.2	1.6	0.3	0.0	383	0	0.69
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.58**	68.4	21.9	7.6	1.3	0.3	0.5	383	0	0.71
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.18**	46.1	35.3	10.7	6.0	1.8	0.0	382	1	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.22**	44.4	37.9	12.8	3.7	0.8	0.5	383	0	0.86
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.48**	61.9	27.4	7.3	2.6	0.5	0.3	383	0	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.50**	59.8	32.6	6.5	0.0	1.0	0.0	383	0	0.71

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.51**	60.8	30.8	6.5	0.8	0.8	0.3	383	0	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.35**	53.3	31.9	11.2	2.6	0.8	0.3	383	0	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	41.5	37.6	15.7	3.1	1.8	0.3	383	0	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.05**	38.6	36.8	17.0	5.0	2.3	0.3	383	0	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.26**	44.6	38.1	14.1	1.3	0.8	1.0	383	0	0.81
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	41.3	32.6	20.4	2.6	0.8	2.3	383	0	0.89

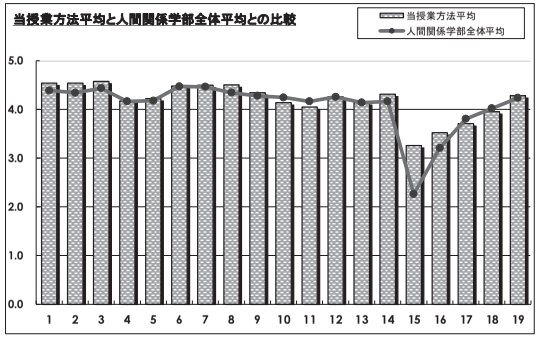
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.75

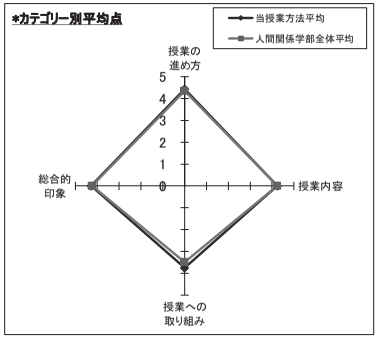
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.31**	56.6	25.0	11.3	7.1	0.0		380	3	0.93
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**3.26**	22.0	17.8	32.5	19.2	8.4		381	2	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.52**	26.0	29.2	26.0	8.8	10.1		377	6	1.25
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.71**	24.9	38.1	24.4	7.9	4.7		381	2	1.07
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.95**	36.0	33.1	23.1	6.0	1.8		381	2	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.28

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.28**	49.1	34.3	13.7	1.6	1.3		373	10	0.86

Q1−Q19の当区分平均値	4.19
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義・演習

履修者数	510
回答者数	448

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.54

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.59**	67.3	26.7	4.0	1.3	0.7	0.0	446	2	0.70
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.57**	65.3	28.9	4.0	1.3	0.4	0.0	447	1	0.68
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.50**	63.5	25.3	8.1	2.0	0.7	0.4	447	1	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.43**	56.5	32.5	8.3	2.0	0.4	0.2	446	2	0.77
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.43**	56.4	30.5	9.0	2.0	0.2	1.8	443	5	0.76
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.63**	70.3	24.5	3.9	0.9	0.5	0.0	441	7	0.65
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.60**	68.0	26.3	4.1	1.1	0.5	0.0	441	7	0.67

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.40

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.59**	65.2	29.1	5.0	0.5	0.2	0.0	443	5	0.63
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.53**	61.3	30.9	6.5	0.7	0.2	0.5	444	4	0.67
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.34**	52.1	35.3	8.8	2.5	1.3	0.0	445	3	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.30**	49.3	36.0	10.8	2.5	1.1	0.2	444	4	0.84
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.41**	55.5	32.7	9.3	1.6	0.7	0.2	443	5	0.78
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.21**	44.6	34.2	15.7	2.1	1.4	2.1	439	9	0.88

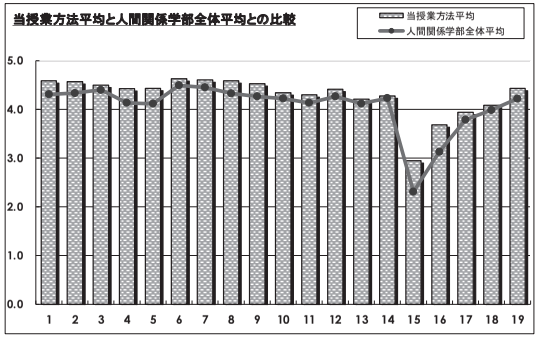
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.79

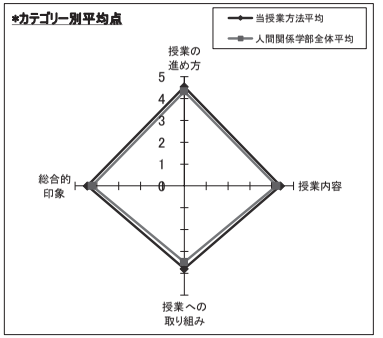
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.28**	56.1	24.7	11.5	6.3	1.4		442	6	0.99
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.95**	16.6	14.8	28.6	27.0	13.0		440	8	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.69**	30.8	31.9	21.9	6.2	9.3		439	9	1.23
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.94**	33.1	39.5	19.0	5.0	3.4		441	7	1.01
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.09**	38.7	40.0	15.6	2.7	3.0		437	11	0.96

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.43**	58.2	31.0	8.3	1.4	1.2		423	25	0.80

Q1−Q19の当区分平均値	4.29
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義・実習

履修者数	30
回答者数	25

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 3.87

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**3.84**	40.0	36.0	4.0	8.0	12.0	0.0	25	0	1.37
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**3.88**	32.0	36.0	16.0	8.0	4.0	4.0	25	0	1.12
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**3.92**	40.0	36.0	8.0	8.0	8.0	0.0	25	0	1.26
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.40**	20.0	40.0	12.0	16.0	12.0	0.0	25	0	1.32
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.84**	40.0	32.0	8.0	12.0	8.0	0.0	25	0	1.31
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**3.96**	40.0	32.0	20.0	0.0	8.0	0.0	25	0	1.17
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.28**	56.0	32.0	0.0	8.0	4.0	0.0	25	0	1.10

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 3.78

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.08**	44.0	32.0	16.0	4.0	4.0	0.0	25	0	1.08
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**3.64**	28.0	36.0	16.0	12.0	8.0	0.0	25	0	1.25
10	授業の内容は興味深いものだった	**3.96**	48.0	24.0	12.0	8.0	8.0	0.0	25	0	1.31
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.71**	32.0	24.0	28.0	4.0	8.0	4.0	25	0	1.23
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**3.80**	32.0	36.0	20.0	4.0	8.0	0.0	25	0	1.19
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**3.48**	20.0	36.0	28.0	4.0	12.0	0.0	25	0	1.23

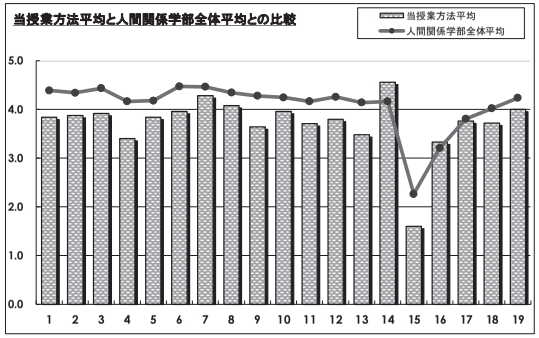
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.39

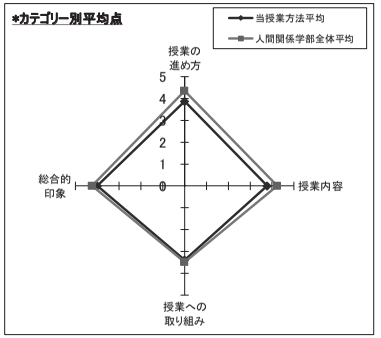
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.56**	64.0	28.0	8.0	0.0	0.0		25	0	0.65
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.60**	8.0	0.0	12.0	4.0	76.0		25	0	1.22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.33**	25.0	25.0	25.0	8.3	16.7		24	1	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.76**	40.0	20.0	24.0	8.0	8.0		25	0	1.30
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.72**	36.0	28.0	20.0	4.0	12.0		25	0	1.34

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.00

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.00**	52.0	20.0	12.0	8.0	8.0		25	0	1.32

Q1−Q19の当区分平均値	3.72
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（授業方法別）　大妻女子大学

授業方法	講義・実習

履修者数	26
回答者数	22

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.84

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.73**	81.8	13.6	0.0	4.5	0.0	0.0	22	0	0.70
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.82**	86.4	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0	22	0	0.50
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.29
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.73**	81.8	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	22	0	0.63
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.82**	90.9	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	22	0	0.59
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.95**	95.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.21
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.91**	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.29

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.83

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.82**	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.39
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.86**	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.35
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.86**	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.35
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.86**	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.35
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.95**	95.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	22	0	0.21
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.62**	76.2	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	21	1	0.74

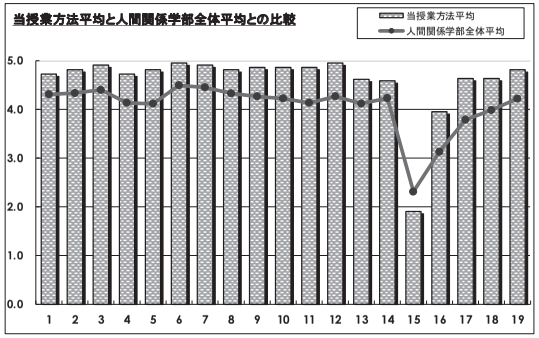
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.95

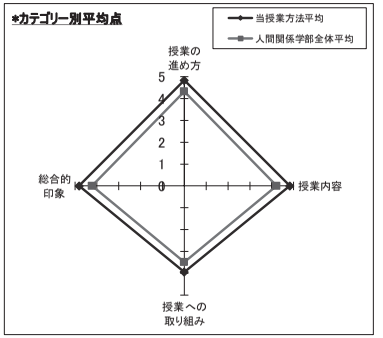
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.59**	72.7	13.6	13.6	0.0	0.0		22	0	0.73
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.91**	13.6	0.0	9.1	18.2	59.1		22	0	1.41
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.95**	61.9	4.8	14.3	4.8	14.3		21	1	1.53
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.64**	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0		22	0	0.66
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.64**	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0		22	0	0.66

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.82

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.82**	86.4	9.1	4.5	0.0	0.0		22	0	0.50

Q1−Q19の当区分平均値	4.60
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任

履修者数	4,403
回答者数	2,910

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.29

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.35**	55.0	31.7	8.3	3.1	1.7	0.1	2,905	5	0.89
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.28**	51.4	32.2	10.7	3.6	1.7	0.4	2,907	3	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.38**	58.5	25.7	11.2	2.7	1.5	0.5	2,903	7	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.08**	43.9	31.7	15.3	5.6	3.1	0.3	2,905	5	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.12**	46.0	29.9	14.8	5.7	2.7	0.9	2,899	11	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.43**	59.6	27.4	9.3	1.8	1.3	0.7	2,896	14	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.42**	58.5	29.0	9.2	1.8	1.3	0.2	2,896	14	0.84

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.18

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.28**	51.1	32.3	11.7	2.8	1.9	0.2	2,901	9	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.20**	49.5	30.8	12.1	5.3	2.2	0.2	2,897	13	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.19**	48.8	31.6	12.0	4.6	2.8	0.2	2,897	13	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.12**	46.1	31.2	14.1	5.2	3.1	0.2	2,898	12	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.21**	48.7	31.6	13.4	3.3	2.7	0.3	2,896	14	0.98
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.09**	41.7	32.4	19.5	3.2	2.2	1.0	2,888	22	0.97

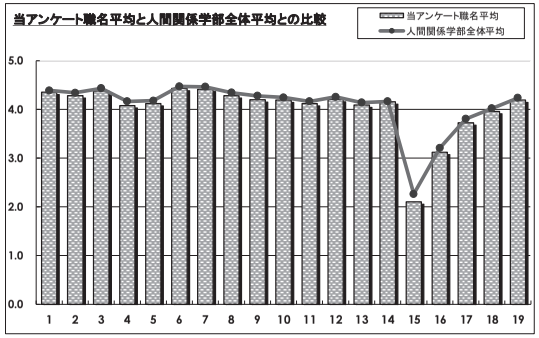
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.41

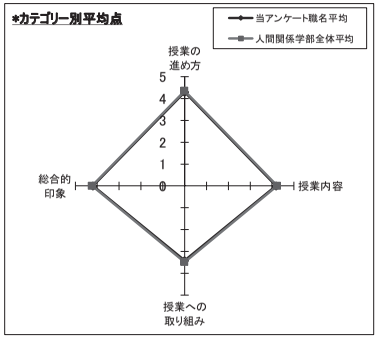
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.15**	47.9	29.2	14.7	7.1	1.2		2,893	17	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.10**	7.8	7.4	15.4	26.1	43.2		2,889	21	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.12**	21.8	21.1	25.0	11.6	20.5		2,869	41	1.42
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.73**	31.2	30.5	23.5	9.5	5.3		2,889	21	1.15
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	38.0	32.7	19.8	6.0	3.5		2,879	31	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.19**	48.7	30.8	13.8	4.3	2.4		2,788	122	0.99

Q1−Q19の当区分平均値	4.02
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任

履修者数	4,121
回答者数	3,214

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.28**	52.7	29.6	11.4	4.1	1.9	0.3	3,187	27	0.95
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.32**	51.8	31.7	11.7	3.1	0.9	0.8	3,173	41	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.35**	56.0	26.9	12.1	2.8	1.2	0.9	3,178	36	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.12**	43.9	32.8	15.6	5.2	2.0	0.5	3,173	41	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.12**	44.2	30.0	17.3	5.0	1.7	1.9	3,176	38	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.46**	60.9	26.5	9.8	1.5	0.7	0.7	3,167	47	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.44**	58.5	29.0	10.0	1.6	0.6	0.3	3,161	53	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.34**	52.6	31.6	12.1	2.6	0.5	0.6	3,175	39	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.26**	49.2	33.3	12.2	3.9	1.1	0.4	3,167	47	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.24**	49.4	31.1	14.2	3.5	1.5	0.3	3,163	51	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.16**	46.3	31.3	15.7	5.0	1.5	0.3	3,161	53	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.30**	51.2	31.8	13.2	2.5	1.0	0.4	3,149	65	0.86
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	42.6	32.6	18.7	3.1	1.3	1.7	3,127	87	0.92

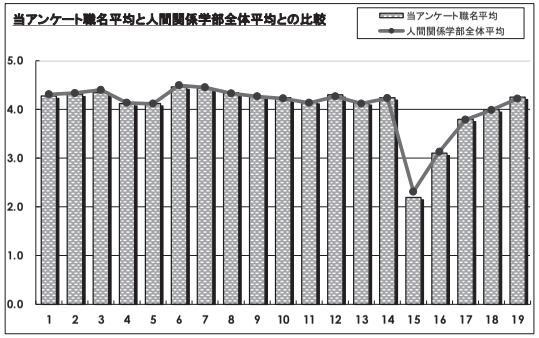
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.47

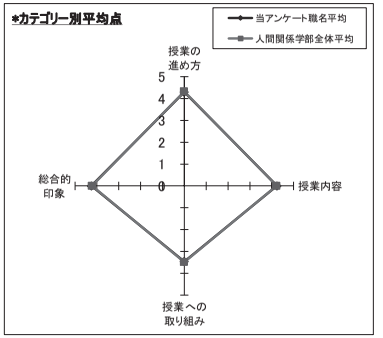
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.24**	52.9	26.3	14.0	5.5	1.2		3,164	50	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.19**	7.9	8.6	17.5	27.0	39.1		3,153	61	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.10**	21.6	19.4	27.5	10.7	20.8		3,124	90	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.80**	32.3	31.5	24.3	7.3	4.5		3,141	73	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.99**	38.4	34.0	19.8	4.4	3.5		3,129	85	1.03

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.25**	50.1	30.8	14.4	3.4	1.2		3,054	160	0.91

Q1−Q19の当区分平均値	4.06
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	4.TEP

履修者数	610
回答者数	496

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.55

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.61**	69.5	24.4	4.4	1.0	0.6	0.0	495	1	0.68
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.54**	63.6	27.7	6.5	1.6	0.2	0.4	495	1	0.71
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.59**	68.1	24.2	5.7	1.4	0.2	0.4	495	1	0.68
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.45**	62.8	23.7	9.5	3.0	0.8	0.2	494	2	0.85
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.59**	71.3	20.4	5.3	2.0	1.0	0.0	494	2	0.77
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	68.3	18.6	7.3	4.0	1.8	0.0	495	1	0.93
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.62**	72.7	20.0	4.4	2.2	0.6	0.0	495	1	0.73

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.39

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.51**	61.8	27.7	8.7	1.0	0.2	0.6	495	1	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.51**	61.8	28.3	8.1	1.4	0.0	0.4	495	1	0.71
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.39**	57.5	27.9	10.3	3.6	0.4	0.2	494	2	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.32**	54.6	27.4	12.8	4.3	0.6	0.4	493	3	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.44**	60.1	26.1	10.7	2.2	0.4	0.4	494	2	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.15**	44.7	25.7	21.9	3.6	0.4	3.6	494	2	0.93

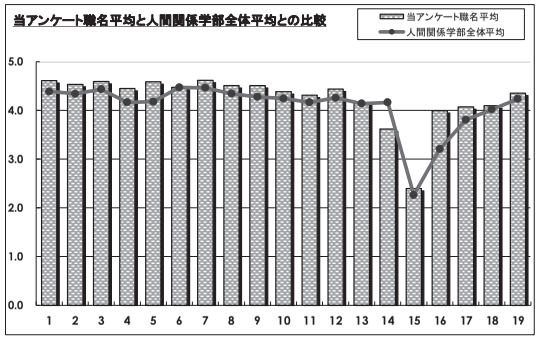
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.64

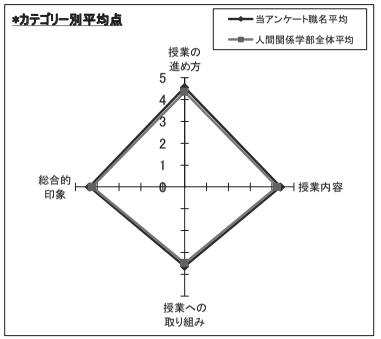
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.62**	23.0	36.2	23.8	13.5	3.4		495	1	1.08
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.40**	6.5	8.7	20.0	47.7	17.2		495	1	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.00**	37.7	33.4	21.4	5.8	1.6		485	11	0.99
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.07**	43.9	28.5	19.8	6.1	1.6		494	2	1.01
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.10**	44.6	29.2	19.1	5.3	1.8		493	3	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.35**	58.6	23.5	13.4	3.9	0.6		485	11	0.90

Q1−Q19の当区分平均値	4.25
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	4.TEP

履修者数	610
回答者数	518

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.55

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.46**	62.2	26.4	7.6	2.1	1.6	0.2	516	2	0.85
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.47**	58.8	31.7	7.6	1.4	0.4	0.2	515	3	0.73
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.61**	68.2	24.7	5.6	0.8	0.0	0.8	515	3	0.63
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.41**	59.5	27.6	7.8	3.5	1.4	0.2	514	4	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.58**	68.7	24.0	4.3	2.4	0.6	0.0	508	10	0.74
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.63**	73.5	18.8	5.1	2.0	0.6	0.0	510	8	0.72
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.68**	75.1	19.5	4.1	1.0	0.4	0.0	514	4	0.64

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.40**	55.6	31.5	10.3	1.9	0.4	0.2	514	4	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.41**	55.6	32.5	9.4	2.0	0.6	0.0	511	7	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.35**	54.0	31.0	11.9	2.5	0.6	0.0	513	5	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.30**	51.8	31.8	10.7	4.3	1.0	0.4	515	3	0.89
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.37**	56.3	29.3	10.7	2.7	1.0	0.0	512	6	0.85
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**3.96**	36.0	29.7	24.6	3.9	2.4	3.3	508	10	1.01

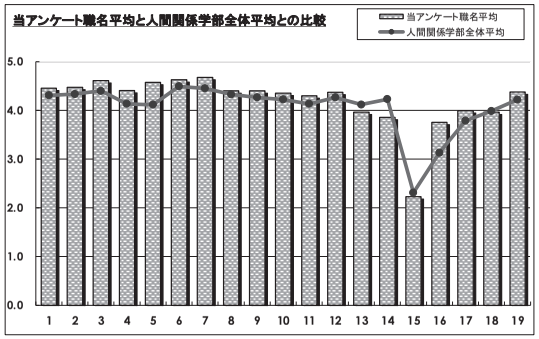
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.56

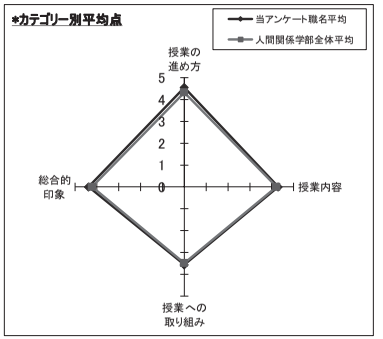
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.86**	30.2	37.9	21.7	7.9	2.4		507	11	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.23**	3.5	5.5	19.9	52.9	18.2		512	6	0.93
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.75**	29.7	30.9	27.9	8.4	3.2		502	16	1.07
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.99**	36.5	33.7	23.7	4.9	1.2		510	8	0.95
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	33.5	36.4	24.0	5.1	1.0		508	10	0.93

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.38**	56.8	28.4	11.4	2.8	0.6		500	18	0.84

Q1−Q19の当区分平均値	4.20
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	1.専任

履修者数	4,376
回答者数	3,115

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.38**	58.3	28.7	7.4	3.7	1.7	0.3	3,113	2	0.90
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.36**	55.9	29.9	9.1	3.1	1.6	0.5	3,109	6	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.46**	62.6	24.2	9.4	2.1	1.0	0.7	3,108	7	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.20**	49.2	30.3	13.0	4.8	2.3	0.4	3,106	9	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.17**	48.5	29.6	13.9	4.4	2.8	0.7	3,106	9	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.51**	64.6	24.5	7.6	1.9	0.9	0.5	3,109	6	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.48**	62.0	27.0	8.1	1.8	0.8	0.3	3,101	14	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.27

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.37**	56.4	29.1	10.3	2.5	1.3	0.4	3,111	4	0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.31**	54.2	29.2	11.0	3.6	1.7	0.4	3,108	7	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.27**	52.5	29.2	12.5	3.8	1.8	0.2	3,108	7	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.18**	48.0	31.6	13.2	4.7	2.4	0.2	3,108	7	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.28**	52.0	29.6	13.0	3.1	1.8	0.5	3,105	10	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.18**	45.5	30.9	17.2	3.2	1.3	1.8	3,090	25	0.93

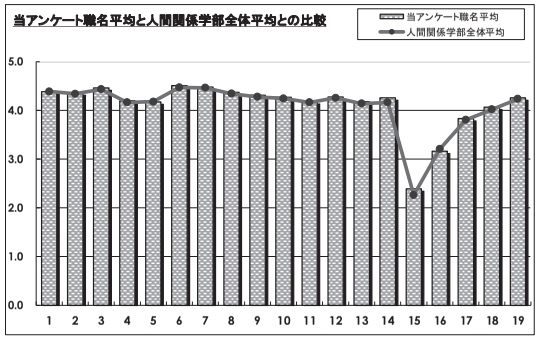
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.54

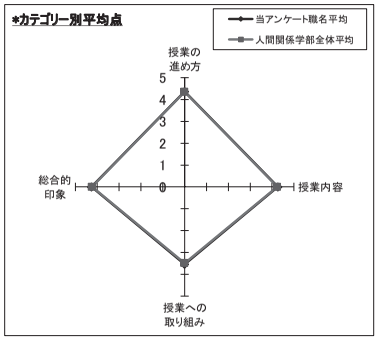
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.26**	52.5	28.0	13.2	5.3	0.9		3,102	13	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.39**	10.6	10.3	18.9	28.2	32.0		3,101	14	1.31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.16**	24.7	18.8	25.0	10.8	20.6		3,063	52	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.84**	34.9	31.7	20.5	7.9	5.0		3,100	15	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.07**	43.9	30.9	16.7	5.3	3.2		3,095	20	1.05

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.26

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.26**	52.7	28.6	13.0	3.8	2.0		3,006	109	0.96

Q1−Q19の当区分平均値	4.11
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート職名別）　大妻女子大学

アンケート職名	1.専任

履修者数	4,190
回答者数	3,270

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.31

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.32**	54.1	30.6	9.2	3.6	2.0	0.4	3,245	25	0.93
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.33**	52.3	32.8	10.7	2.7	1.0	0.4	3,240	30	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.42**	59.5	26.0	10.5	2.7	0.7	0.6	3,240	30	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.10**	43.3	32.7	15.8	5.6	2.0	0.6	3,222	48	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.04**	42.2	29.8	18.2	5.6	2.9	1.2	3,224	46	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.50**	63.0	25.7	8.9	1.3	0.6	0.6	3,231	39	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.43**	57.7	30.5	9.1	1.6	0.8	0.2	3,221	49	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.30**	50.7	33.3	11.7	2.9	1.0	0.4	3,226	44	0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.25**	49.4	32.2	13.1	3.3	1.6	0.4	3,215	55	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.19**	46.6	33.4	13.2	4.6	1.7	0.3	3,209	61	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.08**	42.0	33.7	15.5	6.1	2.1	0.5	3,207	63	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.22**	47.8	32.4	14.0	3.5	1.7	0.5	3,202	68	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.13**	41.2	33.5	18.6	3.3	1.2	2.1	3,180	90	0.92

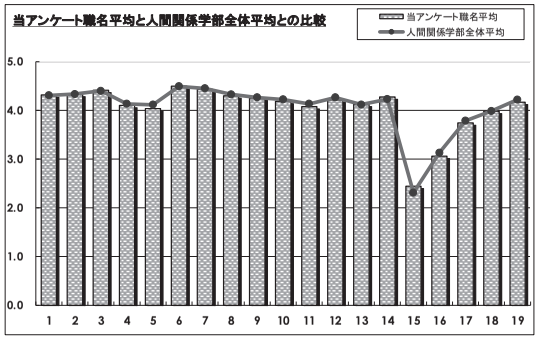
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.50

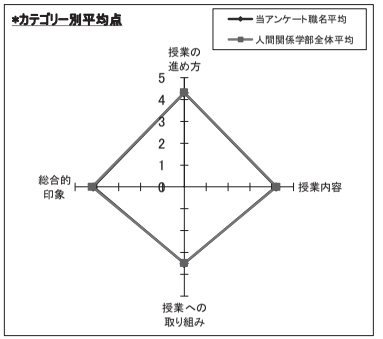
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.28**	56.0	24.6	12.2	5.7	1.5		3,214	56	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.45**	11.5	10.5	19.2	28.4	30.3		3,200	70	1.33
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.06**	20.8	20.7	24.7	11.5	22.3		3,167	103	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.74**	30.7	31.6	23.9	8.8	4.9		3,195	75	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.98**	39.0	32.6	19.6	5.4	3.4		3,175	95	1.05

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.17

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.17**	47.6	30.4	15.5	4.2	2.3		3,089	181	0.99

Q1−Q19の当区分平均値	4.05
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	35歳以下

履修者数	953
回答者数	737

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.48

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.55**	65.2	27.4	5.5	1.4	0.5	0.0	733	4	0.71
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.46**	59.5	29.4	8.4	2.2	0.3	0.3	735	2	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.50**	63.4	25.4	8.3	1.8	0.7	0.4	733	4	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.37**	56.9	27.3	12.0	2.9	0.8	0.1	733	4	0.86
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.45**	61.4	26.0	9.6	2.1	1.0	0.0	731	6	0.82
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.48**	65.6	22.2	8.0	2.9	1.2	0.0	733	4	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.57**	67.5	24.5	5.9	1.8	0.4	0.0	732	5	0.72

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.31

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.40**	56.1	29.5	11.7	2.2	0.1	0.4	733	4	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.37**	56.0	29.3	10.5	3.7	0.3	0.3	731	6	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.34**	53.8	31.1	10.7	3.8	0.5	0.1	731	6	0.86
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.25**	50.8	28.6	14.9	4.8	0.5	0.3	730	7	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.35**	54.2	29.3	13.3	2.6	0.4	0.3	731	6	0.84
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	43.5	27.7	21.8	3.4	0.5	2.9	728	9	0.92

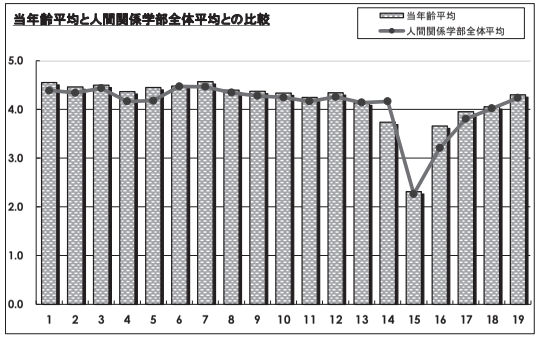
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.54

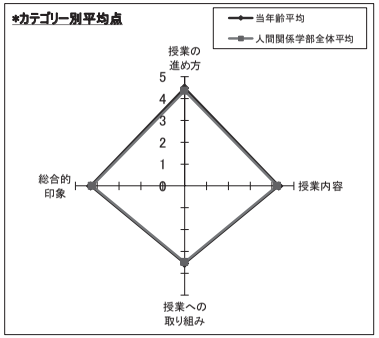
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.74**	28.8	34.1	22.2	11.7	3.1		733	4	1.09
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.31**	7.4	8.1	18.9	39.9	25.7		731	6	1.16
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.66**	30.6	28.8	24.9	8.1	7.8		720	17	1.21
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.95**	38.8	29.2	22.5	7.7	1.9		730	7	1.04
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.05**	41.7	30.5	21.3	4.8	1.8		729	8	0.99

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.30

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.30**	53.6	28.1	14.0	3.7	0.7		709	28	0.89

Q1−Q19の当区分平均値	4.17
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	35歳以下

履修者数	593
回答者数	506

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.60

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.59**	68.7	23.6	5.8	1.0	0.8	0.2	504	2	0.72
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.52**	62.7	28.0	7.7	1.0	0.4	0.2	504	2	0.72
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.62**	68.7	23.8	6.0	0.6	0.0	1.0	504	2	0.63
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.49**	62.4	26.4	8.5	2.0	0.4	0.2	503	3	0.77
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.59**	70.4	20.5	7.0	1.4	0.6	0.0	497	9	0.74
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.66**	75.1	17.5	6.2	1.2	0.0	0.0	498	8	0.65
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.74**	78.3	17.9	3.6	0.0	0.2	0.0	502	4	0.54

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.48**	59.3	30.3	9.2	0.8	0.2	0.2	501	5	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.49**	59.2	31.9	7.8	0.6	0.4	0.0	498	8	0.70
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.40**	56.7	29.9	11.0	2.0	0.4	0.0	499	7	0.79
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.37**	55.2	29.3	12.7	2.0	0.4	0.4	502	4	0.81
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.41**	57.1	28.6	12.1	1.4	0.6	0.2	497	9	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.07**	39.3	30.6	23.6	2.4	1.2	2.8	496	10	0.92

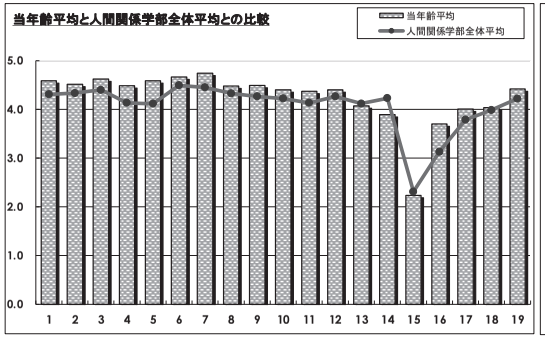
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.57

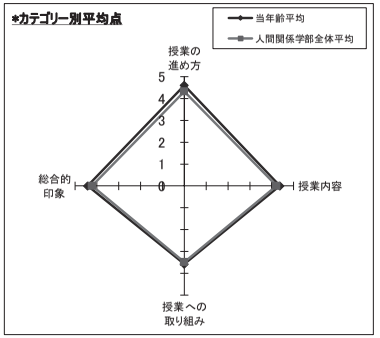
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.89**	33.9	33.3	23.4	7.1	2.4		496	10	1.03
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.23**	4.0	5.4	21.0	49.1	20.4		499	7	0.97
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.70**	30.7	28.0	27.6	8.0	5.7		489	17	1.15
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.01**	38.0	32.3	23.6	4.8	1.2		495	11	0.96
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.04**	36.4	36.2	23.1	3.2	1.0		494	12	0.90

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.42

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.42**	58.0	28.9	10.8	1.9	0.4		481	25	0.79

Q1−Q19の当区分平均値	4.25
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	36～40歳

履修者数	1,819
回答者数	1,136

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.47

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.56**	65.5	27.5	4.9	1.8	0.3	0.1	1,136	0	0.69
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.52**	62.7	28.8	5.8	2.0	0.3	0.4	1,135	1	0.72
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.47**	62.8	25.0	8.4	2.6	0.9	0.4	1,133	3	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.32**	52.7	31.4	11.6	3.0	1.1	0.2	1,133	3	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.22**	49.7	28.8	14.0	5.1	1.2	1.1	1,132	4	0.96
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	68.8	24.2	5.0	1.2	0.2	0.5	1,132	4	0.66
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.59**	67.3	25.6	6.1	0.7	0.3	0.1	1,133	3	0.66

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.42

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.50**	60.6	30.0	8.0	0.9	0.3	0.2	1,133	3	0.70
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.49**	61.4	28.9	6.5	2.5	0.4	0.3	1,133	3	0.76
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.45**	59.2	29.3	8.8	1.9	0.7	0.1	1,131	5	0.79
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.37**	54.7	33.0	8.6	2.5	1.2	0.1	1,132	4	0.84
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.39**	55.7	30.5	10.8	2.1	0.7	0.2	1,133	3	0.82
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.34**	51.4	32.7	12.6	2.0	0.4	1.0	1,128	8	0.80

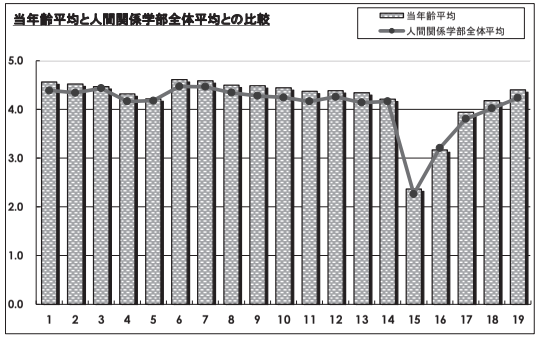
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.58

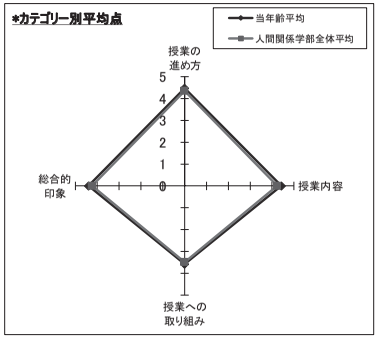
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.21**	51.0	27.3	14.9	5.7	1.1		1,131	5	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.37**	9.6	11.3	18.0	28.0	33.0		1,131	5	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.17**	24.1	20.6	24.6	9.8	20.9		1,121	15	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.94**	37.0	34.4	17.2	8.4	3.0		1,131	5	1.07
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.18**	46.1	33.5	14.2	4.8	1.3		1,125	11	0.94

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.40

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.40**	57.9	28.4	10.2	2.9	0.6		1,087	49	0.83

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	36～40歳

履修者数	1,103
回答者数	835

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.37**	54.5	33.3	8.6	2.3	1.3	0.0	826	9	0.84
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.40**	54.2	34.0	10.0	1.5	0.4	0.0	824	11	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.42**	57.6	28.8	11.3	2.2	0.1	0.0	824	11	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.15**	42.3	36.9	15.6	4.1	1.1	0.0	821	14	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.15**	43.7	32.5	17.6	4.4	0.7	1.1	824	11	0.92
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	62.6	26.2	8.9	1.6	0.5	0.2	820	15	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.47**	59.9	29.1	9.3	1.3	0.2	0.1	818	17	0.74

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.22

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.33**	51.5	32.1	14.1	1.8	0.2	0.2	822	13	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.32**	50.7	33.1	13.6	2.3	0.2	0.0	816	19	0.81
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.26**	49.6	31.9	14.0	3.7	0.7	0.1	819	16	0.88
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.14**	43.4	34.6	15.0	5.8	1.1	0.1	815	20	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.21**	46.2	33.9	15.2	3.4	1.0	0.2	816	19	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.08**	40.4	32.8	20.0	4.3	1.5	1.0	816	19	0.96

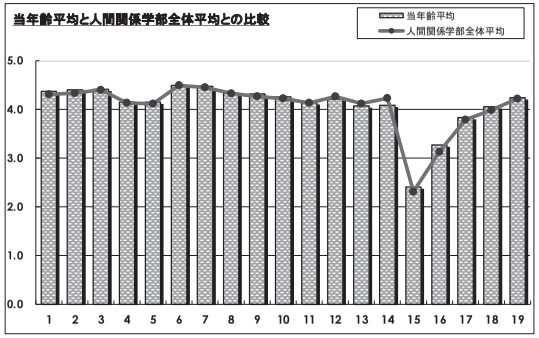
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.53

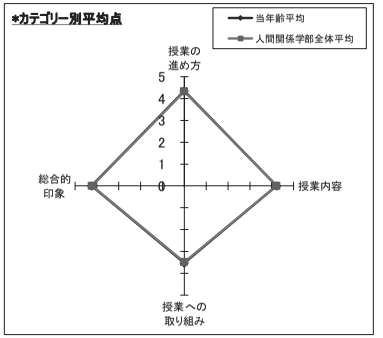
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.09**	46.5	27.6	15.8	7.8	2.2		821	14	1.06
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.41**	11.7	11.5	15.7	28.2	32.9		820	15	1.35
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.27**	22.7	23.5	27.6	10.4	15.7		807	28	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.83**	29.3	36.9	23.9	7.3	2.6		812	23	1.01
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.06**	38.9	35.5	19.5	4.5	1.6		817	18	0.95

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.24**	49.2	30.6	15.9	3.5	0.6		790	45	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	41～45歳

履修者数	757
回答者数	556

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.51

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.60**	69.0	24.5	4.3	0.9	1.1	0.2	555	1	0.72
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.51**	65.6	23.9	6.8	2.0	1.3	0.4	556	0	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.59**	68.9	22.7	6.7	0.5	0.7	0.5	556	0	0.70
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.30**	53.5	30.1	10.6	4.1	1.4	0.2	555	1	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.38**	54.9	30.8	9.9	2.5	0.9	1.1	556	0	0.84
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.58**	68.3	23.0	6.1	1.1	0.7	0.7	556	0	0.72
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.60**	68.8	24.3	5.0	0.9	0.7	0.2	555	1	0.69

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.39

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.51**	64.0	26.8	6.5	1.8	0.9	0.0	556	0	0.77
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.47**	63.5	25.0	7.7	2.2	1.4	0.2	556	0	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.35**	58.5	26.4	9.4	3.4	2.3	0.0	556	0	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.35**	56.7	28.8	9.4	3.4	1.8	0.0	556	0	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.39**	57.7	28.8	8.5	3.2	1.3	0.5	555	1	0.87
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.25**	49.0	30.6	15.9	2.3	1.3	0.9	555	1	0.90

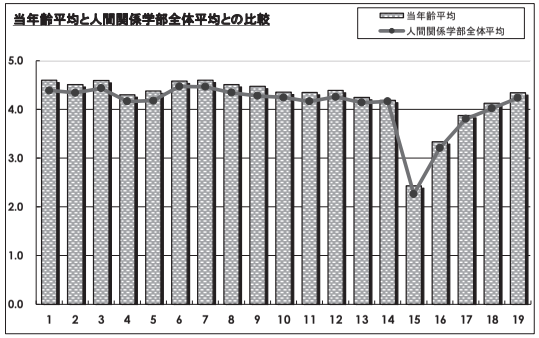
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.59

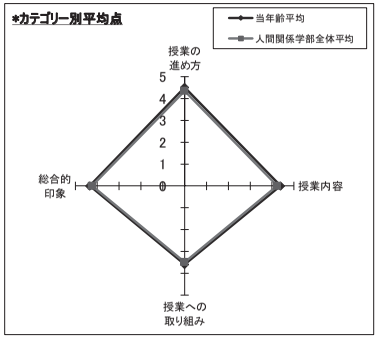
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	50.3	27.7	13.3	7.7	0.9		555	1	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.44**	12.3	11.5	17.1	25.8	33.3		555	1	1.37
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.34**	25.9	26.4	20.8	9.7	17.3		549	7	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.87**	35.3	33.2	19.8	7.0	4.7		555	1	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.13**	44.8	32.4	16.1	4.0	2.7		553	3	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.34

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.34**	57.0	26.1	12.3	3.4	1.3		537	19	0.91

Q1–Q19の当区分平均値	4.22
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	41～45歳

履修者数	1,152
回答者数	939

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.49

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.55**	67.9	23.0	6.4	1.2	1.3	0.2	931	8	0.78
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.51**	65.1	24.3	6.9	2.2	1.0	0.6	930	9	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.54**	68.1	20.3	7.9	2.0	0.8	0.9	931	8	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.29**	52.3	30.5	11.1	4.2	1.4	0.5	926	13	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.32**	54.1	27.2	13.2	3.2	1.0	1.3	925	14	0.89
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	70.2	21.6	6.8	0.1	0.8	0.5	929	10	0.69
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.62**	70.1	22.2	6.6	0.3	0.4	0.3	924	15	0.66

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.51**	63.5	25.5	8.0	1.7	0.5	0.8	928	11	0.76
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.45**	60.3	28.0	7.6	2.4	1.0	0.8	927	12	0.81
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.38**	58.4	26.5	10.6	2.8	1.4	0.3	928	11	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.31**	53.5	29.7	11.3	3.7	1.3	0.5	927	12	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.37**	56.8	27.4	11.1	2.5	1.4	0.8	926	13	0.88
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.26**	48.7	29.5	15.9	2.1	1.1	2.8	920	19	0.88

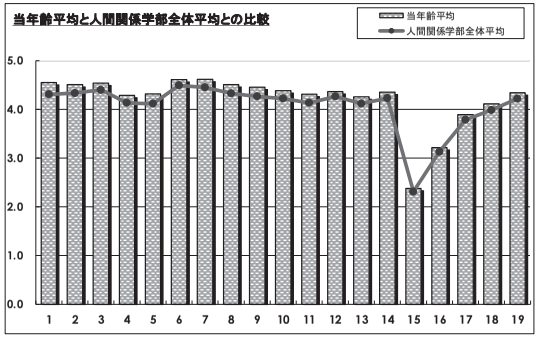
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.59

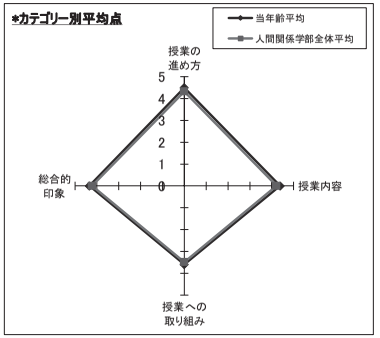
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.35**	58.2	24.7	12.7	3.2	1.2		924	15	0.91
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.38**	8.7	9.2	22.2	31.1	28.7		922	17	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.21**	23.8	20.3	27.3	10.4	18.1		919	20	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.89**	37.3	30.2	21.4	6.8	4.3		925	14	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.12**	44.6	32.3	16.5	3.5	3.1		922	17	1.01

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.34

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.34**	57.4	26.1	11.4	3.4	1.7		903	36	0.93

Q1–Q19の当区分平均値	4.21
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	46～50歳

履修者数	1,869
回答者数	1,301

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.43**	59.3	30.2	6.5	2.5	1.5	0.1	1,301	0	0.84
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.40**	57.3	30.7	8.0	2.4	1.5	0.1	1,300	1	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.45**	62.3	23.6	10.2	1.9	1.3	0.7	1,300	1	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.17**	49.3	29.4	13.0	5.3	2.9	0.1	1,298	3	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.22**	51.8	28.0	12.5	4.8	2.6	0.3	1,300	1	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	62.9	24.5	9.1	1.9	1.2	0.5	1,298	3	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.47**	61.9	27.1	8.2	1.3	1.3	0.1	1,293	8	0.81

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.26

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.39**	56.6	29.8	10.2	1.4	1.7	0.2	1,300	1	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.29**	52.9	30.4	11.7	3.1	1.9	0.1	1,298	3	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.25**	51.7	30.1	11.9	3.9	2.2	0.2	1,297	4	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.16**	47.8	29.8	15.1	4.3	2.8	0.2	1,299	2	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.29**	52.8	30.1	12.2	2.2	2.3	0.5	1,298	3	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.17**	45.6	30.6	18.0	2.6	2.0	1.2	1,295	6	0.95

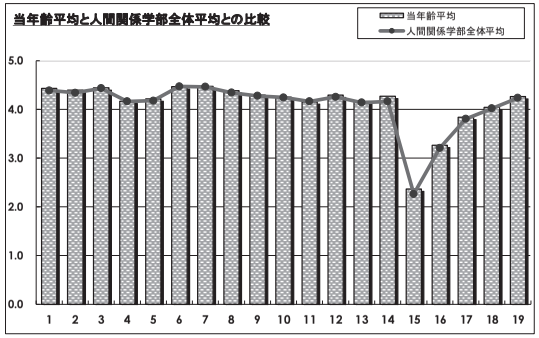
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.56

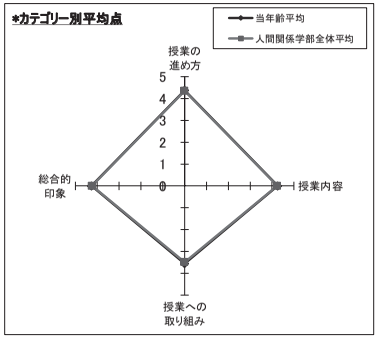
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.27**	52.2	28.6	13.7	5.0	0.5		1,296	5	0.91
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.37**	11.3	9.1	18.5	26.9	34.1		1,296	5	1.33
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.26**	26.0	20.0	25.3	12.0	16.8		1,283	18	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.84**	35.1	30.0	23.2	7.3	4.4		1,295	6	1.12
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.05**	41.9	32.3	17.4	5.3	3.1		1,296	5	1.04

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.26

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.26**	53.3	27.9	13.0	3.3	2.5		1,256	45	0.98

Q1-Q19の当区分平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	46～50歳

履修者数	1,499
回答者数	1,150

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.45

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.50**	63.1	27.0	7.3	1.3	1.0	0.3	1,139	11	0.77
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.47**	60.6	28.2	8.1	1.7	0.8	0.6	1,132	18	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.48**	61.6	26.9	9.1	1.1	0.7	0.5	1,137	13	0.77
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.29**	53.3	28.7	12.5	3.0	1.9	0.5	1,136	14	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.35**	54.4	28.8	12.7	2.1	0.8	1.2	1,133	17	0.84
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.55**	66.3	24.2	8.0	0.9	0.4	0.3	1,130	20	0.72
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.53**	63.8	26.8	8.0	0.6	0.7	0.1	1,136	14	0.73

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.47**	59.9	29.1	9.2	1.2	0.4	0.2	1,131	19	0.74
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.42**	58.9	27.8	10.2	2.2	0.7	0.1	1,132	18	0.82
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.37**	57.0	28.3	10.5	2.5	1.4	0.4	1,129	21	0.88
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.30**	54.0	28.5	12.4	3.1	1.7	0.3	1,127	23	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.46**	59.7	29.0	9.0	1.2	0.8	0.3	1,123	27	0.78
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.25**	48.0	30.4	17.1	2.1	0.8	1.6	1,111	39	0.87

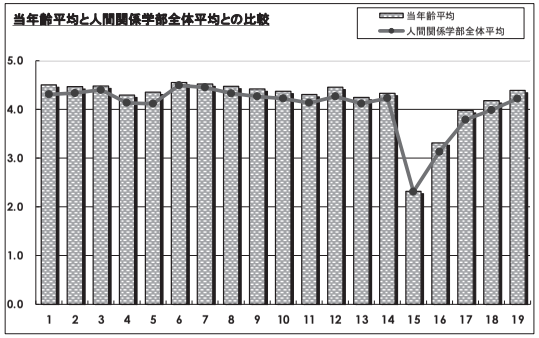
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.62

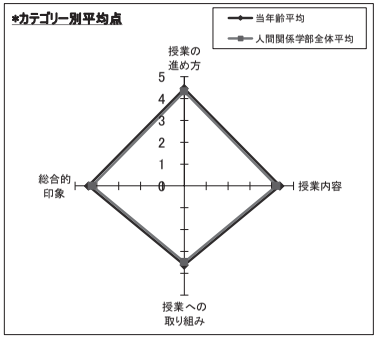
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.33**	57.6	25.6	10.2	5.5	1.1		1,123	27	0.94
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.32**	11.0	8.8	17.9	25.5	36.8		1,125	25	1.34
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.31**	26.7	22.4	23.4	10.3	17.2		1,102	48	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.98**	39.4	31.7	20.3	4.8	3.9		1,111	39	1.07
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.18**	47.7	30.4	16.5	3.1	2.3		1,108	42	0.97

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.39

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.39**	58.1	28.0	10.1	2.4	1.4		1,089	61	0.87

Q1-Q19の当区分平均値	4.21
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	51～55歳

履修者数	1,066
回答者数	760

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.28**	51.7	33.0	8.9	4.3	2.0	0.0	760	0	0.94
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.18**	48.5	31.2	11.2	6.3	2.4	0.4	759	1	1.02
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.41**	59.3	26.9	9.6	2.6	1.3	0.3	759	1	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.02**	44.1	29.5	14.5	7.5	4.1	0.4	760	0	1.12
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.11**	44.7	32.8	13.6	6.1	2.8	0.1	759	1	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.37**	57.3	26.9	10.7	2.6	1.5	0.9	757	3	0.89
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.38**	57.8	27.5	10.6	2.9	1.1	0.1	756	4	0.87

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.09

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.23**	50.6	30.7	11.3	5.3	2.0	0.1	759	1	0.98
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.14**	48.4	29.3	12.8	6.5	2.9	0.1	758	2	1.06
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	47.9	30.2	13.2	5.1	3.6	0.0	758	2	1.06
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.01**	42.3	31.5	14.5	7.3	4.1	0.3	758	2	1.11
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.02**	42.8	29.4	18.6	4.8	4.1	0.3	754	6	1.09
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.02**	40.0	30.4	20.5	4.9	2.7	1.6	753	7	1.03

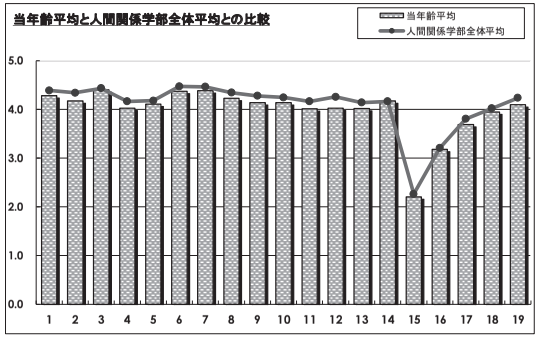
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.44

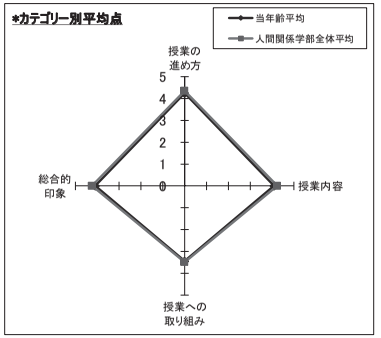
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.18**	50.0	28.1	13.7	6.1	2.1		754	6	1.02
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.20**	7.7	9.6	17.0	26.8	38.8		757	3	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.18**	22.3	21.6	26.4	11.7	18.0		750	10	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.69**	30.5	31.1	22.5	8.6	7.3		755	5	1.20
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.95**	37.3	33.8	19.4	5.3	4.2		754	6	1.08

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.09

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.09**	46.6	29.1	14.8	6.2	3.3		728	32	1.07

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	51～55歳

履修者数	1,190
回答者数	900

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.27**	50.4	32.0	11.7	3.9	1.5	0.4	894	6	0.92
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.25**	47.0	35.5	12.9	2.8	1.3	0.4	891	9	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	54.6	30.6	10.9	1.9	1.1	0.9	893	7	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.07**	42.0	33.1	15.8	6.6	2.1	0.3	891	9	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.00**	38.8	31.9	19.8	5.8	2.5	1.2	894	6	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.42**	57.2	29.1	11.1	0.9	0.9	0.8	891	9	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.35**	52.6	33.5	10.7	2.0	1.0	0.1	886	14	0.83

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.21**	45.3	35.0	14.6	3.3	1.2	0.7	892	8	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.13**	42.9	35.9	13.6	4.5	2.5	0.7	892	8	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.06**	40.7	35.8	15.4	4.6	3.3	0.2	889	11	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.97**	37.1	35.2	17.4	7.0	2.8	0.4	889	11	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.08**	41.7	34.0	16.9	4.8	2.3	0.3	888	12	0.99
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.01**	37.3	34.7	20.2	4.5	2.2	1.1	880	20	0.98

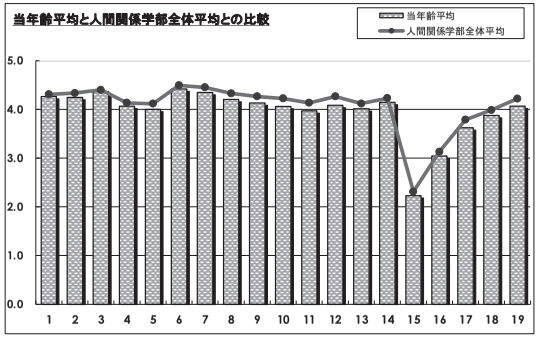
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.38

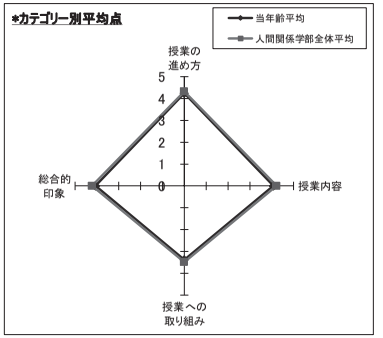
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.15**	49.3	26.7	14.8	7.7	1.6		888	12	1.03
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.23**	8.3	8.7	18.6	26.3	38.2		878	22	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.04**	19.3	18.2	30.8	11.1	20.6		877	23	1.37
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.63**	26.6	29.7	28.7	9.8	5.2		885	15	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.87**	32.2	36.0	22.4	5.7	3.7		874	26	1.04

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.07

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.07**	40.7	34.8	17.4	4.6	2.5		841	59	0.99

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	56～60歳

履修者数	1,148
回答者数	824

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.16

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.09**	49.4	26.0	12.5	7.1	4.7	0.2	822	2	1.15
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.15**	45.4	33.8	13.4	4.3	2.8	0.4	823	1	1.00
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.39**	60.5	23.3	11.5	2.3	1.7	0.6	823	1	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.97**	41.2	30.2	16.3	6.7	4.9	0.7	822	2	1.14
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.89**	40.6	25.8	19.3	6.4	6.4	1.6	818	6	1.20
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.35**	56.1	28.1	10.3	2.3	2.1	1.1	822	2	0.91
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.27**	52.1	29.4	11.9	3.3	2.2	1.1	821	3	0.95

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.07

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.21**	48.7	31.1	14.0	3.2	2.4	0.6	821	3	0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.06**	43.8	30.5	15.6	6.6	2.9	0.6	820	4	1.06
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.03**	42.3	30.8	17.2	5.0	4.1	0.6	822	2	1.08
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.95**	39.6	31.2	17.5	6.8	4.5	0.4	821	3	1.12
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.20**	49.7	29.0	14.0	3.5	2.9	0.9	821	3	1.01
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**3.99**	37.8	30.7	22.7	3.7	2.8	2.3	818	6	1.01

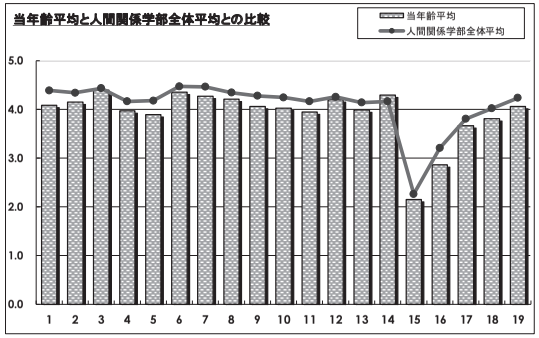
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.36

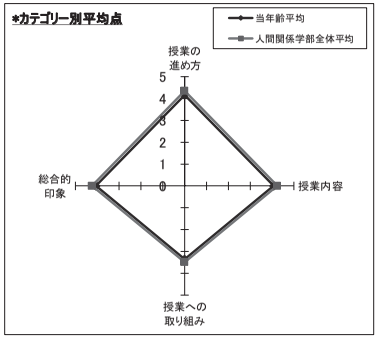
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.29**	53.8	28.7	11.6	5.1	0.9		820	4	0.92
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.15**	7.7	6.1	16.4	33.3	36.6		818	6	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.86**	19.4	16.0	24.6	11.6	28.4		810	14	1.47
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.66**	31.6	28.8	21.9	9.9	7.8		817	7	1.23
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.81**	37.5	27.1	21.0	7.7	6.6		813	11	1.21

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.06

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.06**	45.7	28.7	16.0	5.2	4.4		794	30	1.10

Q1-Q19の当区分平均値	3.92
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	56～60歳

履修者数	1,234
回答者数	1,004

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.11

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**3.99**	43.3	29.8	12.3	8.4	5.1	1.0	996	8	1.17
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.17**	42.7	37.4	13.1	4.4	1.3	1.1	993	11	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.36**	57.2	26.1	11.9	2.8	1.4	0.6	993	11	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.87**	35.0	34.0	17.4	8.8	4.4	0.4	984	20	1.12
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.78**	33.2	29.6	20.6	7.6	6.1	2.9	986	18	1.18
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.38**	55.8	29.4	9.4	2.6	1.2	1.5	989	15	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.25**	48.6	34.0	11.5	4.2	1.3	0.4	984	20	0.91

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.18**	45.0	35.5	12.5	4.4	1.9	0.6	991	13	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.04**	39.6	35.8	15.9	5.1	3.0	0.6	986	18	1.02
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.06**	39.9	36.3	15.4	5.5	2.6	0.3	978	26	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.93**	37.0	33.5	16.8	9.1	3.2	0.4	981	23	1.09
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.26**	49.0	33.5	12.1	3.1	1.7	0.5	975	29	0.91
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.03**	35.5	37.0	19.1	4.1	1.7	2.6	969	35	0.94

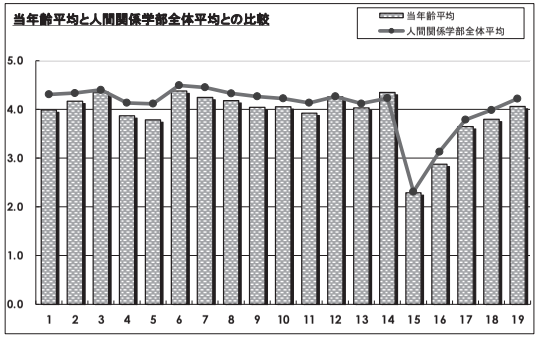
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.39

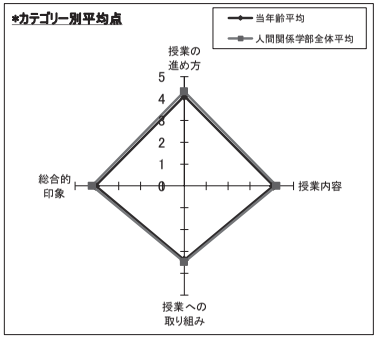
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.35**	60.0	22.3	11.3	5.3	1.1		987	17	0.95
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.29**	8.9	9.3	18.4	29.0	34.5		980	24	1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.88**	18.1	19.6	22.8	10.8	28.7		973	31	1.47
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.65**	29.2	30.6	23.4	9.6	7.2		980	24	1.20
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.80**	32.6	33.4	21.3	6.6	6.2		973	31	1.15

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.06

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.06**	42.7	32.5	16.2	5.4	3.3		951	53	1.05

Q1-Q19の当区分平均値	3.91
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	61～65歳

履修者数	1,063
回答者数	691

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.31

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.38**	55.4	32.6	6.8	3.0	1.7	0.4	691	0	0.87
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.25**	50.4	31.4	11.2	3.5	2.3	1.2	687	4	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.36**	57.0	25.1	13.2	2.6	1.0	1.0	688	3	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.15**	44.7	33.1	16.1	3.8	1.9	0.4	689	2	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.11**	44.5	31.7	15.1	4.7	3.1	1.0	688	3	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	63.6	24.4	9.0	1.6	1.0	0.4	689	2	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.46**	60.5	28.4	8.0	1.9	1.0	0.1	689	2	0.80

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.27**	50.4	32.4	12.0	2.3	2.2	0.7	691	0	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.27**	51.0	31.7	11.4	3.2	2.2	0.4	690	1	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.25**	51.4	29.6	12.2	5.2	1.3	0.3	689	2	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.22**	49.1	31.9	12.5	4.2	2.0	0.3	689	2	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.27**	52.2	29.8	12.5	3.3	1.9	0.3	688	3	0.94
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.15**	42.8	33.0	18.3	2.9	1.3	1.6	684	7	0.92

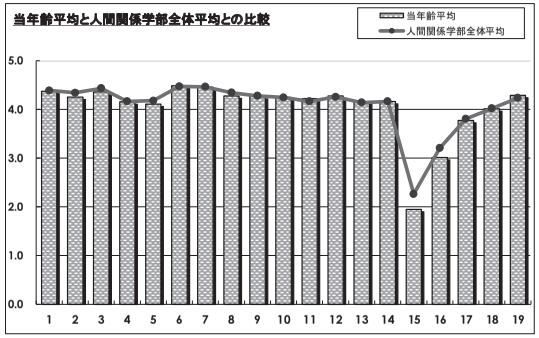
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.38

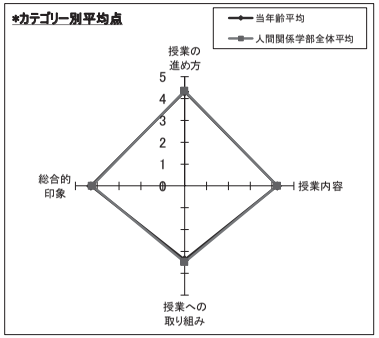
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.17**	46.8	31.3	14.7	6.3	1.0		688	3	0.96
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.95**	7.6	4.1	14.7	22.6	50.9		685	6	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.01**	23.4	15.9	24.4	11.0	25.2		679	12	1.49
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.77**	32.6	30.4	23.3	9.4	4.4		688	3	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.01**	41.8	29.3	20.1	6.1	2.8		687	4	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.29

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.29**	51.5	31.3	12.8	3.4	0.9		670	21	0.88

Q1–Q19の当区分平均値	4.04
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	61～65歳

履修者数	1,339
回答者数	978

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.24

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.27**	48.9	35.0	11.7	3.5	0.9	0.0	972	6	0.87
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.29**	48.4	35.3	12.4	2.7	0.5	0.7	969	9	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.25**	52.3	26.3	13.9	5.4	1.0	1.0	968	10	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.06**	38.9	35.8	17.7	5.4	1.3	0.9	967	11	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.91**	35.6	31.3	21.0	7.7	2.7	1.8	967	11	1.06
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	61.4	25.5	10.6	1.4	0.3	0.7	969	9	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.44**	57.2	31.4	9.5	1.1	0.4	0.4	962	16	0.75

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.20

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.28**	47.6	35.8	12.7	3.1	0.4	0.4	969	9	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.25**	46.5	36.6	12.8	3.3	0.6	0.1	966	12	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.22**	45.7	35.5	13.6	4.3	0.5	0.4	963	15	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.13**	41.7	36.0	16.5	4.6	1.1	0.1	962	16	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.19**	43.8	36.2	14.5	3.7	1.0	0.7	964	14	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.17**	42.0	34.3	17.9	2.4	1.0	2.3	954	24	0.88

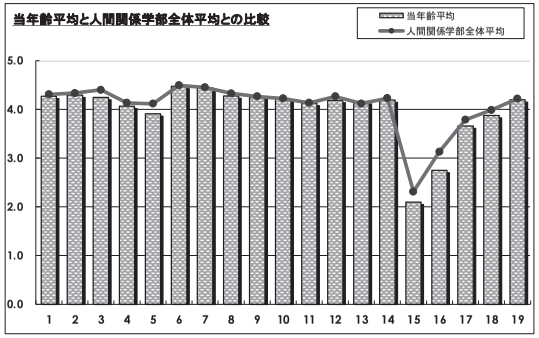
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.31

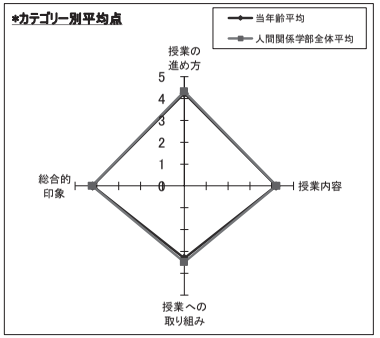
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	50.5	27.8	14.0	6.3	1.5		965	13	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.10**	6.2	8.3	15.0	30.1	40.4		963	15	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.75**	16.0	16.1	23.7	15.1	29.1		956	22	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.66**	27.3	31.6	26.0	9.7	5.4		962	16	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.87**	34.9	32.4	21.8	6.6	4.2		953	25	1.09

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.20

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.20**	46.6	32.8	15.8	3.8	1.1		931	47	0.91

Q1–Q19の当区分平均値	3.98
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	66歳以上

履修者数	714
回答者数	516

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.15

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.07**	38.4	39.4	13.4	6.2	1.7	0.8	515	1	0.96
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.08**	38.8	37.8	15.9	4.3	2.1	1.2	516	0	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.28**	53.1	28.4	11.9	3.9	1.8	1.0	514	2	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.90**	35.1	34.2	18.3	8.3	3.3	0.8	515	1	1.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.06**	43.9	30.5	14.6	6.6	3.3	1.2	515	1	1.08
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.37**	55.2	31.6	8.6	2.5	1.6	0.6	513	3	0.87
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.28**	49.7	34.3	11.5	2.9	1.4	0.2	513	3	0.88

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 3.99

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.10**	43.2	34.2	14.2	5.8	2.5	0.0	514	2	1.01
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**3.98**	38.9	34.0	15.8	7.8	3.1	0.4	514	2	1.07
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.04**	40.4	34.6	15.7	6.4	2.7	0.2	515	1	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.91**	36.2	34.2	16.9	8.0	4.1	0.6	514	2	1.10
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.03**	39.2	35.9	15.3	5.4	3.5	0.6	515	1	1.04
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**3.91**	33.1	34.2	22.5	5.5	2.7	2.0	511	5	1.02

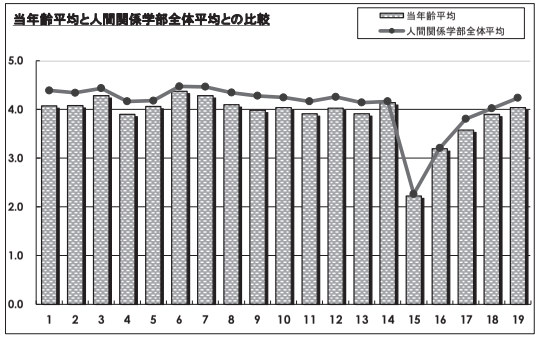
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.41

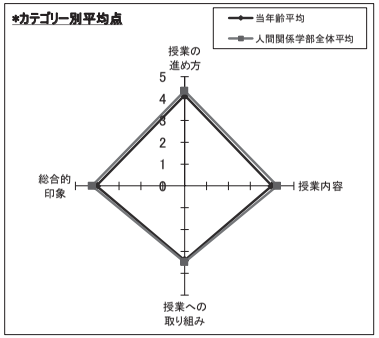
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.14**	48.0	28.8	13.3	9.2	0.8		513	3	1.02
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.22**	7.2	10.5	17.8	26.4	38.1		512	4	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.19**	23.4	21.0	25.5	11.9	18.2		505	11	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.57**	26.4	29.5	26.4	10.7	7.0		512	4	1.19
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.90**	36.3	33.5	18.4	7.5	4.3		510	6	1.11

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.04

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.04**	39.0	36.9	16.1	5.2	2.8		498	18	1.01

Q1−Q19の当区分平均値	3.90
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（年齢別）　大妻女子大学

年齢	66歳以上

履修者数	811
回答者数	690

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.12

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**3.94**	36.9	34.3	16.8	8.5	3.1	0.6	686	4	1.07
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.07**	40.6	34.7	16.9	6.1	1.3	0.3	685	5	0.97
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.21**	50.1	27.4	14.9	4.7	1.6	1.3	683	7	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.95**	36.4	31.9	21.1	7.5	1.9	1.2	681	9	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.99**	39.6	30.5	18.6	7.9	2.2	1.2	682	8	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.39**	57.5	28.0	10.3	3.2	0.6	0.4	682	8	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.30**	50.4	33.3	12.4	2.5	1.0	0.3	684	6	0.86

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.06

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.17**	43.2	36.1	14.5	4.6	0.7	0.9	681	9	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.05**	40.1	33.4	17.3	7.0	1.2	1.0	676	14	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.04**	39.9	33.2	18.7	6.2	1.6	0.4	680	10	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.95**	36.5	32.5	20.3	7.9	1.8	1.0	680	10	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.15**	45.0	31.5	18.2	3.4	1.6	0.3	674	16	0.95
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.00**	36.6	32.1	23.0	4.5	1.5	2.2	669	21	0.97

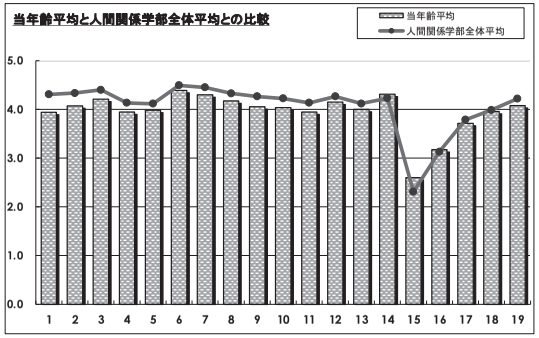
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.55

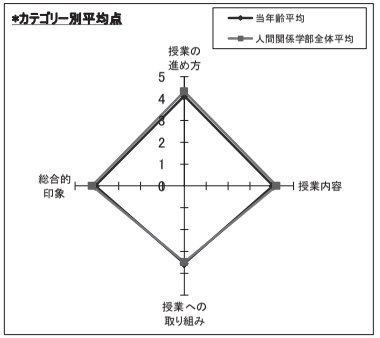
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.32**	54.9	27.2	13.4	3.7	0.9		681	9	0.90
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.60**	14.0	12.2	20.8	26.0	27.0		678	12	1.37
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.18**	20.9	22.2	29.0	9.6	18.4		670	20	1.36
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.72**	28.3	31.8	26.9	9.3	3.7		676	14	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	35.9	34.4	21.3	6.1	2.2		671	19	1.01

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.08**	43.1	29.5	21.3	4.3	1.8		657	33	0.99

Q1−Q19の当区分平均値	3.95
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	1年

履修者数	ー
回答者数	2,430

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.34**	56.5	28.8	8.1	3.9	2.4	0.3	2,428	2	0.95
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.33**	55.3	29.4	9.3	3.3	2.1	0.6	2,428	2	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.44**	62.1	23.9	9.9	1.9	1.5	0.7	2,427	3	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.14**	48.4	28.5	14.1	5.3	3.3	0.3	2,424	6	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.12**	48.5	26.4	14.5	6.1	3.5	1.1	2,424	6	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.46**	62.7	24.5	8.3	2.2	1.6	0.7	2,425	5	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.44**	60.7	26.6	8.8	2.2	1.3	0.3	2,418	12	0.85

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.22

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.34**	55.0	29.7	10.4	2.8	1.7	0.4	2,427	3	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.27**	53.8	27.7	11.3	4.9	2.1	0.2	2,425	5	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.22**	51.8	28.7	11.6	4.8	2.8	0.2	2,424	6	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.14**	48.1	29.8	12.7	5.6	3.6	0.2	2,426	4	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.26**	53.1	28.2	12.2	3.7	2.4	0.5	2,423	7	0.98
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.10**	43.7	28.8	19.3	3.8	2.3	2.1	2,410	20	1.00

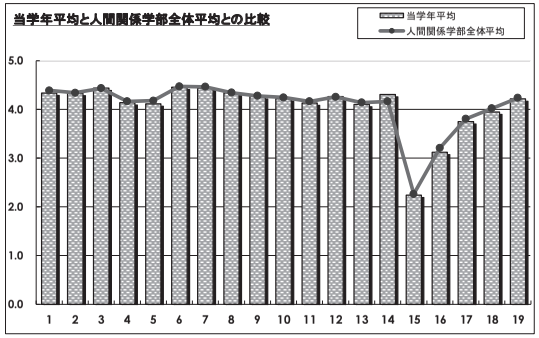
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.47

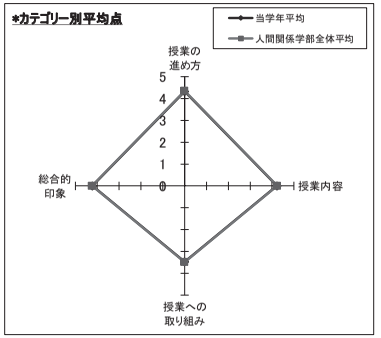
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.31**	54.4	27.7	12.9	4.2	0.8		2,418	12	0.91
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.24**	8.8	7.8	16.7	32.2	34.5		2,421	9	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.12**	24.7	19.1	22.2	11.6	22.4		2,396	34	1.48
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.75**	34.4	29.0	20.3	10.0	6.3		2,424	6	1.21
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.95**	40.9	29.6	17.7	7.2	4.6		2,416	14	1.14

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.22

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.22**	53.0	26.8	12.1	5.2	2.9		2,363	67	1.03

Q1−Q19の当区分平均値	4.06
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	1年

履修者数	ー
回答者数	2,278

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.33

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.26**	53.0	28.8	10.0	5.2	2.5	0.6	2,270	8	1.00
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.37**	54.1	32.0	9.1	2.9	0.9	1.1	2,269	9	0.84
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.47**	63.0	23.5	9.2	2.4	0.9	1.1	2,268	10	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.11**	45.7	30.0	15.1	6.1	2.4	0.7	2,265	13	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.08**	46.1	25.7	16.3	5.8	3.5	2.6	2,266	12	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.55**	66.2	23.6	7.1	1.6	0.5	1.0	2,268	10	0.74
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.46**	60.5	27.7	8.9	1.7	0.9	0.4	2,261	17	0.80

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.36**	54.0	31.2	10.4	2.6	1.0	0.8	2,270	8	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.28**	50.8	32.3	11.6	3.0	1.7	0.6	2,266	12	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.25**	50.3	31.3	12.1	4.2	1.7	0.4	2,263	15	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.16**	46.3	32.3	13.3	5.6	2.0	0.5	2,261	17	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.33**	53.7	30.5	11.3	2.8	1.2	0.5	2,254	24	0.87
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	41.7	32.5	17.3	3.5	1.3	3.8	2,230	48	0.93

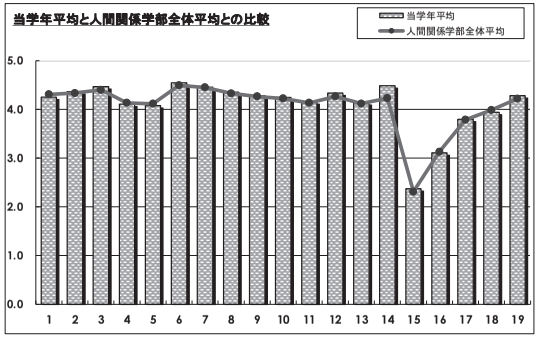
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.54

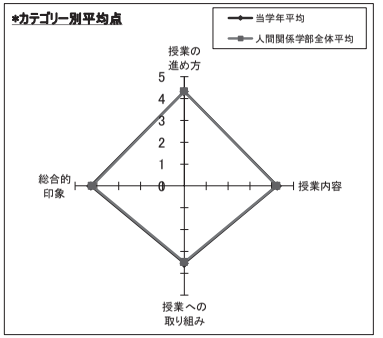
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.48**	63.7	24.3	9.2	2.4	0.4		2,249	29	0.79
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.37**	9.0	9.4	20.1	32.9	28.7		2,254	24	1.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.11**	22.2	21.8	22.9	11.3	21.9		2,239	39	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.80**	33.9	31.0	21.3	8.3	5.5		2,255	23	1.16
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.94**	38.7	31.7	19.0	6.1	4.5		2,243	35	1.11

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.28

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.28**	54.3	27.5	12.5	3.4	2.3		2,204	74	0.97

Q1−Q19の当区分平均値	4.09
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	2年

履修者数	―
回答者数	2,233

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.36

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.40**	57.1	31.0	8.0	2.4	1.3	0.1	2,231	2	0.84
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.33**	52.4	32.8	10.3	3.1	1.0	0.4	2,230	3	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.42**	58.8	27.9	9.5	2.2	1.1	0.6	2,231	2	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.18**	47.7	31.1	14.4	4.3	2.2	0.2	2,230	3	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.23**	49.2	31.6	13.1	3.5	2.1	0.5	2,228	5	0.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.46**	61.9	26.1	8.8	1.8	1.1	0.3	2,229	4	0.82
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.47**	61.2	28.0	8.1	1.6	0.9	0.1	2,225	8	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.23

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.35**	53.6	31.9	10.8	2.0	1.3	0.4	2,226	7	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.28**	50.4	32.9	11.5	3.1	1.7	0.3	2,226	7	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.22**	48.7	31.9	13.7	3.5	1.9	0.2	2,226	7	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.16**	45.5	32.9	14.9	4.3	2.0	0.4	2,223	10	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.23**	48.7	31.9	13.8	3.1	1.8	0.6	2,226	7	0.93
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.11**	41.4	32.6	20.5	2.9	1.3	1.3	2,220	13	0.92

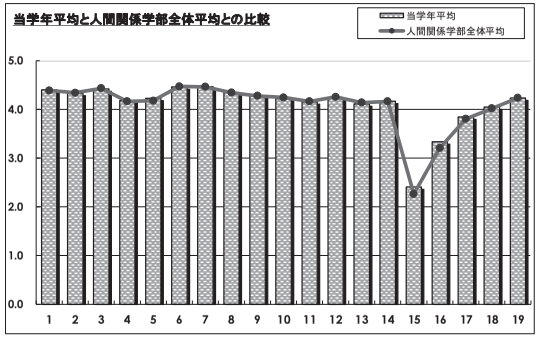
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.56

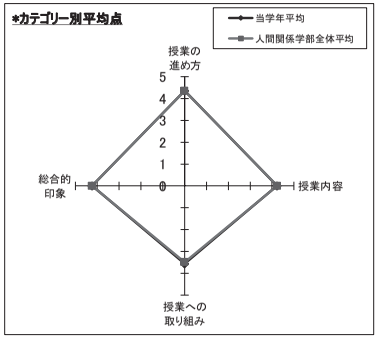
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.17**	48.5	29.0	14.4	6.8	1.3		2,228	5	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.41**	9.8	11.5	20.1	27.5	31.2		2,224	9	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.34**	23.9	23.9	28.5	9.4	14.3		2,201	32	1.32
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.85**	33.1	32.9	23.4	6.6	4.0		2,223	10	1.08
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.05**	41.1	31.9	20.2	4.3	2.5		2,219	14	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.23

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.23**	50.3	29.7	15.1	3.1	1.9		2,142	91	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	4.10
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	2年

履修者数	―
回答者数	2,437

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.24**	49.3	32.8	12.1	3.8	1.9	0.2	2,424	13	0.94
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.26**	47.8	34.6	13.6	2.8	0.8	0.4	2,425	12	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.31**	52.2	30.7	12.7	3.0	0.9	0.4	2,424	13	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.06**	39.9	34.9	17.5	5.4	2.0	0.4	2,416	21	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.06**	40.7	32.5	19.2	5.1	1.7	0.8	2,416	21	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.41**	57.4	28.5	11.1	1.8	0.6	0.5	2,415	22	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.40**	55.3	31.9	10.0	1.9	0.6	0.2	2,412	25	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.26**	46.4	35.9	14.1	2.4	0.7	0.4	2,414	23	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.18**	44.4	35.0	14.8	4.2	1.1	0.5	2,405	32	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	42.7	35.4	16.1	3.8	1.7	0.3	2,403	34	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.04**	39.1	34.6	18.3	5.8	1.8	0.4	2,396	41	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.18**	44.8	34.3	15.9	3.1	1.5	0.5	2,402	35	0.91
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.02**	36.2	34.8	23.1	3.4	1.4	1.1	2,393	44	0.93

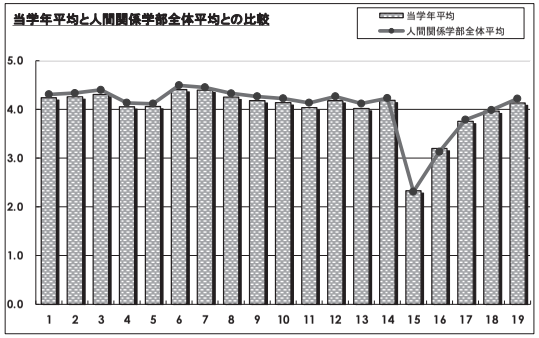
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.49

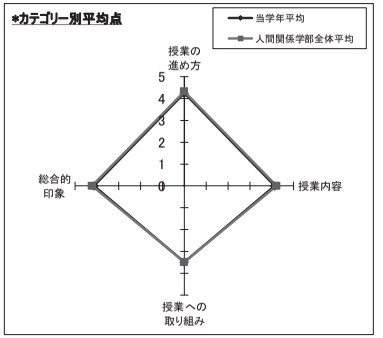
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.19**	50.2	27.7	14.1	6.5	1.5		2,402	35	1.00
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.33**	8.4	10.6	19.2	29.5	32.3		2,397	40	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.20**	20.6	21.9	30.7	10.5	16.4		2,377	60	1.33
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.76**	28.8	33.1	27.1	7.1	3.9		2,399	38	1.07
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	35.2	35.6	22.2	4.3	2.7		2,376	61	0.99

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.13

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.13**	43.5	33.8	17.0	3.9	1.8		2,305	132	0.95

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	3年

履修者数	―
回答者数	1,455

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.42**	59.2	29.3	6.9	3.2	1.2	0.1	1,451	4	0.85
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.36**	55.9	29.7	9.7	2.9	1.4	0.4	1,450	5	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.44**	62.6	22.5	11.2	2.5	0.8	0.4	1,445	10	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.18**	47.0	32.3	13.1	5.0	2.0	0.5	1,448	7	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.21**	49.6	30.0	13.4	4.5	1.9	0.6	1,444	11	0.97
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.50**	63.5	25.3	8.5	1.7	0.6	0.4	1,443	12	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.49**	62.3	27.3	8.4	1.2	0.8	0.1	1,446	9	0.76

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.27

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.33**	54.1	30.0	11.8	2.8	1.2	0.1	1,452	3	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.29**	53.4	29.5	10.7	4.5	1.6	0.3	1,446	9	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.30**	53.3	30.1	11.2	3.9	1.5	0.1	1,447	8	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.21**	49.3	30.7	13.5	4.3	1.9	0.3	1,449	6	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.28**	51.6	30.9	13.3	2.1	1.9	0.2	1,445	10	0.91
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.22**	46.7	32.9	15.2	2.8	1.4	0.9	1,439	16	0.91

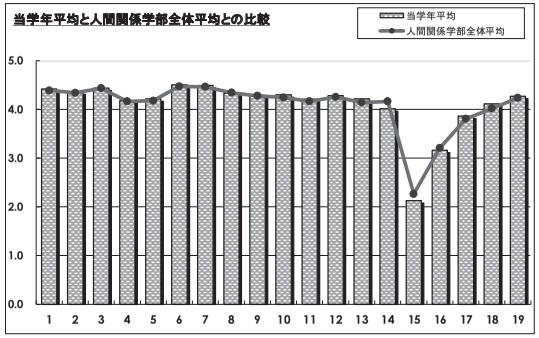
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.46

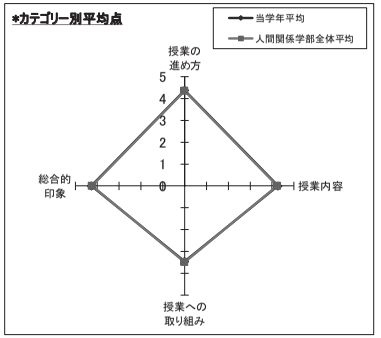
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.02**	41.1	31.7	16.6	9.1	1.6		1,443	12	1.04
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.13**	9.0	6.9	14.9	25.8	43.3		1,440	15	1.29
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.16**	24.8	19.4	23.8	11.4	20.6		1,425	30	1.45
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.86**	34.8	31.8	21.6	8.2	3.6		1,435	20	1.09
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.12**	42.7	34.7	16.2	4.5	2.0		1,434	21	0.96

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.27

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.27**	50.6	31.7	13.0	3.5	1.2		1,386	69	0.90

Q1–Q19の当区分平均値	4.10
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	3年

履修者数	―
回答者数	1,617

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.40

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.45**	60.3	28.4	8.0	2.1	1.1	0.1	1,601	16	0.81
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.40**	56.8	29.6	10.3	2.6	0.6	0.2	1,587	30	0.82
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.44**	60.7	25.1	10.4	2.4	0.6	0.9	1,592	25	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.25**	48.4	32.9	13.4	3.8	0.9	0.6	1,588	29	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.22**	48.2	30.5	15.3	3.8	1.1	1.1	1,586	31	0.92
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.53**	64.4	25.8	8.4	0.8	0.4	0.3	1,583	34	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.52**	62.5	28.1	8.3	0.6	0.4	0.1	1,587	30	0.71

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.29

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.39**	55.4	31.1	10.8	2.1	0.4	0.3	1,593	24	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.35**	53.8	31.6	10.8	3.0	0.6	0.2	1,587	30	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.29**	52.9	29.2	13.0	3.8	1.0	0.1	1,583	34	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.21**	49.0	30.3	14.4	5.1	1.0	0.3	1,590	27	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.29**	51.3	30.9	13.5	3.0	1.1	0.3	1,579	38	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.22**	46.9	32.0	16.6	2.6	1.1	0.8	1,568	49	0.90

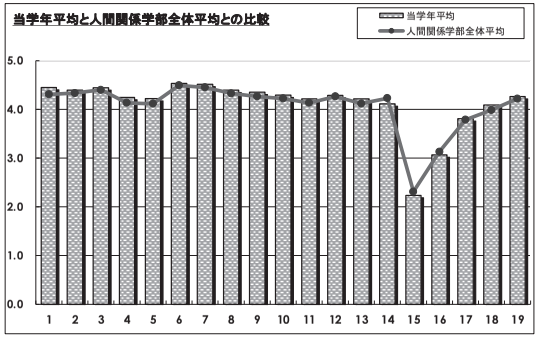
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.46

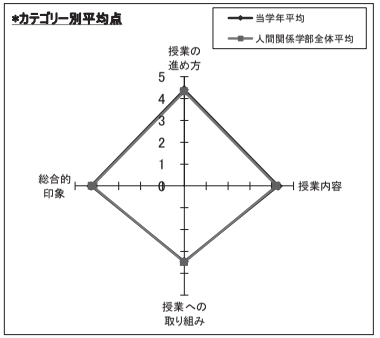
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.11**	48.4	26.3	15.5	7.7	2.1		1,589	28	1.06
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.23**	10.8	7.8	15.9	25.2	40.3		1,574	43	1.34
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.07**	22.6	18.8	24.5	10.8	23.3		1,552	65	1.46
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.81**	32.6	31.5	23.7	8.4	3.8		1,564	53	1.10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.09**	41.6	34.6	17.3	4.3	2.2		1,565	52	0.97

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.27

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.27**	50.6	30.7	14.2	3.9	0.7		1,517	100	0.89

Q1–Q19の当区分平均値	4.11
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	4年

履修者数	―
回答者数	266

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.47

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.62**	66.5	29.7	2.3	1.1	0.0	0.4	266	0	0.59
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.46**	58.6	31.2	6.8	2.6	0.4	0.4	266	0	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.51**	68.0	19.5	7.1	4.1	0.8	0.4	266	0	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.30**	52.6	30.8	10.2	4.5	1.1	0.8	266	0	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.27**	54.1	25.9	12.0	4.9	1.9	1.1	266	0	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.60**	66.2	25.6	4.1	0.8	0.8	2.6	266	0	0.68
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.51**	63.5	25.6	6.0	2.6	0.8	1.5	266	0	0.79

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.40

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.45**	60.8	27.5	8.3	2.3	1.1	0.0	265	1	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.42**	60.9	25.2	9.4	3.0	1.1	0.4	266	0	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.42**	59.0	29.7	6.8	3.4	1.1	0.0	266	0	0.85
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.37**	57.5	27.1	10.9	4.1	0.4	0.0	266	0	0.86
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.38**	57.5	27.4	11.3	3.0	0.8	0.0	266	0	0.86
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.33**	52.6	29.7	13.9	1.9	0.8	1.1	266	0	0.84

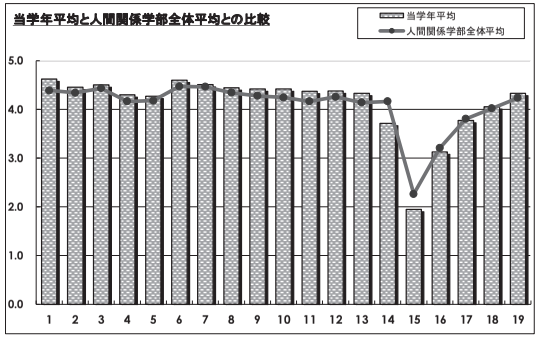
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.33

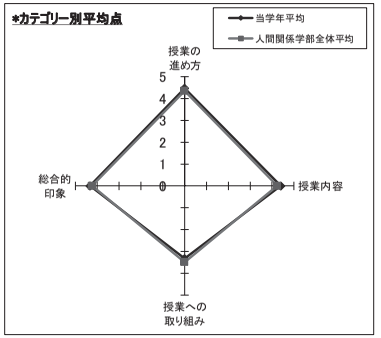
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.72**	29.4	31.7	21.9	15.1	1.9		265	1	1.10
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.95**	4.5	4.9	17.8	26.5	46.2		264	2	1.12
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.13**	20.8	22.3	25.4	11.4	20.1		264	2	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.78**	33.3	29.9	21.6	11.4	3.8		264	2	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.06**	43.5	28.6	19.8	6.1	1.9		262	4	1.02

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.33

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.33**	55.4	28.3	11.2	3.9	1.2		258	8	0.91

Q1−Q19の当区分平均値	4.14
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（マーク学年別）　大妻女子大学

学年	4年

履修者数	―
回答者数	360

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.47

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.51**	66.9	22.8	6.7	1.9	1.7	0.0	360	0	0.84
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.43**	60.6	28.1	6.7	2.8	1.9	0.0	360	0	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.49**	67.9	17.3	10.1	2.2	1.7	0.8	358	2	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.34**	57.4	26.6	10.6	2.5	2.5	0.3	357	3	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.35**	56.7	27.2	10.1	4.2	1.1	0.6	356	4	0.91
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.60**	72.8	17.6	7.3	0.6	1.4	0.3	357	3	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.56**	68.2	22.8	7.0	0.8	1.1	0.0	355	5	0.76

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.41**	62.7	22.3	8.9	5.0	0.8	0.3	359	1	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.44**	61.7	26.0	8.4	2.2	1.7	0.0	358	2	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.39**	58.9	27.9	7.6	3.7	1.7	0.3	355	5	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.29**	54.2	29.5	10.4	3.4	2.5	0.0	356	4	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.40**	59.0	27.8	8.6	2.0	2.3	0.3	349	11	0.90
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.28**	54.0	25.1	15.4	2.9	1.7	0.9	350	10	0.95

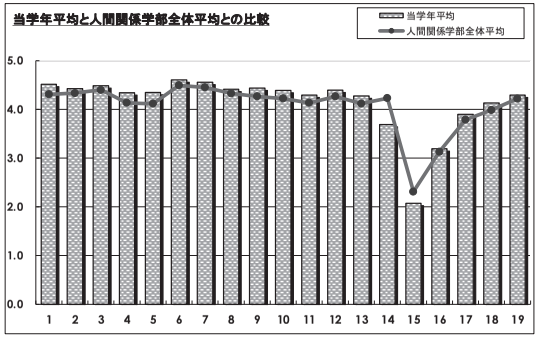
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.40

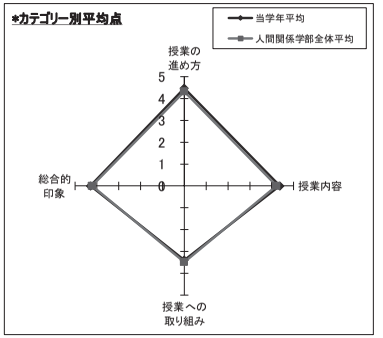
No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.69**	29.4	28.0	27.5	12.6	2.5		357	3	1.10
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.07**	7.6	5.4	16.1	28.7	42.3		355	5	1.22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.19**	26.7	18.2	23.3	11.4	20.5		352	8	1.47
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.90**	39.3	27.4	22.0	6.8	4.5		354	6	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.13**	47.9	27.6	17.5	3.9	3.1		355	5	1.04

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.29

No.	設問文	平均点	回答率(%) 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.29**	54.0	27.4	14.3	2.6	1.7		350	10	0.93

Q1−Q19の当区分平均値	4.15
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	31人間（教養科目）

履修者数	1,998
回答者数	1,343

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.31**	53.1	32.0	9.2	3.7	1.8	0.2	1,341	2	0.91
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.25**	49.7	32.2	11.7	3.8	1.9	0.7	1,342	1	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	57.5	26.6	10.9	2.2	1.8	0.9	1,340	3	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.99**	41.2	30.9	16.9	6.8	3.8	0.3	1,341	2	1.10
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.99**	40.9	29.9	18.3	6.1	3.7	1.1	1,340	3	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.42**	59.2	27.4	9.5	1.6	1.5	0.8	1,338	5	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.37**	56.4	29.6	9.7	2.5	1.6	0.2	1,335	8	0.88

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.15

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.28**	49.8	33.9	12.1	2.4	1.6	0.3	1,340	3	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.17**	47.1	31.9	13.0	5.8	2.0	0.2	1,337	6	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.18**	48.2	30.8	13.7	4.3	2.7	0.3	1,339	4	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.06**	43.5	31.8	15.1	5.9	3.5	0.2	1,338	5	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.18**	48.6	30.9	12.5	4.4	3.1	0.4	1,339	4	1.02
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.03**	39.9	31.0	21.4	4.0	2.5	1.2	1,331	12	1.00

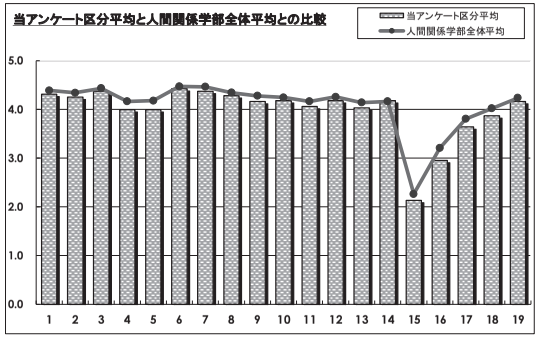
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.36

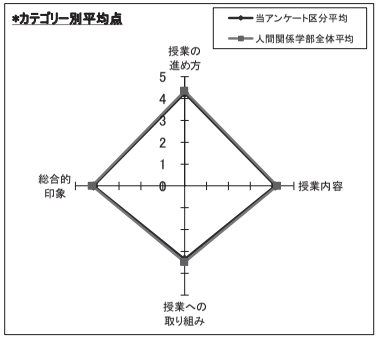
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.18**	47.4	31.3	14.1	6.0	1.1		1,340	3	0.96
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.13**	7.9	7.6	15.7	27.3	41.4		1,335	8	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.95**	18.6	17.6	28.0	12.0	23.8		1,324	19	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.64**	28.7	30.4	23.7	10.7	6.5		1,338	5	1.19
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.87**	36.4	30.9	20.6	7.5	4.6		1,331	12	1.13

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.17

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.17**	47.9	31.3	13.3	4.5	3.0		1,292	51	1.02

Q1−Q19の当区分平均値	3.98
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	31人間（教養科目）

履修者数	2,010
回答者数	1,538

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.18

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.16**	47.1	31.7	12.5	6.3	2.2	0.3	1,531	7	1.01
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.21**	45.5	35.1	12.4	4.3	1.3	1.4	1,529	9	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.29**	53.1	28.5	12.1	3.6	1.6	1.0	1,526	12	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.89**	35.8	32.5	18.8	8.6	3.4	0.9	1,527	11	1.09
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.92**	36.2	29.7	21.4	7.4	2.7	2.6	1,524	14	1.07
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.42**	58.5	28.2	9.1	2.3	1.0	1.0	1,522	16	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.37**	54.8	31.3	10.5	2.2	0.9	0.4	1,521	17	0.82

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.10

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.26**	48.1	33.6	12.4	3.9	0.8	1.2	1,526	12	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.13**	42.3	35.7	14.2	5.5	1.4	0.9	1,519	19	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.09**	43.0	32.9	15.8	5.2	2.5	0.5	1,527	11	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.97**	38.8	31.8	18.1	8.2	2.5	0.6	1,520	18	1.06
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.14**	46.3	30.1	15.8	5.0	2.1	0.8	1,517	21	1.00
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.03**	37.9	33.1	19.6	4.9	1.8	2.7	1,503	35	0.98

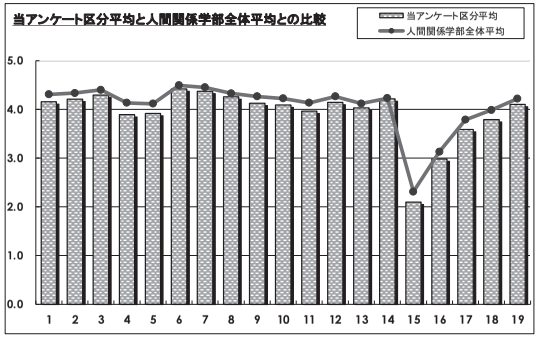
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.34

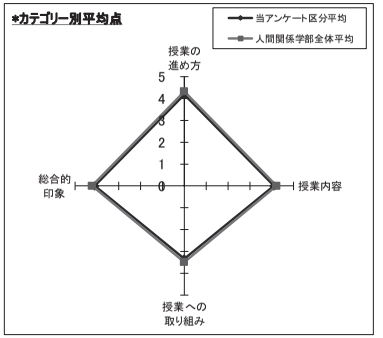
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.22**	51.3	28.3	12.9	6.1	1.5		1,515	23	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.10**	7.4	8.2	15.2	25.3	43.9		1,510	28	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.98**	19.1	17.9	28.0	12.2	22.8		1,499	39	1.41
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.59**	28.3	28.1	25.6	10.6	7.4		1,507	31	1.21
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.79**	33.1	31.8	22.3	6.9	6.0		1,500	38	1.15

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.10

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.10**	45.4	30.0	16.8	4.9	2.9		1,463	75	1.04

Q1−Q19の当区分平均値	3.93
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	35人間（外国語科目）

履修者数	650
回答者数	519

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.55

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.60**	68.7	25.1	4.6	1.0	0.6	0.0	518	1	0.68
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.52**	63.5	27.4	6.4	1.9	0.4	0.4	518	1	0.74
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.59**	68.3	23.4	6.4	1.4	0.2	0.4	518	1	0.69
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.44**	62.1	24.0	9.7	3.3	0.8	0.2	517	2	0.86
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.59**	71.2	20.5	5.4	1.9	1.0	0.0	517	2	0.76
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	68.0	18.9	7.5	3.9	1.7	0.0	518	1	0.92
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.62**	72.4	20.3	4.6	2.1	0.6	0.0	518	1	0.73

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.50**	61.6	27.8	8.7	1.2	0.2	0.6	518	1	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.51**	61.8	28.0	8.5	1.4	0.0	0.4	518	1	0.71
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.39**	57.6	27.9	10.3	3.7	0.4	0.2	516	3	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.31**	54.4	27.4	12.8	4.5	0.6	0.4	515	4	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.44**	60.3	26.0	10.9	2.1	0.4	0.4	516	3	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.15**	45.1	25.5	22.1	3.5	0.4	3.5	517	2	0.92

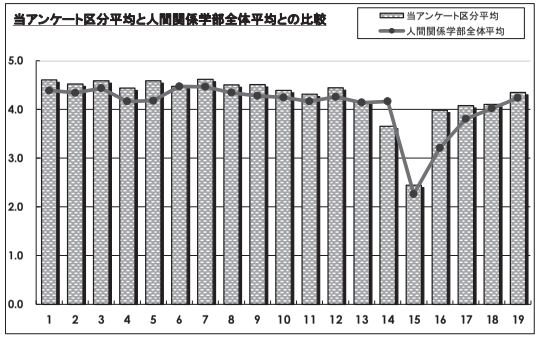
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.65

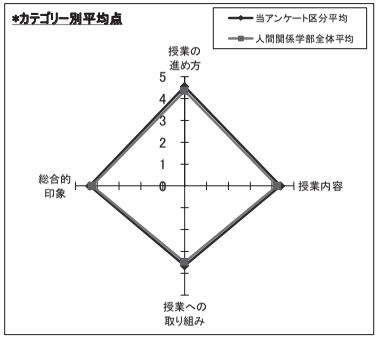
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.66**	24.9	35.7	22.8	13.3	3.3		518	1	1.09
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.44**	7.5	8.9	20.3	46.8	16.4		517	2	1.10
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.99**	37.9	32.9	21.3	5.7	2.2		507	12	1.01
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.08**	44.3	28.8	19.1	5.8	1.9		517	2	1.02
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.10**	44.9	29.3	18.8	5.0	1.9		515	4	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.35**	57.9	24.4	13.2	3.9	0.6		508	11	0.89

Q1−Q19の当区分平均値	4.25
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	35人間（外国語科目）

履修者数	648
回答者数	543

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.55

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.45**	61.7	26.4	8.1	2.0	1.5	0.2	541	2	0.84
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.47**	58.3	32.4	7.4	1.3	0.4	0.2	540	3	0.72
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.61**	67.8	25.0	5.6	0.7	0.0	0.9	540	3	0.63
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.41**	59.4	28.0	7.8	3.3	1.3	0.2	539	4	0.87
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.57**	68.0	24.2	4.7	2.3	0.6	0.2	532	11	0.74
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.63**	72.9	19.8	4.9	1.9	0.6	0.0	535	8	0.72
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.67**	74.4	20.0	4.1	0.9	0.4	0.2	539	4	0.63

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.31

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.41**	55.6	31.8	10.2	1.9	0.4	0.2	538	5	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.40**	55.0	33.2	9.3	1.9	0.6	0.0	536	7	0.78
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.36**	54.6	30.7	11.7	2.4	0.6	0.0	538	5	0.82
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.31**	52.6	31.4	10.6	4.1	0.9	0.4	538	5	0.89
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.37**	55.9	29.9	10.5	2.8	0.9	0.0	535	8	0.85
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**3.98**	36.4	30.2	23.8	3.9	2.3	3.4	533	10	1.00

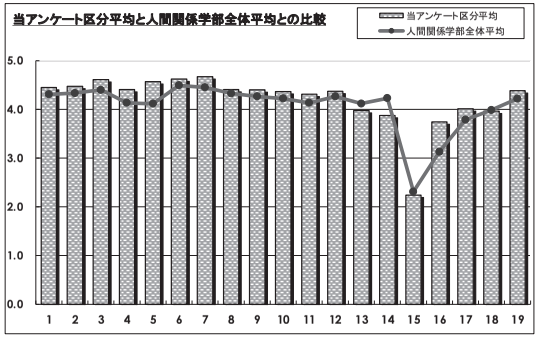
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.57

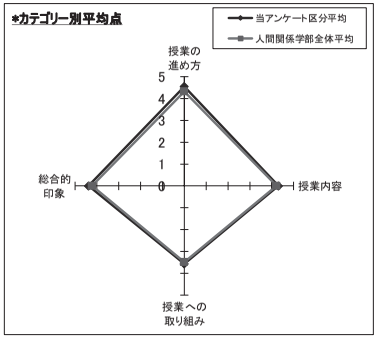
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.87**	30.8	38.0	21.2	7.7	2.3		532	11	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.24**	3.7	5.6	19.7	53.3	17.7		537	6	0.94
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.74**	29.6	30.4	28.3	8.3	3.4		527	16	1.08
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.01**	37.2	33.8	23.0	4.9	1.1		535	8	0.95
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.96**	33.8	36.2	23.8	5.1	1.1		533	10	0.94

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.38**	56.4	29.3	11.0	2.7	0.6		525	18	0.83

Q1−Q19の当区分平均値	4.20
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部（共通科目）

履修者数	951
回答者数	697

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.11**	49.4	28.0	9.9	7.5	4.6	0.7	697	0	1.14
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.27**	51.8	31.0	10.2	3.9	2.4	0.7	697	0	0.97
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	59.6	23.3	11.5	3.3	1.6	0.7	695	2	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.09**	45.0	30.0	15.8	5.2	3.2	0.9	696	1	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.03**	45.2	26.8	16.1	6.2	4.6	1.0	694	3	1.14
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.48**	62.1	26.4	7.9	1.6	1.1	0.9	696	1	0.80
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.40**	57.9	28.0	9.3	2.7	1.3	0.7	696	1	0.87

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.17

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.23**	50.9	29.7	12.2	4.0	2.6	0.6	696	1	0.99
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.19**	50.7	28.2	12.4	5.5	2.9	0.4	696	1	1.04
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.18**	50.4	28.3	12.7	5.3	2.9	0.4	695	2	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.14**	46.8	31.7	12.4	5.9	3.0	0.3	695	2	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.18**	48.8	29.9	13.2	4.3	2.9	0.9	695	2	1.01
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.10**	42.3	31.2	17.4	4.5	2.0	2.6	690	7	0.99

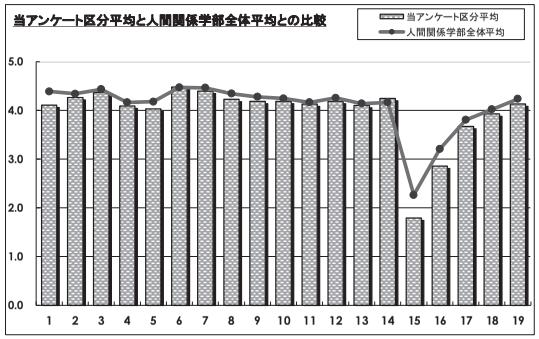
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.30

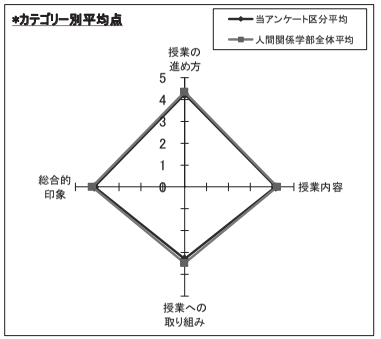
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.25**	51.3	28.6	14.5	4.9	0.7		692	5	0.93
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.79**	3.7	5.0	9.6	29.6	51.9		695	2	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.86**	20.7	16.8	19.5	13.7	29.3		686	11	1.51
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.67**	32.4	29.0	19.9	10.7	8.1		694	3	1.25
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.93**	40.3	30.5	16.8	6.5	5.9		692	5	1.17

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.14**	48.9	27.0	15.8	5.5	2.8		671	26	1.05

Q1−Q19の当区分平均値	3.97
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部（共通科目）

履修者数	860
回答者数	698

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.20

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**3.98**	46.2	25.3	11.8	8.2	6.6	1.7	692	6	1.24
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.23**	50.4	30.1	12.3	4.3	2.2	0.6	690	8	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.49**	65.1	22.3	8.6	2.2	1.2	0.7	690	8	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.95**	40.9	28.6	17.3	8.4	3.8	1.0	692	6	1.13
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.95**	44.4	24.4	15.9	6.1	7.1	2.2	692	6	1.23
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.47**	61.7	23.5	11.3	1.3	0.6	1.6	689	9	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.30**	53.9	28.4	12.3	2.9	1.9	0.6	690	8	0.93

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.10

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.11**	44.7	31.2	15.6	5.1	2.6	0.9	693	5	1.02
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.09**	46.4	28.8	15.5	4.9	3.9	0.6	692	6	1.08
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.13**	47.5	29.8	13.1	6.0	3.3	0.4	689	9	1.07
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.02**	43.4	29.6	15.1	7.8	3.5	0.6	689	9	1.10
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.17**	46.1	31.7	15.4	3.2	2.6	0.9	687	11	0.98
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.08**	39.9	31.3	19.4	3.9	1.7	3.6	686	12	0.97

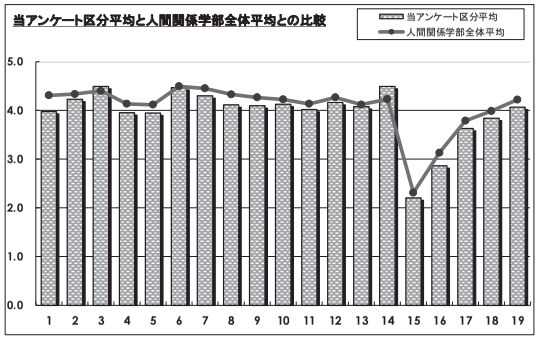
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.41

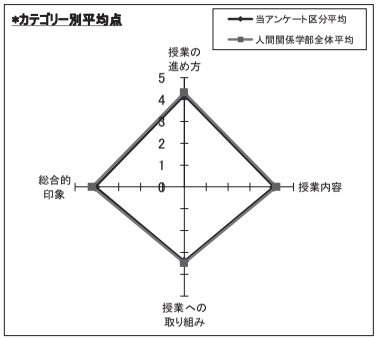
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.49**	66.8	20.1	9.4	2.6	1.0		690	8	0.85
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.21**	7.1	7.3	19.9	30.6	35.1		687	11	1.20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.86**	21.2	15.2	21.6	12.7	29.3		685	13	1.51
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.63**	32.0	27.5	21.4	10.0	9.1		691	7	1.27
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.84**	38.9	26.7	20.4	7.3	6.7		686	12	1.21

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.07

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.07**	48.1	24.3	17.3	7.0	3.4		676	22	1.11

Q1−Q19の当区分平均値	3.95
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	52人間福祉学科（学科共通科目）

履修者数	419
回答者数	216

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.41**	60.0	27.0	7.4	2.3	2.3	0.9	215	1	0.91
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.21**	48.8	33.0	11.6	3.3	3.3	0.0	215	1	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	59.8	25.2	8.9	2.8	2.8	0.5	214	2	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.13**	47.0	29.8	14.9	4.7	3.3	0.5	215	1	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.35**	54.0	31.2	10.7	1.4	1.9	0.9	215	1	0.87
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.44**	61.9	25.6	8.8	1.9	1.9	0.0	215	1	0.87
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.35**	54.9	31.2	10.2	1.4	2.3	0.0	215	1	0.89

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.16**	50.2	26.5	15.8	4.2	3.3	0.0	215	1	1.05
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.07**	45.6	29.3	15.8	4.7	4.7	0.0	215	1	1.10
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.01**	43.3	28.8	16.7	6.5	4.2	0.5	215	1	1.12
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.98**	43.3	26.0	20.0	5.6	4.7	0.5	215	1	1.13
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.15**	46.5	32.1	14.4	2.8	3.7	0.5	215	1	1.02
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.09**	42.9	31.6	17.5	4.2	2.8	0.9	212	4	1.02

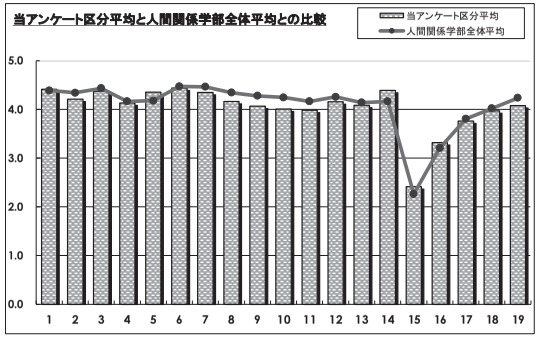
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.57

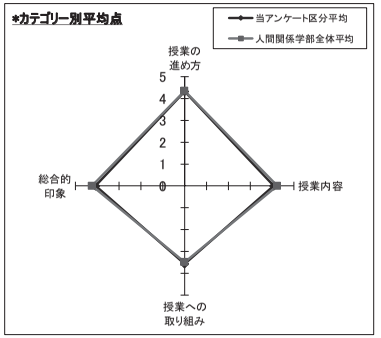
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.39**	58.7	28.2	7.5	4.7	0.9		213	3	0.89
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.41**	16.0	6.6	16.0	25.8	35.7		213	3	1.43
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.32**	26.7	20.5	26.2	11.4	15.2		210	6	1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.76**	36.2	24.4	24.9	8.5	6.1		213	3	1.20
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.97**	39.0	31.9	20.2	5.2	3.8		213	3	1.07

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.08

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.08**	44.0	29.5	19.3	4.8	2.4		207	9	1.02

Q1–Q19の当区分平均値	4.04
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	52人間福祉学科（学科共通科目）

履修者数	386
回答者数	289

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.52

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.57**	68.4	24.7	4.5	0.7	1.7	0.0	288	1	0.77
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.52**	65.6	25.3	5.6	2.1	1.4	0.0	285	4	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.51**	66.7	20.8	9.0	2.1	1.0	0.3	288	1	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.43**	62.8	23.0	8.2	3.5	1.8	0.7	282	7	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.44**	61.6	24.6	8.5	3.2	1.1	1.1	284	5	0.86
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.56**	70.3	18.5	8.4	1.0	1.4	0.3	286	3	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.61**	68.8	25.3	4.9	0.7	0.4	0.0	285	4	0.65

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.47

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.51**	65.5	25.4	5.2	2.4	1.4	0.0	287	2	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.48**	62.5	27.0	7.7	1.4	1.4	0.0	285	4	0.81
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.50**	63.5	27.3	6.7	0.7	1.8	0.0	282	7	0.80
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.40**	62.7	23.0	8.4	3.8	2.1	0.0	287	2	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.54**	66.9	24.2	6.4	1.1	1.4	0.0	281	8	0.78
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.40**	59.4	25.0	11.6	1.8	1.4	0.7	276	13	0.87

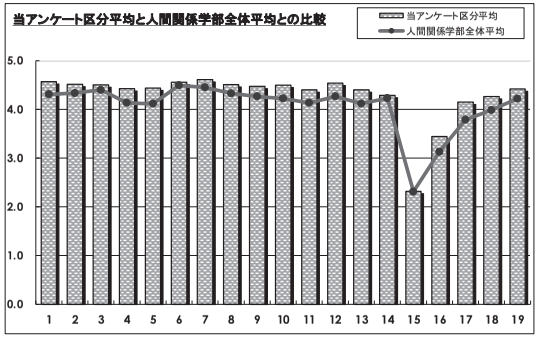
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.69

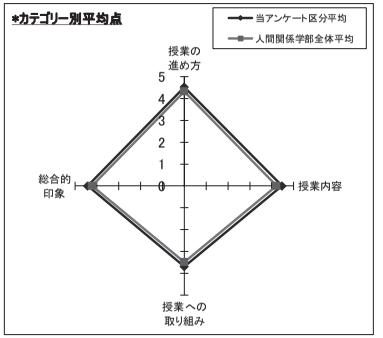
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.29**	55.8	24.0	14.1	4.9	1.1		283	6	0.96
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.32**	12.5	6.8	16.4	28.8	35.6		281	8	1.35
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.44**	32.6	21.1	20.4	9.7	16.1		279	10	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.15**	47.7	28.7	17.6	3.6	2.5		279	10	1.00
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.26**	54.6	24.3	16.1	2.9	2.1		280	9	0.97

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.42

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.42**	60.3	25.5	12.0	0.4	1.9		267	22	0.86

Q1–Q19の当区分平均値	4.28
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻（専門科目）

履修者数	1,579
回答者数	1,011

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.21

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.26**	49.1	35.0	10.4	4.0	1.5	0.0	1,008	3	0.91
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.16**	46.4	32.2	13.4	5.8	1.8	0.4	1,008	3	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.36**	54.9	29.0	12.4	1.8	1.1	0.8	1,005	6	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**3.99**	39.6	32.1	18.3	7.1	2.8	0.2	1,006	5	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.02**	40.1	33.3	17.0	6.4	2.7	0.5	1,005	6	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.32**	52.5	30.1	12.6	2.8	0.9	1.1	1,004	7	0.87
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.33**	52.6	31.5	12.4	2.4	0.8	0.3	1,001	10	0.84

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.04

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.13**	43.6	34.4	15.3	4.9	1.8	0.1	1,007	4	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.09**	43.0	33.6	14.9	6.1	2.2	0.2	1,002	9	1.01
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.03**	39.4	35.6	16.6	5.5	2.9	0.0	1,002	9	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**3.97**	36.3	36.9	17.1	6.6	3.1	0.1	1,004	7	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**3.97**	35.7	35.5	21.4	4.6	2.8	0.1	1,001	10	1.00
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.02**	36.9	34.9	21.2	4.1	1.7	1.2	997	14	0.95

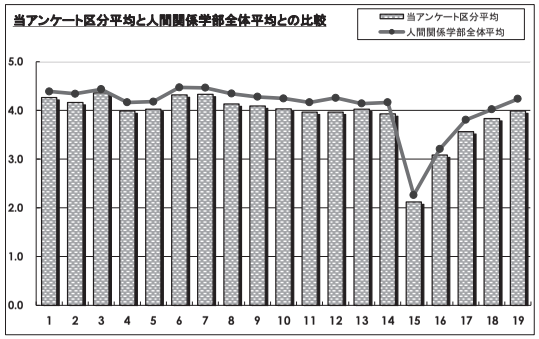
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.31

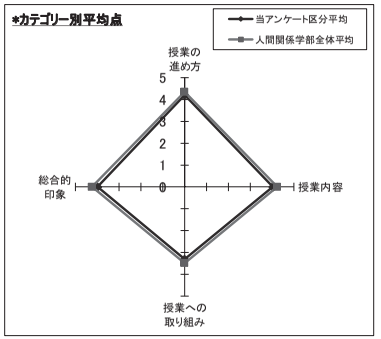
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.93**	38.2	30.6	19.3	9.8	2.1		1,005	6	1.07
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.12**	8.6	8.4	15.2	22.4	45.4		1,004	7	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.09**	20.1	20.7	27.7	11.1	20.5		992	19	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.57**	23.2	32.7	27.4	11.2	5.6		1,001	10	1.13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.83**	31.7	33.7	23.9	7.4	3.2		999	12	1.06

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 3.99

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**3.99**	38.1	34.0	19.2	6.2	2.6		972	39	1.03

Q1−Q19の当区分平均値	3.90
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻（専門科目）

履修者数	1,578
回答者数	1,204

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.30**	49.7	35.7	10.8	2.3	1.3	0.1	1,192	12	0.85
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.30**	49.3	34.8	13.0	2.1	0.7	0.1	1,184	20	0.82
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.40**	56.2	29.1	12.1	1.6	0.4	0.6	1,187	17	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.18**	41.6	38.3	16.1	3.0	0.7	0.3	1,184	20	0.85
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.13**	42.6	32.7	18.9	3.4	1.3	1.2	1,186	18	0.93
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.48**	60.4	28.3	10.1	0.7	0.4	0.1	1,183	21	0.74
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.45**	56.3	33.5	9.2	0.7	0.3	0.0	1,180	24	0.72

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.32**	49.1	35.5	13.7	1.4	0.3	0.0	1,184	20	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.27**	46.8	36.2	13.8	2.5	0.5	0.2	1,173	31	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	43.1	35.0	16.5	4.3	1.2	0.0	1,173	31	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.08**	39.2	36.5	18.2	4.5	1.4	0.2	1,173	31	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.20**	44.1	36.7	15.3	3.0	1.0	0.0	1,178	26	0.87
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.15**	40.8	36.1	18.8	2.0	0.9	1.3	1,176	28	0.87

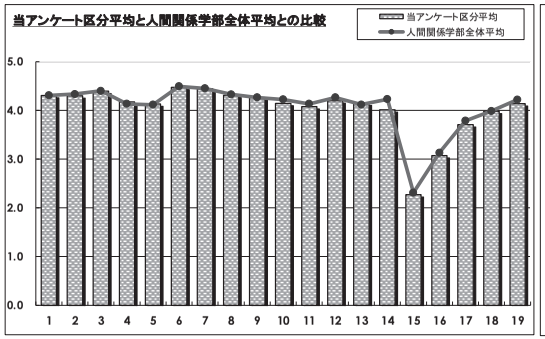
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.41

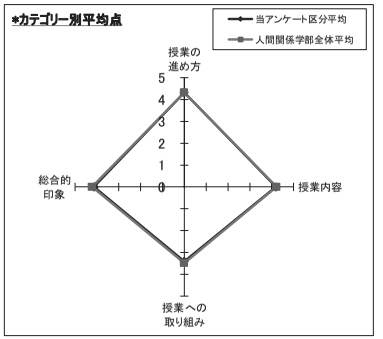
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.02**	44.2	25.9	18.8	9.4	1.7		1,191	13	1.08
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.27**	10.5	9.2	16.1	25.8	38.5		1,175	29	1.33
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.07**	19.7	19.8	29.5	9.7	21.2		1,161	43	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.71**	25.9	34.6	27.5	8.7	3.4		1,172	32	1.05
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.98**	35.5	35.8	21.9	4.9	1.8		1,173	31	0.97

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.14

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.14**	42.7	34.5	17.8	4.1	1.0		1,125	79	0.92

Q1−Q19の当区分平均値	4.03
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分：54人間関係学科社会・臨床心理学専攻（専門科目）

履修者数	1,487
回答者数	1,104

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.44

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.49**	60.7	31.5	4.4	2.6	0.7	0.0	1,103	1	0.76
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.47**	60.3	29.8	6.5	2.2	0.7	0.5	1,103	1	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.48**	64.4	22.3	9.2	3.3	0.4	0.5	1,103	1	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.22**	48.0	33.8	11.4	5.0	1.5	0.4	1,101	3	0.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.30**	51.4	32.5	9.9	4.4	1.1	0.7	1,101	3	0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.58**	67.4	24.9	5.4	1.7	0.4	0.3	1,101	3	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.53**	63.4	28.6	6.2	1.1	0.5	0.2	1,103	1	0.71

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.36

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.49**	61.0	29.1	7.5	1.9	0.4	0.1	1,102	2	0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.41**	57.7	29.0	9.2	3.0	0.6	0.5	1,104	0	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.39**	55.9	31.3	9.2	2.8	0.7	0.1	1,104	0	0.82
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.27**	50.2	32.2	12.4	3.7	1.3	0.2	1,103	1	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.40**	55.2	32.1	9.8	1.8	0.7	0.5	1,104	0	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.22**	45.5	32.9	16.7	2.5	0.8	1.5	1,102	2	0.87

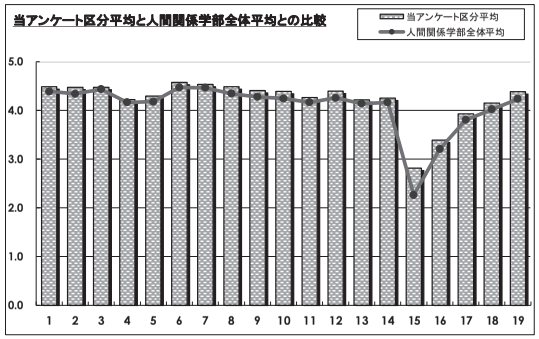
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.71

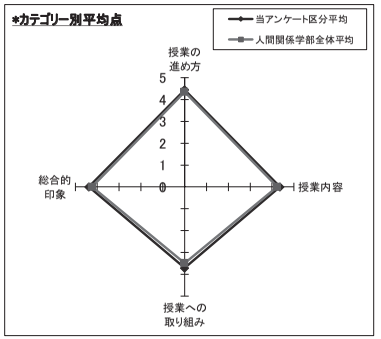
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.25**	54.7	24.4	13.2	6.7	0.9		1,098	6	0.98
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.81**	14.6	15.6	24.3	27.5	18.0		1,099	5	1.31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.39**	25.5	25.7	24.4	11.0	13.3		1,088	16	1.33
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.93**	35.4	34.6	20.5	6.6	2.8		1,100	4	1.04
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.15**	43.2	35.7	15.4	4.2	1.5		1,096	8	0.93

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.38**	55.9	30.4	10.6	2.3	0.7		1,068	36	0.82

Q1−Q19の当区分平均値	4.22
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分：54人間関係学科社会・臨床心理学専攻（専門科目）

履修者数	1,258
回答者数	1,028

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.35**	55.3	30.2	9.7	3.2	1.3	0.3	1,022	6	0.88
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.37**	53.7	32.5	10.3	2.8	0.4	0.3	1,022	6	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.35**	56.4	26.3	12.1	3.8	0.8	0.6	1,024	4	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.12**	42.0	34.7	16.9	5.2	1.0	0.3	1,020	8	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.08**	42.4	31.4	17.1	5.7	2.0	1.5	1,019	9	1.00
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.52**	62.3	28.2	7.7	0.7	0.5	0.7	1,018	10	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.44**	57.2	31.0	9.6	1.4	0.5	0.3	1,015	13	0.76

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.36**	52.9	32.7	11.6	2.1	0.3	0.5	1,019	9	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.30**	51.1	32.2	12.2	3.1	0.9	0.5	1,018	10	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.28**	49.3	34.3	12.0	3.4	0.9	0.1	1,018	10	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.17**	43.9	35.9	14.5	4.3	1.2	0.2	1,015	13	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.31**	49.0	35.7	12.7	1.6	0.8	0.3	1,015	13	0.81
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.05**	37.4	33.2	22.8	3.0	1.2	2.5	1,001	27	0.92

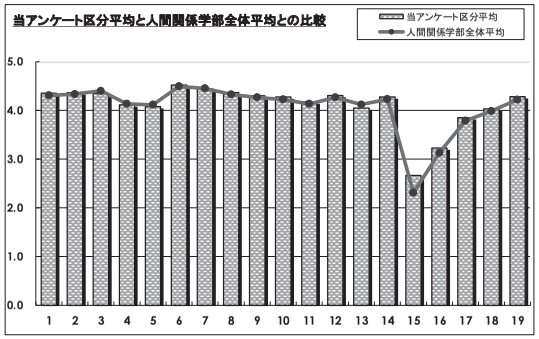
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.61

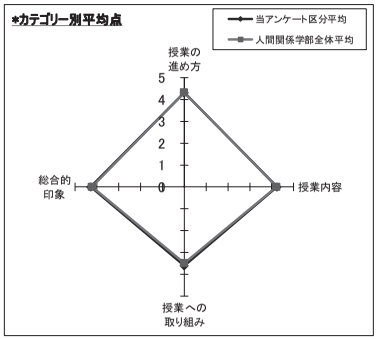
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.27**	54.5	26.3	12.8	5.0	1.4		1,013	15	0.96
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.67**	13.3	11.6	23.9	31.0	20.2		1,016	12	1.29
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.23**	21.7	23.4	27.9	10.1	16.9		1,000	28	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.85**	30.0	36.8	24.1	6.6	2.6		1,004	24	1.01
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.03**	37.2	38.4	17.3	4.3	2.8		1,004	24	0.98

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.28

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.28**	50.9	32.0	12.7	3.3	1.0		986	42	0.88

Q1−Q19の当区分平均値	4.11
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	57人間福祉学科（専門科目）

履修者数	1,642
回答者数	1,213

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.44

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.50**	64.0	26.2	6.3	2.1	1.2	0.2	1,213	0	0.81
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.42**	57.9	30.2	8.2	2.1	1.3	0.2	1,210	3	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.48**	64.1	23.8	8.8	1.8	1.2	0.3	1,213	0	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.32**	55.7	28.4	10.4	3.0	2.4	0.1	1,211	2	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.25**	55.0	24.7	11.9	4.5	3.0	1.0	1,210	3	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.55**	68.0	21.7	7.0	1.7	1.0	0.5	1,210	3	0.78
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.59**	69.2	22.6	6.2	1.1	0.7	0.1	1,206	7	0.72

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.35

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.46**	60.4	28.2	8.7	1.2	1.2	0.4	1,211	2	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.39**	58.2	28.1	9.2	2.9	1.6	0.1	1,211	2	0.88
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.34**	57.3	26.9	10.1	3.5	2.1	0.1	1,211	2	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.29**	54.7	28.0	11.0	3.6	2.4	0.2	1,211	2	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.39**	59.5	25.2	11.1	2.2	1.7	0.4	1,208	5	0.89
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.24**	49.4	28.9	16.8	2.0	1.6	1.3	1,206	7	0.92

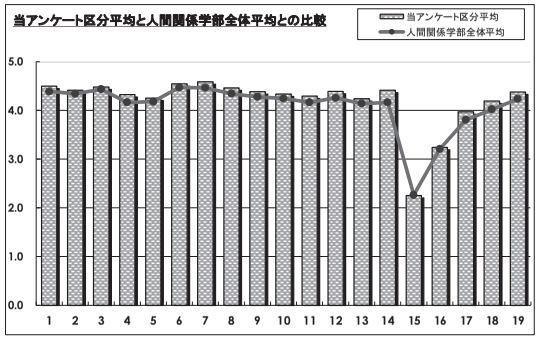
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.61

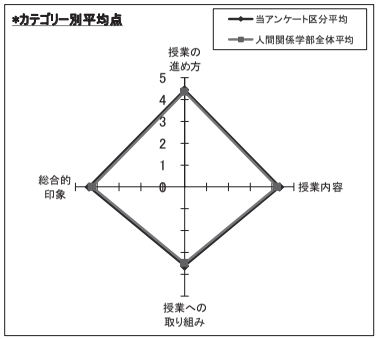
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.41**	59.9	26.0	10.2	3.3	0.6		1,211	2	0.85
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.26**	8.6	7.7	19.0	30.0	34.7		1,208	5	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.24**	28.4	18.1	23.1	9.9	20.5		1,199	14	1.48
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.97**	41.0	29.7	18.9	6.0	4.3		1,207	6	1.11
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.19**	49.7	29.0	14.6	4.1	2.7		1,207	6	1.00

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.38

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.38**	60.1	25.0	9.5	3.0	2.3		1,159	54	0.94

Q1−Q19の当区分平均値	4.19
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	57人間福祉学科（専門科目）

履修者数	1,818
回答者数	1,410

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.37

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.44**	59.4	28.5	9.0	2.1	0.8	0.2	1,392	18	0.80
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.41**	56.8	29.9	10.4	1.9	0.5	0.4	1,389	21	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.37**	56.9	27.0	11.9	2.9	0.7	0.5	1,391	19	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.25**	50.0	30.9	13.3	4.1	1.4	0.3	1,381	29	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.16**	45.6	30.8	16.8	4.8	1.2	0.8	1,385	25	0.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.49**	63.4	24.2	9.8	1.8	0.5	0.4	1,390	20	0.78
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.49**	62.5	26.3	8.9	1.6	0.6	0.1	1,381	29	0.77

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.32

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.41**	56.4	31.0	10.1	1.8	0.6	0.2	1,382	28	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.36**	55.3	30.0	10.6	2.9	0.9	0.3	1,382	28	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.31**	52.8	29.9	12.7	3.0	1.0	0.6	1,374	36	0.88
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.24**	49.3	30.7	14.2	4.0	1.2	0.6	1,371	39	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.38**	55.5	29.7	11.5	2.2	0.7	0.4	1,368	42	0.82
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.22**	46.1	33.0	16.7	2.6	0.8	0.7	1,361	49	0.87

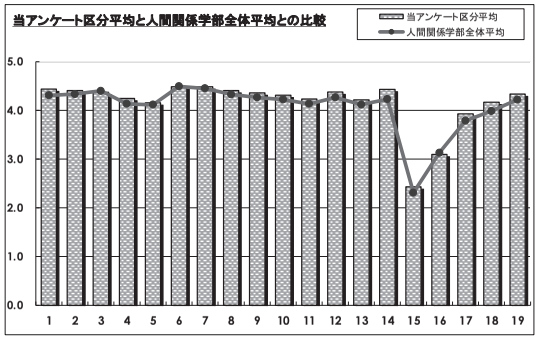
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.61

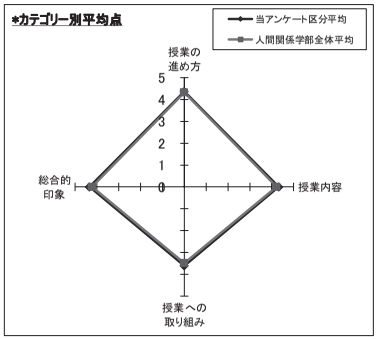
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.43**	62.7	23.7	8.6	3.7	1.2		1,377	33	0.89
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.43**	10.3	11.7	19.4	28.3	30.2		1,373	37	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.10**	21.2	22.0	23.9	11.2	21.7		1,362	48	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.93**	36.4	32.2	22.4	6.1	2.9		1,373	37	1.04
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.17**	44.5	33.8	17.4	3.0	1.3		1,354	56	0.91

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.34

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.34**	53.8	30.5	12.5	2.1	1.1		1,325	85	0.85

Q1−Q19の当区分平均値	4.15
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分　55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）

履修者数	440
回答者数	235

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.49

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.58**	69.4	20.9	8.5	0.9	0.4	0.0	235	0	0.72
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.49**	63.4	25.1	9.4	1.3	0.9	0.0	235	0	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.56**	69.4	19.6	8.9	1.7	0.4	0.0	235	0	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.37**	57.9	25.5	12.3	2.6	1.3	0.4	235	0	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.34**	56.0	25.6	15.8	1.7	0.9	0.0	234	1	0.87
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.57**	68.9	20.4	8.9	0.9	0.4	0.4	235	0	0.73
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.55**	66.0	23.8	8.9	0.4	0.4	0.4	235	0	0.71

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.42

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.46**	62.6	23.4	11.5	1.3	0.9	0.4	235	0	0.81
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.42**	61.5	23.9	10.3	2.6	1.3	0.4	234	1	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.43**	62.4	21.4	12.8	2.1	0.9	0.4	234	1	0.86
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.33**	58.3	22.6	14.0	3.0	1.7	0.4	235	0	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.49**	64.3	23.0	11.1	0.9	0.9	0.0	235	0	0.79
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.38**	56.8	26.5	13.7	1.3	0.9	0.9	234	1	0.83

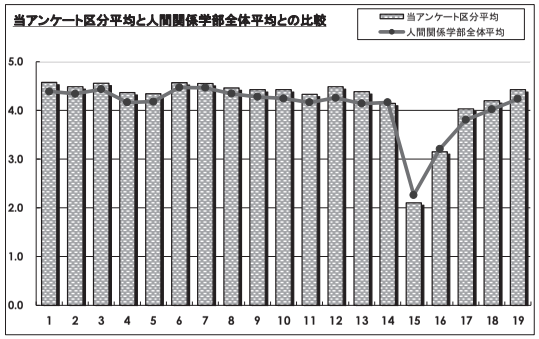
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.53

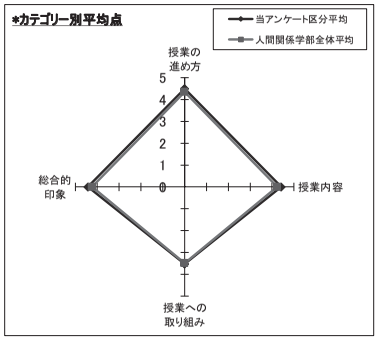
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.15**	46.1	30.9	15.7	6.5	0.9		230	5	0.97
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.10**	7.8	5.6	16.9	28.6	41.1		231	4	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.15**	27.6	13.6	26.8	10.1	21.9		228	7	1.49
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.03**	44.8	23.9	23.5	5.2	2.6		230	5	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.20**	49.8	26.8	19.0	2.2	2.2		231	4	0.97

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.43

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.43**	59.9	25.2	13.1	1.4	0.5		222	13	0.80

Q1−Q19の当区分平均値	4.22
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分　55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）

履修者数	163
回答者数	122

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.65

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.70**	81.0	9.9	7.4	1.7	0.0	0.0	121	1	0.68
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.60**	73.8	13.1	10.7	1.6	0.0	0.8	122	0	0.75
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.68**	79.3	9.9	9.9	0.8	0.0	0.0	121	1	0.69
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.60**	74.2	13.3	9.2	1.7	0.8	0.8	120	2	0.80
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.54**	69.7	15.1	12.6	1.7	0.0	0.8	119	3	0.78
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.73**	81.4	9.3	7.6	0.8	0.0	0.8	118	4	0.64
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.68**	77.5	13.3	8.3	0.8	0.0	0.0	120	2	0.66

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.56

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.59**	71.7	16.7	10.8	0.8	0.0	0.0	120	2	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.58**	71.7	16.7	9.2	2.5	0.0	0.0	120	2	0.76
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.57**	70.6	19.3	7.6	1.7	0.8	0.0	119	3	0.78
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.52**	69.4	17.4	9.9	2.5	0.8	0.0	121	1	0.84
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.59**	74.4	13.7	9.4	1.7	0.9	0.0	117	5	0.80
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.48**	67.8	15.7	12.2	2.6	0.9	0.9	115	7	0.87

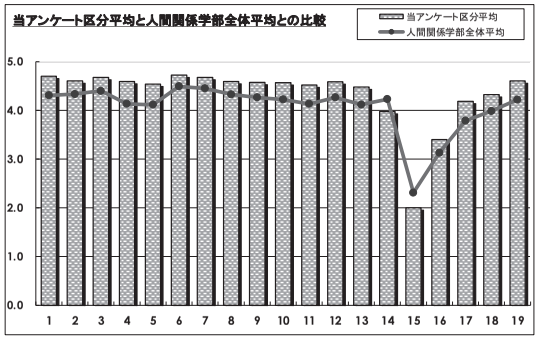
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.58

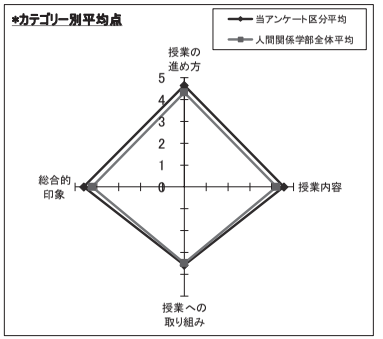
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**3.97**	45.4	19.3	25.2	7.6	2.5		119	3	1.12
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.00**	8.3	5.0	18.3	15.0	53.3		120	2	1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.41**	38.8	12.1	19.0	11.2	19.0		116	6	1.55
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.18**	55.5	16.8	21.0	4.2	2.5		119	3	1.07
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.32**	58.1	20.5	17.9	2.6	0.9		117	5	0.92

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.61

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.61**	72.8	16.7	8.8	1.8	0.0		114	8	0.72

Q1−Q19の当区分平均値	4.33
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	56人間関係学科介護福祉学専攻（専門科目）

履修者数	71
回答者数	59

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.63

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.69**	69.5	30.5	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.46
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.64**	64.4	35.6	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.48
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.51**	64.4	25.4	6.8	3.4	0.0	0.0	59	0	0.77
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.66**	66.1	33.9	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.48
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.64**	64.4	35.6	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.48
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	62.7	35.6	1.7	0.0	0.0	0.0	59	0	0.53
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.68**	67.8	32.2	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.47

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.66

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.68**	71.2	27.1	0.0	1.7	0.0	0.0	59	0	0.57
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.69**	69.5	30.5	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.46
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.64**	64.4	35.6	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.48
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.66**	67.8	30.5	1.7	0.0	0.0	0.0	59	0	0.51
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.63**	64.4	33.9	1.7	0.0	0.0	0.0	59	0	0.52
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.66**	66.1	33.9	0.0	0.0	0.0	0.0	59	0	0.48

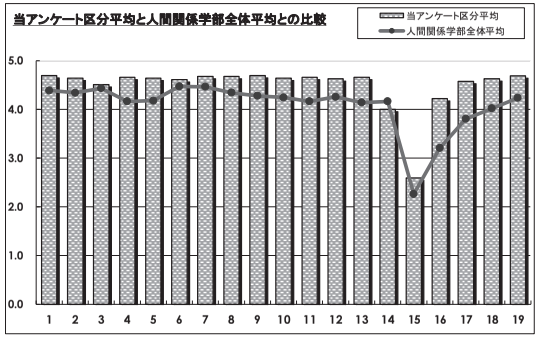
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 4.00

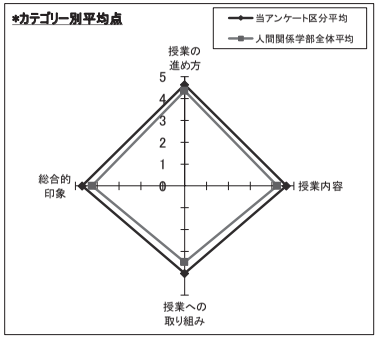
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.00**	32.2	45.8	11.9	10.2	0.0		59	0	0.93
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.59**	8.5	18.6	18.6	32.2	22.0		59	0	1.26
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**4.22**	42.4	42.4	11.9	1.7	1.7		59	0	0.85
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.58**	57.6	42.4	0.0	0.0	0.0		59	0	0.50
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.63**	62.7	37.3	0.0	0.0	0.0		59	0	0.49

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.69

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.69**	69.0	31.0	0.0	0.0	0.0		58	1	0.47

Q1−Q19の当区分平均値	4.48
Q1−Q19の学部全体平均値	4.08
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻（専門科目）

履修者数	44
回答者数	41

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.22

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.49**	51.2	46.3	2.4	0.0	0.0	0.0	41	0	0.55
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.34**	41.5	51.2	7.3	0.0	0.0	0.0	41	0	0.62
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.18**	45.0	40.0	7.5	2.5	5.0	0.0	40	1	1.03
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.10**	37.5	45.0	12.5	0.0	5.0	0.0	40	1	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**3.98**	35.0	40.0	15.0	7.5	2.5	0.0	40	1	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.31**	48.7	35.9	12.8	2.6	0.0	0.0	39	2	0.80
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.16**	42.1	42.1	7.9	5.3	2.6	0.0	38	3	0.97

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.22**	46.3	36.6	9.8	7.3	0.0	0.0	41	0	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.17**	36.6	48.8	12.2	0.0	2.4	0.0	41	0	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.26**	43.6	43.6	7.7	5.1	0.0	0.0	39	2	0.82
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.17**	36.6	48.8	12.2	0.0	2.4	0.0	41	0	0.83
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.18**	41.0	38.5	17.9	2.6	0.0	0.0	39	2	0.82
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.15**	33.3	51.3	12.8	2.6	0.0	0.0	39	2	0.74

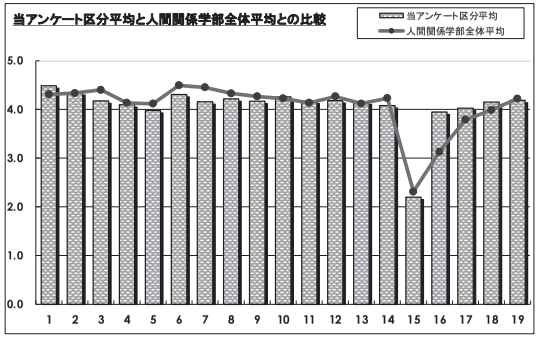
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.68

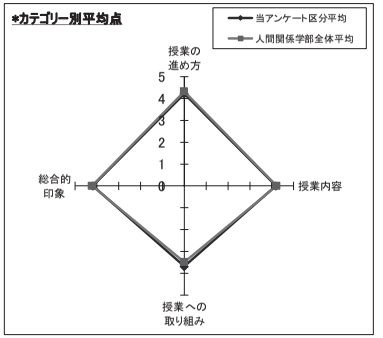
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.08**	43.6	30.8	15.4	10.3	0.0		39	2	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.20**	0.0	12.5	30.0	22.5	35.0		40	1	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.95**	26.3	57.9	7.9	0.0	7.9		38	3	1.04
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**4.03**	30.0	50.0	12.5	7.5	0.0		40	1	0.86
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.15**	33.3	53.8	7.7	5.1	0.0		39	2	0.78

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.19

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.19**	40.5	43.2	10.8	5.4	0.0		37	4	0.84

Q1−Q19の当区分平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値	4.07
Q1−Q19の学部全体平均値−2σ	3.35





2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	92諸課程科目（多摩）

履修者数	152
回答者数	124

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.25

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.34**	56.5	30.6	6.5	3.2	3.2	0.0	124	0	0.97
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.26**	52.4	32.3	8.1	3.2	4.0	0.0	124	0	1.02
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.45**	60.5	29.0	6.5	0.0	3.2	0.8	124	0	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.05**	39.5	39.5	10.5	4.8	4.8	0.8	124	0	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.03**	35.5	42.7	14.5	4.0	3.2	0.0	124	0	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.33**	58.1	29.0	5.6	2.4	4.8	0.0	124	0	1.03
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.31**	57.3	28.2	7.3	3.2	4.0	0.0	124	0	1.02

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.12

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.19**	51.6	32.3	6.5	2.4	7.3	0.0	124	0	1.14
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.15**	50.8	31.5	5.6	4.0	7.3	0.8	124	0	1.17
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.10**	44.4	37.1	7.3	6.5	4.8	0.0	124	0	1.10
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.11**	46.8	34.7	6.5	4.8	6.5	0.8	124	0	1.15
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.08**	39.8	39.8	11.4	4.1	4.1	0.8	123	1	1.03
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.11**	38.7	40.3	12.9	1.6	4.0	2.4	124	0	0.98

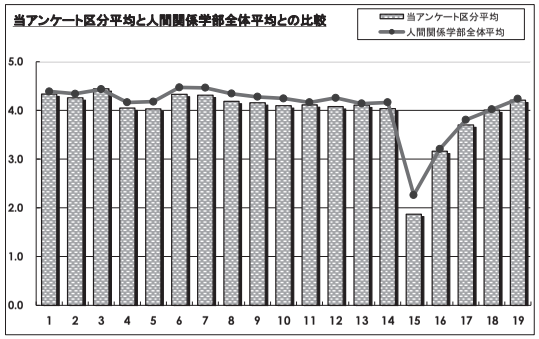
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.36

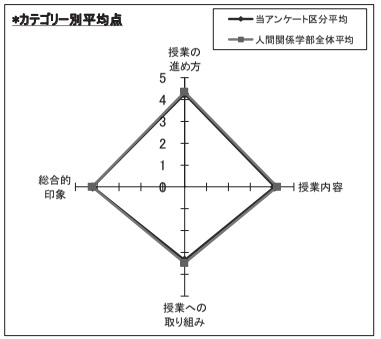
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.04**	40.3	33.9	16.9	7.3	1.6		124	0	1.01
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**1.87**	7.3	4.0	12.9	20.2	55.6		124	0	1.22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**3.16**	21.0	23.4	25.8	10.5	19.4		124	0	1.39
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.70**	25.8	38.7	19.4	12.1	4.0		124	0	1.10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**4.01**	41.1	32.3	16.9	5.6	4.0		124	0	1.09

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.21

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.21**	46.7	35.2	13.1	2.5	2.5		122	2	0.94

Q1–Q19の当区分平均値	3.97
Q1–Q19の学部全体平均値	4.08
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.31





2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果（アンケート区分別）　大妻女子大学

アンケート区分	92諸課程科目（多摩）

履修者数	156
回答者数	129

Ⅰ．教員のこの授業の進め方について　当カテゴリー平均点 4.44

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	**4.52**	63.3	28.9	4.7	3.1	0.0	0.0	128	1	0.73
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	**4.43**	55.6	35.7	6.3	0.8	1.6	0.0	126	3	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	**4.68**	71.4	19.0	4.8	0.8	0.0	4.0	126	3	0.61
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	**4.22**	41.1	46.8	6.5	1.6	3.2	0.8	124	5	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	**4.15**	41.7	37.8	15.0	4.7	0.8	0.0	127	2	0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	**4.61**	68.0	24.2	6.3	0.8	0.0	0.8	128	1	0.64
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	**4.50**	59.8	33.1	5.5	0.8	0.8	0.0	127	2	0.71

Ⅱ．この授業の内容について　当カテゴリー平均点 4.18

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1	0	有効回答	無効回答	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された	**4.29**	45.6	40.8	10.4	3.2	0.0	0.0	125	4	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	**4.27**	44.9	42.5	8.7	2.4	1.6	0.0	127	2	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	**4.14**	37.3	43.7	13.5	4.8	0.0	0.8	126	3	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	**4.09**	35.9	44.5	12.5	6.3	0.8	0.0	128	1	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	**4.14**	36.5	44.4	11.9	3.2	1.6	2.4	126	3	0.87
13	「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった	**4.14**	39.2	38.4	17.6	1.6	1.6	1.6	125	4	0.88

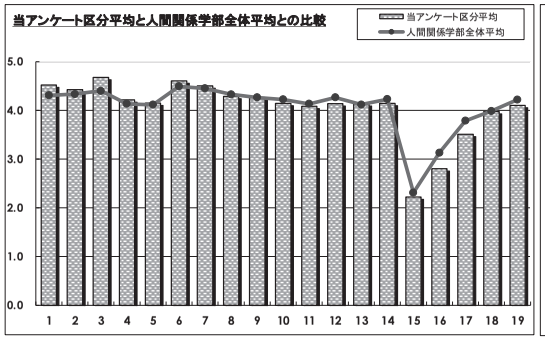
Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について　当カテゴリー平均点 3.33

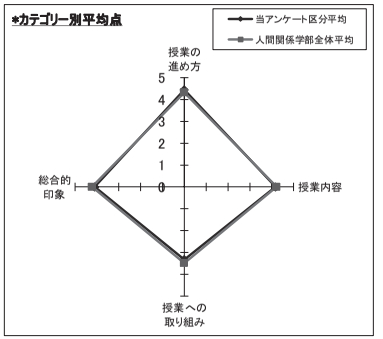
No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか	**4.14**	41.3	35.7	19.0	4.0	0.0		126	3	0.86
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	**2.22**	7.9	11.1	13.5	30.2	37.3		126	3	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	**2.80**	12.7	19.0	27.8	16.7	23.8		126	3	1.34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	**3.51**	18.3	34.1	33.3	8.7	5.6		126	3	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	**3.98**	31.0	43.7	20.6	1.6	3.2		126	3	0.93

Ⅳ．総合的な印象　当カテゴリー平均点 4.10

No.	設問文	平均点	回答率（%） 5	4	3	2	1		有効回答	無効回答	標準偏差
19	**＊総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う**	**4.10**	36.0	44.0	16.0	2.4	1.6		125	4	0.87

Q1–Q19の当区分平均値	4.05
Q1–Q19の学部全体平均値	4.07
Q1–Q19の学部全体平均値−2σ	3.35



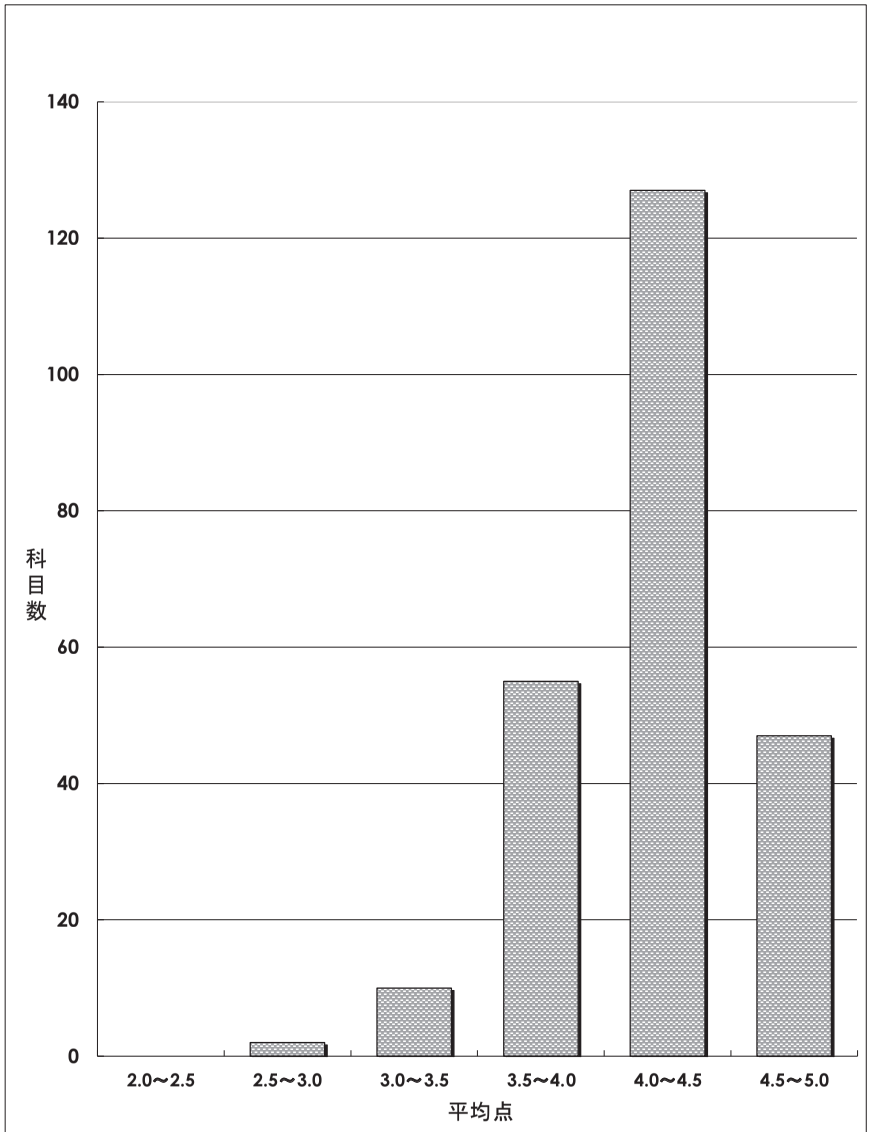


2019年度後期　授業に関するアンケート集計結果

大妻女子大学

人間関係学部 評定平均点度数分布表

全科目数	241

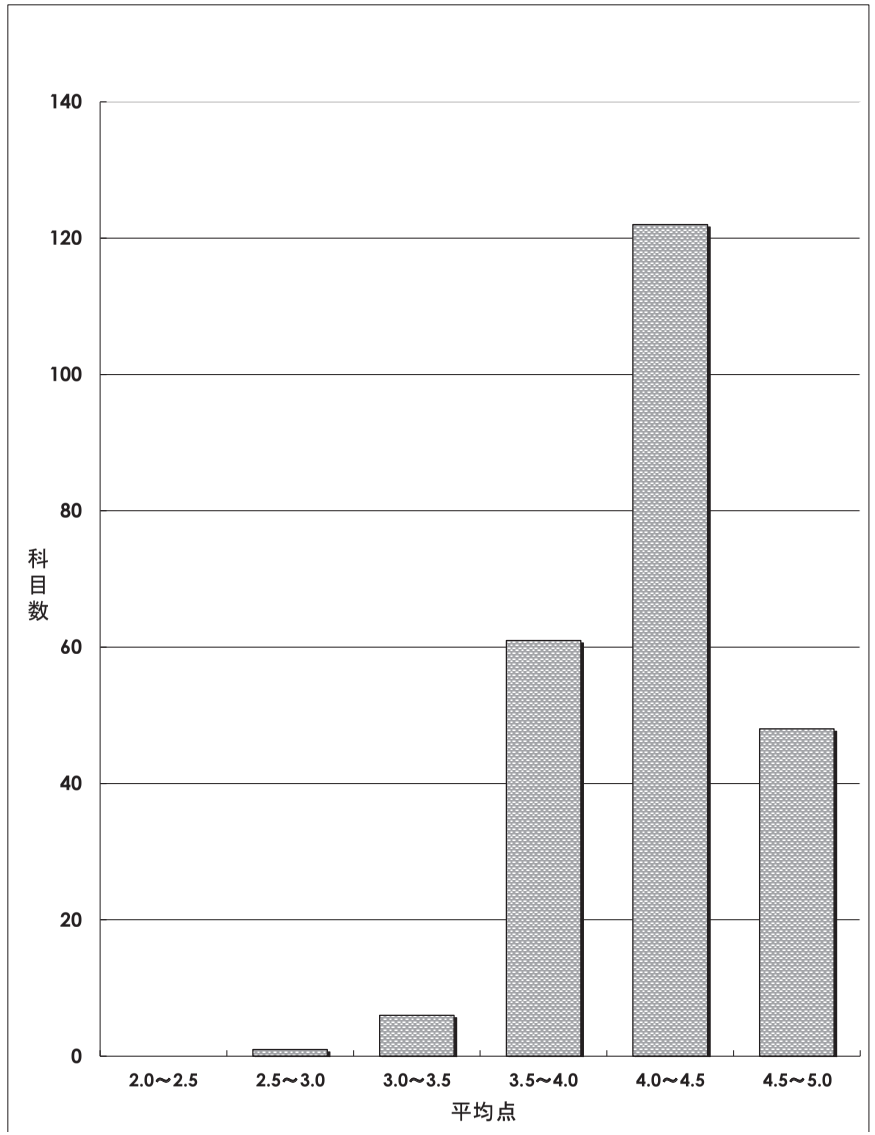


2019年度前期　授業に関するアンケート集計結果

大妻女子大学

人間関係学部 評定平均点度数分布表

全科目数	238



Ⅱ―２　授業アンケートへの対応

前期・後期と実施した学生に対する授業アンケートに教員自身がどう対応するかを教員に尋ね回答をえた。その結果をここに紹介する。

Ⅱ－２－１　前期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

全体の傾向としては、アクティブ・ラーニングや予習・復習を促す試みなど、近年の文科省からの要請に真摯に応えるような授業取り組みを実施する教員の声が多かった。他方、授業中の情報量の多さや課題の多さを学生から指摘され、学生にとって適切と思われる分量まで減らした（あるいは今後減らす予定の）教員もいた。

①　アクティブ・ラーニングの試み

授業の改善点について書かれたなかで、多くの教員が触れていたものの一つがアクティブ・ラーニングへの取り組みについてであった。アクティブ・ラーニングは次第に普及しているようである。

「今後は授業の中で意見を述べる時間を設ける」（全学共通科目非常勤）。
「manaba を活用した双方向の授業の工夫を行っていきます」（福祉非常勤）。
「今年度は新しく respon を利用して意見の収集とフィードバックを実施した……受講生にも好評であった」（社会非常勤）。
「双方向形式の展開を積極的に採用し、議論の設定等をより工夫した授業運営ができるよう自己研鑽していきたい」（福祉非常勤）。
「アクティブ・ラーニングを心がけており、……若干のグルーピングを行って、グループごとに課題に対応し、発表・発言するスタイルを取り入れていきたい」（全学共通科目非常勤）。
「授業中、学生に質問するようにしたい」（社会常勤）。

②　予習・復習（自習）を促す工夫

学生に予習・復習を促すような工夫についても、課題を増やす、予習・復習を意識させる、予習・復習と授業の関連について学生に説明するなど、さまざまな案が出されていた。

「予習・復習の内容をより具体的に明示して、それらを課題とするなど、授業時間外の学習を促すような発展課題などを用意することを検討したいと思います」（社会臨床心理常勤）。
「来年度はもう少し課題を明確に出すようにしたい」（社会臨床心理常勤）。
「受講者の予習を促すための次週の内容を予告すること……を心がけていきたい」（福祉常勤）。

「予習・復習の内容と授業内容のつながりについて丁寧に説明したい」（福祉非常勤）。
「予習・復習の位置づけを明確にしたい」（資格関連科目非常勤）。
「学生が取り組む課題について次年度以降、改善を加えたい」（全学共通科目非常勤）。

③　ルーブリック表の活用

ルーブリック表の活用が学生満足に生かされたという、試みについて記した教員もいた。

「レポートでやるべき作業をルーブリック表で提示していたので、それが良かったのかもしれない」（全学共通科目非常勤）。

④　授業内容や課題の量の調整

授業資料の情報量や課題の量を調整する（した）という教員もいた。

「授業資料の情報量の多さについては指摘があったため、今後は授業内容を適切に絞りこみ、教えるべきことを集中して講義できるよう改善していきます」（資格関連科目非常勤）。
「この 2 年間は課題を以前より減らしている。課題が多すぎるという不満はなくなった」（社会常勤）。

これと関連して、学生の履修コマ数の（多さの）問題を指摘する教員もいた。

「履修コマ数が多すぎて、授業時間外の学習時間をあまりとれない、と嘆いている学生がそこそこいる。……せいぜい一日 2、3 コマが限界のはずだ」（全学共通科目常勤）。

（２）学生に望むもの

学生に望むものとしては、大きく分けて、積極的な参加を望む声と、ネガティブな受講態度を改めるように要望する声との二つがあった。

①　積極的・能動的な参加

学生への要望では、予習・復習や宿題をきちんと行う、発言や質問などで積極的に参加をするなど求める意見が見られた。

「テキストを購入し、毎回受講した講義内容をしっかり復習するよう心掛けてほしい」（福祉常勤）。
「予習用プリントや manaba 等で課す課題に主体的に取り組んでほしい」（福祉非常勤）。
「教科書を読んで予習してほしい」（社会常勤）。
「毎回の授業の最後に行っているアンケートの「質問・意見」欄に積極的に記述してください」（全学共通科目非常勤）。

「リアクションペーパーの提出がなぜ行われているのかを理解して欲しい」（福祉常勤）。
「発言をして欲しいと感じました」（社会臨床心理非常勤）。
「積極的な授業への参加を求めます」（資格関連科目非常勤）。
「積極的な質問などを期待したい」（全学共通科目非常勤）。

②　ネガティブな受講態度の改善

他方、私語、遅刻・欠席、授業中の居眠り、スマホの使用などを慎むようにとの要望もあった。

「授業中に堂々とスマートフォンを操作している姿が目立つのは少々困ります」（資格関連科目非常勤）。
「とにかく私語は慎んでもらいたい」（福祉常勤）。
「遅刻・欠席しないでほしい」（社会常勤）。
「授業中の睡眠、スマートフォンの使用はどの授業でも厳禁です」（社会非常勤）。
「眠らないよう努力してほしい」（社会常勤）。

Ⅱ－２－２　後期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

全体の傾向としては、授業外での学生の予習・復習を促す工夫や、授業内での学生の積極的な学習を促す仕組みをどう構築するか、学生の関心をいかに引き付けるかについて言及する回答が多く見られた。

①　予習・復習を促す工夫

予習・復習を促す工夫はすでに行っているものの、思うように（学生の）予習・復習の実施状況が向上しないため、さらなる工夫を検討するという回答がいくつか寄せられた。

「予習復習に関しては、毎回の宿題を出さずに新聞などを読むように促し、今話題のトピックを問うようにしていたが、予習復習の時間に関しては前年度同様点数が上がらない。学生が意欲的に参加できるように、少しずつ改善を行っていきたいと思う」（福祉常勤）。
「毎回の授業の最後に「〇〇の部分につて、しっかりと復習しておくように」といった具体的な指示を与えていくことを引き続き行っていきたいと思う」（福祉常勤）。
「授業への予習･復習等にかける時間が低いので､改善を検討したい」(社会臨床心理非常勤)。
「授業の予習・復習については、来年度からは manaba での小テストの実施を行っていく予定です。紙ベースの小テスト直しと併用し、予習・復習をすることへの形を作っていきたいと思います」（福祉常勤）。

他方で、予習・復習を促す試みが成功したという回答も寄せられた。

「本年度は復習課題と称した時間制限のある取り組みを予告のうえ実施しました。復習課題に向けて習得したスキルを復習する姿が見られ、結果からも一定の効果をもたらしたものと受け止めています」（全学共通科目非常勤）。
「「予習復習」の評価も高く、manaba の活用や学生の自主学習への促しがこの評価につながったと考えます」（福祉常勤）。

さらに、学生にとっての予習・復習とは何を指しているのかアンケート結果からは不明であり、その意味を再考したいという意見や、同じ課題を出しても学生によって予習・復習の量に差があることについて考えたいという意見も見られた。

「基礎セミナーII は文献購読の発表資料準備が主で、基礎統計学 II はレポート 2、試験、それに各回に小課題と、予習復習の量におおきな差があると思っていたのですが、回答結果について 0.4 ポイント程度しか差がなく、学生にとっての予習復習とは一体何にあたるのか、もう少し詳しく考えてみたい」（社会常勤）。
「予習・復習の点数が学生によって差があり、同じ課題を出しているにもかかわらず、差があることは学習の理解度とも関連しているように感じる。予習・復習の意味を再度確認していきたい」（福祉常勤）。

②　双方向の授業

授業時間内での学生とのコミュニケーションを密にし、学生と教員との双方向の授業を実施する工夫について回答が寄せられた。

「通常の授業の提出物に関しても教員の意見（評価）をスタンプにしたりメモを書き入れるなど、随時リアクションを返すことが重要だと気づかされたので（FD 研修会でほかの先生の取り組みが参考になった）、実践していきたいと思う」（社会常勤）。
「①毎回 manaba を使って学生の意見を引き出したこと、②manaba の返事が早かったこと、③動画を使った授業、④respon を使って、授業中に学生の意見を引き出そうとしたこと、などについて、学生から好評であったので、さらに工夫を心掛けたい」（社会臨床心理常勤）。
「双方向の授業が進められるようにしたい」（全学共通科目非常勤）。
「双方向性の授業になるよう工夫したい」（福祉常勤）。
「次年度は、よりよい学習効果を図るために講義中に質疑応答が出来るような参加型講義を試みたい」（福祉常勤）。

③　アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングへの積極的取り組みについても回答が寄せられた。

「授業内でワークをする時間を設けるなど、学生たちがめりはりをもって講義に臨める構成にしたいと思います」（社会非常勤）。
「多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にした……今後も続けたいと思います」（福祉常勤）。
「テーマを絞り、小グループでのディスカッションの機会を増やしていきたい」（全学共通科目非常勤）。
「大人数の講義であっても学生の意見を述べてもらう時間を確保できるよう努力したい」（社会常勤）。

他方で、アクティブ・ラーニングを実施することの限界についても回答が寄せられた。

「初回授業においてアクティブ・ラーニングの授業方法を共有することに注力しました。しかし、改善には至らなかったようです。アクティブ・ラーニングの限界を感じましたので、今後は取り入れ方を見直そうと思います」（社会非常勤）。

④　学生の関心を引く努力

学生の関心を引くような授業を工夫するというコメントも見られた。

「授業の内容が複雑かつ単調となることが多かった。学生の関心度、理解度を深めるような具体的な工夫をより詳細に組み込んでいきたい」（福祉非常勤）。

また、学生に授業内容の必要性を理解させるという以下に紹介する改善点も、広い意味では、学生の関心を引くという試みの一環としてとらえることができよう。

「その日の内容により、必ず、得手不得手の学生が存在するのは仕方がないことであり、特に不得手の内容に対する積極的参加と必要性の理解を再認識できる内容としたい」（福祉常勤）。

さらに、学生の理解度に合わせた授業を心がけるという回答も、広い意味で学生の関心を引く試みととらえられよう。

「学生の理解度の確認……に重点を置き、授業を行っていきたい」（福祉非常勤）。
「受講者の理解度を確認しながら進めるようにしたい」（福祉常勤）。

以下、少数意見であるが、授業評価制度に関する貴重なコメントについて紹介する。

⑤　学生の能力の向上と学生の授業評価の乖離

学生の能力は向上したが、授業評価は低くなったというコメントがあった。これは、学生の

授業評価と並んで、別の観点からの授業評価の必要性（あるいは、学生に自分の能力がどれだけ向上したかを可視化して見せる必要性）を示唆しているのかもしれない。

「今年は、以下のような対応策をとった。A 昨年と比べて授業であつかう話題を減らし、その分細部まで説明するようにした。B　中間課題としてレスポンスの段階で注意点を時間をかけて説明した。結果として、レポートの質は昨年と比べてかなり向上したが、授業アンケートでの評価が下がった。正直なところ、来年の方針をどうするか悩んでいる」（全学共通科目常勤）。

（２）学生に望むもの

学生に望むものとしては、授業態度の改善、リテラシーの向上、そしてアンケートの趣旨への理解があった。

①　積極的参加を

学生への要望では、授業への積極的参加を望む意見が見られた。

「苦手なワークにも積極的に参加し、体験しながら自分の中に湧いてくる感情や感覚を味わってもらえたらと思っています」（社会臨床心理常勤）。
「授業内で積極的に質問して欲しい」（社会非常勤）。
「単位のためだけに授業をとっている学生がいると、全体のモチベーションを下げる。自覚をもって授業に臨んでほしい」（社会臨床心理常勤）。
「興味および関心をもって授業に臨んでほしいと思っている」（全学共通科目非常勤）。
「授業中であってもわからないことは､積極的に質問してもらいたい」(社会臨床心理常勤)。
「積極的に授業の中で意見を述べてもらえると嬉しい」（社会常勤）。

②　予習・復習を

予習・復習を行うよう求める声も見られた。

「事前に配布した資料に目を通し……てほしい」（社会非常勤）。
「予習、復習のさらなる強化」（専門科目常勤）。
「自己学習（復習・課題等）を通して理解を深めて頂きたい」（福祉常勤）。
「学生は講義等だけではなく、自己学習（復習・課題等）を通して理解を深めて頂きたい」（福祉常勤）。

③　リテラシーの向上を

学生自身にリテラシーの向上を求める声もあった。

「文章を読むことと書くこと、観察すること、そして考えることを身につけてください」（社会常勤）。
「ぜひ学生たちには日頃から読書の習慣をつけてほしい」（全学共通科目常勤）。

④　受講マナーの改善を

受講に際してのマナーの改善を望むコメントも寄せられた。

「講義科目で使用する教室では、次の時間の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい」（社会常勤）。
「遅刻：……こちらの大学では毎回１割かそれ以上の遅刻者がいます」（社会臨床心理非常勤）。
「忘れ物、遅刻・欠席のないようお願いいたします」（福祉非常勤）。

⑤　アンケートの趣旨への理解を

アンケートの趣旨を理解してほしいという意見もあった。

「一部の意見で教員に対して「苦手」等のコメントが見られるが、授業に関するアンケートのため、何を問われているものなのかを理解したうえで記入してほしい」（福祉常勤）。

Ⅲ　学科・専攻における令和元年度ＦＤ活動への取り組み

１．人間関係学科

（１）社会学専攻におけるＦＤ活動に関する取り組み

１）社会学全体としての取り組み

ⅰ　社会学専攻としてはおよそ隔週のペースで専攻会議を開催している。会議の内容で大きな比重を占めているものの一つが、問題を抱えた学生たちへの対応である。そうした学生たちについての対応の方法を検討している。教員の方で学生のかかえる困難に気づき、会議で情報を共有し話し合うことも多い。問題をかかえた学生のなかには障がいをもった学生も存在する。そういった学生がつつがなく学生生活を送ることができるように、クラス指導主任や障がい学生支援委員ほか各種委員と学生相談センターとで連携をとりながら、さまざまな問題を話し合っている。障がい学生ではないものの、合理的配慮を必要とする学生も増加している。どのような配慮をどの程度するのが適切なのかなど、専攻会議で話し合われた。

ⅱ　5月末に毎年開催される授業担当者懇談会においては、非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考にした。毎年参加してくださる非常勤の先生もおられ、有意義な会となっている。

ⅲ社会学専攻では、平成 25 年度から「社会学基礎セミナーⅠ」の平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施など、担当教員が行う授業内容を取り決めた。採点基準については、「社会学基礎セミナーⅠ」、「社会学基礎セミナーⅡ」とも、S は 1 割以内、A と S の合計は 5 割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ 50%とし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は令和 2 年度においても継続される。また、「社会学基礎セミナーⅠ」のテキストを新たなものに変更した。次回のテキストは 1 章あたりの文章量が少ないため、学生の発表時間を 10 分程度と短くし、討論時間を長くすることが話し合われた。討論時間を長くするために、討論課題を教員が 3 テーマくらい用意しておくという案も出された。

ⅳ社会学専攻では、2 年次の「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」の授業の一環として学生による報告会を毎年 12 月上旬に開催している。この報告会の主たる目的は学生の発表であるが、この会には社会学の教員も原則全員参加しており、そのため他の教員が演習という授業をどのように行っているのかが分かる形となっている。そのため、教員にとっては、次年度からの授業運営の参考になるという意味で、教員の FD にとっても有意義な会となっていると考える。

２）教員個々の取り組み

ⅰ伊藤美登里

①引用・参照理解度小テストの実施、及びレポート提出直前チェックリストの作成

社会学基礎セミナーⅠおよびⅡで、引用・参照の仕方をプリント配布し口頭で説明した翌週、理解度を測る小テストを実施し、マンツーマンでできていないところを指導した。また、レポート提出前の推敲を促す目的で、レポート提出前チェックリストを作成し、実際にレポートを

チェックリストにのっとってチェック及び修正した後に提出するというステップを踏む試みを行った。

②文章の書き方や論文の書き方の指導の工夫

社会学セミナーⅠにおいて、（英語圏の大学に留学した者を対象としたアカデミックライティングの）英語のテキストを日本語に翻訳して、アイデアの出し方とまとめ方、一つの段落の書き方、エッセイの書き方などについて指導し、実際に文章を書いてもらいそれを添削して返却するという指導を行った。社会学セミナーⅡでは、社会学セミナーⅠの内容を（復習しつつ）発展させ、学術論文の書き方について、実際に一つの学術論文を精読し、内容を分解して、論文というものがどのような構造で書かれているのかを指導した。そのうえで、学生各自の卒論がどのような章構成になりうるかを個別に指導していった。社会学セミナーⅢ・Ⅳでは、実際に提出された卒論原稿（未完成）を添削する形の指導を行った。

ⅱ 牛山美穂

①レジュメ、レポートの書き方についての指導

文献購読の際のレジュメの作り方、自分の調査についてのレジュメの作り方、レポートの書き方など、基本的なアカデミック・スキルを習得させるために、こちらでオリジナルの資料を作成したり、インターネット上の資料を用いたりしながら、授業のなかである程度時間を取って教えた。さらにその後、授業時間内に各自 PC を使って、文献検索をしたり、レジュメやレポートに取り組んだりする時間を与えることで、作業をしながら出てきた質問に対してその都度教え、またそれをほかの学生とも共有するようにした（基礎社会セミナーⅠ・Ⅱ、社会調査実習及び演習Ⅰ・Ⅱ、社会学セミナーⅠ・Ⅱ）。

また、基礎社会セミナーⅠ・Ⅱでは、学期末にはひとりひとりに対しレポートの講評をすることで、どういった点を改善していけばよいかを具体的に教えた。こうした講評をすることによって、学生がレポートの構成の仕方や正しい引用の仕方などを早い段階から身に着けてもらうことを意図している。そうすることによって、卒論執筆時にはそうした基礎的な指導に時間を取られず、卒論の内容についてじっくり指導する時間を確保できるようになることを期待している。

②原稿をチェックしあう時間の確保

社会学基礎セミナーⅠ・Ⅱ、社会調査実習及び演習Ⅰ・Ⅱでは、レポート第一稿の提出前には、二人一組で、原稿の誤字脱字チェックをさせたが、これも他人のレポートをじっくり読むいい機会であると同時に、客観的に誰に原稿を見てもらうことで、自分では気が付かなかったミスを発見することのできるよい機会になったと感じられた。

③コメントシートの活用

社会調査実習及び演習Ⅰ・Ⅱ、社会学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは、学生が自分の調査について発表する機会があり、そのときに、全員にコメントシートを配布し、発表者それぞれに対してコメントを書いてもらった。これにより、発表者は全員から発表に対するコメントをもらうことができるようになった。また、発表者以外も、しっかり発表を聞かなければコメントを書けないため、発表をより聴くようになったと感じている。

iii 大出春江

①学生に読んでほしい課題資料は pdf 化し manaba のコンテンツとしてアップロードしている。読む資料に加え、講演等の音声ファイルや画像ファイルを用いて、それらを見たり聞いたりした上で、考察したことを提出するという課題も出すようにしている。講義内容とその資料とを組み合わせて所定の日までに課題を提出することになる。

②社会学基礎セミナーⅠ・Ⅱと社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱのグループワークにおいて manaba のプロジェクトをグループワーク用に活用している。機能としては締切に幅をもたせられないことと、複数ファイルを受け付けないという融通のなさが難点であり、この点は掲示板を併用することで補っている。

③学生が課題を読んでまとめ、それに考察を加えるまでの力を身につけるのは簡単ではない。この点は、レポートの提出に対し添削をして返却することを、社会学セミナーにおいておこなっている。本来は 1 年次の社会学基礎セミナーⅠ・Ⅱからすることが望ましく、これは課題である。

④多摩市を中心とした地域で活動する人々の話を聞く機会を設けている。できるだけさまざまな分野の人との交流を学外、および学内で実現し、身近に現代社会の課題や諸問題を自分の目で確かめ問いを立てる機会とすることを目ざしている。

iv 久保田滋

今年度は、前年度に引き続き、manaba を用いつつ学生教員間、そして学生間のコミュニケーションを活性化することを試みた。特に、グループワークをより充実させ、そのプレゼンテーションへ向けての作業を掲示板等の機能を用いおこなうよう指導をおこなった。学生らには、掲示板上での議論を促したが、実際には活発なやり取りに結びつくことは難しい部分があった。一部の学生間において Line 等で連絡し合い、その結果を掲示板上に代表者がアップロードするような形となる場合が多かった。

また、初年度教育では、基礎セミナー等において、レジュメの作り方と報告の仕方、論文の書き方などの指導を、前年度より時間をかけておこなった。しかし、個々の既存の授業の中ではそのような指導の時間を十分にとることができないということも、同時に認識するに至った。むしろ、全学共通教育や学部共通教育において、必修のアカデミック・リテラシーの講義・演習を設置し、大学教育への導入を組織的に充実させる必要があると考える。

v 小谷敏

①本年度も社会学合同ゼミナールに参加し、他大学の先生方の指導法から多くを学んだ。

②講義科目の授業においては、毎回リアクションペーパーを書かせ、それを次の授業中に読み上げることを続けている。ある学生の発言に他の学生が反論をして、「リアクションペーパーバトル」とも呼ぶべき論争が起きるなど、さまざまな知見と教訓が得られた。

vi 齊藤豊

今年度は、情報処理教室の機器更新に対応するように「コンピュータ基礎 A」「コンピュータ

基礎 B」「コンピュータ応用」の新しい教科書を作成した。

Windows10 および Office2016 と 365 に対応し、学生が在学中の専門科目でのレポートや発表資料の作成に必要な知識と社会人になってから必要になる知識の習得に必要な内容を盛り込んだ。

特にこのところ、企業関係者や大妻 OG から「新卒社員がキーボードをきちんと打てない」と指摘されることが多くなった。これは学生時代にスマホでレポート作成をしてしまう弊害と考えられるため、キーボードのタッチタイピングをきちんとできるようにすることを来年度から本年度以上に力を入れていくようにした。

また、学生から担当教員によって授業の難易度が変わるという指摘を受け、担当教員によって授業内容にばらつきの出ないように担当講師の管理を強化した。

vii 野辺陽子

①講義へワークの組み込み

講義では、毎回リアクションペーパーの裏にアンケートのような質問を書き、授業時間内にそれに回答させた。このワークによって、毎回の講義のテーマに関して考えたことを言語化させる訓練を行った。また時間に余裕があるときは、6 人程度のグループでリアクションペーパーに書いた内容を読み上げる形で発表させ、学生の思考の幅を広げさせた。

②リアクションペーパーの返却

講義もセミナーでも、集めたリアクションペーパーは、赤を入れ（基本的に学生のコメントで印象に残った部分に赤でアンダーラインを引き、学生からの質問が書いてあれば、赤でコメントを入れている）次の週に返却し、学生とのコミュニケーションを図った。

③セミナー（社会学基礎セミナー、現代社会論セミナー）へアカデミックスキルズ習得の組み込み

社会学基礎セミナーおよび現代社会論セミナーでは、文献の輪読後に、２～３回かけて（レポート執筆前と返却後に）、アカデミックスキルの解説および実習を行った。レポート執筆前に「日本語技法」「レポートの書き方」という小冊子を用いて、解説および実習を行った（特に社会学基礎セミナーでは、ランダムに作った 3 人組でワークを行わせ、相互にチェックをさせた）。提出されたレポートには赤を入れ、全員分印刷して返却し、授業時間内に修正すべきポイントについて解説した。他の学生の赤入れされたレポートを見ることは、学生にとって自らのレポートの不備を振り返る貴重な機会になったと考える。また、修正すべきポイントについて解説した後に、あらためて立教大学の「Master of Writing」を用いて、日本語の表現およびレポートの構成について再度解説を行った。その後、学生には、LL 教室でレポートの赤入れされた部分を修正させ、「Master of Writing」で解説されているメールの提出方法通りに、レポートを再提出させた（＝教員にメールでレポートを送る実習）。

社会学基礎セミナーおよび現代社会論セミナーで、日本語のライティングがかなり劣る学生を発見した場合、次年度に「日本語 B」の授業を取るように、個別に勧めた（セミナーに限らず、講義でも、授業中に口頭で、また Manaba で「レポートや卒論はもちろんのこと、就職活動のエントリーシート等を書く際にも困ると思いますので、文章を書くのが覚束ない人は、次

年度に日本語の授業を履修することを強く勧めます」とアナウンスした)。

社会学セミナーⅠ・Ⅱで学生のなかに、日本語の能力がかなり劣る学生がいて驚いたため、1年生、2年生のセミナー(や講義でも)、日本語が覚束ない学生を発見したら、「日本語B」を履修するように努めている。しかし、シラバスを見たところ、「日本語B」はアカデミックライティングに特化した授業ではなく、学生に履修を強制することもできないので、①日本語能力が劣る学生向けの補習クラス、もしくは②必修のアカデミックライティングのクラスがあれば、各学年のセミナーで日本語の指導ではなく、ロジカルシンキングや社会学的な発想の指導により注力できると感じた(「できない」学生に合わせて、日本語の読み書きの指導が多くなってしまうため、「できる」学生にとっては物足りなかったかもしれない)。

また、セミナーでの発表のすっぽかしなど、礼儀・マナーが身についていない学生が一部にいたので、大妻教養講座などの1年次の必修の授業・講座で、大学での授業の受け方などについて指導があれば、セミナーの運営がもっとスムーズにいくと感じた。

viii 千川剛史

①講義形式の数十名以上の授業において、学生の私語を防いで静粛を保つために、同じクラスの学籍番号の近い学生同士が隣り合わないように工夫して作成した着席表を用いて学生を着席させている。

②講義において、PC、パワーポイント、プロジェクターやインターネット、DVDなどの視聴覚機器を毎回用いて、また、授業内容に関連した新聞記事をプリントして配付し、時事問題や就職等の学生の関心の高いテーマを交えてできる限り具体的な事例を紹介しながら、学習内容を学生が理解しやすいようにしている。

③講義で、毎回、リアクションペーパーとmanabaを併用して学生に配付して記入させ、それを回収し・読むことで、各学生の授業の理解度を把握し、出席状況を確認している。また、回答すべき質問・意見がリアクションペーパーとmanabaに記入されている場合は、次回の講義の冒頭で、それに回答している。必要があれば、その質問・意見に関連した資料をプリントして配付したり、プロジェクターで提示したりして、わかりやすく説明している。

ix 牧野智和

①社会調査士関連科目の「基礎統計学Ⅰ・Ⅱ」「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」では、各種統計処理の手法を論文・レポート上で表現する際、おおむね決まった表現の形式があるため、その形式の体得と合わせて、章・節・項の構成を厳格に指定してレポート執筆を幾度も課している。実際、これらの科目を2年間受講した学生は、卒業論文執筆の際に、どのように書けば論文・レポートが成立するのかを分かっている程度が相対的に高いように思われ、一定の成果があがっているといってよいと考える。

②講義形式の科目では、A4両面で15回分記載できるコメントペーパーを用意し、各回のコメントに対して教員から必ずコメントを書き入れて返すようにしている(ごく短い感想や、授業の単なるまとめでしかないものは例外)。紹介・返答に値するコメントは次回授業の冒頭で言及し、授業を踏まえて各受講者がプラスアルファの学び、気づき、問いの深化に至ったと考えら

れたものはスタンプを押して、加点扱いにしている。この方式のメリットはまず、コメントペーパーを一連のものとすることで、各個が学んだことをティーチング・ポートフォリオのように顧みることができることにある。また、教員からのフィードバックが目に見えるかたちで得られること、よいコメントにスタンプがもらえることがそれぞれモチベーションの保持・上昇につながる（学生もいる）と思われる。

（２）社会・臨床心理学専攻におけるＦＤ活動に関する取り組み

各教員のＦＤ活動の取り組み

教員個々の特筆すべき FD 上の取り組みを“Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

１．「授業をよりよくするための Tips―その 4―」

日時：2019 年 12 月 6 日（金）　17：00～19：00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：分科会「講義に取り組む様々なワーク（野辺陽子先生）」に参加し、講師の野辺先生自身の工夫に加えて、参加されていた先生方それぞれの講義内でのワークの実際についてお話を伺うことができ、興味深く、貴重な学びの時間となった。互いの労を労うとともに、今後の活力となる有意義な研修会となった。

【学会参加】

１．大妻女子大学人間関係学会総会

日時：2019 年 6 月 25 日（火）12：50～13：30

場所：大妻女子大学多摩キャンパス　大講義室

内容：研究委員会委員長として、研究委員会主催の人間関係学会総会を企画、運営、指導に携わった。当日は人間関係学科社会･臨床心理学専攻の 1～4 年生の学生 10 名が、学会委員として会の進行を自主担当し、前年度の事業報告･決済報告を経て、令和元年度の事業計画等議案が承認されるなど滞りなく行われた。これらの運営活動そのものが、教員はもちろんのこと、学生たちの貴重な経験であり、学びの場となり得たと考えられる。

２．大妻女子大学人間関係学会講演会

「イマドキの若手が語る働くことと生きること
～女子学生への就職・進学・キャリア支援～」

日時：2019 年 6 月 25 日（火）13：30～14：30

場所：大妻女子大学多摩キャンパス　大講義室

内容：研究委員会委員長として、研究委員会主催の人間関係学会運営会を発案、企画、運営に携わり、司会を担当した。講師に小谷哲也さん（株式会社スパイスボックス勤務）と鈴木悠さん（株式会社ラック勤務、本学部卒業 2 期生）のお二人をお迎えし、ファシリテーターの本田周二先生（人間関係学科社会･臨床心理学専攻教員）との座談会形式で、20 代･30 代の男女のキャリアについて実体験を交えて語っていただいた。参加者が総勢 650 名を超える異例の催しとなった。1 時間という限られた時間ではありながら、学生そして教員

にとって充実した学びの時間となった。

3．日本学生相談学会　第 37 回大会

日時：2019 年 5 月 18 日（土）～20 日（月）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：約 20 年ぶりに本学で開催され、大会準備委員長の西河正行先生をはじめ、社会/臨床心理学専攻の教員ならびに臨床心理学専攻の大学院生、学部生がともに尽力し、大会運営にのぞんだ 3 日間となった。大学・学生コミュニティづくり、危機介入、学生相談システムなどをキーワードに昨今の大学学生相談の現場状況の把握や、学生の具体的なニーズの明確化など活発な意見交換が行われ、今後の大学、学部のあり方を考えるにあたり、有意義な時間となった。

【その他】

1．公認心理師試験　筆記試験練習

日時：2019 年 6 月 22 日（土）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理学領域においての国家試験、第 2 回公認心理師国家試験対策の一環として、資格取得を目指す本学修了生を対象に、「筆記試験練習」を企画し、心理相談センタースタッフの協力を得て実施された。過去に出題された設問をもとに作成され、本番と同じスケジュールで実施された。資格試験の現状の把握が可能になるとともに、試験勉強に役立ったと参加者には好評であった。来年度以降も継続の予定である。

2．臨床心理士資格試験　一次試験対策試験練習

日時：2019 年 9 月 14 日（土）10:00～17:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理士資格認定協会により毎年秋に開催される「臨床心理士資格試験」の準備学習として、今年度受験を控えている本学修了生を対象に「筆記試験練習」を企画し、心理相談センターのスタッフの協力を得て実施された。本番同様の時間割が組まれており、参加者は過去問をもとに作成された試験問題を解き、その場で自ら採点をすることで、各々が不足している学習領域に気づき、具体的な問題点が明確になるため、その後の試験勉強が進めやすくなるなど、参加者に好評であった。今年度の受験予定者全員が受講した。

3．臨床心理士資格試験　二次試験対策試験練習

日時：2020 年 1 月 4 日・11 日（土）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理士資格認定協会により毎年秋に開催される「臨床心理士資格試験」の準備学習の一環として、本学修了生で、今年度 1 次試験合格者の受験を対象に「面接試験練習」を企画し、心理相談センターのスタッフの協力を得て実施を行った。本番と同じスケジュールで、想定される部屋の配置と面接官の人数とで、模擬面接による練習が行われた。面接における受け答えや挨拶、その他注意すべき点等について個別指導を行い、実践的な 2 次試験対策となった。今年度の 1 次試験合格者全員が

受講した。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1.「キャンパスライフ・サポートブック―こころ・からだ・くらし―」（ミネルヴァ書房、2019）

内容：筆者が担当する全学共通科目の「キャンパスライフとメンタルヘルス」の講義で、日頃から学生たちに伝えている内容や学生たちからのフィードバックを参考にしながら、有意義な大学生活を送るために、新入生に必要な心構えや、入学前準備、および入学後のメンタルヘルスケアに役立つ自記式のサポートブックを 2019 年 5 月に、古田雅明先生との共同執筆で刊行した。具体的には大学についてのガイダンスに始まり、大学生の暮らしにおいて日常的に問題となることや（勧誘、ハラスメント、盗難ほか）、心の病について知識、さらには心の健康を保つための具体的な対策などが含まれる。今年度より、上述の講義での指定教科書とされ、学生たちにも概ね好評であった。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．授業名「キャンパスライフとメンタルヘルス」における書き込み式レジメの作成

内容：授業のなかで学生たちの主体的な学びを促進するために、重要なポイントは敢えて空欄とし、学生自らが重要なキーワードをピックアップして書き込むことで授業内容の理解を深めるスタイルのレジメを作成した

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．全ての授業における教材の改訂

内容：昨年度の授業評価アンケートの結果や、心理臨床領域での新しい知見や研究動向を参考にしつつ、授業で使用する教材全ての改訂を行った。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．授業におけるリアクションペーパーの活用

内容：毎回、授業実施後にリアクションペーパーの提出をもとめ、学生たちに授業について理解した内容、疑問に思うことなどをまとめてもらい、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解に役立てた。また、教室の環境改善についてもコメントをもとめ、意見を収集して実際に改善を図るといった取り組みも行われた。直筆のリアクションペーパーの利点は、コメントの内容もさることながら、時として学生たちのコメントの内容筆跡の乱れに健康状態を察知することが可能な点、そして授業終了直後の彼らの意見を収拾することが可能な点にあると思われる。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．著書：「キャンパスライフ・サポートブック―こころ・からだ・くらし―」
（ミネルヴァ書房，2019）

内容：有意義な大学生活を送るために、新入生に必要な心構えや、入学前準備、および入学後のケアに役立ててもらえる自己学習式の書籍を共同執筆で発刊した。内容とし

ては、大学についてのガイダンスに始まり、大学生の暮らしにおいて日常的に問題となることや（クレジットカードの使い方をはじめ、自然災害への対策、勧誘・ハラスメントへの対応、盗難時の対策など、生活上の危機への対策）、心の病についての必要な知識、さらには心の健康を保つための対策などが含まれる。

2．論文：「“絵を描く”ということⅡ
―青年期・成人期における描画体験の意味と有効性について―」（2020）
（人間関係学研究　大妻女子大学人間関係学部紀要　21 号　p.95-110）

内容：青年期・成人期の一般成人、74 名を対象とした研究である。一般成人が描画を行うことの意義として、「異質性に開かれること」「冒険としての描画」「聴き手ならではの相互交流」の 3 点がまとめられた。中でも他者との良質な相互交流を可能にし、情緒体験を豊かにするという点で、有益なものであると結論づけられた。このことは、講義におけるグループワークにおける描画というツールの活用や、地域住民を対象とした地域貢献での活用など、今後の活動に大いに役立つ知見を提供することとなった。

3．小論：「女子大生にすすめる 50 冊」大妻ブックレットの 2 編（2019）

内容：M.エンデの『モモ』と、おーなり由子氏の『ことばのかたち』の 2 冊の本について、女子大学生向けに紹介文・推薦文をまとめた。本を読むと言う習慣が、他のモノには替えがたい体験をもたらすという主旨で、学生たちに読書の面白さを呼びかけるとともに、筆者自らも改めて書物のもたらす特有の効果について思索する機会を得た。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1．日本ユング心理学会　第 8 回大会

日時：2019 年 6 月 1 日（土）～2 日（日）

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内

内容：人間の心の動き（元型）について、文化人類学の視点から考察を行うといったプレコングレス・ワークショップに始まり、教育、医療、司法などさまざまな現場における困難事例への対応について、情報交換と活発な意見交換がなされた。ここでの学びは、主に、大学院臨床心理学専攻における講義や日々の学内実習での指導等に活用された。

2．日本心理臨床学会　第 38 回大会

日時：2019 年 6 月 6 日（木）～9 日（日）まで

場所：パシフィコ横浜

内容：トラウマに対する心理支援やストレスマネジメントにおける予防教育を含む「心理臨床における『こころ』と『からだ』」をテーマに開催された。公認心理師が誕生して初めての学会開催となり、時代の変化にともなって、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野にて求められる心理職の働きとは何か、求められる心理支援とは何かを巡り、活発な意見交換が成された。後日、大学院臨床心理学専攻の講義の中で、大学院生らとともに、それぞれが注目した発表について情報交換

の場を設けるなどして、学会での学びを自らの研究や実践にいかに活かすのかについて活発な議論となり、有意義な時間となった。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．「女子大学における教育カリキュラムの体系化―国家資格による変化に着目して―」
（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、上記内容の研究に共同研究者として参加した

福島哲夫

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【学会参加および発表】

1．第 24 回日本産業カウンセリング学会ラウンドテーブル（2019 年 8 月 25 日：大妻女子大学千代田キャンパス）にて「キャリアカウンセリングにおける統合的視点の必要性―支援者へのキャリアカウンセリング―」と題して、とくに臨床心理士に対してどのようなキャリア支援と卒後教育をしていくべきかを具体的に論じた。

2．日本心理学会　第 84 回大会　公募シンポジウム 27「心理学の基礎と臨床をつなぐ―心理科学と心理支援をつなぐ―」の指定討論として、今後の心理師（士）のあるべき方向性について論じた。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．福島哲夫監修、『公認心理師第 1 回国家試験問題解説集（学研メディカル秀潤社）を監修・執筆した。今後、公認心理師資格取得を目指す学部生、大学院生の参考書になる予定である。

2．福島 哲夫共編著 『心理学的支援法』北大路書房

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

臨床心理士とその指導者をどう育てるかというテーマについての実践研究を重ねてきたが、その成果を日本心理臨床学会第 38 回大会において西野入篤氏とともに「メタ・スーパーヴィジョンの効果と意義に関する実践研究―20 代ヴァイジーへの 3,40 代ヴァイザー、そして 50 代のメタ・ヴァイザーによる介入とその効果―」と題して発表した。

古田雅明

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．学部 FD 研修会

日時：2019 年 12 月 6 日

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：専任教員とアクティブラーニングに関する意見交換ができ貴重な体験となった。

2．企画した研修会「多摩精神分析セミナー・アセスメントコース」

日時：2019 年 4 月から 2020 年 2 月　年 6 回隔月第一日曜日

内容：本学出身の臨床心理士・公認心理師のフォローアップ研修となり、院生教育に何が必要かを知る機会となった。

3．企画した研修会「論文抄読　ハンスの会」

日時：2019 年 4 月から 2020 年 3 月　年 12 回毎月第一土曜日

内容：大学院生と大学院修了生、精神科医師と共に精神医学、臨床心理学に関する論文を抄読する会の講師を務めた。現役の大学院生と修了生が交流する場となった。

【学会参加】

1．日本学生相談学会第 37 回大会

日時：2019 年 5 月 18 日から 20 日

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：開催校の事務局長として準備と運営にあたった。

2．初年次教育学会

日時：2019 年 9 月 6 日から 9 月 8 日

場所：創価大学

内容：初年次教育に関する最新の知見を得るとともに他大学の教員と情報交換をした。

3．動物介在教育・療法学会　第 12 回学術大会

場所：東京福祉大学

内容：初年次教育に関連する動物介在教育に関し他大学の教員と共同研究発表をした。

4．日本子ども虐待防止学会第 25 回学術集会ひょうご大会

日時：2019 年 12 月 21 日から 12 月 22 日

場所：神戸国際会議場

内容：児童虐待防止に関する最新の知見を得た。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．テキスト「キャンパスライフサポートブック　こころ・からだ・くらし」（香月菜々子・古田雅明著　ミネルヴァ書房）

内容：全学共通科目の「キャンパスライフとメンタルヘルス」の教科書として作成した。受講生以外にも学部ゼミや大学院生の指導のために適宜授業内でテキストとして用いた。

2．テキスト「カウンセラーになる　心理専門職の世界　（大妻ブックレット　3)」（尾久裕紀・福島哲夫編　日本経済評論社）

内容：第 4 章「カウンセラーとして働く」について執筆した。公認心理師・臨床心理士の資格受験を目指す学部生のために適宜授業内で用いた。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．「臨床心理学面接特論Ⅱ」における模擬試験

内容：公認心理師国家試験ならびに臨床心理士資格試験の受験対策として、模擬試験問題を独自に作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．ゼミにおける課外活動

内容：3 年生のゼミと社会・臨床心理学研究法の時間を利用して横浜地方裁判所に行き刑事事件の裁判傍聴を行った。臨床心理学の知識を用いて刑事問題をどう理解するかについて演習を行った。

2．外部講師を招いた授業

内容：大学院生を対象とした授業において、都内総合病院で臨床医をしている精神科医を招いて心理職向けの精神科領域における薬物療法の講義を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．論文「精神科臨床心理実習における教育目標と実習生の学び ―実習記録のテキストマイニングから―」（筆頭著者　古田雅明　大妻女子大学人間生活文化研究　第 29 巻）

2．日本健康心理学会編「健康心理学事典」（丸善）の「精神分析的心理療法」を執筆した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1．学会発表「動物介在活動・療法（AAA・AAT）を取り入れたオフキャンパスプログラムの開発―馬介在活動の応用可能性について―」（筆頭発表者：横川滋彰（関西国際大学）　動物介在教育・療法学会　第 12 回学術大会）

内容：他大学の教員と初年次教育に関連した動物介在教育の実践研究を発表した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．「中堅心理臨床家のキャリア形成プロセス」（研究代表：古田雅明）

内容：本学戦略的個人研究の研究助成を受け、上記の共同研究を行った。

2．「ロールシャッハテストの力動的継起分析の初期教育に関する研究」　（研究代表：加藤佑昌（専修大学））

内容：精神分析武田こころの健康財団の研究助成を受け、上記の共同研究を行った。

本田周二

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．全学ファカルティ・ディベロップメント委員会主催研修会

日時：令和元年 6 月 7 日（金）16 時 30 分～18 時 00 分

場所：千代田キャンパス本館 E 棟地下 1 階 055 教室

多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 講義室

内容：「成績評価についての FD」

講師：沖裕貴 氏

（立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長）

2．学部 FD 研修会「授業をよりよくするための Tips―その 4―」

日時：2019 年 12 月 6 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：山蔦先生の「多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは」というタイトルの発表を伺い、教職員で意見交換ができ、大変有意義であった。

【学会参加】

1．日本学生相談学会第 37 回大会
日時：2019 年 5 月 18 日（土）～20 日（月）
場所：大妻女子大学多摩キャンパス

2．大学教育学会第 41 回大会
日時：2019 年 6 月 2 日（日）
場所：玉川大学

3．未来のマナビフェス
日時：2019 年 8 月 21 日（水）、22 日（木）
場所：東京工科大学

4．日本教育心理学会第 61 回総会
日時：2019 年 9 月 14 日（土）～16 日（月）
場所：日本大学

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．テキスト「カウンセラーになる　心理専門職の世界　（大妻ブックレット　3)」(尾久裕紀・福島哲夫編　日本経済評論社)
内容：第 1 章「心理学を学ぶ―社会心理学を中心として」について執筆した。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．授業名「社会心理学実験研究法（心理学実験)」における小テストおよび回答の作成
内容：予習の理解度をはかるための予習理解度小テストおよび回答を作成した。

2．授業名「基礎統計学Ⅱ」における自主学習課題の作成
内容：冬休みに自主学習するための学習課題を Excel で作成し、manaba で配布した。

3．授業名「教育心理学」における予習メモの作成
内容：授業外学習時間を増やし、学生の理解を促進するためのツールとして予習した内容についてまとめるための予習メモを作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．授業における manaba の活用
内容：毎回、授業実施後に manaba において学生に授業についてのコメントを書いてもらい、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。

2．授業における予習メモの活用
内容：毎回、授業前にこちらが指定した教科書の内容について予習メモにまとめてきてもらい、授業中にペアもしくはグループで予習メモをもとに学び合いをさせた。その

後、補足の説明をすることで授業時間外の学習の促進及び知識の定着を促した。

3．3 年ゼミでの個別面接

内容：半期ごとに一人に対して 30 分程度の個別面談を行い、サポートを行った。

4．4 年ゼミでの個別指導

内容：全体ゼミとは別に個別ゼミを定期的に実施することで、一人一人の進度に合わせた指導を行った。

5．新 3 年ゼミでの個別面接

内容：次年度ゼミ配属の決まった学生一人に対して 30 分程度の個別面談を行い、サポートを行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．論文「授業内の他者との関係に対する認識がアクティブラーニング型授業における外化に及ぼす影響」（大学教育学会誌第 41 巻 1 号）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．「女子大学における教育カリキュラムの体系化―国家資格による変化に着目して―」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、上記内容の研究を行った。

八城　薫

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．全学ファカルティ・ディベロップメント委員会主催研修会

日時：令和元年 6 月 7 日（金）16 時 30 分～18 時 00 分

場所：千代田キャンパス本館 E 棟地下 1 階 055 教室

多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 講義室

内容：「成績評価についての FD」

講師：沖裕貴 氏

（立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長）

2．人間関係学部 FD 研修会

日時：令和元年 12 月 6 日（金）17 時 00 分～18 時 30 分

場所：多摩キャンパス 7 号館 7247 教室ほか

内容：「マルチスクリーンの活用：ビデオお越しと授業内容の提示」

話題提供：井上修一氏

3．全学ファカルティ・ディベロップメント委員会主催研修会

日時：令和 2 年 1 月 30 日（木）16 時 00 分～18 時 00 分

場所：千代田キャンパス大学校舎 A 棟 1 階 155 講義室

多摩キャンパス 7 号館 1 階 7127 講義室

内容：「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」

講師：沖裕貴 氏
（立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター副センター長）

【学会参加】

1．APacCHRIE & EuroCHRIE Joint Conference
日時：2019 年 5 月 22 日～25 日
場所：HOTEL ICON （Hong Kong）
内容：観光およびホスピタリティ教育に関する学会にて口頭発表

2．日本心理学会第 83 回大会
日時：2019 年 9 月 10 日～13 日
場所：立命館大学
内容：ポスター発表

3．第 12 回動物介在教育・療法学会学術大会
日時：2019 年 11 月 8 日～10 日
場所：東京福祉大学池袋キャンパス
内容：口頭発表

4．日本観光研究学会第 34 回大会
日時：2019 年 12 月 14 日～15 日
場所：名桜大学
内容：口頭発表

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」（増版に伴う改訂）
内容：研究法における質問紙調査の位置づけ、研究倫理を含む質問紙調査研究のための実践的テキスト。授業名「社会心理学調査研究法」のテキストとして使用した。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．授業名「社会心理学調査研究法」における補助資料および演習マニュアル、論文評価ルーブリックの作成
内容：SPSS, Excel を用いた統計的分析、結果の整理、調査票の作成などの詳しい解説資料を作成した。また最終課題を評価する際の論文評価ルーブリックを作成した。

2．授業名「心理統計学」における SPSS 演習マニュアルおよび演習問題の作成
内容：SPSS を用いた分析から結果の整理・記述のための解説教材を作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．manaba ニュース、アンケート、コンテンツの活用
内容：毎回授業後に、今週の授業への取り組み姿勢、授業内容の理解、質問・意見などを振返り課題として設け、授業内容についての即時的なフィードバック（改善）に取り組んだ。

2．クラス分けアンケートの実施（「基礎統計学Ⅰ」）

内容：クラス別ガイダンスに web アンケートを実施し、数学および PC 操作技能に関する問題を含む簡単なアンケートを実施し、知識・技能レベルを合わせたクラス編成を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．紀要論文

内容：学生による授業評価に関する研究（2）―授業満足度に影響する要因の検討―（大妻女子大学人間関係学研究, 20 巻）

２．人間福祉学科

１）福祉実習発表会・福祉実習教育懇談会　【福祉実習委員長　嶋貫 真人】

2019年度の福祉実習発表会(人間関係学会福祉分科会)および福祉実習教育懇談会が2019年12月10日に開催された。

当日は社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各課程の実習を行なった学生の中から9名が選ばれ、スライドを使って実習中の学びについて報告した。各報告は、実際に利用者と向き合わない限り決して到達することのできない奥深い考察に満ちており、あらためて福祉現場実習のもつ意義について実感させられる時間であった。また例年と同様、実習を行なった施設・機関から多くの指導者の方にご参加いただき、終了後には温かいコメントも寄せてくださった。

毎年この実習発表会は、来年度以降に本格的な現場実習をひかえている1・2年生にとって、将来の進路選択も含めた大学での学習への意欲を最も強く喚起させられる場となっている。また同時に、日々の授業の中で学んでいる福祉援助等に関する専門用語が壇上で報告する先輩の口から具体的な支援場面を通して語られるのを聞き、座学の内容が現場実践でどのように活かされるのかを知る機会ともなっているのである。





２）国家試験対応及び受験対策講座　【国家試験対応委員　松山 博光】

人間福祉学科は、1年次から学科の正規授業の中に社会福祉士（SW）・精神保健福祉士（PSW）・介護福祉士（CW）に係る国家試験の指定科目を設置しており、卒業後に福祉現場・医療施設等で役立つ国家資格の専門職を養成している。とくわけ、これらの国家資格を現役合格出来るように2年次から受験指導等を行っている。

今年度の受験対応は、1. 模擬試験の実施、2. 特別講座の開講、3. 国家試験の手続き及び個別学習指導及びグループ指導の支援である。一昨年度からは、介護福祉士国家試験が本学科に課されたことに伴い、全員合格を目指して介護福祉士養成に向けて本格的な受験指導に取り組んだ。

今年度の受験対応等は、以下の通りである。

①国家試験に向けた模擬試験の実施

社会福祉士模擬試験については、2年生（希望者）・3年生（希望者）・4年生に対して、年4

回実施した。精神保健福祉士模擬試験は、精神保健福祉士履修課程受講者 2 年生（希望者）・3 年生・4 年生を対象として、年間 3 回実施した。介護福祉士模擬試験は、3･4 年生に対して年 4 回実施した。

受験指導では、すべての模擬試験の受験後の自己学習を重視している。今年度も実践現場で働く先輩を講師として招き、いかに苦手科目を克服したか、どのような効果的な勉強法があるか等々を具体的な資料を示しながら指導した。また毎回、各学年に応じた勉強方法と課題を提示している。提出された課題については、クラス担任やゼミ担当教員で分担し、学生個別の学習進捗状況に応じたコメントを付けて返却した。









②本学科教員による国家試験直前の特別講座

社会福祉士については、特に受験する 4 年生を対象に本学科専任教員による指定科目の特別講座を後期授業期間（授業外）に実施した。

特別講座は、今年度実施した 4 回分の国試模擬試験の結果を分析した上で「正答率の低い科目」や「点数がより伸びる科目」を選定し、5 科目に絞り込んで指導した。この国家試験直前の特別講座は、受講は強制ではないが、ほぼ全員が受講した。

介護福祉士については、夏季休暇中の集中的な受験対策講座と国家試験前の 1 月に直前講座を実施し、模擬試験結果で明らかになった正答率の低い指定科目を中心に取り組んだ。






③受験手続、個別学習指導及びグループ学習の支援

受験手続きの支援等は、受験する 4 年生に対して受験説明会の開催と共に事務部と連携しながら願書の書類作成を具体的に指導した。同時に受験日までの学習の進め方や前日や当日の心構え等について説明する機会を設けた。

そして、恒例の 4 年演習ゼミを中心に各担当教員による個別指導とグループ学習支援を実施した。特に精神保健福祉士コースや介護福祉学専攻では、専任教員による国家試験指定科目への受験指導をきめ細かく実施した。

また今年度も学期中及び夏、冬、春の長期休暇中に自習室を確保し、学生が各自の勉強スケジュールに合わせて学習できる環境を整えた。年末年始も含め、夜遅くまで勉強する学生に対して学科教職員だけでなく、事務職員をはじめとする多摩キャンパスのスタッフが一丸となって国試受験への様々な支援を受けた。

3）複数教員で担当している科目における教員間の連携

社会福祉士等の国家試験受験資格取得のための教育課程においては、将来実際に福祉現場に就職した際に直面する多様な問題への対応能力を養うため、1 クラス 20 人以下の少人数で編成される講座を開講している。国家試験指定科目の授業担当者を構成していくためには、専任教員だけでは人数が足りず、必然的に非常勤講師の力に頼ることになる。各講座の教育目標やシラバスの内容、あるいは成績評価の方法等の基本的事項について、全教員が共通認識を持って授業に臨む必要がある。

そこで、学期の開始前に打ち合わせの会を設定し、前期の授業担当者懇談会の機会を利用して意見交換を行う等、科目担当者間の連携を密にするための努力を日頃から心がけている。

①相談援助実習指導、実習事前・事後指導【嶋貫 真人】

社会福祉士受験資格取得課程を希望した学生にとって、同課程のために開講されている多くの科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、多くの者が 3 年次に履修する「相談援助現場実習」である。

現場での実習に臨むにあたっての準備段階の授業として、まず 2 年前期に「相談援助実習指導Ⅰ」の授業が開講されている。この授業では、実際に障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で相談援助業務に従事しておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、その仕事の魅力や学生に要望したいこと等を伝える機会をもうけている。また、 2 年生の夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員の必須課題として設定しており、サービス利用者とコミュニケーションをとることの楽しさ・難しさを、この機会に知ってもらうことを目指している。そして、このようなプロセスを経て、それまで漠然としたイメージとして描いているだけだった「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な目標として見えてくるようになるのである。

2 年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、「相談援助実習指導Ⅰ」の内容をさらに発展させた形で、現場実習において要求される実践的な能力（利用者との面接技法、ケース記録の書き方等）を学ぶことになる。また、この授業の中で実施される実習配属試験において、次年度に実習を行なうために必要な基礎的な知識が身に付いているかどうかの判定を行っている。そして、この試験で一定以上の得点をあげた者だけが、社会福祉士課程の次のステップに進むことができることになる。なお、2 年次の秋には、次年度においてどの分野での実習を希望するのかの意思表示をしてもらうため、障害者・児童・高齢者・地域の各福祉分野の実習指導を担当する教員が、それぞれの分野での現場実習の内容を具体的に解説する時間ももうけている。

3 年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の授業は、夏実習組と春実習組とでカリキュラムの進行が異なってくるが、いずれも高齢・障害・地域・児童の実習分野ごとに現場で求められる専門知識を身に付けていく。このように実習分野ごとに分かれたクラス編成になることで、授業担当者間で指導内容の統一性が保てなくなる危惧もあるが、そのようなマイナス面は毎月開催される「実習委員会」の場で補うようにしている。また、実際に実習がスタートした後においても、実習指導担当教員や実習担当助教による巡回指導・帰校日指導の内容は、すべて WEB 上に登録されて指導に関わるスタッフ全員がこれを閲覧することができるようになっている。そのため実習開始後に何らかの指導上の留意点等が発生した場合においては、随時この WEB 情報を確認することで相互の意思統一を図ることができるようになっている。

②相談援助演習【井上 修一】

実践能力の高い社会福祉士になるためには、知識の習得を基礎にしながらも、実習・演習科目のなかで、体験的に理解を深めていく必要がある。

本学においても、厚生労働省のシラバスに沿った内容を踏まえ、よりきめ細かい教育実践に努めている。そのため、相談援助演習をⅠ～Ⅴに分け、それぞれ段階的に、また共通シラバス

をもとに授業を行っている。ちなみに相談援助演習Ⅰ・Ⅱはミクロ、Ⅲはメゾ、Ⅳはマクロ、Ⅴは統合的な位置づけとなっている。今年度も相談援助演習Ⅳにおいて多摩市の 10 エリアの地域課題とその解決に向けた事前学習とフィールドワークを実施した。多摩市地域福祉計画から地域課題を抽出し、さらに、エリアごとの住民団体を調べて、実際にフィールドワークを行いながら、課題解決の道筋をまとめた。今後は、この試みをさらに深め、多摩市の地域課題の解決に実際に貢献できればと考えている。

本学科では、実習と演習の連動性を意識され、理解の深まりを下支えしている。各演習を取りまとめるのは常勤の教員であり、非常勤講師との情報共有が丁寧になされるだけでなく、それぞれ工夫された教材を持ち寄り、学生にとってわかりやすい授業展開を試みている。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【丹野 眞紀子】

本科目は、入学直後の 1 年前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った視点から多様な福祉実践のあり様を学び､大学での学習に求められる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的としている。「社会福祉学基礎セミナーⅠ」は 6 名の教員が担当し、1 クラス 20 人以下の少人数制をとっていることから、学生が個性を発揮しやすい。

内容としては、3 つのテーマを掲げている。1 つ目のテーマは、「福祉の世界の扉を開こう」とし、担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、「利用者、援助者両者の立場で考察してみよう」をテーマに、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験を行う。3 つ目のテーマは「福祉の現場を知り、自分の目で見て学んでこよう」とし、福祉現場の実践者から話を聞くこと、学生自身が国立ハンセン病資料館を見学し、ハンセン病をめぐる福祉・社会問題についてクラス内で発表する、というものである。1 年次の前半で、福祉実践の多様性を知り、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学び、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分を身に付けられるようにプログラムを構成している。そのため、上記 3 つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」を意識したレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。特に、レポートについては、担当教員から翌週の授業時に学生へ返却し、返却時には記述のアドバイスを必ず行い、学生の学習意欲と文章作成力の向上を狙った。

また、進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有を重要視した。授業期間開始前、期間中も複数回、また最終評価時にも担当者が打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないよう配慮した。その他、学生が意欲的に授業に臨めるよう、学生が提出したものについては、担当教員がコメントを寄せて返却している。

施設見学やプレゼンテーションは、入学後間もない 1 年生にとって負担もあったようだが、達成感も見受けられた。少人数制の授業ということで学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れ、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【嶋貫 真人】

前期の「セミナーⅠ」で大学での学びに必要な基礎的素養を身に付けたことをふまえ、本授業ではさらにそれを 2 年次以降の専門科目の学習へと発展させていくための橋渡しの役割を担

っている。具体的には、「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」という共通テーマを掲げて、15〜17 名程度の少人数クラス（6 つ）に分かれ、それぞれの担当教員が作成したシラバスに沿った授業を提供している。上記の共通テーマは、多分に社会福祉士等の現場実習で求められるコミュニケーション能力や実習日誌作成能力等の涵養を意識して設定されているものではあるが、同時に一般企業への就職を目指す学生も想定して、ビジネス現場で役立つ実務能力の養成も視野に入れている。また、この「基礎セミナーⅡ」で修得した内容は、3・4 年次の「社会福祉学セミナー」における主体的学習を支える土台ともなる資質であると考えられる。

このような本講座の趣旨に照らして、本授業では学生自らが主体的に学ぶ過程を特に重視している。具体的には、15 回の授業の中の終盤のおおむね 5 回程度を「グループ研究」の時間にあてており、2〜4 名程度で構成されたグループのメンバーが話し合って研究テーマを決め、それについて図書館やインターネットを使って資料を収集した後、グループ内で議論を行なう作業を課している。そして、この小グループによってまずクラス内で研究発表が行なわれ、さらに 2019 年度の場合、14 回目の授業時間を使って全クラス合同授業の形で、各クラスから選抜されたグループ 1 つがスライドを使って研究発表を行った。

2019 年度の 6 名の科目担当者の内訳は、「専任教員 5 名＋非常勤 1 名」という構成であったが、非常勤講師の方とは開講前の打ち合わせ会議や日常のメール等を利用して頻繁に連絡を取り合い、共通テーマに沿った授業展開を行えるよう工夫している。

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

介護福祉士養成教育のカリキュラムに合わせ、介護実習は「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である 450 時間の 3 割を占め、介護過程の展開を目的としている。介護福祉学専攻では、平成 28 年度より、既存の「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」に加え、「介護入門実習」を取り入れて、5 段階に分けて介護実習を実施している。「介護入門実習」は、1 年次に 5 日間、「介護実習Ⅰ」は、2 年次に介護老人保健施設で 12 日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3 年次に障害児・者施設で 12 日間、「介護実習Ⅲ」は、3 年次に介護老人福祉施設で 28 日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4 年次に居宅介護サービス事業所で 5 日間を実施する。また、「介護入門実習」は、「介護実習Ⅲ」で配属される介護老人福祉施設で 5 日間見学実習として実施され、3 年次の「介護実習Ⅲ」での学びを深めることを目的としている。介護実習は、1 年次から 4 年次までの間に、計 57 日間、456 時間実施される。本専攻では、各段階の実習目標が達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開している。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ〜Ⅳ」を 2 年次前期から 3 年次後期に配当している。「介護総合演習」では、グループ演習を通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などへの知識習得を目指すほか、実習後のフィードバックを通して介護施設や利用者支援への理解を深めている。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業でケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥生活支援技術・介護技術科目【佐藤　富士子】

介護は生活能力が加齢や障害によって低下し、今まで自分で出来ていたことが出来なくなると言う変化が生じることで必要とされる業である。そして、介護学は人の役に立つことを目指した実践学としての学問ともいえる。方法論としてあるのが科目「生活支援技術」や「介護技術」であり、技術は単なる手順として身につけていくものではなく、生活における人の基本動作を理解し、加齢や障害でその動作が出来なくなった場合どのような支援をしていけばよいのかを具体的に考え、判断する、行動できることを目指す。

どのような科目を履修するか、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、利用者の「起き上がる」「座る」「立ち上がる」「歩く」といった日常生活の基本動作や介護動作の基本を中心に学ぶことができる。さらに、基本動作の関連する技術を基盤として、移動・更衣・食事・排泄・清潔等に関する具体的方法を身につけことが生活支援技術あるいは介護技術です。また、生活の延長線上には死があります。心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアができるようになるにも介護技術です。

技術は一つの技術を単独で身につけるものではなく、A と言う技術の積み重ねで B があるというように関連させて身につけていくものである。当科目は複数教員が同時に指導に入るため、授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から介護技術を実施・評価し、考えて実践する力を高めている。

介護は技術を用いて支援することが多くありますが、実践には介護の必要な人に対し、Dignity（尊厳的観察）, Risk（リスク回避的観察）, Independence（自立的観察）, Physical（身体的観察）の 4 つの観察力を持って行うことが重要です。

４）地域連携プロジェクト

①障害者雇用企業との連携による T ボール大会の開催【小川　浩】

令和 1 年 4 月 28 日（日）、大妻女子大学多摩キャンパスにおいて「多摩障害者雇用企業 T ボール交流大会」が盛大に開催された。障害者雇用を目的として設立された子会社（特例子会社）で働く障害者の T ボール大会であり、企業側実行委員会と人間関係学部の学生有志の連携によって運営されている。多摩キャンパスにおいて開催されるのは 4 回目。年々参加者が増えており、今回は応援を含めて 900 人を超える人々が参加した。企業からの参加は 19 社 29 チーム。学生側は小川ゼミ 3 年生と呼び掛けに応じて参加した 2 年生、併せて 26 人。学生は各チーム 1 人ずつ振り分けられるため、当初は緊張した様子だったが、一緒に応援しプレーすることを通してすぐに打ち解け、終わるころにはすっかりチームの一員として馴染んでいた。

これに加え、本年度は 10 月 20 日（日）、大妻女子大学多摩祭 2 日目に、大妻多摩祭 T ボール交流大会を開催した。前述の大会と異なり、こちらは小川ゼミの 3 年生が主催者となって大会全体を切り盛りする。全体の企画、実施要領作成、参加チーム募集、ボランティア募集、審判の依頼、パンフレット作成等一連の準備を行い、当日も中心となり運営を行った。参加チームは 9 チーム。約 200 人の選手と関係者が、T ボール大会だけでなく学生の出店や展示を楽し

み、多摩祭を賑やかにしてくれた。昼休みには、チア部 LYNX がグラウンドで演技を披露。大会を一層盛り上げた。

このように、多摩キャンパスにおける T ボール大会は、グラウンドを貸し出すだけでなく、学生が主体的に参加し、1 つの地域連携イベントを企画・運営するまでに発展してきている。学生は障害のある人と交流するだけでなく、企業の人と連携・協力し、1 つのイベントを企画、運営する社会的経験を得ることができている。人間福祉学科では、平成 30 年度に厚生労働省から、高等教育機関として初めて職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修機関の指定を受けた。今後、ジョブコーチの資格を取得した卒業生を就労支援や障害者雇用の分野に輩出していく予定である。T ボール大会を経験した学生が、地域の特例子会社にジョブコーチとして就職し、企業側のスタッフとしてグラウンドに戻ってくることも夢ではない。





（１）人間福祉学科におけるＦＤ活動に関する取り組み

各教員のＦＤ活動の取り組み

各教員の FD 活動の取り組みとして、「I「企画」あるいは、「参加」した教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という 3 項目をまとめた。

①井上　修一

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

１．FD 研修会「成績評価についての FD」

日時：2019 年 6 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 講義室

内容：「成績評価のためのルーブリックの活用」

講師：沖裕貴氏（立命館大学教育開発推進機構 教育・学修支援センター 副センター長）

２．2019 年度人間関係学部 FD 研修会

日時：2019 年 12 月 6 日(金)　17:00～19:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス　7 号館 1, 2 階 7127, 7247, 7283, 7284

内容：「授業をよりよくするための Tips ―その 4― 」

講師：第 1 分科会〈7127 室〉井上修一/マルチスクリーンの活用：ビデオ起こしと授業内容の提示

第 2　〃　〈7283 室〉野辺陽子/講義に取り込む様々なワーク

第 3　〃　〈7284 室〉山蔦圭輔/多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは

３．FD 研修会

日時：2020 年 1 月 30 日（木）16:00～18:00

場所：千代田キャンバス大学校舎 A 棟 1 階 155 講義室

同時中継多摩キャンパスフ号館 1 階 7127 講義室

内容：「成績評価のためのルーブリックの活用」

グループに分かれてそれぞれの授業に対応した採点用ルーブリックを実際に作成するワークショップ形式の研修会

講師：沖裕貴氏（立命館大学　教育開発推進機構 教育・学修支援センター 副センター長）

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

１．著書『介護福祉士国家試験解説集』（中央法規）

内容：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立

過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法に定める義務規程と、日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

１．全ての授業における教材の改訂

内容：昨年度の授業評価アンケートの結果や近年の当該領域の研究動向などを参考にしながら、全ての授業に関して、使用する教材の改訂を行った。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

１．授業におけるコメントカードの活用

内容：毎回、授業実施後にコメントカードを書いてもらい、次回の授業でフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。

２.「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で５年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。

３.「相談援助実習事前指導」の授業において、障害を持った当事者と家族の方を招き、実習生として学ぶべき事柄や関わる姿勢について教えていただいた。当事者･家族から学ぶことは、援助者として重要なことであり、貴重な機会となった。

【その他】

２．オフィスアワーに関する意見・感想

通年金曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。

３．クラス指導の状況

クラスのメンバーの名前を把握しながら、資格取得の相談、奨学金の紹介、インフルエンザ等の欠席後の相談を行ってきた。資格取得の相談において、部活動との両立に悩む学生がおり、出来るだけ学業と両立できるように受験スケジュール等を検討中である。このように、個別指導が少しずつできている。

４．クラス指導を行う際に工夫している点

できるだけ早い時期に名前を覚え、教室での様子、学内での友人関係等を把握しながら、個別に対応できるように工夫している。今年度はその成果が少しずつ見られ、ボランティア先での悩み、進路等についても気軽に相談できる雰囲気ができてきた。

５．クラス指導に関する意見・感想

特になし。

②上野　優子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．全学 FD 研修会「成績評価について」
　日時：2019 年 6 月 7 日（金）
　場所：多摩キャンパス

2．学部 FD 研修会「マルチスクリーンの活用」
　日時：2019 年 12 月 6 日
　場所：多摩キャンパス

3．全学 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」
　日時：2020 年 1 月 30 日
　場所：多摩キャンパス

4．東京消防庁上級救命講習
　日時：2019 年 7 月 5 日（金）～7 日（土）
　場所：戸塚消防出張所内

5．日本赤十字社救急法基礎講習
　日時：2019 年 8 月 3 日（土）
　場所：日赤大森病院内

6．日本赤十字社救急法救急員養成講習
　日時：2019 年 9 月 11 日（水）～12 日（木）
　場所：日本赤十字社東京都支部

【学会参加】

1．日本体育学会第 70 回大会
　日時：2019 年 9 月 10 日（火）～12 日（木）※10 日のみ参加
　場所：慶應義塾大学日吉キャンパス

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．「スポーツと健康」ノート形式のテキストブック
　内容：スポーツ、健康、美容、加齢、栄養等の身体に関する事柄をキーワードに、テキストブックを作成した。授業中は、PP にて解説したが、170 名の履修学生からは、内容の理解に差があり過ぎ、どちらかと言うと不評だった。再考する。
　予習、復習等に活用できるようにしたい。

2．「レクリェーション関連の授業について」
　内容：レクリェーション・インストラクターならびに福祉レク・ワーカーの資格取得に必要な科目であるので、新しい内容や海外からの新種目の情報を入手し、他大学の教員とともにミニ・ハンドブックを作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．講義科目は、大人数の授業展開のため、学力に差があることが予想されたので、高等学校まで習得していると思われる内容を中心に、事前のミニ・テストを項目が変わるごとに実施した。これらの回答を基に授業を進めるが、基本を解説すれば内容に物足りなさを感じる学生もおり、授業の焦点のあてる水準を考える上では大変有効であった。

【その他】

1．救命救急法における各団体への講習の参加を行った。これは、資格期限の更新も含め、主に日赤と東京消防庁主催の講習会に参加し、指導者としての教え方に両者に特有のコツがあるのでそれぞれの利点を自分自身でまとめるものである。スポーツ関連の授業には、大変参考になっている。

2．オフィスアワーに関する意見・感想

全学共通科目を担当しており、福祉学科のみならず他学部、他学科の学生からの相談も多くあった。運動部所属の学生からは、部全体として、また個人的な相談を例年多く受けるので、都度、対応している。今年度は、千代田校の授業も担当したので、全学的な学生行事の委員学生などからの相談は丁寧に行ったつもりである。

3．クラス指導の状況

今年度は 1 年生の担任であるので、入学直後からの相談事は多かったように思われる。5 月下旬からクラスの学生全員との個別面談を行った。授業に関する事や、クラスメイトの事、学内設備に関することへの意見や質問は、多少は拾い上げることができるので、このタイミングでの面談は大変有効であったと思う。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

クラスという組織の一員であるという自覚を持ってもらうことが、将来、社会に出て働くことへの理解となる。自分一人では解決できない事も、他人に相談することで解決できたり、その逆もあることを理解してもらいたい。帰属性のようなものを理解してほしいと思っている。

5．クラス指導に関する意見・感想

50 数名のクラス担任であるが、今の時代を反映しているように、様々な学生が存在している。大学として挙げられている対応方法、あるいは委員会や専門のセンター、事務部等の方々との情報共有や対応は必須と考えている。

③小川　浩

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．全学 FD 研修会「成績評価についての FD（講師：沖裕貴）」参加

日時：2019 年 6 月 7 日 16:30～18:00

場所：多摩キャンパス 7 号館

内容：成績評価に関して、シラバス等で事前に示すべき情報、その具体的な記述方法、根拠に基づく成績評価の仕方等について講義を通して基本的な知識を習得した。

2．人間関係学部 FD 研修会「講義に取り込む様々なワーク（講師：野辺陽子）」参加

日時：2019 年 12 月 6 日 17：00～19：00

場所：多摩キャンパス 7 号館
内容：リアクションペーパー、予習課題、グループディスカッションなど、教員同士で様々な工夫を説明した後、意見交換を行った。

3．全学 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について（講師：沖裕貴」参加
日時：2020 年 1 月 30 日
場所：多摩キャンパス 7 号館
内容：ルーブリックの作成と活用等に関して、講義の後、自らの担当授業を題材に実際にルーブリックを作成し、グループディスカッションを行った。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

本年度に新たに作成したものはなし。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．「人間関係総論Ⅲ」を本年度から担当したため、全 15 回の授業構成を考え、授業で用いるパワーポイント、視聴覚教材などを新たに作成した。

2．「就労支援サービス」を本年度から担当したため、全 15 回の授業構成を考え、授業で用いるパワーポイント、視聴覚教材などを新たに作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．「相談援助実習指導Ⅰ」では、社会福祉士国家試験に向けた学習姿勢を身に付けさせるため、毎時間 manaba による小テストを実施した。

2．「相談援助実習指導Ⅰ」「障害特性論」「障害者福祉論」では、障害者福祉分野で働く卒業生をゲスト講師に招き、実際の仕事の様子をイメージしながら基礎的事項を習得できるように工夫した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

特になし。

【その他】

1．平成 30 年度入学生より開始された職場適応援助者の養成課程について、4 年次に行われる専門実習が円滑に行われるよう、受け入れ先の特例子会社の開拓を行い、実習のあり方について意見交換を行った。

2．オフィスアワーに関する意見・感想

オフィスアワーに限らず学生は随時研究室を訪問し、学業、進路、国家試験対策、生活等についての相談を行っている。

3．クラス指導の状況

本年度はクラス担任を持っていない。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

本年度はクラス担任を持っていない。

5．クラス指導に関する意見・感想

本年度はクラス担任を持っていない。

④尾久　裕紀

Ⅰ.「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．日本産業カウンセリング学会「スーパーバイザー養成講座」に講師として参加

日時：令和元年 4 月 27 日

場所：法政大学（市ヶ谷キャンパス）大内山校舎

2．現代カウンセリングセミナーに講師として参加

日時：令和元年 9 月 14 日

場所：拓殖大学文京キャンパス

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1．毎回オリジナルプリントを作成し、配布した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．manaba を活用し、オリジナルのドリルを作成し、実施した。

2．授業の初めに前回範囲の確認テストを実施した。

3．授業の積極的学びを推進するための工夫を試みた。（参考図書、文献の紹介など）

【その他】

2．オフィスアワーに関する意見・感想

授業に関する質問等はオフィスアワー以外でも受けていた。

3．クラス指導の状況

今年度はクラスを持たなかった。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

傾聴すること。個人情報に留意すること。

5．クラス指導に関する意見・感想

引き続き適切に行いたい。

⑤金　美辰

Ⅰ. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．「成績評価についての FD」

日時：2019 年 6 月 7 日（金）16：30 分～18：00

場所：大妻女子大学　多摩キャンパス

内容:アセスメントポリシー及びアセスメントプランが求められる背景や実行する上で 前提となる成績評価の厳格化について、先行的に策定された家政学部の例や既に活用されている他大学の事例から実際の活用や検証方法に関する研修に参加しました。

2．「多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは」

日時：2019 年 12 月 6 日（金）17：00～19：00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：教育の質の向上を目指した多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングに関するグループ討議に参加しました。

3．「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」

日時：2020 年 1 月 30 日（木）16:00～18:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：大学教育におけるパフォーマンス評価についての理解を深めるための説明と授業に対応した採点用のルーブリック作成のワークショップに参加しました。

【学会参加】

1．「対人援助の新展開」

日時：2019 年 11 月 23 日（土）

場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス

内容　ポスターセッションへの参加と基調講演に参加しました。

【その他】

1．「日本と韓国における福祉サービス及びケアマネジメントの現在」

日時：2020 年 1 月 28 日（火）10：00～17：30

場所：東京経済大学国分寺キャンパス

内容：日本の介護保険制度や韓国長期療養保険制度、認知症ケアの現状、ケアマネジメントの現状等について両国の研究者による報告と総括討論が行われました。本学術フォーラムの統括討論において、進行と総括を担当しました。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．「介護の基本の A」では、新入生に合わせて独自で教材を作成しています。資格取得を目指す学生のみならず、一般企業への就職を目指す学生も興味を持って専門知識を培える授業になるように、授業内容や教材を工夫しています。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業に取り組んでいます。介護総合演習Ⅰ・Ⅱの授業では、教員間で教える内容にズレがないように、事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで、連携しながら授業の質向上に努めています。社会福祉学セミナーでは、在日外国人の集住地域で住民と交流するし、多文化共生のあり方について理解を深めました。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．「地域在住男性高齢者の余暇活動に関する研究」（単著）

2．介護老人福祉施設におけるレクリエーションの現状と課題」（共著）

3．「老人福祉館利用地域高齢者の社会活動と継続利用に関する研究」（単著）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．日本と韓国の地域高齢者の社会活動と介護予防に関する研究に取り組んでいます。
特に高齢者に特化した余暇活動施設として位置づけられている老人福祉館利用者を対象に、

社会活動と継続利用要因に関する研究を進めています。

【その他】

２．オフィスアワーに関する意見・感想

オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けることで学生が落ち着いてゆっくり相談できるように工夫しました。また、定期的な相談を求めてきた学生に対しては、継続的に面接を行うようにして学習面や生活面をサポートしました。

３．クラス指導の状況

履修指導や授業、編入、大学生活に関する相談・指導をしました。また、大学生活に慣れずに困っている学生に関しては、定期的に相談ができるように工夫しました。

４．クラス指導を行う際に工夫している点

学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも安心して充実した大学生活ができるように工夫しました。

５．クラス指導に関する意見・感想

クラス学生への指導において、授業担当者や学科教員、相談センター、事務と連携を取りながら多角的に学生の状況を把握したうえ、クラス指導を行うことができたと考えます。

⑥藏野　ともみ

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

１．人間関係学部 FD 研修会「成績評価についての FD」参加

日時：2019 年 6 月 7 日（金）

場所：多摩キャンパス

内容：成績評価に関して、シラバスにおける具体的な記述方法、根拠に基づく成績評価の仕方等について基本的な知識を習得した。

２．人間関係学部 FD 研修会「マルチスクリーンの活用：ビデオ起しと授業内容の提示」参加

日時：2019 年 12 月 6 日

場所：多摩キャンパス

内容：教材の工夫、授業の進め方について IT の活用方法について学ぶ機会となった。また、改めて知的財産権についても意識することができる分科会であった。

３．大妻女子大学全学 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」参加

日時：2020 年 1 月 30 日

場所：多摩キャンパス

内容：授業の質の向上及び客観的かつ厳格な成績評価の実現を図るためのルーブリックの作成と活用等に関して、講演及びグループワーク方式での研修を行った。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

１．「相談援助演習」弘文堂

内容：コミュニケーション技法及びプロセスレコートについて演習課題を取り入れて執筆した。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1．「精神保健福祉相談援助演習」ワークブックの作成

内容：ソーシャルワーク理論、倫理綱領、事例を取り入れたワークブックを作成している。授業の予習、宿題に活用し、自宅学習での内容が授業で活用できるようにしている。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．毎時間の小テストの実施と学生個別の学習状況に応じた個別課題の提示・個別指導

内容：10 名～70 名等、全ての授業(講義、演習形式)で、毎時間小テストを作成、テスト直しとコメント付き返却、個別課題の設定と指導を実施している。

2．実習科目における社会資源集の作成指導

内容：半期かけて学生個人が自らの学習を積み上げていくポートフォーリオ形式の冊子作成と、個別指導を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1．学内での若手研究者との教授法に関する研究会の実施

内容：今年度から学内外の若手研究者とアクティブラーニングについての研究会を実施した。9 月 23 日、1 月 11 日、2 月 15 日に多摩キャンパスで行った。社会福祉士及び精神保健福祉士のカリキュラム改正動向について共有し、各自でシラバスを作成したり、講義科目や演習科目へのアクティブラーニングの取り入れ方について提案とディスカッションを行った。また、教材の工夫についてアイディア出しを行った。

2．相談援助技術に関わる演習科目の研究会実施

内容：15 年前から他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施している。今年度は 2019 年 8 月 1 日～2 日に九州産業大学で行った。

【その他】

1．精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携

内容：学生の配属実習前に、全実習指導者(スーパーバイザー)に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。また、実習先との打合会に参加し、他大学の教員及び学生、施設職員の 3 者での打ち合わせ・見学を行った。

2．国家試験受験に向けた勉強会の実施

内容：精神保健福祉士、社会福祉士国家試験受験に向け、それぞれ春・夏・年末年始期間を活用し、勉強会及び勉強合宿を実施した。

3．オフィスアワーに関する意見・感想

今年度は、1～4 年次生まで不定期･定期的な学生の訪問を受け、授業の質問や日常生活に関するおしゃべり、進路相談等があった。最近の動向として、メールや manaba を通した相談があるため、対面で話す機会だけでない工夫や次に繋げるための教員へのアクセス方法を模索したいと思う。

４．クラス指導の状況

3 年次生の担任であったこともあり、日常的な指導はゼミ担当教員との連携で行うことになった。クラス指導としては、配慮が必要な学生、修学に困難をきたしている学生が複数人いるため、学生相談センターや障害学生支援相談員等と協働しながら保護者等も含めた対応を行った。進路を模索し、就職活動が始まる時期であったので、学生･就職支援グループ職員や共生社会文化研究所での取り組み、OG 訪問の紹介等の工夫を行った。

クラス全体としては、恒例の AB クラス合同でのお弁当会等の機会に就職動向について担任から話しをする機会を持った。

５．クラス指導を行う際に工夫している点

クラスの学生には在室時間や日程を伝え、アポイントとしてメール等で連絡が取れるようにしている。また 3 年次生となるとクラスを超えて担当学年の学生からの相談も増えるため、クラス担任間及びゼミ担当教員への報告等も意識している。

保護者会では学生に伝えている情報を共有し、学生への対応の役割分担等をすることができるようになっている。例年千代田･多摩キャンパスに多くの保護者がお出で頂けるため、様子も分り、ゼミ担当教員にも報告ができるため、学生本人抜きではなく、主体の学生に信頼して貰えるサポート体制を取れるように今後も取り組みたい。

６．クラス指導に関する意見・感想

3 年次生のクラス担任の役割は、実質的には限られた学生への対応になることが多いが、多くの学生が福祉専門職と企業への進路選択に悩んでいたり、それらが学問への意欲停滞に繋がる等、多様な生活上の課題を抱えている時期でもあると実感する。

成績や教員間の情報という限られた内容で学生の実情を把握しているに留まっている。本当に困った時に、窓口の１つであるために、学生へのメッセージの伝え方を今後も模索していきたい。また、でしゃばらず、ただ窓口を開けておくスタンスは続けていきたい。

⑦佐藤　富士子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

１．デンマークにおける介護人材・確保の実際

―ケア理念に基づいた福祉テクノロジーの導入に向けて―

日時：2019 年 5 月 6 日（月）

場所：お茶の水ソラシティカンファレンスセンター

内容：ケアワーカーの教育を行っているデンマークの人が、教育の内容について同時通訳をとしてレクチャーを行った研修

２．ICT の活用が拓く介護福祉士の未来

日時：2019 年 6 月 2 日（日）

場所：大妻女子大学　千代田キャンパス

内容：日本介護福祉学会の全国公開講座で、人材不足の介護現場で実際に活用している ICT の実際や ICT の活用を推奨する厚生労働省老健局の講師から話を聞く。

3．FD 研修会「成績評価についての FD」
日時：2019 年 6 月 7 日（金）
場所：大妻女子大学　多摩キャンパス
内容：立命館大学の沖　裕貴氏による講演。アセスメントツール及びアセスメントプランに沿った成績評価の厳格化として、実際の活用や検証方法の効能性について。
4．介護現場に役立つシーティング
日時：2019 年 7 月 6 日（土）
場所：社会事業大学
内容：介護現場で使用されているシーティングの正しい使い方について、専門家からの説明を受けながら実践する研修であった。
5．ICT 利用による教育改善研究
日時：2019 年 8 月 9 日（金）
場所：東京理科大学森戸記念館
内容：大学教育の中で ICT を用いた授業を展開している教員からの実践報告
6．FD 研修会「実習経験を共有し深めるための Q&A
日時：2019 年 12 月 6 日（金）
場所：大妻女子大学　多摩キャンパス
内容：学科・専攻から選ばれた教員による自己体験をレクチャーしてもらい、教員間でのディスカッションを行った。
7．潜在力を引き出す移乗・移動の技術
日時：2020 年 2 月 8 日（土）
場所：帝京科学大学
内容：介護現場で頻繁に行われるトランスファーについて、理学療法士が実演を兼ねながら理論をレクチャーする

【学会参加】

1．介護福祉思想を改めて問う
日時：2019 年 8 月 31 日～9 月 1 日（土）
場所：静岡県立大学短期大学部
内容：日本介護福祉学会にける学会

【その他】

1．介護福祉士の国家試験一元化に対する緊急討論会
日時：2019 年 12 月 1 日
場所：目白大学　研心館
内容：介護福祉士養成課程の大学・短期大学・2 年課程専門学校、高等学校福祉課程の教員が国家試験一元化に対する緊急討論会を行った。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

1．科目「介護過程Ⅰ」では、テキストを用いての授業であったが、専門科目で 1・2 年履修するため、できるだけ丁寧に繰り返すことで理解をできるように展開した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1.テキストの内容に関連したレジュメを毎回作成し､テキスト内容が理解できるようにした。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．介護福祉士養成課程科目「医療的ケア」

内容：医療的ケアを履修した卒業生に対するインタビュー調査を行い、卒業後の現状を他大学の教員と協力しまとめた。

【その他】

2．オフィスアワーに関する意見・感想

固定されている時間外で来る学生のほうが多かった。

3．クラス指導の状況

介護福祉学専攻として在学している 3 年. 4 年のクラス指導を行っている。4 年生は就職のこと、国家試験の受験勉強に関する相談が多かった。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

授業の中で連絡することもあるが、キャンパス内のどこで会っても教員から声をかけるように心がけている。

5．クラス指導に関する意見・感想

少人数なので個別情報を知っているので、困っている様子などが把握しやすい

⑧嶋貫　真人

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．日時：2019 年 12 月 6 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：「授業をよりよくするための Tips―その 4―」というタイトルでグループ討議

2．日時：2019 年 6 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：「成績評価についての FD」というタイトルで、沖裕貴・立命館大学教授による講義

3．日時：2020 年 1 月 30 日（木）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」というタイトルで、沖裕貴・立命館大学教授による講義

【その他】

1．タイトル：福祉実習教育懇談会

日時：2019 年 12 月 10 日（火）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：社会福祉士実習の指導方法をめぐって、現場指導者の方と意見交換

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

1．「社会福学セミナーⅠ～Ⅳ」では、昨年度に引き続き、社会保障の各領域から題材をとった

初学者向け教材の増補・改訂作業を行ないました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材となるよう心がけているものです。

2．社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（低所得・社会保障・福祉行財政）について、最新の出題傾向をふまえた改訂を行ない、あわせて受験対策講座の授業を実施しました。

【その他】

1．講義形式の授業においてはほぼ毎回レジュメを配布し、授業の理解を助けるとともに、学生の復習の便宜となるように配慮しました。

2．manaba を利用して学生からの質問や意見を受け付け、双方向の授業となるよう工夫しました。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

授業時間中、具体的な事例を題材にした教師の側からの問いかけの機会をできる多く設けるように心がけました。

【その他】

2．オフィスアワーに関する意見・感想

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

3．クラス指導の状況

今年度はクラス担任が 4 年生であったため、就職活動に関すること、および社会福祉士試験の受験勉強に関する相談がほとんどであったと思われます。なお、成績がふるわない学生に対する個別指導についても、例年通り実施しました。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

例年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。

当該学生のゼミ担当教員、実習指導担当教員および事務部職員と緊密に連携を取り合いながら、１人の学生の状況をできるだけ多角的に把握するように努めました。

5．クラス指導に関する意見・感想

3 年・4 年次生に関しては、学生の指導は事実上クラス担任ではなく、ゼミ担当教員が中心に行っているため、3・4 年のクラス担任にとっては、FD 報告書のこの項目は不要ではないかと思います。

⑨丹野　眞紀子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．FD 研修会

日時：2019 年 6 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス
内容：成績評価についての FD

2．学部 FD 研修会
日時：2019 年 12 月 6 日（金）
場所：大妻女子大学多摩キャンパス
内容：第 2 分科会「講義に取り込む様々なワーク」

3．FD 講演会「学生の学びの質的向上を目指して」
日時：2020 年 1 月 30 日（木）
場所：大妻女子大学多摩キャンパス
内容：ルーブリックの作成と活用・改善方法について

【学会参加】

1．タイトル　第 67 回日本医療福祉協会全国大会（かながわ大会）
日時：2019 年 6 月 7 日
場所：川崎市コンベンションホール
内容：今年度のテーマは「ともに生きる ～みらいのソーシャルワークの風をつくる～」を見つめて～」であった。
社会福祉の「多様性（diversity）」「共生」「未来志向」のイメージは重要で、わが国のソーシャルワーカーが、それぞれの活動する地域において、年齢、性別、国籍、出自、病気や障がいの有無等にかかわらず、あらゆる多様性を尊重しながら、ともに生きる社会づくりを促進していく役割を担う必要がある。そして、この役割を積極的にすすめるために、私たちソーシャルワーカーがムーブメントを作っていく必要があると考えさせられました。

【その他】

1．DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座 2019
日時：2018 年 7 月 14 日（土）・7 月 15 日（日）
場所：東京有明医療大学
内容：女性への暴力と社会構造、行政の援助制度の活用方法、外国人女性への支援など、具体的な DV・性暴力被害に関わる支援の実際について学ぶことが出来た。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．著書「相談援助」（建帛社）
内容：第 2 章 3 関連援助技術、第 3 章 5 専門職の倫理と倫理的ジレンマについて執筆した。社会福祉士を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

2．著書「周産期医療が求めるソーシャルワーカーの専門性と独自性」
内容：周産期医療におけるソーシャルワークの役割を事例を通して分析したものである。来年度から社会福祉士を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いる予定である。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

１．授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「ソーシャルワークⅡ－A」「ソーシャルワークⅡ－B」「社会福祉援助技術論Ⅲ－A」「保健医療サービス」の４科目である。ソーシャルワーク系の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。

レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

１．すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

１．manaba の活用

学生に課した個別課題に関しては、今年度も manaba の活用を主とした提出を試みた。特に、ソーシャルワーク論Ⅱ-B において、最初の頃は、manaba を使いこなせない学生もいたが、複数回提出させ、個別指導を行ったことで、多くの学生が時間通りに提出できていた。また、課題については全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。

２．授業間の連動を意識した授業プログラムの組み立ての工夫

社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。

３．専任教員と非常勤教員との連携

主担当である相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。

４．個別指導の充実

相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと語っていたので教育的効果は高かったと思われる。

５．履修学生全員参加を意識した授業の組み立て

ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全員参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方を学生自身が考え、多くの学生に板書してもらうことを通して、全

員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識している。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1．『周産期医療が求めるソーシャルワーカーの専門性と独自性「見えない DV」問題を手掛かりに』ソーシャルワーク研究所

内容：周産期医療の現場における見えにくい DV 問題について、事例を通して医療ソーシャルワーカーの支援について分析しまとめたものである。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1．「面接技法」

内容：NPO 女性の安全と健康のための支援教育センターから依頼を受け、2019 年 11 月 9 日に上記内容の研修を行った。

2．社会福祉実践に関わる研究会の実施

内容：毎月 1 回、社会福祉実践現場で活躍している相談員らと最新の社会福祉現場の実情、支援の実際についての研究会を主宰した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1．スーパービジョンに関する研究

内容：高齢分野にかかわる社会福祉士実践者 2 名と共同研究

2．オフィスアワーに関する意見・感想

木曜日 4 限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。1 年生の担任であったこともあり、その場で対応するだけではなく、別時間を設定し個別対応することも行った。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

3．クラス指導の状況（報告）

1 年生の担当であったので、前期 6 月に B クラスの全学生と個別面談を行った。大学に慣れてきたころであり、学業のみならず、友人関係についての相談もあり、個別に対応した。後期については、面接希望者全員と個別面談を行い、指導した。

4．クラス指導を行う際に工夫している点

1 年生なので、成績の見方、資格に対する考え方などについて、相談に来る学生も多かった。個別に面接時間を取り対応し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。

5．クラス指導に関する意見・感想

学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もおり、必要に応じての声かけが大事だと感じた。

⑩松山　博光

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連研修会

【研修会・研究会参加】

1．学部 FD 研修会「成績評価についての FD」

講師：立命館大学教育開発推進機構　教育・学修支援先方―副センター長　沖　裕貴　氏

日時：2019 年 6 月 7 日（金）午後 4 時 30 分～午後 6 時 00 分

場所：多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 教室

内容：アセスメントポリシー及びアセスメントプランを策定する社会的背景や、これから実行する上で前提となる成績評価の厳格化について、理解を深めることを目的としている。

2．学部 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」

講師：立命館大学教育開発推進機構　教育・学修支援先方―副センター長　沖　裕貴　氏

日時：2020 年 1 月 30 日（木）16：00～18：00

場所：多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 教室

内容：大学教育におけるパフォーマンス評価についての理解を深めるために、パフォーマンス評価について事例を交えながら説明した後、グループに分かれてそれぞれの授業に対応した採点用ルーブリックを実際に作成するワークショップ形式の研修会。

3．学会研究セミナー「マクロ・ソーシャルワークをめぐる諸課題―ワーカーはマクロ実践をどうイメージするか―」

主催：日本ソーシャルワーク学会

日時：2020 年 1 月 26 日（日）午後 1 時～午後 5 時

場所：大妻女子大学千代田キャンパス F 棟 332 教室

内容：本セミナーでは、マクロ・ソーシュルワークとは何か（目的・機能・方）、関連する概念の整理、ミクロからはじまるマクロ・ソーシャルワークのプロセス（研究／実践）など、報告書それぞれの視点から諸課題について出し、フロアとのディスカッションを行った。

基調講演：石川久展（理事・関西学院大学教授）

テーマ：「わが国におけるミクロ・メゾ・マクロソーシャルワーク実践の理論的枠組み―ピンカスとミナハンの 4 つのシステムを用いてミクロ・メゾ・マクロ実践モデル体系化の試み―」

シンポジウム：

中島　康晴氏（NPO 法人地域の絆代表理事・理事長、日本社会福祉士会副会長）

渡邉　香子氏（横浜市教育委員会 人権教育・児童生徒課 係長・SSW スーパーバイザー）

横山　北斗氏（NPO 法人 Social Change Agency 代表理事）

★松山は、セミナーの会場運営を担当した。

4．社会福祉法人「浴風会」　第 16 回職員実践・研究発表会

主催：社会福祉法人　浴風会

日時：2020 年 2 月 20 日（木）10：15～16：30

会場：浴風会コミュニティホール（東京都杉並区高井戸西 1－12－1）

内容：介護・医療・福祉の各領域・各職場でのサービスの質の向上に向けた実践や研究内容を発表する。

1）実践・研究発表

①第 1 グループ（老健くぬぎ、第 2 南陽園、浴風園）

②第 2 グループ（浴風会病院、第 1 南陽園、第 3 南陽園）
③第 3 グループ（松風園、ケアハウス、地域包括支援センター）
※発表後、審査員並びに参加者との質疑応答
2）特別発表：東京福祉保育専門学校「介護過程の意義と目的～向き合うものは人のこころ～」
3）審査発表・表彰式
★松山は、５名の審査員と共に**「評価ルーブリック」**を使用して審査・講評した。

【学会参加】

1．健康生きがい学会第 10 回大会「生きる　生かされる　共に生きる」
主催：健康生きがい学会（★松山博光：学会理事）
日時：2019 年 10 月 13 日（日）午前 9 時～午後 5 時 30 分
場所：滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）
内容：午前中は、田中博一実行委員長、辻哲夫理事長（学会理事長・元厚生労働省事務次官）の挨拶の後、本会会長の京極高宜氏から基調講演「在宅ケアの充実で共に生きる地域社会を築く」並びに元滋賀県知事・本会理事の國松善次氏より特別講演「人生 100 歳時代、生き方と社会の仕組みが問われる」が行われた。
午後は、8 分科会に分かれて実践活動や研究が報告・討議された。
松山は、第 7 分科会（地域共生と健康生きがい活動）の座長を務めた。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【その他】

1．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み
定期的にリアクションペーパーを通して、講義に関わる意見・質問等を集約した後、学生の学習進捗状況を理解しながら講義を進めた。
また今年度も講義科目は、学生の教室外の事前・事後自己学習として「講義ノート」（講義期間 3 回提出後、評価返却）を作成させて理解度を深めさせた。

2．オフィスアワーに関する意見・感想
学生からのメール事前予約により、円滑に相談時間・場所を得ることができた。来談者は、今年度も履修単位不足への対応と勉強法であった。また進路変更の（退学）相談もあった。卒業生からの転職相談もあり、福祉施設への就活支援を行った。

3．クラス指導の状況
クラス指導は、特に春季休暇中から始まる就活相談（一般企業か福祉業界）が目立った。

4．クラス指導を行う際に工夫している点
今年度もクラス指導は、来談やメール等を通して随時実施している。特に成績（GPA）が好ましくない学生や欠席が目立つ学生に対しては、日頃から声掛けと共に保護者と電話連絡を取りながら指導した。

5．クラス指導に関する意見・感想
日頃の講義等を通じて、クラス担当の学生だけでなく、他学科の学生相談を受け入れるように心がけている。

⑪山本　真知子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．FD 研修会「成績評価についての FD」

日時：2019 年 6 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：学内の FD 研修会に参加した。成績評価において、ルーブリックでの評価を使用する意義等について研修を受けた。

そもそもルーブリックについて十分に理解していなかったこともあり、より良い授業を展開するために、シラバスの内容やルーブリックの提示に関して、学ぶきっかけになった。

2．学部 FD 研修会「多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは」

日時：2019 年 12 月 6 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：人間関係学部の FD 研修会に参加した。さまざまな学生がいる中で、どのようにアクティブラーニングを行っていくのか、山蔦先生からの報告を踏まえ、参加者のディスカッション形式で学生への教育方法について考える時間となった。100 人を超える授業やゼミ形式の授業等、多様な学生と多様な授業内容によって、より良い方法を考えていくことが必要であると、研修会に参加してより感じた。

3．FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」

日時：2020 年 1 月 30 日（木）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：6 月の FD 研修会の中から特に、ルーブリックの作成と活用・改善方法について学ぶことができた。自分の担当する授業のシラバスを持参し、レポートなどについてのルーブリックを作成することによって、シラバスの内容のチェックになることも学ぶことができた。また他の先生方のルーブリックに関して学ぶことができ、非常に今後の授業に役に立つ内容だった。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．『予習・復習にも役立つ　社会的養護Ⅱ』　創成社

内容：本書は児童養護施設や里親に関する内容の演習授業を展開する上で活用するテキストである予習・復習に対してテキスト内に記入することができ、一部は切り取って提出できる形になっている。児童養護施設においての実習の事前指導やゼミの事例検討などで活用している。

執筆担当としては「第 3 章　家庭養護の特性および実際」（pp37-51）までを担当している。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

１．manaba とリアクションペーパーを使用したフォローアップ

内容：100 人以上の履修者のある講義科目に関して、各学生の理解度等に合わせて、manaba において、リアクションペーパーで出された質問に対し、次回の授業までに回答し、授業の冒頭でも必要な事項に関して付け加える授業を展開している。また、より深く学びたいと考えている学生に対して、参考文献などを提示している。

【その他】

２．オフィスアワーに関する意見・感想

オフィスアワー時に個別の相談のため来室する学生がほとんどいなかった。学生は昼休みに来室することが多く、授業時間に研究室に来ることはほとんどないように感じる。そのため、基本的に研究室のドアに貼ってある在室・不在などの連絡用の紙の表示を必ず正確に示すよう心がけ、在室している場合は学生にすぐに対応できるようにしていた。

３．クラス指導の状況

4 年次の担任としての１年だったが、インフルエンザ等の欠席届や転居届などの担任としての署名捺印などが中心であった。就職に関してはゼミ担当教員への相談が主となっているためであると考える。４年生を担当する授業がないためクラス全体に向けてのアナウンスが難しかったが、個別にキャンパス内で会った際など声をかけるように心がけた。クラス全体に対しては 4 月のオリエンテーションでの周知を行った。

個別に相談に来る学生もいたため、そういった際はメールアドレスで連絡を取り、個別に面接時間を設けるようにした。今年度は、就職や成績、奨学金、友人との関係の個別相談があった。保護者面談も必要に応じて行った。特に卒業に関して、保護者と連絡を頻繁に取り、家庭や学生支援や就職支援の事務と連携していた。

４．クラス指導を行う際に工夫している点

卒業年次だったため、個別の指導を行うことが多かった。そのため、学生と連絡をとれる状況にしている。メールアドレス等での連絡を行うように工夫している。

また、ゼミの担当の先生と連携をとる必要のある学生は、先生方と協力して学生を支援している。

５．クラス指導に関する意見・感想

１年を通して個別の配慮が必要なことが多かった。クラス担任とゼミ担任の連携が非常に重要であると感じた。3・4 年次になると学年全体を担当する授業もない場合は、クラス全体の指導が難しくなるので、UNIPA の学生の情報などをゼミの先生にも公開していった方がより学生を指導しやすいと感じる。

⑫石井　千麻

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

１．介護福祉士養成大学連絡協議会主催

全国研修会・第 2 回シリーズで学ぶ「これからの生活支援技術」

日時：7 月 6 日（土）

場所：日本社会事業大学
内容：「よりよく座るシーティング」
講師：日本保健医療大学 廣野秀行教授

【学会参加】

1．日本介護福祉学会
日時：8月31日（土）・9月1日（日）
場所：静岡県立大学短期大学部
内容：「介護福祉実践におけるチームを問う」
1日目　シンポジウム「チーム力向上につながる介護職員のキャリア開発・支援」分科会1「ケアマネジメントにおけるチーム連携ワークショップ」に参加した。
2日目　学会企画シンポジウム　「介護福祉実践におけるチームを問う」に参加した。

2．日本社会福祉学会　秋季大会
日時：9月21日（土）・9月22日（日）
場所：大分大学　旦野原キャンパス
内容：共生社会の構築に向けて－自立と多様性の共存」
口頭発表「介護福祉施設におけるサークル活動と継続勤務の関連性の検討―インタビュー調査の結果から―」を行なった。

3．人間福祉学会
日時：11月10日（日）
場所：じゅうろくプラザ
内容：「人間福祉の原点を探る」
口頭発表「職員によるサークル活動を推奨する福祉施設の福利厚生と人材育成の効果についての一考察－管理職職員のインタビュー調査から－」を行なった。

【その他】

1．神奈川県社会福祉士会　地域包括ケア推進事業部主催
日時：11月16日（土）
場所：ウイリング横浜
内容：県民向け講座「対人援助と感情労働～心のゆらぎと上手に付き合い、燃え尽きず働き続けるために～」
講師：白梅学園大学　長谷川俊雄教授
「クライエントと向き合い、生活を支えるために、燃え尽きず寄り添える援助職として必要なこととは」をテーマに講座を運営した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．生活支援技術における演習補助
専任教員の指導・助言のもと、実技演習のための物品準備、演習補助を行う。実習室物品等の管理・点検・補修を行なった。

2．介護実習事前・事後指導及び巡回指導

介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に関しての指導を行なった。

３．相談援助実習事前・事後指導及び巡回指導

専任教員の指導・助言のもと、相談援助実習に向けた実習目標立案の助言・指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行なった。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

１．論文「A福祉施設職員によるサークル活動と継続勤務についての一考察」（大妻女子大学人間関係学研究 21 巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

１．教育に関わる講習会の参加

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催

日時：8 月 6 日（火）～9 日（金）、8 月 26 日（月）～29 日（木）

場所：桜美林大学　新宿キャンパス

内容：2019 年度　社会福祉士・精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会（社会福祉士・演習分野・実習分野）に参加した。

⑬平野　貴大

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

１．せとうちコラボ研究会　日本コミュニティ心理学会　第 22 回大会におけるルーブリック作成ワークショップの実施

日時：2019 年 6 月 22 日

場所：追手門学院大学

内容：日本コミュニティ心理学会の第 22 回大会の自主企画として、心理職を中心とした多職種連携教育に必要な学び、コンピテンシーについて、ルーブリックの作成を通じて検討、意見交換を行った。

２．ナラティヴアプローチと多職種連携

日時：2019 年 12 月 15 日・2020 年 1 月 26 日

場所：香川大学幸町キャンパス

内容：多職種連携教育の実践として、教員、看護師、心理職、保育士の初学者の対話を通じて、多職種連携教育の在り方について検討、意見交換を行った。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

１．相談援助実習における教員と実習助教の連携

社会福祉士の相談援助実習について、実習事前指導から事後指導まで一貫して担当教員とともに学生の状況等の情報共有、各種指導などを行うことにより、学生が実習で多くの学びが得られるような体制を整えた。

⑭藤本　優

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．2019 年度 FD 研修会「成績評価についての FD」
　日時：2019 年 6 月 7 日（金）16：30～18：00
　場所：大妻女子大学　千代田キャンパス（同時中継多摩キャンパス）
　内容：成績評価の FD の実際の活用と検証方法の可能性について

2．2019 年度　精神保健福祉士実習演習担当教員講習会
　日時：2019 年 8 月 20 日（火）～8 月 23 日（金）/2019 年 9 月 2 日（月）～9 月 5 日（木）
　場所：日本ソーシャルワーク教育学校連盟　研修室
　内容：精神保健福祉士養成における実習・演習教育に必要な項目について

3．第 49 回　全国社会福祉教育セミナー2019in 愛知
　日時：2019 年 11 月 30 日
　場所：日本福祉大学　美浜キャンパス
　内容：全体会「実習教育におけるスーパービジョンのあり方」
　　分科会「地方創生に向けたソーシャルワーカー養成校・施設及び現場への期待と役割」

4．2019 年度人間関係学部 FD 研修会「授業をよりよくするための Tips－その 4－」
　日時：2019 年 12 月 6 日（金）17：00～
　場所：大妻女子大学　多摩キャンパス
　内容：第 1 部「多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは」
　　第 2 部「各分科会の結果報告、まとめ」

5．文化庁×群馬大学共同研究シンポジウム
　「文化芸術における社会包摂実践の波及　終わりのない探究プロセスとしての評価を考える」
　日時：2019 年 12 月 8 日（日）13：00～17：00
　場所：明治学院大学
　内容：文化芸術による社会包摂型評価手法・ガイドラインの構築について

6．令和元年度 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」
　日時：令和 2 年 1 月 30 日（木）16：00～18：00
　場所：大妻女子大学　千代田キャンパス（同時中継多摩キャンパス）
　内容：授業に対応した採点用ルーブリックの作成ワークショップ

7．ソーシャルファームジャパンサミット in 鹿児島
　日時：2020 年 2 月 15 日～16 日
　場所：鹿児島大学　郡元キャンパス
　内容：1 日目「基調講演：ソーシャルファームがつくる世界のの今、地域の未来」
　　「シンポジウム：世界のソーシャルファームと日本のソーシャルファーム」
　　2 日目「分科会：全国のソーシャルファームの事例」

【学会参加】

1．日本評価学会春期第 16 回全国大会
　日時：2019 年 5 月 25 日（土）10：00～17：30

場所：JICA 地球ひろば
内容：科学的評価と政策の科学について
2．地域活性学会「臨時総会・地方創生特別セミナー」
日時：2019 年 8 月 29 日（木）18：30～20：00
場所：高知工科大学　東京教室
内容：農福連携を含む今後の農林水産事業について
3．日本社会福祉学会第 67 回秋季大会
日時：2019 年 9 月 21 日（土）～22 日（日）
場所：大分大学　旦野原キャンパス
内容：共生社会の構築に向けて―自立と多様性の共存―
4．日本社会福祉学会 2019 年度　関東地域ブロック研究大会
日時：2019 年 3 月 8 日（日）
場所：駒沢大学駒沢キャンパス
内容：社会福祉学教育と専門職養成

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．「相談援助実習事前指導」、「相談援助実習（児童・地域分野）における連携と取り組み
事前指導において、担当教員のご指導のもと実習先への提出書類の確認、実習指導者への依頼と調整、実習における指導を行った。

⑮古市　孝義

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．社会福祉士・精神保健福祉士実習演習教員講習
日時：2019 年 7 月 25 日
場所：都漁連水産会館
2．令和元年度関東信越ブロック教員研修会
日時：2019 年 9 月 20 日
場所：コンセーレ（栃木県宇都宮市駒生）
3．令和元年度全国教員研修会
日時：2019 年 10 月 23 日
場所：札幌ガーデンパレス
4．学部 FD 研修会「授業をよりよくするための Tips―その 4―」
日時：令和元年 12 月 6 日
場所：大妻女子大学多摩キャンパス 7 号館
5．学部 FD 研修会「ルーブリックの作成と活用・改善方法について」
日時：令和 2 年 1 月 30 日
場所：大妻女子大学多摩キャンパス 7 号館 1 階 7127 講義室

【学会参加】

1．第 27 回日本介護福祉学会大会

日時：2019 年 8 月 31 日（土）・9 月 1 日（日）

場所：静岡県立大学短期学部

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1．中央法規　介護福祉士模擬試験問題集　2019

内容：介護福祉士模擬問題として、「人間の尊厳と自立」の小問題の内容構成や、事例問題の作成を行った。頻出問題から、対策を考え、問題を作成した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1．介護実習事前・事後指導及び巡回指導

内容：介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習指導巡回、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

Ⅳ　保護者懇談会

令和元年度も、前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会で、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭の１日目に保護者懇談会が行われた。

Ⅰ．千鳥会での保護者懇談会

令和元年６月１日（土）に、本学学生の福利厚生と教職員の教育研究を支援することを目的に、学生の父母及び保証人と本学教職員で組織される「大妻女子大学千鳥会」の「総会」「講演会」「保護者懇談会」が千代田キャンパスで行われた。

１．千鳥会総会　人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：36 名
人間福祉学科：23 名
学　部　合　計：59 名

２．千鳥会講演会　人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：40 名
人間福祉学科：26 名
学　部　合　計：66 名

３．千鳥会保護者懇談会　人間関係学部学科別教職員出席者数

人間関係学科：38 名
人間福祉学科：29 名
学　部　合　計：67 名

４．総会について（人間関係学部保護者アンケート結果）

○参加保護者の内訳
　父　親：　4 名
　母　親：29 名
　父と母：　9 名
　その他：　0 名
　未記入：　1 名

○場所について
　良　い：42 名
　悪　い：　0 名
　その他：　1 名
　未記入：　0 名

○時間について

適　当：36 名
長　い：　0 名
短　い：　1 名
その他：　0 名
未記入：　6 名

○内容

適　当：32 名
不適当：　0 名
未記入：　6 名

○保護者の意見

・席は詰めて座ってほしい。案内係の方も大変でしょうが、何か工夫を・・・。
・役員選出法が不透明。

５．講演会について（人間関係学部保護者アンケート結果）

○時間

適　当：32 名
長　い：　1 名
短　い：　1 名
その他：　0 名
未記入：　9 名

○内容

適　当：30 名
不適当：　0 名
未記入：13 名

○保護者の意見

・良いお話しを伺うことができました。
・興味深く楽しい時間でした。
・質疑応答の時間も欲しかったと思います。
・朝原氏の講演内容とその後のスタッフさんとの雑談等感想を記事にして発信してほしい。
・もう少し具体性があればと思いました。
・学生の講演会は渡辺陽一さんとの事。私たちも渡辺さんのお話しが伺いたかった。

６．懇談会について（人間関係学部保護者アンケート結果）

○時間

適　当：31 名
長　い：　0 名
短　い：　0 名
その他：　0 名
未記入：12 名

○内容

適　当：26 名
不適当：　0 名
未記入：17 名

○保護者の意見

・良い情報を教えて頂けました。
・個人的にゼミの先生とお話できてとても良かったです。
・良い話が聞けて良かったです。
・色々な話しを聞くことができて良かったです。
・担任の先生のお話が聞けて、大学の雰囲気がわかって良かった。
・1 対 1 でお話し出来てありがとうございました。
・貴重な時間でした。
・講演会はやはり体験談（実体験）をうまく話せる方が良いと思う。今回も良かった。

Ⅱ．多摩キャンパスでの保護者懇談会

大妻多摩祭の 1 日目に、以下のようなプログラムで行われた。

プログラム

令和元年 10 月 19 日（土）大妻女子大学多摩キャンパス

①保護者のための就職講演会　13：00～14：30　7127 教室

テーマ

「就職活動の最前線～現代の就職活動とそのポイント～」

講演者

株式会社ディスコ
採用広報事業部事業企画本部キャリタス就活企画部
副部長（学生広報担当）佐川　直哉　氏

学生とのパネルディスカッション

②保護者懇談会 15：00～　（受付 12：30～）
15：00～　保護者懇談会全体会（学部長挨拶、学科長挨拶）1 階 7127 教室
15：30～　専攻別懇談会（以下の教室に分かれ開催した）
教室：7214,7247,7315,7318,7338

１．人間関係学部学科別保護者出席者数

就職講演会
社会：47 名
心理：45 名
福祉・介護：66 名
学部合計：158 名

保護者懇談会
社会：33 名
心理：43 名
福祉・介護：65 名
学部合計：141 名

２．人間関係学部学科別教職員出席者数

社会：5 名
心理：7 名
福祉・介護：10 名
学部合計：22 名

３．参加者アンケートから

１）就職講演会

・最後になりますので就職講演会より参加させていただき、大変有意義な一日となりました。ありがとうございました。親世代とはかなり異なる現代の就職事情は新聞や書物などで判っているつもりでも、やはりこうしてお話を伺うとまだまだ知らないままであったことがらが次々に出てきてとても参考になりました。パネルディスカッションも同じ年齢のお嬢様とは思えぬしっかりしたうけ応えにただただ感心するばかり。支援センターのくらもち様とのやりとりが大変和やかでしたし、いいお話を伺えました。思うところがあり、進学がいかがなものか日々考え、模索中です。親としての在るべき姿も参考にさせていただきます。全体会のお話も大変有意義でした。どうもありがとうございました。
・学生を 4 人も呼んでいるのに、職員（司会）の話が多すぎて、就職を決めるまでの流れや、何を勉強したのか（就職試験に対してのものや面接時など何が重要なのか・・・）など学生の声をもう少し聞きたかった。

・できれば、就業関係のプロの方のお話ということで、今後の状況・予測など「ならでは」のお話をいただけたらと思いました。

2）専攻別懇談会

・色々参考になりました。クラス別の懇談会については、色々なお話が出来て良かったです。
・娘がどんな先生方と接して学んでいるのかを知ることができて良かったと思います。
・学生の発表の掲示もあり、担任の先生のお話もたくさん聞くことができて、来てよかったです。
・担任の先生が話しやすい方で良かったです。
・娘の学校生活、今後の向かい方、様々な方向性からお話を聞かせて頂きまして、とても良い機会となりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
・講義風景や先生の顔も HP に公開されるという方針に賛同いたします。
・大学生活がわかりとても良かったです。
・少人数で細かいお話が出来て、充実した内容でした。
・懇談会で，日ごろお世話になっている先生方や保護者の方とお話しできてとても良かったです。4 年間お世話になり、ありがとうございます。卒業まで、よろしくお願いします。

3）その他

・お世話になっております。多摩キャンパスの秋は美しいですね。
・資料が足りず、話がよくわかりませんでした。出席でご連絡している人は必ず資料がいただけるようにしてほしいです。
・卒業生や在校生で社会で活躍されている方々の講演があるとよいと思います。他大学では保護社会党はあまりないと思います。今後も継続していただきたいと思います。学内の情報等この機会はとても大切な情報源となりますので、とてもありがたいです。
・娘からは授業などの具体的な話は聞けないので大学側からの対応、理念など聞けて安心いたしました。
・娘は 4 年生なので春には卒業してしまいますが、文化祭も年々来る方が少なくなりさみしい感じがしております。校舎や教室の空いているようでしたら、1 年でも早く魅力ある学部を作ってほしいと思います。学部長さんは「多摩の良い所があります」とおっしゃっていましたが、娘が千代田に行くと千代田にも多摩にないいろいろなことがあると話しており、同じような教育の対応ができるよう、多摩がにぎやかな学校になりますよう、よろしくお願いいたします。
・キャンパスが広く、空いている教室があったり、カフェも新しくなったりもするので、新しい学部を作ってはどうかと思います。1 学部だけではもったいない環境だと思います。多摩キャンパスも千代田キャンパスと同様に OMA を実施してみてはどうかと思います。1 年生の頃から千代田キャンパスへ行っておりましたが、就職活動のスタートを早くしたり、意識が高くなったのも OMA に参加したことがきっかけでした。先生方や就職部の方からも、OMA を PR することによって、より多くの学生が勉学に励み、自分を高めていくことで、就

職活動に向けての自信にもつながると思います。
・娘からは聞けない情報をいただき、参考になりました。
・一年に一度ですが、保護者会に参加でき、とても良いと思います！今後もいろいろな面で厳しく指導して頂きたいと思います！就職浪人ニートをなくしてほしいと願います。

Ⅴ　オフィスアワー

はじめに

オフィスアワーは、教員が学生の大学生活全般にわたる質問や相談を受けられるように研究室にいる時間である。学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよく、平成 16 年度から FD 活動の一環として導入し今年度で 14 年目を迎えた。

実施要綱の変更もなく令和 1 年度の実施要綱に表 1 の通りである。

表 1　令和 1 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がより良いキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人又はグループとする（学部・学科・専攻は問わない）
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限～5 時限、土曜日 1 時限～2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は事前予約により相談する。
相談場所	原則として各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員はオフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行ない、特別なことがない限り他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布および学部掲示板、各共同研究室掲示板に掲示する。 ②学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1．オフィスアワーの結果

2019 年度各教員がオフィスアワーを設定している曜日は表 2 の通りである。時間帯をみると、昼休みの設定が最も多く、50%を超えていた。通年で同じ曜日・時間帯に設定している教員が多かった。

曜日別にみると表 2 の通りで、通年を通して火・水・木曜日が多く、月曜日は最も少なかった。授業が入っていないことも要因の一つと考えられる。

学生の相談が必ずしもオフィスアワーが設定されている時間ではなく、それ以外の時間に入

ることが多く、教員は柔軟に対応していた。

オフィスアワーの内容を見ると、授業内容の質問、日常生活の相談、進路・就職相談など多岐にわたっていた。

２．各教員からの意見や感想について次のような記述があった。

・通年同じ曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。
・オフィスアワー時に個別の相談のため来室する学生がほとんどいなかった。学生は昼休みに来室することが多く､授業時間に研究室に来ることはほとんどないように感じる｡そのため、基本的に研究室のドアに貼ってある在室・不在などの連絡用の紙の表示を必ず正確に示すよう心がけ、在室している場合は学生にすぐに対応できるようにしていた。
・今年度は、1～4 年次生まで不定期･定期的な学生の訪問を受け、授業の質問や日常生活に関するおしゃべり、進路相談等があった。最近の動向として、メールや manaba を通した相談があるため、対面で話す機会だけでない工夫や次に繋げるための教員へのアクセス方法を模索したいと思う。
・多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。ある学年の担任であったこともあり、その場で対応するだけではなく、別時間を設定し個別対応することも行った。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。
・オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。
・クラス学生の履修指導、卒論学生の卒論指導が主なものであった。
・オフィスアワーに限らず学生は随時研究室を訪問し、学業、進路、国家試験対策、生活等についての相談を行っている。
・学生からのメール事前予約により、円滑に相談時間・場所を得ることができた。来談者は、今年度も履修単位不足への対応と勉強法であった。また進路変更の（退学）相談もあった。卒業生からの転職相談もあり、就活支援を行った。
・ゼミ生および担任学生がオフィスアワーの時間に来ることが多かったが、後期は、主に就職活動や卒業後の進路に関する相談、卒論に関する質問が多かった。また、オフィスアワー以外でもアポイントを取ってから研究室に来る学生に対して対応してきた。
・遅い時間に設定しているためか、純粋な相談目的で利用する学生はごく少数だった。大学院生が質問時間として時折、利用していた。学部生は昼休みの利用が多かった。
・固定されている時間外で来る学生のほうが多かった。
・今年もゼミ生を中心に多くの学生がオフィスアワーの時間に来室した。3～4 年生はレポートと卒論や進路に関する相談も多く、オフィスアワーを通年昼休みに設定し、ちょうどその日にゼミがあるのでゼミの延長や、前相談として来室する学生が多かった。
・全学共通科目を担当しており、他学部、他学科の学生からの相談も多くあった。また個人的な相談を例年多く受けるので、都度、対応している。

・今年もゼミ生および担任学生、大学院生を中心に多くの学生がオフィスアワーの時間に来室した。前期は大学適応に関する諸問題の相談が例年より多くあった。また、卒論研究や単位取得、留年等にかかる相談も多くあった。オフィスアワーを通年昼休みに設定しており、ゼミの延長として来室する学生も多かった。
・多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。別時間を設定し個別対応することも行った。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

３．今後の課題

学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよいのがオフィスアワーである。教員からの意見や感想から、設定されている時間外でも学生が相談に訪問し学生が活用している状況が伺える。

教員のオフィスアワーの設定が、多くの学生が利用可能な時間帯（授業時間以外）になっているかは一度検証される必要がある。

また相談方法として、メールや manaba、さらに Hangouts Meet、ZOOM などのオンラインツールが今後増えていく可能性もあり、教員は柔軟な対応をしていく必要もある。また今後は実施要綱の見直しも必要と思われる。

表２　オフィスアワーを設定している曜日

2019年度　人間関係学部オフィスアワー［2019.4.1現在］

◆◇◆　予約無しで教員の研究室を訪問して相談できる時間帯です。時間を確かめて気軽に活用してください。◆◇◆

		月	火	水	木	金		
1	9:00 10:30			前期△ 小川浩	後期▲ 小川浩 通年 佐藤富士子	通年 香月菜々子	9:00 10:30	1
2	10:40 12:10			通年 八城薫	後期▲ 田中優		10:40 12:10	2
昼休み		通年 嶋貫真人	通年 伊藤美登里 尾久裕紀 西河正行 干川剛史 堀洋元 前期△ 古田雅明	通年 福島哲夫 松山博光	通年 上野優子 金美辰 久保田滋 干川剛史 前期△ 堀洋元	通年 井上修一 斉藤豊 古田雅明 山蔦圭輔 後期▲ 堀洋元		昼休み
3	13:00 14:30		通年 牛山美穂 後期▲ 山本真知子	前期△ 山本真知子	通年 藏野ともみ	通年 牧野智和	13:00 14:30	3
4	14:40 16:10	通年 小谷敏 後期▲ 野辺陽子			通年 丹野真紀子 本田周二		14:40 16:10	4
5	16:20 17:50			前期△ 野辺陽子	通年 大出春江		16:20 17:50	5
		月	火	水	木	金		

◆ 指定時間外の相談は教員に直接予約してください。
◆ 相談場所は原則、7号館4階の各個人研究室です。
◆ 変更が生じた際は、学部HP（http://www.hum.otsuma.ac.jp/）⇒⇒⇒及び、7号館（1階と4階に掲示）でお知らせします。

【本件に関する問い合わせ先】
2019年度 人間関係学部FD委員会　ningenfd@ml.otsuma.ac.jp
福島哲夫(学部長)、大出春江(学科長)、尾久裕紀(学科長)
社会/伊藤美登里、心理/本田周二(委員長)、福祉・介護/上野優子

＜周知方法＞
・ 4月のガイダンスで配付
・ 7号館に掲示（1階と4階）
・ 学部HPに掲載　http://www.hum.otsuma.ac.jp/

	ヨミ	教員名	時期	曜日	時限等	時間帯	場所:7号館4F
イ	イトウ ミトリ	伊藤 美登里	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74132
	イノウエ シュウイチ	井上 修一	通年	金	昼休み	12:10-13:00	74811
ウ	ウエノ ユウコ	上野 優子	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74872
	ウシヤマ ミホ	牛山 美穂	通年	火	3	13:00-14:30	74151
オ	オオデ ハルエ	大出 春江	通年	木	5	16:20-17:50	74152
	オガワ ヒロシ	小川 浩	前期△	水	1	9:00-10:30	74842
			後期▲	木			
	オギュウ ヒロキ	尾久 裕紀	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74812
カ	カツキ ナナコ	香月 菜々子	通年	金	1	9:00-10:30	74581
キ	キム ミジン	金 美辰	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74841
ク	クボタ シゲル	久保田 滋	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74181
	クラノ トモミ	藏野 ともみ	通年	木	3	13:00-14:30	74851
コ	コタニ サトシ	小谷 敏	通年	月	4	14:40-16:10	74142
サ	サイトウ ユタカ	斉藤 豊	通年	金	昼休み	12:10-13:00	74161
	サトウ フジコ	佐藤 富士子	通年	木	1	9:00-10:30	74871
シ	シマヌキ マサト	嶋貫 真人	通年	月	昼休み	12:10-13:00	74822
タ	タナカ マサシ	田中 優	前期△	＜国内研修期間中につき実施いたしません＞			
			後期▲	木	2	10:40-12:10	74282
	タンノ マキコ	丹野 眞紀子	通年	木	4	14:40-16:10	74852
ニ	ニシカワ マサユキ	西河 正行	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74382
ノ	ノベ ヨウコ	野辺 陽子	前期△	水	5	16:20-17:50	74141
			後期▲	月	4	14:40-16:10	
フ	フクシマ テツオ	福島 哲夫	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74381
	フルタ マサアキ	古田 雅明	通年	金	昼休み	12:10-13:00	74881
			前期△	火			
ホ	ホシカワ ツヨシ	干川 剛史	通年	火木	昼休み	12:10-13:00	74131
	ホリ ヒロモト	堀 洋元	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74281
			前期△	木			
			後期▲	金			
	ホンダ シュウジ	本田 周二	通年	木	4	14:40-16:10	74481
マ	マキノ トモカズ	牧野 智和	通年	金	3	13:00-14:30	74182
	マツヤマ ヒロミツ	松山 博光	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74831
ヤ	ヤシロ カオル	八城 薫	通年	水	2	10:40-12:10	74882
	ヤマツタ ケイスケ	山蔦 圭輔	通年	金	昼休み	12:10-13:00	74862
	ヤマモト マチコ	山本 真知子	前期△	水	3	13:00-14:30	74821
			後期▲	火			

Ⅵ　クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、クラス指導主任が「学習」「学生生全活般」にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は､全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し､安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

また、本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web 上で教員同士が即時に閲覧できるように配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、2019 年度クラス指導について､「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

１．クラス指導の現状と教員からの意見

（１）２０１９年度のクラス指導の状況

１）人間関係学科　社会学専攻

＊成績の芳しくない学生は、メール呼び出しの上、指導しているが、メールを読まないのか、呼び出しに来ない学生がいる。そのような学生で、どうしても指導が必要な場合は、学内で見つけてその場で指導、あるいは、電話で指導を行った。

＊ 2 年次には学内で懇親会をおこない、3 年次には学外で懇親会をおこなったことで、学生の名前と顔がほぼ一致するようになった。授業出席がふるわない学生についてはできるだけ声がけをし、またメールを送るなどした。結局、一人の学生は最終的に退学、一人は休学後に復学した。

＊欠席が多かったり、成績が悪い学生は面談している

＊発達障害等の困難を抱える学生に対して、学生相談センターのカウンセラー、社会学専攻の教務委員と一緒に、対応を行っている。また、GPA の低い学生に対しては、学期始めに呼び出して履修指導を行っている。

２）人間関係学科　社会・臨床心理学専攻

＊今年は、1 年生を担任しました。学習意欲が高まらず困難を感じている学生などへの対応もありましたがほとんど大きな問題なく１年が過ぎました。

＊１年 B クラスを担当した。入学年度の学生たちであり大学に対する想いも様々な学生たち一人一人に寄り添い、大学での適応を促すことのできるような指導を心掛けた。特に不本意入学の学生たちには、本人のキャリア形成の視点を加えた指導を心掛けた。

3）人間福祉学科

＊履修指導や授業、編入、大学生活に関する相談・指導をしました。また、大学生活に慣れずに困っている学生に関しては、定期的に相談ができるように工夫しました。

＊１年生の担当であったので、前期６月にＢクラスの全学生と個別面談を行った。大学に慣れてきたころであり、学業のみならず、友人関係についての相談もあり、個別に対応した。

＊今年度は１年生の担任であるので、入学直後からの相談事は多かったように思われる。5 月下旬からクラスの学生全員との個別面談を行った。授業に関する事や、クラスメイトの事、学内設備に関することへの意見や質問は、多少は拾い上げることができるので、このタイミングでの面談は大変有効であったと思う。

＊クラス指導は、特に春季休暇中から始まる就活相談（一般企業か福祉業界）が目立った。

＊介護福祉学専攻として在学している３年・４年のクラス指導を行っている。４年生は就職のこと、国家試験の受験勉強に関する相談が多かった。

＊クラスのメンバーの名前を把握しながら、資格取得の相談、奨学金の紹介、インフルエンザ等の欠席後の相談を行ってきた。資格取得の相談において、部活動との両立に悩む学生がおり、出来るだけ学業と両立できるように受験スケジュール等を検討中である。このように、個別指導が少しずつできている。

＊３年次生の担任であったこともあり、日常的な指導はゼミ担当教員との連携で行うことになった。クラス指導としては、配慮が必要な学生、修学に困難をきたしている学生が複数人いるため、学生相談センターや障害学生支援相談員等と協働しながら保護者等も含めた対応を行った。進路を模索し、就職活動が始まる時期であったので、学生･就職支援グループ職員や共生社会文化研究所での取り組み、OG 訪問の紹介等の工夫を行った。

クラス全体としては、恒例の AB クラス合同でのお弁当会等の機会に就職動向について担任から話しをする機会を持った。

＊４年次の担任としての１年だったが、インフルエンザ等の欠席届や転居届などの担任としての署名捺印などが中心であった。就職に関してはゼミ担当教員への相談が主となっているためであると考える。４年生を担当する授業がないためクラス全体に向けてのアナウンスが難しかったが、個別にキャンパス内で会った際など声をかけるように心がけた。クラス全体に対しては４月のオリエンテーションでの周知を行った。

個別に相談に来る学生もいたため、そういった際はメールアドレスで連絡を取り、個別に面接時間を設けるようにした。今年度は、就職や成績、奨学金、友人との関係の個別相談があった。保護者面談も必要に応じて行った。特に卒業に関して、保護者と連絡を頻繁に取り、家庭や学生支援や就職支援の事務と連携していた。

＊例年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。

＊当該学生のゼミ担当教員、実習指導担当教員および事務部職員と緊密に連携を取り合いながら、１人の学生の状況をできるだけ多角的に把握するように努めました。

（２）クラス指導を行う際に工夫している点

１）人間関係学科　社会学専攻

＊わかりやすい表現を用い、落ち着いた態度で接するよう、心がけている。

＊かつての大学生では考えにくいが、教員側が学生の顔がわかることや名前を覚えることは学生側からすると大事なことのようだ。授業以外でも学内で会ったときになるべく声をかけたり短い会話をするようにしている。オフィスアワーに限らず、学生とのコミュニケーションをちょっとした時間におこなうことが大切のようだ。

＊学生の状況をよくヒアリングするようにしている

＊担当クラスで問題を抱えている学生については、適時、社会学専攻会議で状況を報告し、専攻全体の教員で情報を共有しながら、専攻主任と教務委員を中心に対応するようにしている。

２）人間関係学科　社会・臨床心理学専攻

＊自分が臨床心理学を専門としているので、個人的な悩み相談も多くなりがちですが、心理療法的な対応にならないよう職業的立場の境界を保ち、あくまで教員として対応するように工夫しています。

＊これまで同様、まずは当人の話を聞くことに重点を置いた対応をしてきた。特に、1 年生という事もあり、大学生活について悩む学生が一定数いたため、彼女たちに対しては、より丁寧に指導を行った。

３）人間福祉学科

＊学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも安心して充実した大学生活ができるように工夫しました。

＊１年生なので、成績の見方、資格に対する考え方などについて、相談に来る学生も多かった。個別に面接時間を取り対応し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。

＊今年度もクラス指導は、来談やメール等を通して随時実施している。特に成績（GPA）が好ましくない学生や欠席が目立つ学生に対しては、日頃から声掛けと共に保護者と電話連絡を取りながら指導した。

＊授業の中で連絡することもあるが、キャンパス内のどこで会っても教員から声をかけるように心がけている。

＊できるだけ早い時期に名前を覚え、教室での様子、学内での友人関係等を把握しながら、個別に対応できるように工夫している。今年度はその成果が少しずつ見られ、ボランティア先での悩み、進路等についても気軽に相談できる雰囲気ができてきた。

＊クラスの学生には在室時間や日程を伝え、アポイントとしてメール等で連絡が取れるようにしている。また 3 年次生となるとクラスを超えて担当学年の学生からの相談も増えるため、クラス担任間及びゼミ担当教員への報告等も意識している。

保護者会では学生に伝えている情報を共有し、学生への対応の役割分担等をすることができるようになっている。例年千代田･多摩キャンパスに多くの保護者がお出で頂けるため、様子も分り、ゼミ担当教員にも報告ができるため、学生本人抜きではなく、主体の学生に信頼

して貰えるサポート体制を取れるように今後も取り組みたい。
＊卒業年次だったため、個別の指導を行うことが多かった。そのため、学生と連絡をとれる状況にしている。メールアドレス等での連絡を行うように工夫している。
　また、ゼミの担当の先生と連携をとる必要のある学生は、先生方と協力して学生を支援している。
＊ 3 年・4 年次生に関しては、学生の指導は事実上クラス担任ではなく、ゼミ担当教員が中心に行っているため、3・4 年のクラス担任にとっては、FD 報告書のこの項目は不要ではないかと思います。
＊クラスという組織の一員であるという自覚を持ってもらうことが、将来、社会に出て働くことへの理解となる。自分一人では解決できない事も、他人に相談することで解決できたり、その逆もあることを理解してもらいたい。帰属性のようなものを理解してほしいと思っている。

（3）クラス指導に関する意見・感想

1）人間関係学科　社会学専攻

＊発達障害等の困難を抱える学生や GPA が低い学生の人数が、これまでのクラス指導主任の経験や他クラスや他学年と比べて、担当クラスに多い。それに関して社会学専攻全体で迅速に情報共有し対応するだけでは不十分なので、障害学生支援委員会（次年度は、学生委員会）を含めた人間関係学部全体での対応を検討してほしい。

2）人間関係学科　社会・臨床心理学専攻

＊クラス指導は 1 学年に A クラスと B クラスがありますので、大学教員として経験の深い先生と若手の教員もしくは男女の教員がペアになると良いと感じています。そのためには女性教員がもっと増える必要があります。
＊クラス指導を行う中で生じる様々な課題について、適宜、もう片方のクラス担当の教員や専攻会議において共有が出来るため、安心感を持って指導に当たることが出来たと感じる。
＊（職務上、クラス指導は行っていない）学内実習施設における大学院生および研究員の指導としては、小まめな情報の伝達と確認に努めること、個々人のニーズをできるだけ把握するよう努め、それぞれが自らの力を伸ばせるような環境の実現と教育的指導を継続している。昨今では、学生同士のコミュニケーションの難しさや、社会人としての基本的な態度や対人スキル（報告、連絡、相談の徹底）を身につけることなどが課題となっており、工夫が続けられている。

3）人間福祉学科

＊学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もおり、必要に応じての声かけが大事だと感じた。
＊50 数名のクラス担任であるが、今の時代を反映しているように、様々な学生が存在している。大学として挙げられている対応方法、あるいは委員会や専門のセンター、事務部等の方々と

の情報共有や対応は必須と考えている。
＊クラス学生への指導において、授業担当者や学科教員、相談センター、事務と連携を取りながら多角的に学生の状況を把握したうえ、クラス指導を行うことができたと考えます。
＊１年を通して個別の配慮が必要なことが多かった。クラス担任とゼミ担任の連携が非常に重要であると感じた。3・4 年次になると学年全体を担当する授業もない場合は、クラス全体の指導が難しくなるので、UNIPA の学生の情報などをゼミの先生にも公開していった方がより学生を指導しやすいと感じる。
＊日頃の講義等を通じて、クラス担当の学生だけでなく、他学科の学生相談を受け入れるように心がけている。
＊少人数なので個別情報を知っているので、困っている様子などが把握しやすい。
＊３年次生のクラス担任の役割は、実質的には限られた学生への対応になることが多いが、多くの学生が福祉専門職と企業への進路選択に悩んでいたり、それらが学問への意欲停滞に繋がる等、多様な生活上の課題を抱えている時期でもあると実感する。
＊成績や教員間の情報という限られた内容で学生の実情を把握しているに留まっている。本当に困った時に、窓口の１つであるために、学生へのメッセージの伝え方を今後も模索していきたい。また、でしゃばらず、ただ窓口を開けておくスタンスは続けていきたい。

２．まとめと課題

大学の教員は講義、演習、実習等で学生に専門的知識や技能を与え、自ら考える力が身につくよう、さらにそれらをもとに、自己を表現したり問題解決にあたれるように指導することを基本的業務の一つとする。その一方で自己の専門領域に関する研究を行い、それを発信していくことが期待されている。クラス指導主任という役割はこれらのいずれにも属さない大妻女子大学を特徴づける本学教員に与えられた業務である。つまり狭義の教育と研究という 2 本柱とは直接かかわらない業務である。この業務は、表舞台に出にくい、教員業務としては評価されにくいという特徴がある。T. パーソンズの古典的な二分法でいうと手段的役割というより圧倒的に表出的役割が期待されている。シャドウ・ワークとしての側面が強い業務と言える。

本学ではすべての学部・学科・専攻にこのクラス指導主任制度がおかれているが、当然のことながらそれぞれの学部ごとに制度の捉え方に違いがあり、比重も異なる。人間関係学部だけをとってもみても、学科・専攻による教員の回答率の違いに驚かされる。役職があると自動的にクラス指導主任を免除する学科もあればそうでなかったりする場合もある。つまりクラス指導主任という業務の量をどの程度のものと考えるかによりこうした違いが生まれる。そう考えてみると、学祖大妻コタカが目ざしてきたものと現在わたしたちが実践しているものとがどのような位置関係にあるのか、その継承と変化を考えてみる一つの有効な視角ともいえる。

以上は制度としてのクラス指導主任という点から考えられることである。これを実際に担当する教員の視点から回答したものが、上記の１の「(1) クラス指導の状況」「(2) クラス指導を行う際に工夫している点」「(3) クラス指導に関する意見・感想」である。3 つに分かれてはいるが、この区別にこだわらず全体を読むことでいくつかの近年の傾向がわかる。

第一に、程度の違いはあるが、困難や障害を抱える学生が増えてきているという主観的印象

を共通してもっていること。第二に、その学生を支えるためにクラス指導主任としてはゼミの教員や学科・専攻内の情報共有を必要としていること。第三に、学科専攻を超えて、相談センターや事務部との情報のやりとりも必要だと考えていること、である。

困難を抱える学生へのクラス指導主任の対応としては、大きく分けて 2 つあり、一つは学生と向き合い親身に状況を理解することに努める立場であり、もう一つは教員や学内の情報共有を強調する立場である。もちろん両方とも重要であることは言うまでもないが、どちらにより比重を置くかは教員によって異なっている。理想的に言えば前者があって、後者が意味をもつ。情報伝達が優先された結果、じっさいに困難を抱えている学生にとって解決がみえないばかりか、より不本意な事態を招来しないとも限らない。

冒頭にクラス指導主任の特徴として表出的役割が主であり、業務としての性格はシャドウ・ワークだと述べた。何人かの教員が話しやすい雰囲気作りをする、学内で声がけをするように努めている、話を聞くようにする、といった工夫を書いている。つまり、困難を抱えていないかどうかを折あるごとに確認をするための工夫である。状況が把握できれば小さな解決法があるかもしれないし、より広域に協力を必要とするかもしれない。いずれにしてもそうした問題の気づきが重要であるとしているのである。

「3 年・4 年次生に関しては、学生の指導は事実上クラス担任ではなく、ゼミ担当教員が中心に行っているため、3・4 年のクラス担任にとっては、FD 報告書のこの項目は不要ではないか」という声もある。50 名前後の単位になると、実際、学生の小さな変化に気づくにはサイズが大きすぎる。この点は学科・専攻で検討する余地がある。

2020 年度から障害学生修学支援委員会という全学組織が始まる。それ自体は修学に困難を抱える学生を支えるという重要な役割を担う。しかし、教員として重要なのはまず、学生の日常生活を通して状況を把握するところからはじまるということを再確認しておきたい。この点で 2020 年度から GPA に基づく学生への指導を記録として残す取り組みが開始する。そのために学部で共通書式も使用することになっている。保管に配慮するのは当然のこととして、この取り組みは学生にとってもクラス指導主任にとっても指導を明示化し履歴が残るという点で、今後の学生指導の有用なツールになる可能性がある。

Ⅶ　人間関係学部ＦＤ研修会について

「授業をよりよくするTips」のテーマで4年間連続して行う旨の基本方針が既に決定されており、昨年度、4回目のTipsを実施する予定であった。しかし、総務委員会より、私立大学等総合改革支援事業タイプ1「教育の質的転換」取得を目指し、教育の質的向上に向けた取り組みのうち、「シラバスの書き方」に関するFDを実施して欲しいとの依頼があった。さらに、障害学生支援委員会より、障害学生に関するテーマについて連携して実施できないか打診があった。そのため、本委員会で検討し、昨年度は別の内容について学部FD研修会を実施した。今年度は、昨年度実施予定であった「授業をよりよくするTips」について実施した。

１．日時・場所等

・令和元年12月6日（金）教授会終了後17:00～
・研修会　17:00～19:00　　7号館7247，7283，7284，7286

２．内容

（１）タイムスケジュール

スケジュール

17時00分　開会のあいさつ【教室：7247】
17時15分　分科会での議論【教室：7127，7283，7284】
18時30分　各分科会の結果報告，まとめ【教室：7247】
19時00分　閉会

（２）分科会の内容

第1分科会：井上修一先生「マルチスクリーンの活用：ビデオ起こしと授業内容の提示」
（司会：上野先生，教室：7127）

第1分科会では、井上修一先生（人間福祉学科）による、「マルチスクリーンの活用：ビデオ起こしと授業内容の提示」というタイトルで、2つのスクリーンを同時に使っての授業の進め方について発表があった。演習系の授業と通常の授業の2つに分けて解説があった。学生から見て、中央のメインスクリーンには、その日の授業における基本項目となる事柄を映し出し、右手のサブスクリーンには、授業の展開について示されるなど、先を見据えて予測できる内容となっている。続いて、「ケアマネージャーの業務について」のVTRを流し、所々の開設やポイントとなる部分をサブスクリーンに提示するというものであった。VTRは、実際のケアマネージャーの業務中の内容が流れているので、学生にとっては現場を知ることができ、視聴中も遮ることなくサブスクリーンの投影内容が程よく提示されるので、学生にとっては気が抜けず、かといって飽きさせないように種々の工夫が盛り込まれていた。その後は、クイズ形式で質問内容が作成されていたり、試験対策の場としても活用できるので、大人数の授業としても活用できることが確認された。意見等については、情報量が若干多い印象も受けるが学生はついていけるのか」などがあった。教員の細かく丁寧な授業の準備と、環境を最大限に活用している

効率の良い授業方法として、参加教員も大いに有意義な分科会となった。（文章：上野先生）

第 2 分科会：野辺陽子先生「講義に取り込む様々なワーク」
（司会：伊藤先生，教室：7283）

第 2 分科会では、野辺陽子先生（社会学専攻）が、「講義に取り組む様々なワーク」というタイトルで、講義科目にいかにして様々なワークを取り入れているかの発表を行った。彼女が担当している講義科目「ジェンダーと社会生活」「ライフコース論」「家族と現代社会」は受講者数が 30 から 80 名程度である。その中で、1 回の授業をレクチャー、討議、グループ発表といったように複数のセクションに分割し、学生の集中力が途切れないような工夫が紹介された。討議内容は、身近な話題からジェンダーやライフコースあるいは家族を学生が考えるように作られていることが報告された。また、討議においては、まず、リアクションペーパーに意見を書かせたうえで 6 人グループを作り、「前に座っている右側の人から（意見の発表を）始めて、何が正解で何が正解でないというようなテーマではないから」と指示を出すことで、学生に自分の考えを表現する練習をさせていることが報告された。野辺先生の報告ののち、参加教員からの質問がなされ、さらに、それぞれの教員が独自に行っている「講義に取り組む様々なワーク」の事例も共有しあった。活発な議論がなされ実り多い分科会であった。（文章：伊藤先生）

第 3 分科会：山蔦圭輔先生「多様な学生への教育―座学のアクティブラーニングとは」
（司会：本田，教室：7284）

第 3 分科会では、山蔦圭輔先生（社会・臨床心理学専攻）が、「多様な学生への教育：座学のアクティブラーニングとは」というタイトルで、目的意識等含めて多様な学生が混在しているクラスでの効果的なアクティブラーニングについて 2 つの事例をもとに発表を行った。1 つ目は「見通しを立てられる授業」ということで、各授業回で事前課題を設定し、それを小テストの形式で確認・評価し、授業を行うというサイクルを繰り返しているとのことであった。特筆すべき点は、小テストが定期試験の問題とほぼ同一の内容であり、それで学生の勉強のしやすさ、動機づけの向上につなげている点である。2 つ目は「グループワークと調べ学習」ということで、バズ学習、ジグゾー学習、ICT を用いた調べ学習（各グループ 1 名のみスマホ使用 OK）など複数の教育手法を併用し、その成果物をそれぞれで評価しあうことによって、成果物が評価される喜びを感じさせ、それを質の高い学びにつなげているとのことであった。討議においては、各学科・専攻において学生の多様性が以前よりも広がっていることへの共有がなされた。「学生と学びを結びつけることの大切さ」や「多様性が広がった今だからこそ、教員の力量が問われる」という意見が出させ、継続的に学生と向き合い、教育の質を高めていくことの重要性が確認された。大変活発かつ実りの多い分科会であった。（文章：本田）

なお、それぞれの分科会で使用された資料については巻末に資料として掲載している。

３．終了後の参加者アンケート結果から

（１）全体的な評価

・他の先生方のとりくみがわかり大変興味深い内容でした。
・いろいろな先生方のご意見をうかがえて、今後の授業の参考になりました。高校までの教育が変化していくなか、年々大学教育の対応を考えていく必要があると思いました。他の分科会も興味深く思うので、レジュメ等、共有できるとありがたいです。
・他学科の学生の事情をうかがうことができた。参加人数も多すぎず少なすぎずちょうど良かった。福祉の先生方から出た「授業のスキルが問われる」ことに関しては、自分も学びながら行わないと伝わらないと感じた。
・多様な学生への教育、という今年度より大学教育に関わることになった自分には大変関心の高いテーマでしたので、参加できてうれしく思いました。
・先生方の講義やリアペの扱いの工夫など沢山聞いて勉強になりました。今後の授業に導入したいと思います。
・発表者及び参加者の先生の工夫について色々うかがえて勉強になりました。
・今年も大変有意義な時間を過ごさせていただきました。〝自身の授業をどうするか〞という工夫することへのモチベーション向上に刺激を与えていただいた気がします。
・第二分科会に参加しましたが、発表者への質問が始まり、最後にはそれぞれ参加している先生方の工夫に耳を傾けて学ぶをいうとても Playful で有意義な FD 研修会となりました。全員が発言したこともあり、あとまで意見交換がつづき面白かったです。明日への活力となりました。ありがとうございました。
・それぞれたいへん興味深いテーマで良かったと思います。
・良い企画と準備をありがとうございました。
・他専攻、他学科の授業・学生についてお話をうかがえる貴重な機会でした。ありがとうございました。
・授業や学生指導について皆さん悩んだり工夫したりと、おれぞれ課題があることを知ることが出来て、とても良い機会でした。他の分科会の内容も拝聴したかったです。
・小さな発見や確認ができ、よい機会でした。
・先生方の授業の工夫が聞けて勉強になった。
・効率的な、授業展開の方法など、良くわかりました。
・これまでよりもさらに具体的かつ先進的な内容になっていて、学ぶところ、取り入れるものが多くて、大変有意義でした。ディスカッションも率直かつ建設的で、よかったと思います。
・先生方の Tips を伺うことができ、とても貴重な機会でした。学科や専攻を超えて、毎年この時期に先生方と語り合うことができるのは、授業の本質について考える良い機会になっています。
・毎回、講義等に活かすことができる内容です。
・野辺先生のところに出ました。お人柄が出るので、面白いご発表でした。また、いろいろと考えさせられました。
・私は授業を行うことはありませんが、先生方のお話を聴くことができ大変勉強になりました。

・大変興味深かったです。先生方の取り組みの様子が分かり有意義に過ごせました。
・教育方法という部分だけではなく、その背景にある問題などについても考えるきっかけになりました。
・自分が以前あきらめていた講義内でのワークの方法について考え直すきっかけが得られてよかったです。
・分科会では、非常に活発な意見交換ができて、有意義であった。
・井上先生の授業に対する工夫をご教示頂き、授業準備に時間を割いておられることを一番に感じました。情報量が多く、付いていけない学生がいるのではないかと思いましたが、初年次は時間的配分を考え、学生自身が上手く対応できるようになればメディア教材が活躍することが分りました。また、大人数でもクイズ形式を盛り込み、アクティブに学べる井上先生の取組みを伺い、応用できることがたくさんあると知ることができました。学生のように参加してみることができ、視点を１つ持つことができました。
・第３分科会に参加しましたが、冒頭の山蔦先生の報告と、その後のフロア参加者との意見交換とが、若干かみ合っていない印象を受けました。もっとも、フロア参加者からの意見は、それ自体としてとても興味深い内容だったので、分科会全体としての成果は十分あったと思います。

（２）今後取り上げて欲しいテーマについて

・How to 的な内容が続いていますが、why か what に関わるセミナーも必要かと思います。
・①大人数授業の興味の引き付けられる方法について（具体的工夫）②入学生の学力の差に配慮しながら、の授業の展開の方法について
・アクティブラーニングの続き（具体的な内容）も知りたいと思う。
・学生への教育や授業への熱意を他の色々な専攻の先生方から聞けたことが大変勉強になりました。このようなテーマがまたあればぜひ参加したいです。
・今年と同じような形式で何年か続けられると積み重ねが出来て良いと思います。企画から当日の運営までありがとうございました。
・合理的配慮対象学生への具体的な課題の出し方について
・普段、学科・専攻間で授業についての情報交換することがないので、これまでも Tips を軸に他学科・専攻の授業の様子（内容含めて）を共有できる点がとても良いなと思っていました。ですので、これからも学科・専攻・職員の方々と混ざり、かつ、小グループ（分科会）方式での実施がよいと思います。
研修会の企画、ありがとうございました。
・毎年 Tips はとても楽しみにしております。今後もシリーズでつづくと嬉しく思います。ありがとうございました。FD 委員の先生方、お疲れさまでした。
・manaba の活用事例の報告など
・「多様な学生への教育」は続けていただきたいテーマです。
・他大で受けてきた FD 研修会の中で、とても良い機会であったと思います。本田先生の司会もとても良く、良い時間を過ごすことができました。

・今回のテーマもやはり続けてほしいと思います。
・この内容と形式を続けていっていいのではないかと思います。
・研修会の大枠としては Tips が良いと思います。Tips を継続することが学部での FD 活動の独自性につながると思うからです。
・難しいとは思いますが、これから数年間の研修計画を立てて取り組むと、より効果的になると思います。
・授業の方法論という部分もあるかと思いますが、学生の就学に関する課題なども散見されるようになっている現状を考えると授業内での学生対応について検討などを行うようになってもいいかと感じます。
・定期的に他の先生の授業方法を知ることはとてもいいことだと思いますので、同内容のコンセプトで毎回担当になった先生方からその回ごとの話題、切り口が出てこればよいと思っています。
・今年のように、分科会で教員が個別に取り組んでいる授業の事例を紹介し、参加者全員で意見交換を行う方式でよい。
・①授業支援システムの活用方法について（改めて）＝全学で web 上で実施はしていますが、視聴していない人もいると思います。②新任大学教員が大妻での教育に慣れるための FD と、授業の作り方について学ぶプログラム③ネットワーク多摩あるいは近隣 5 大学での取組みを仕掛けても良いのではないでしょうか。

（３）実施時期について
・この時期がちょうど良い（26 名）。
・変更して欲しい（2 名）

（４）研修会の形式等について
・今のままで良い（28 名）。なお、新たな形式があっても良いとの意見もあり。

Ⅷ　人間関係学部授業改善ＦＤについて

令和元年度人間関係学部授業改善 FD を以下の通り実施した。本 FD は昨年度より実施しているものであり、「授業改善に向けた学生の代表者（学友会）との意見交換」を実施した。

１．日時・場所等

・2020 年 1 月 10 日（金）12 時 20 分～12 時 55 分　7 号館会議室
・教員：7 名、学生：5 名（学友会）

２．内容

冒頭の自己紹介を終えたあと、授業に対する学生からの要望について議論を行った。以下、学生から出てきた意見とそれに対する教員の返答を記載する。

（1）コンピューターの授業で同一科目名で成績評価が違う。
A・B で差がある（例えば、課題がない授業とある授業など)。授業を受けたことを活用できない。
→現状を確認する。

（2）授業評価アンケートにも書いたが、私語に対する対応が授業によって異なる。
ご飯を食べている学生がいることもある。

（3）英語の時間割で前半後半の仕組みの公平性を求めたい。
水曜日だけ前半後半の入れ替わりが不公平である。
→現状を確認する。

（4）外部の先生が担当している授業で授業終了の時間が早い先生がいる。内容の厳しさも違う。
→専任の先生が 1 人いらっしゃって、共通シラバスを使っている。授業評価の基準を打ち合わせているはずだが、とりまとめの先生がその状況を知らない可能性がある。

（5）授業内容の難しさを学生に合わせて配慮してほしい。学生と先生とのやりとりが活発な方が望ましい。いくつかの授業で、授業内容が数回かぶっていることがあったので先生たちの間で授業内容の把握、連携を取ってほしい。

（6）シラバスについて、全学共通の科目については参考にするが専門科目は見ていない。先生で判断している。1 年生の時、シラバスをどのように活用したら良いのかわからなかった。シラバスの内容と実際の授業が違うこともあり、シラバスが参考にならないことがある。テストまたはレポートという書き方だと提出物があるのかないのか判断できないので、それも明示してほしい。

（7）授業中に携帯電話を使用して良いのかどうか、悩む。使ってほしいと書いてある授業があるが、実際には使わないこともある。
→わからないことを調べたり、授業内容を聞きながら自分自身でさらに学びを深めるように使ってもらえると良い。

（8）コタカ wifi のつながり具合（6 号館）が悪い。携帯会社の wifi が使えない。
→設備の問題ではあるが、年々改善を重ねているところである。
（9）私語がうるさい時の対応について
→他大学では一般市民の方がティーチングボランティアとして入るということもあった。座席指定というやり方もあるが、大学でそれをやった方が良いのかどうかという議論もあり得る。
→幼稚だと思うのでやってほしくない。ただ、友だちがうるさかったりするときに、どうしても関係性を考えて注意できないことがあるので、先生に注意をしてもらえると助かる。

以上のように、学生と教員の間で授業改善に向けた活発な意見交換が行われた。なお、意見として挙げられていたコンピューター（1）、英語（3）、演習系の授業（4）に関しては、後日、担当およびとりまとめの先生に FD 委員長として内容を報告し、次年度の改善点について話し合った。そして、今後も継続して関連のテーマについて議論を続けていくことの重要性が確認された。

Ⅸ　非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を毎年春に開催し、授業の質の充実・向上に向けて率直な意見交換を行っている。人間関係学部においては、例年、学部の全体会を実施した後に、各学科・専攻に分かれて議論が行われている。平成 31 年度の教育懇談会は、5 月 26 日（土）に開催された。

最初に全体会において学部長からの講話があり、その後、学科・専攻に分かれて教育内容に関する意見交換が行われた。最後に、多摩キャンパス全体の合同懇親会が開催された。

１．学部の全体会の概要

福島学部長より、以下のような講話があった。

（１）最初に、多摩キャンパスの今後の目標について説明が行われた。

① 教育の質の向上を上げることである。具体的には、英語教育プログラム（TEP）の充実、キャリア教育の充実、資格取得等である。

② 物理的環境の改善である。学生サービスの向上・中高との連携、購買・食事環境の改善、多目的スペースの設置、カフェや地域開放エリア等を充実させることである。

③ 共生社会文化研究所の設立・活性化をはかることである。
学問の場としての魅力や実績をつくりあげていきたい。

（２）人間関係学部の理念として説明があった。

① 「共生社会の実現」を目指す。個人が他社との違いを認め、個性を尊重し、支え合う関係性を保つことで、誰もが生きやすい社会を目指す。

② 共生社会実現のためには、多様性を認めて受け入れる「多様な価値観」「多元主義的価値観」が大切である.

２．各学科および選考における懇談会の内容

当日出された主な質問・意見等は、以下の通りである。

【授業の運営方法・学生の指導方法に関すること】

（１）昨年、セミナー系の授業を担当した。大妻の学生はポテンシャルが高いと感じている。それに比べて、自信のない学生が多い。全体として、自信をもたせるために、どうしたらよいか、現在、思案中である（社会学専攻）。⇒（対応等）自分の長所を自覚していない学生が多い。自分のなかに、何か一つは得意なことがあるはずで、それに学生が気づくこと（学生に気付かせること）が大事であると思う。大妻の卒業生で成功した者を招待して特別講義をお願いすることも重要だと思う（社会学専攻）。

（２）学生の上と下がかなり離れている。上というのは真面目で熱心な学生で、下というのはゼミなのに出席しなくなるという意味である。前期に真面目にやっていた学生が後期に来なくなり、発表時に来なくなる（もう一度機会を与えたが、発表しなかった）ケースもあった（社会学専攻）。⇒（対応等）発表日なのに、発表しないで欠席する学生は、実際、例年存在する。入試形態による二極化が顕著である。この傾向は以前から見られた

が、この 2 年は著しい。途中からゼミに来なくなる事例については、家庭環境の変化、アルバイトに熱中しすぎる、などが考えられる。個々の学生の事情については、クラス指導主任が把握しているので、問い合わせてほしい（社会学専攻）。

（3）キャリア関係のアクティブラーニングの授業で、学生の意欲についてばらつきがあり、悩ましい。4 人でのグループワークなどの場合、一部の主体性をもった学生が中心になってしまう。リアクションペーパーを書かせると、他の学生も比較的よいコメントを書くのだが・・・（社会学専攻）。⇒（対応等）しゃべらない学生のグループ、一人だけ喋る学生のグループ、など、なかなか教員側から指導するのは難しい。グループ内にしゃべる学生が 3 から 4 人くらいいるとうまくいくのだが。この授業は、（いろんな意味で）構成を変更する必要があると考えている。社会学専攻だけであれば同質性が高くやりやすいが、社会、心理、福祉がミックスされると授業が難しくなる。逆に、3 学部一緒くらいに多様性が高くなると、また、やりやすくなるが、今は、一番、やりにくい学生構成になっている。専任教員も試行錯誤を行っているのが現状である。

（4）（非常勤・常勤）アクティブラーニングの効果的な行い方は？（社会学専攻）⇒（対応等）4 階の講師室にアクティブラーニングのための諸機器が設置してあるので、ご活用いただきたい。Manaba にも便利な諸機能がある（社会学専攻）。

（5） 4 年で内定はもらったものの、働くことに強い不安をもっている学生がいる。企業で働くと死ぬまで働かなくてはならないのでは、という不安を学生はもっている。このような状態に対し、キャリアデザインではどのような授業を行っているのか（社会学専攻）。⇒（対応等）働くことに対する否定的なイメージをもっている 1 年生は多い。働くという具体的経験がないまま、否定的なイメージをもっている。バイト（外食、小売）での経験が大きい。キャリアデザインでは、人として幸せに生きていくなかに、働くことをどう位置付けていくのかを、授業している。ワークライフバランスではなく、「会社で働く中で人生の楽しみを見つけていく」という考え方もあるのではと思っている。働いていて得をした女性の経験談を学生にしたりもする。それぞれの学生の心に響くエピソードを話しながら、働くことと折り合いをつけていけるように指導している。社会学を生かした女性活躍のさまざまな成功例（NPO、家庭裁判所調査官、公務員）があるはずで、その多様な選択肢を見せることが大切なのではと考える。大学の外に学生を連れていき、さまざまな働き方の事例を学生に示すことが必要であろう（社会学専攻）。

（6）メンタルヘルスに関わる内容の講義をした後に、個人的な相談をしてくる学生へどのように対応したらよいか（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）話しを聴いて、深堀りはせず、学生相談室や談話室に行くように伝える対応などが良いでしょう（社会・臨床心理学専攻）。

（7）manaba の使い方やレスポン、クリッカーの使い方について（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）実例をモニターに映して説明した。また非常勤講師室の説明を兼ねてクリッカーの現物を見てもらった（社会・臨床心理学専攻）。

（8）授業中の工夫などを知りたい（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）映像資料の使用、テキストをまとめさせること、レスポンの使用例など専任教員が日頃行っている授業の

工夫をお伝えした（社会・臨床心理学専攻）。

（９）シラバスに「学生の主体的学修を促す授業の実施」への取り組みを記入するのはいつからか（人間福祉学科）。⇒（対応等）今年度から依頼している。今からでも修正可能なので、変更のある場合は適宜お願いしたい（人間福祉学科）。

（10）シラバス作成についての３つの依頼について、すべて満たす必要があるのか（人間福祉学科）。⇒（対応等）可能であれば、３つについてすべて記入をいただきたい。

（11）授業の履修者が少ない場合、アクティブラーニングが難しく、どうすればよいか（人間福祉学科）。⇒（対応等）少人数の場合プレゼンテーションなどを実施することで工夫できると考えます。是非、ご検討をお願いしたい（人間福祉学科）。

（12）科目によっては知識を多く伝えなければならず、アクティブラーニングを実施すると、その知識量がへるのでジレンマがある。履修者数が多い場合には難しいのではないか（人間福祉学科）。⇒（対応等）人数が多くてもアクティブラーニングを実施することは可能です。例えば、manaba の活用が考えられます。WEB でのやり取りが可能なので、多人数授業でも活用し、実施しているなどの具体的な例をお伝えした（人間福祉学科）。

（13）成績評価について、出席点はどのように考えたらよいか（人間福祉学科）。⇒（対応等）授業に出席するのは当然のことと考えるため、出席点は入れません（人間福祉学科）。

（14）シラバスに出席点を書かないよう言われたが、決まりなのか（人間福祉学科）。
⇒（対応等）決まりです（人間福祉学科）。

（15）欠席が 1／3 であれば、落として大丈夫か（人間福祉学科）。⇒（対応等）大丈夫です（人間福祉学科）。

（16）相談援助演習の履修者は社会福祉士の受験資格を希望する学生なのか（人間福祉学科）。
⇒（対応等）相談援助演習は、社会福祉士受験資格を希望する学生のみが履修できます（人間福祉学科）。

（17）２年生から３年生で社会福祉士の受験資格を希望する学生が減っている理由は（人間福祉学科）。⇒（対応等）２年から３年生の時期は、進路選択に迷う時期である。そのため、自分の希望する進路選択に社会福祉士の受験資格は必要なのかを考える学生が増えること。また、社会福祉士の相談援助実習は、成績によって履修できない学生も出てくるため、減少していると考えている（人間福祉学科）。

【学生の言動・授業態度に関すること】

（１）精神的な病気の学生について、学生から医師の診断書の提示があった。欠席のメールが来たので、返事を書き、非常勤仕事の範疇を超えるかもしれないと思ったが、講義のあとに、話をする約束をしたが（これでよかったか）（社会学専攻）。⇒（対応等）その学生は、欠席のときはよくメールを書く。欠席に対する配慮を求めているのであろうと考えられる。対応をしていただけるのは大変ありがたい。また、何か問題があった場合、社会学共同研究室の助手に、そのような情報を提供していただけると、教員にも伝わるのでお願いしたい。大学としては、心理カウンセラー、専任教員、担当事務の連携体制で、そのような学生に対する支援を行っている（社会学専攻）。

（２）授業中に周囲の人と話し合うことが苦手なので、配慮してほしいと訴える学生にはどのように対応したらよいか（社会・臨床心理学専攻)。⇒（対応等）話し合いをする前に、十分に講義をして予備知識をもたせること、自己紹介のワーク等を通じて、受講生同士を知り合いにすること、次回の授業で話し合いをすると予告する等、段階を踏む対応等がよいのではないでしょうか。合理的配慮に係る学生ではないのならば、話し合いを避けるのではなく、大学生のうちに経験されることも重要でしょう（社会・臨床心理学専攻)。

（３）配慮が必要な学生について、どこに相談すればよいのか教えて欲しい（人間福祉学科)。⇒（対応等）単位については教務委員。障害に対する対応については学生相談センターへお願いしたい。基本的には、配慮願いの通知を出している学生に対して配慮をお考えいただきたい。授業担当の先生には、配慮の必要な学生がいる場合、必ず通知がいく（人間福祉学科)。

（４）配慮が必要な学生について、昨年度何通かもらった。実際、授業ではどの学生かわからず、すべてフォローできたか不安である。実現できたかの追跡ができなかった（人間福祉学科)。⇒（対応等）専任教員だと学生も言いやすいが、非常勤の先生の場合に、話せない学生も多い。基本的に、学生には、非常勤の先生方にも自分から伝えるように指導しているが、難しいようです。昨年度、配慮願いを出した学生から不満は出ていません。追跡については今後の課題と考えたい（人間福祉学科)。

【その他】

（１）臨床心理士や公認心理師などの心理職について質問してくる学生がいる（社会・臨床心理学専攻)。⇒（対応等）ご自身の経験等を踏まえ、さまざまな視点からお話しいただけるとありがたい（社会・臨床心理学専攻)。

（２）公認心理師、臨床心理士になりたいという相談はあるか。その場合、どのように回答しているか。大学としては公認心理師志望者が増えると対応が難しくなることを懸念している（社会・臨床心理学専攻)。⇒（対応等）公認心理師と臨床心理士とセットで資格を持っていないと役に立たないと説明している。特に、女性のキャリアについての質問がある。就職してからだと年齢も高くなるし、就職経験が必要かどうか疑問に思うこと、また、働きながら大学院の受験勉強をするのは難しいことなどを答えている。本務校では公認心理師志望者に制限をつけなかったために、ほぼ全員が志望して、対応に大変困っているのが実情である（社会・臨床心理学専攻）。

（３）メンタルヘルスに関わる内容の講義をした後に、個人的な相談をしてくる学生はどのように対応したらよいか（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）話しを聴いて、深堀はせず、学生相談室や談話室へ行くよう伝える対応がよいでしょう（社会・臨床心理学専攻）。

（４）高等教育無償化制度についての対象学生を教えて欲しい（人間福祉学科）。⇒（対応等）住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生となります（人間福祉学科）。

（５）外国人の受け入れも日本は増えている。多文化理解について、学科としての考え方を知

りたい（人間福祉学科）。⇒（対応等）留学生も少しずつであるが増えている。学科では、在日コリアンの事例を使って多文化理解を進めている。また、川崎市の多文化交流会に学生が参加できる機会を設けている（人間福祉学科）。

X　人間関係学部におけるＦＤ活動の課題

１．まとめ

昨年度より、多摩キャンパスは人間係学部のみでの教育・研究活動を行うこととなった。多摩キャンパスに通う学生たちへの質の高い教育を保証するために、昨年度と同様に教職員一丸となって FD 活動に取り組んだ一年であったといえる。あくまでも一つの指標ではあるが、授業評価アンケートの結果として、ほぼすべての項目で昨年度に近い高い数値となったことは、本学部の FD 活動が着実に教育の質の向上に寄与していることを示唆するものであり、次年度以降の FD 活動の励みになると考えている。

また、今年度は学部 FD 研修会において、昨年度は行うことができなかった「授業をよりよくするための Tips―その 4－」を実施することができた。授業を改善するための他の先生方の工夫を教職員で共有するこの企画は、本学部の特徴と言えるものであり、参加の教職員の評価もとても高い企画である。これで、当初計画していた 4 年間の Tips を無事に終えることができたことは良かったと言えるのではないであろうか。他にも、昨年度より、学生の声を直接聞く機会である「授業改善のための FD」を実施したことも良かった点である。普段は聞くことのできない学生の率直な声を聞き、さらに、教員側からしっかりと意見を伝えることで、相互理解が深まることが重要であろう。実際に、学生から挙がってくる声には、教員側の改善が必要となるものだけではなく、学生の誤解や、過度な要望もある。改善が必要なものについては真摯に受け止める一方で、何でも言うことを聞くのでは無く、教育の視点から学生に伝えることで、学生自身の授業の受け方や大学に対する考え方に変化が見られるようになるのではないだろうか。そういった点においても、学生の声を聞き、議論をする機会を定期的に設けることは重要だと考えている。

最後に、教員（非常勤講師含む）からの FD 委員会への要望に対応したことも今年度の特徴であった。昨年度、授業改善に向けて、教室にレーザーポインターをおいてほしいという要望がいくつも見られた。この点について、FD 委員会で議論をし、今年度大人数の教室にレーザーポインターを設置することとした。また、教室変更要望も多く聞かれたため、上記のレーザーポインターの件も合わせて、教員に向けて、FD 委員会から要望に対する対応策についてまとめた資料を配付した。より良い教育を実践していただくために教員からの要望にも真摯に対応するという姿勢を見せることが出来た点は大変意味のあったことだと考えている。今後も、学生、教員双方に意味のある FD 活動を実践していければと考えている。

２．課題

課題としては、昨年度と同様に、対話の更なる重視とフィードバックの強化、FD 研修会の改善が挙げられる。日頃の学生との関わりに加えて、保護者懇談会、非常勤講師との教育懇談会など、対話の場がいくつも設けられている。また、学部 FD 研修会、学生代表との授業改善 FD などいくつも場の設定は行われているが、まだ足りていないと考えている。特に、授業アンケートへのフィードバックが実施形態の関係もあり、どうしても授業終了後になってしまうことは学生にとっても教員にとっても消化不良になっているのではないだろうか。幸いなこと

に授業アンケートは次年度より、Web 形式に変更となるため、より即時的なフィードバックが可能となる可能性が高い。よってこの点は改善が期待できるのではないだろうか。次に、FD 研修会の改善も今後の課題として考えている。今年度で 4 年間継続することを決めていた Tips が終了した。Tips 自体は評価が大変高く、意義のあるものだと考えているが、その一方で、Tips のような How to の内容ではないものを取り扱って欲しいという意見や、新たに数年間の学部の FD の目標を定めて、それに向けて数年間の FD 計画を立ててはどうかという意見、年に 1 度ではない FD の機会の提供をしてはどうかという意見など、教育に熱心な本学部の教員から様々な要望が寄せられている。本学部の FD 活動として優先すべき事項は何かをしっかりと見定めた上で、全学のモデルとなり得るような FD 活動を今後も模索していきたい。

人間関係学部ＦＤ研修会　分科会資料

2019（R1）年度

2019年度
人間関係学部FD研修会
「授業をよりよくするためのTips —その4— 」

人間福祉学科
井上　修一

1

【第1分科会<7127室>井上修一】

マルチスクリーンの活用
:ビデオ起こしと授業内容の提示

- 17:15～17:30＝説明（15分）
  - マルチスクリーンの活用場面
  - 「演習」系授業の場合→スケジュールとワークの提示
    （ポイント1）:進行全体を見通せる
    （ポイント2）:今、何をしているか、何の時間かわかる
  - 「通常授業」の場合→要点提示とビデオ起こし
    （ポイント1）:すばやく要点がつかめる
    （ポイント2）:理解が深まる（文字情報が手元に残る）
- 17:30～17:50＝例1「ケアマネジャー業務」（20分）
  - 中央＝DVD映写
  - 右側＝pptでポイント提示とビデオ起こし映写
- 17:50～18:10＝例2「認知症ケアの事例」（20分）
  - 中央＝DVD映写
  - 右側＝pptでポイント提示とビデオ起こし
- 18:10～18:30＝意見交換＆移動（20分）

2

（例_演習）グループ学習(3)《自己覚知＆コンセンサス演習》

◎（ねらい）実習のシミュレーションと倫理的ジレンマの体験

13:10～13:40（30分）
- 事例2「年寄りのものは汚いからもらえなのか！」といわれて（読み合わせ）
- 課題1～4をまとめる（個人作業）
- 課題1(3)には、（適切な行動）「口語体」と（理由）を整理する
- 課題1～4と（別紙）は、授業の最後に名前を書いて提出　→　後日返却

13:40～13:50（10分）

◎リーダーシップを分担する＆グループ内の好ましい行動と気になる行動
（全体で読み合わせ）

13:50～14:10（20分）

◎グループで、統一した対応にまとめる
- (1)グループ課題1(3)を紹介しあう
- (2)〔別紙〕グループ討議用資料に統一した対応をまとめる
- (3)クラス内発表　→　教員とロールプレイ

3

学籍番号　　氏名

（例）《グループ討議用資料》課題1-（3）

自分だったら、この場面でどう行動するだろうか。
またその理由。適切な行動を考えてみよう。

Aさん「年寄りのものは汚いからもらえなのか！」

（適切な行動）

（理由）

4

ケアマネジャー（介護支援専門員）とは

(1)**要介護者・要支援者からの相談に応じる**とともに、
(2)要介護者等からその心身の状況等に応じて適切な居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスあるいは各種の介護予防サービスを利用できるように、**市町村、サービス事業者や施設との連絡調整等を行う者**であって、
(3)要介護者等が自立した日常生活を営むのに必要な援助に関する**専門的知識及び技術を有する者**として、
(4)**介護支援専門員証の交付を受けた者**のこと。

◎**5年ごとに**更新研修をうけなければならない。

5

【資格はばたく・第1回ケアマネジャー：松川さんの事例】

ケアマネジャーの業務

「資格はばたく・第1回
ケアマネジャー：
松川さんの事例」映写

(1)ケアプランづくり
(2)聞き取り調査を行う
- 宇野沢長（ひさし）さんの事例
- ケアプランに基づいてサービスが提供されているか
（毎月1回確認）
→モニタリング

(3)サービス担当者会議をひらく
- 宇野沢さん＝左まひ
- 車いすの見直し

- 松川さんの担当＝35名・1日に3・4件訪問することもある

6

6

【資格はばたく・第1回ケアマネジャー編】
ケアマネジャー試験1

Q.右の手足が不自由な人につきそうときの位置は?

A.右側（マヒ側・患側）のやや後ろ

・介護者は不自由な側（患側）につく

・前につくと邪魔になる
⇒やや後ろが良い

7

7

【資格はばたく・第1回ケアマネジャー編】
ケアマネジャー試験2

Q食事が飲み込みにくくむせてしまう人が避けた方がよいスイーツはどれ？

＊飲み込みにくくてむせてしまうこと＝嚥下困難（えんげこんなん）

(1)プリン　(2)アイス　(3)シュークリーム

A.(3)シュークリーム

◎むせやすい人には口のなかで貼りつきやすい食品は避ける。他には、のり、わかめ等

8

8

【資格はばたく・第1回ケアマネジャー編】
ケアマネジャー試験3

Q嚥下困難がある場合には、飲み込みやすくするため、スポンジ状の食品や練り製品がよい？

＊スポンジ状の製品＝カステラ、練り製品＝かまぼこ等

A.×・上記は避けるべき食品

9

9

《認知症ケア》【DVD】「Jチャンネル・バリデーション」
バリデーションとは

アメリカのソーシャルワーカー、フェイル（Feil,N.）が考案
藤井喜勝他（＝2001）『バリデーション』筒井書房。

◎認知症の高齢者に共感しようとするコミュニケーション方法

- アメリカをはじめとする欧米の施設では、1万を超える施設で活用されている
- 認知症の高齢者に対して尊厳と共感を持って関わることを基本

- 本人の自尊心を回復
- ストレスや不安の軽減
- 言葉や言葉以外のコミュニケーションをとろうとする
- 介護家族やケアワーカーにとってもコミュニケーションが楽しくなる効果が報告

10

10

《認知症ケア》ここから【DVD】「Jチャンネル・バリデーション」 0:00-11:00まで視聴

視聴

バリデーションの事例（山本陽一さん・65歳）

難病の影響で認知症になった。大脳皮質基底核変性症
＊57歳の時に認知症の症状が出た・・・。表情をほとんど変えることがなく、会話もできない

【状況】「陽一さん、トイレいかない？」「無言（目線も合わない）…。」

・1日に何度も施設内を徘徊するという…。多いときは永遠に続くことも…。30分くらい歩いている時もある…。

・特別養護老人ホーム　豊悠プラザ・祥雲館（大阪府・豊能町）約100人の入居者＝ほとんどが認知症

【妻・登志子さん（67歳）】
会話ができない…。家にいるときは憎む気持ちしか出てこなかった…。介護がつらかった…。

【場面1】
（都村先生）「山本さんの動けない苦しさを、みんな分かろうと思ってくれています。」
（都村先生）「ゆっくりと、ここで安心して過ごしてください。」
ー女性が話しかけた次の瞬間ー
（山本さん）「いいよ…」
（懸命に話そうとしている…。）涙…。

タッチング＆アイコンタクト

11

11

《認知症ケア》【DVD】「Jチャンネル・バリデーション」 0:00-11:00まで

バリデーションの事例1（山本陽一さん・65歳）

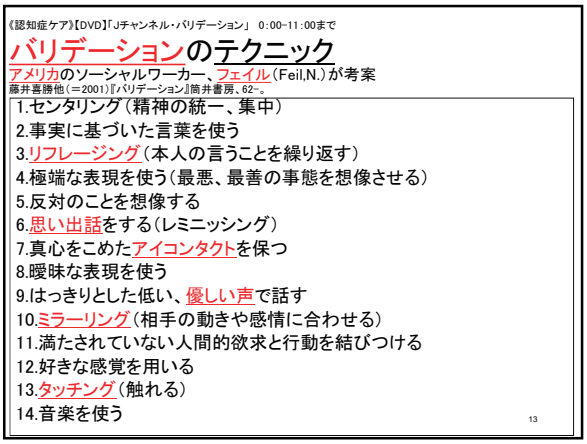
難病の影響で認知症になった。大脳皮質基底核変性症
＊57歳の時に認知症の症状が出た・・・。表情をほとんど変えることがなく、会話もできない

【場面2】
妻の肩に手を置いて話そうとしている。
- 驚く変化…

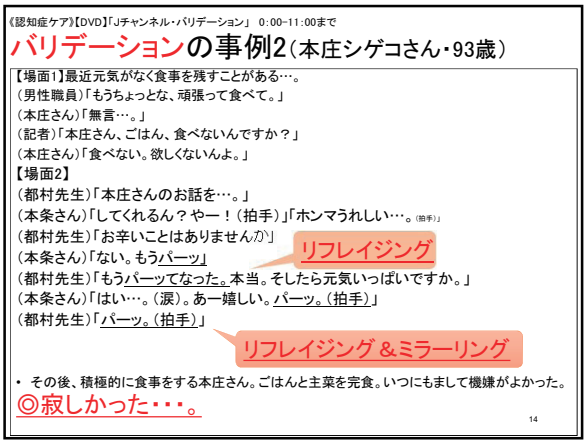
- 高齢者がなぜ暴力を振るうのか
- 徘徊し続けようとするのか
- ＝すべての行動に必ず意味があると理解し、共感するのがバリデーション

12

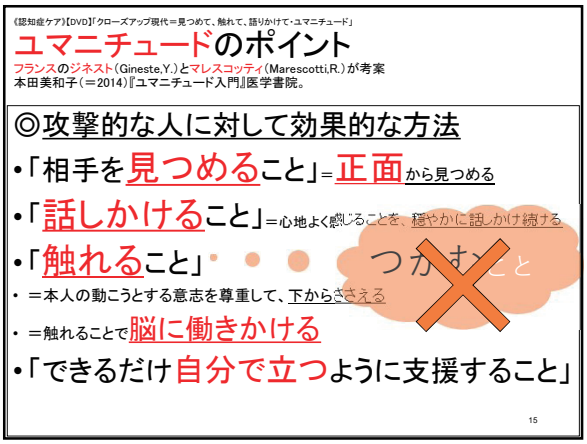
12


《認知症ケア》【DVD】「Jチャンネル・バリデーション」 0:00-11:00まで
バリデーションのテクニック
アメリカのソーシャルワーカー、フェイル(Feil,N.)が考案
藤井喜勝他(＝2001)『バリデーション』筒井書房、62-。
1.センタリング(精神の統一、集中)
2.事実に基づいた言葉を使う
3.リフレージング(本人の言うことを繰り返す)
4.極端な表現を使う(最悪、最善の事態を想像させる)
5.反対のことを想像する
6.思い出話をする(レミニッシング)
7.真心をこめたアイコンタクトを保つ
8.曖昧な表現を使う
9.はっきりとした低い、優しい声で話す
10.ミラーリング(相手の動きや感情に合わせる)
11.満たされていない人間的欲求と行動を結びつける
12.好きな感覚を用いる
13.タッチング(触れる)
14.音楽を使う
13

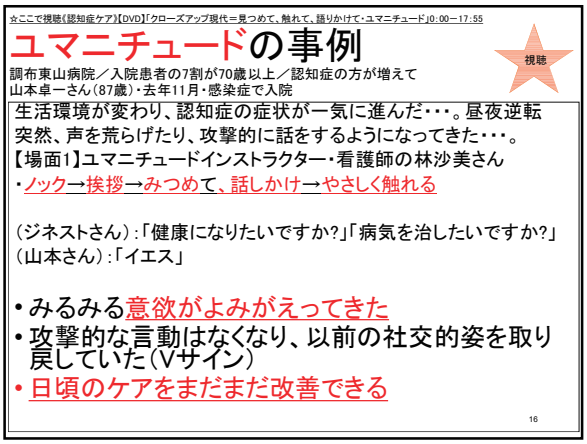
13


《認知症ケア》【DVD】「Jチャンネル・バリデーション」 0:00-11:00まで
バリデーションの事例2(本庄シゲコさん・93歳)
【場面1】最近元気がなく食事を残すことがある…。
(男性職員)「もうちょっとな、頑張って食べて。」
(本庄さん)「無言…。」
(記者)「本庄さん、ごはん、食べないんですか？」
(本庄さん)「食べない。欲しくないんよ。」
【場面2】
(都村先生)「本庄さんのお話を…。」
(本条さん)「してくれるん？やー！(拍手)」「ホンマうれしい…。(拍手)」
(都村先生)「お辛いことはありませんか」
(本条さん)「ない。もうパーッ」
リフレイジング
(都村先生)「もうパーッてなった。本当。そしたら元気いっぱいですか。」
(本条さん)「はい…。(涙)。あー嬉しい。パーッ。(拍手)」
(都村先生)「パーッ。(拍手)」
リフレイジング＆ミラーリング
・その後、積極的に食事をする本庄さん。ごはんと主菜を完食。いつにもまして機嫌がよかった。
◎寂しかった・・・。
14

14


《認知症ケア》【DVD】「クローズアップ現代＝見つめて、触れて、語りかけて・ユマニチュード」
ユマニチュードのポイント
フランスのジネスト(Gineste,Y.)とマレスコッティ(Marescotti,R.)が考案
本田美和子(＝2014)『ユマニチュード入門』医学書院。
◎攻撃的な人に対して効果的な方法
•「相手を見つめること」＝正面から見つめる
•「話しかけること」＝心地よく感じることを、穏やかに話しかけ続ける
•「触れること」
つかむこと
• ＝本人の動こうとする意志を尊重して、下からささえる
• ＝触れることで脳に働きかける
•「できるだけ自分で立つように支援すること」
15

15


☆ここで視聴《認知症ケア》【DVD】「クローズアップ現代＝見つめて、触れて、語りかけて・ユマニチュード」0:00－17:55
ユマニチュードの事例
視聴
調布東山病院／入院患者の7割が70歳以上／認知症の方が増えて
山本卓一さん(87歳)・去年11月・感染症で入院
生活環境が変わり、認知症の症状が一気に進んだ・・・。昼夜逆転
突然、声を荒らげたり、攻撃的に話をするようになってきた・・・。
【場面1】ユマニチュードインストラクター・看護師の林沙美さん
・ノック→挨拶→みつめて、話しかけ→やさしく触れる
(ジネストさん):「健康になりたいですか?」「病気を治したいですか?」
(山本さん):「イエス」
• みるみる意欲がよみがえってきた
• 攻撃的な言動はなくなり、以前の社交的姿を取り戻していた(Vサイン)
• 日頃のケアをまだまだ改善できる
16

16

2019.12.06　野辺陽子（社会学専攻）

講義に取り込む様々なワーク

１．現在担当している講義

- ジェンダーと社会生活（前期：約 60 名、後期：約 80 名）
- ライフコース論（前期：約 40 名）
- 家族と現代社会（後期：約 30 名）

２．ジェンダーと社会生活

- 毎回の宿題
  - ➢ 時間があるときは、隣近所の学生と意見共有
- リアクションペーパーの裏
  - ➢ 時間があるときは、隣近所で 6 人組を作り、意見交換
    - ✧ 声をかけながら、見回り

３．ライフコース論

- 毎回の宿題
  - ➢ 時間があるときは、隣近所の学生と意見共有
- リアクションペーパーの裏
  - ➢ 時間があるときは、隣近所で 6 人組を作り、意見交換
    - ✧ 声をかけながら、見回り
- グループ発表
  - ➢ ４人ぐらいのグループで、20 分くらいの発表をさせる（評価の対象）
    - ✧ 授業に関連するテーマで、教員からお題を出す

４．家族と現代社会

- 毎回の宿題
  - ➢ 時間があるときは、隣近所の学生と意見共有
- リアクションペーパーの裏
  - ➢ 時間があるときは、隣近所で 6 人組を作り、意見交換
    - ✧ 声をかけながら、見回り
- グループ発表
  - ➢ ４人ぐらいのグループで、20 分くらいの発表をさせる（評価の対象）
    - ✧ 授業に関連するテーマで、教員からお題を出す
    - ✧ 次回の発表グループが、発表に対して講評を述べさせる

多様な学生への教育
座学のアクティブラーニングとは

社会・臨床心理学専攻
山蔦圭輔

1

多様な受講者の混在

- 目的の多様性と温度差
  - シラバス作成の重要性，各授業回における情報提供の重要性
- アクティベートさせる仕掛け
  - アクティブ・ラーニングとは何か
- 毎回かやれば絶対できる感覚
  - 自分でできる体験が少ない，学習経験の少なさ
- 各種試験（評価）の位置づけ
  - 評価されることは実はとても楽しいこと
- 成績付けとの兼ね合い
  - 正当な評価が可能か？（事例）

2

事例１　見通しを立てられる授業

初回　学習範囲の教示 ― シラバスベース　＋アルファ

↓

各授業回　事前課題の設定 ― 学習するべき点を明確化

↓

各授業回　事前学習の確認・評価 ― 定期試験問題とほぼ同一

↓

授　業 ― １授業に１課題とすると10問程度が定期試験の問題数持ち込み，全可

↓

みんな出来てしまう？全員S？

↓

事後課題（定期試験） ― 蓄積すると自分専用のテキスト

3

事例２　グループワークと調べ学習

グループの決定　３人～４人 ― グループを作る難しさ

↓

課題（キーワード）の提示，教材配布

↓

調べ学習，Webを用いることも

（課題提示～調べ学習：バズ学習，ジグゾー学習）

↓

成果物回収・評価・順位付け ― 自身の成果物が評価される喜び

↓

完成資料の配布 ― 洗練されたテキストの完成

4

例）30名程度

課題　以下を調べまとめる

- パーソナリティ障害

項目１　疫学
項目２　精神医学的理解（主にDSM-5）
項目３　発症機序（臨床心理学的理解）

A4　1枚にまとめる，各項目３グループ
計９枚の成果物・順位を決め，30人分印刷・配布

5

まとめと課題

- モティベーションが一様ではない学習者の教育
  - 目標志向的な内容へ（シラバスが重要）
- 各授業回の積み重ねが目に見える形へ
  - 各授業回に行われる評価と蓄積
- 多グループをマネジメントすること
  - 学生との関係？やることの意味とは
- 授業の目標は
  - 自分（たち）で理解した上で作成した成果物の蓄積
- 評価の問題
  - プロセス？結果？　相対評価か絶対評価か

6

資料編　授業に関するアンケート集計結果に対する教員の回答

2019（R1）前期

① 氏名
② 科目名
③ 授業の改善点
④ 受講生への要望

①池上賢
②日本文化・事情
③今年度は前年度と比較してやや良好な結果となったが、授業への取り組みに関する項目についてやや学部平均より下回った結果となったので､学生が取り組む課題について次年度以降、改善を加えたいと考える。
④積極的な質問などを期待したい。

①石井三智子
②相談援助演習Ⅴ
③該当科目のために､予習･復習にあてた時間についての項目評価が低くなっている｡4～7 月、4 年生は、就職活動、介護専攻は、実習もありそれらを配慮、できるだけレポート的なことも授業内に完結できるようにしたが、再考したい。

①石井三智子
②相談援助演習Ⅲ
③今年度から、3 年次（夏・春）の実習に行くことが、明確である学生と、そのことが不確かな学生が混在していたという。学習動機の部分で例年と異なる空気を感じていた。そのことを知ったのは、授業も終わりの時期であった。グループワークの学生参加型の授業であるため、実習・福祉現場・企業になどに進む者にとっても役立つことを意識しての中身として再考したい。
④実習にいくことをためらっていた学生が、秋に試験を受ける気持ちになったり、授業の回を重ねるたびに変化（進化）していく姿をみることは喜びであった。

①板倉香子
②社会福祉援助技術論Ⅲ－B
③受講生がより主体的に参加し、授業内容の理解にとどまらず、さらなる学習を進められるような授業展開を行えるよう改善したいと思います。manaba を活用した双方向の授業の工夫を行っていきます。また、予習・復習、発展的学習への促しを今後の課題とし、効果的な自主学習ができるような環境づくりを模索していきたいと思います。
④予習用プリントや manaba 等で課す課題には主体的に取り組んで欲しいと思います。

①伊藤美登里
②社会学基礎セミナー1、社会調査及び演習 1、恋愛と結婚の社会学、社会学史
③受講者数の多い講義科目ついては自由回答欄で黒板への板書についての要望内容がここ数年で変化してきた。板書をする教員も少なくなっているようで、板書自体に慣れていない学生が増えたのではないかと思う。この後期は、教科書を使用しない講義科目は、板書メインというスタイルをやめ､(従来の配布資料に加えて) 講義内容のレジュメを配布する形式に変更してみた（居眠り防止のため、記入すべき空欄は設けた)。この変更が成功するかどうか、後

期のアンケート結果など、学生の反応を見ながら、現在の学生により合ったスタイルを探していきたい。
④特になし

①井上修一
②高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ
③概ね良い評価であった。「教材は授業の理解に役立った」の得点が高かった。さらに教材、内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
④特になし。

①井上修一
②相談援助実習事前指導
③概ね良い評価であった。「教員の話し方が明瞭で聞き取りやすかった」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
④特になし。

①井上修一
②成年後見制度
③概ね良い評価であった。「教員の話し方が明瞭で聞き取りやすかった」の得点が高かった。自由記述でも、概ね良いコメントがあった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
④特になし。

①上野奈初美
②スポーツ B・D、レクリエーション実技
③異なる授業科目であるが、学生の評価はほぼ同様な結果と思われます。改善点として、予習、復習を課すことが難しい科目であるため、授業に対する満足度は（それなりに）高い傾向にあるものの、理解度の定着がどの程度なされているのか分かりにくい。→学生自身が振り返りシートを記入し、次への目標設定を行うなど意識化させることが必要かもしれない。また、授業初回時に到達目標を設定させ、最終的には（例えば、○○％達成できた等）自己評価させたいと考える。
④熱心な態度で受講している学生がほとんどであり、学習意欲は高い。

①上野優子
②社会福祉学基礎セミナー1
③概ね、全項目について、学部の平均値以上の結果であった。但し、3:私語に対する適切な処置および 15:予習、復習等に関連する項目については、学部平均とともに下がっているので、今後の指導において検討したい。私語については、教員のところまでは、声が聞こえないレ

ベルでその周囲にいる学生にとって、とても気になるギリギリの私語のうるささというものがあるようだ。内容に応じて、机間巡視をしながら説明をするなどの授業を実施したい。
④特になし

①牛山美穂
②社会調査及び演習Ⅰ、文化表象分析入門、社会学基礎セミナーⅠ、ポピュラー・カルチャーの世界
③すべての授業においてよい評価が出ているため、今の授業の質を落とさないように引き続き気を引き締めて努力していきたい。
④映像資料の視聴中に眠ってしまう学生が多々いるため、眠らないように努力してほしい。また、積極的にディスカッションをしてもらえると授業に活気が出て助かる。

①延恩株
②地域と文化
③講義授業形式なので学生の授業への集中を維持させるのはかなり困難をともなう。この点をどのように改善するのがよいのか毎回考えているが決定打は今のところない。
④授業への取り組み意欲が共通科目のためか大変低く、出欠機器でチェックをするとそのままエスケープする学生が多い。ちなみに千代田キャンパスではこうした現象はほとんどない。

①大久保暢俊
②社会・臨床心理学研究法（木 1）
③アンケート結果より、予習復習等の課外学習に改善の余地があると愚考します。この改善のため、座学で得た知識との関連を問う課題を考えております。このような「授業内で完結させない」課題の設定は、同時に授業外での学習の機会と関連すると考えます。
④特にございません。

①大久保暢俊
②質的データ解析演習（木 3）
③アンケート結果より、予習復習等の課外学習に改善の余地があると愚考します。この改善のため、実習レポートの作成について、段階的な課題を設定することを考えております。
④特にございません。

①大久保暢俊
②心理学概論 1（木 5）
③アンケート結果より､予習復習レポートのフィードバックに改善の余地があると愚考します。この改善のため、manaba に代表される Web を利用したレポート採点を考えております。
④特にございません。

①大槻茂実
②職業とコミュニティ特論 2
③講義内容が早口になるという指摘を受けました。限られた時間の中でできるだけ多くの情報を学生に伝えたいという教員の欲が出てしまったようです。今後は、学生からのリアクションを授業中に積極的に求めることでフォローアップを図りたいと存じます。
④授業中の睡眠、スマートフォンの使用はどの授業でも厳禁です。この点をわざわざ 3 年生に指導しなければならないこと自体、非常に残念でした。

①大出春江
②社会調査講義 I
③社会学専攻必修の講義科目のため、私語対策として、2018 年度前期から席順指定方式を採用している。この 2 年間は課題を以前より減らしている。課題が多すぎるという不満はなくなった。アンケート結果では私語に対する適切な措置、学生に対する接し方が公平、という点が学部平均を上回っており、この点は学生の評価として受け止め、来年度も継続していく予定である。
④特になし

①大出春江
②社会学基礎セミナー I
③セミナー系科目は例年、学部平均を上回っている。受講する学生数が双方向で授業を進めるには適切な規模であるためである。授業への参加態度は積極的になり、したがって満足度も高くなる。5，15，16 項目が学部平均を特に上回るのはこうしたことの学生の評価なのだと思われる。アンケート結果に出てきていないが、自分の不調を言い出せずにいきなり休み始める学生について気づき対応することが今後の課題である。
④特になし

①奥村英一
②科学と環境
③授業中に積極的に質問や意見を述べたかどうかのスコアが低かった点を改善するため、今後は授業の中で意見を述べる時間を設ける。また、期末テストの際に授業の改善点について学生さんにアンケートをとったところ、重要事項を穴埋めするレジュメを兼ねたプリントに関して、穴埋め項目が少ないという意見が多かったため、今後は項目を増やす。これらにより授業に能動的に参加する時間を増やすよう改善する。
④質問や何か気づいたこと思ったことは、毎回の授業の最後に行っているアンケートの「質問・意見」欄に積極的に記述して下さい。また特に伝えたいことは講義前後の時間に気軽にどうぞ。

①郭麗娟
②現代家族論
③プリントを配布することを考えていきたいです。
④授業のために予習・復習をしてほしいです。

①加藤浩治
②コンピュータ基礎 A
③コンピュータ基礎 A は、異なる 2 学科を担当している。従来は同じ内容と教育水準を保つよう心がけてきました。しかしながら今回の結果から一方のコマでは解説を多くして取り組む課題を軽くするなど修正を加えてみようと思います。
④聞きもらしがないよう私語を慎み、質問の際は挙手してください。

①片山昭義
②レクリエーション論
③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、あまり負担なく受講してくれたものと思います。
④演習を行う際、学生同士でコミュニケーションを取るのが上手な学生がいる一方、苦手とする学生も一部に見受けられます。恥ずかしかったり苦手意識もあると思いますが、授業の一環と割り切って、積極的に参加してほしいと思います。今回履修してくれた学生は 65 名と多く、大教室で実施しましたが、熱心に受講する学生がいる一方、特に後ろに座っている学生は集中力が低かったように思います。私の授業の方法や注意を促すなど工夫が必要だとは思いますが、学生自身にも意欲を持って受講するよう期待します。

①片山昭義
②福祉レクリエーション論
③今回の受講者が 4 名（実際に授業を受けていた人数は 3 名）ですので、アンケートの集計結果が必ずしも正しい意向を示しているとは言い難いと思います。アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、あまり負担なく受講してくれたものと思います。また、受講者が少なかったことから、当初予定した演習が実施できず、映像中心の授業になってしまい､受講してくれた学生さんには迷惑をおかけしたと思っております。
④毎回 2 名から 3 名しか受講しない授業を、毎回熱心に参加してくれたと思います。来年度担当することはできないですが、他の授業でもそのような参加姿勢を持ち続けてほしいと思います。

①門林道子
②老いと死の社会学

③毎回、授業では、課題をあげて、それを中心にリアクションペーパーを書いてもらうなどしています。それが学生を真摯に授業に向き合う態度へとつながっているのだと感じています。そのリアクションペーパーを毎回丹念に読んで、いくつかの面からとらえた何人かの意見や感想を毎回、次回授業のパワーポイント冒頭に取り込み、学生にフィードバックしていますが、やはり自分たちの仲間がどう考えているのか、自分の考えとの相似や相異を改めて再考することにつながり、学生の関心も高さが見受けられます。「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」の項目で高い評価を得られたのはこのような点も大きいと考えますので、今後もこの取り組みは続けていきたいと考えています。自由記述欄に 2 名、レジュメの空白をもっとつくる、アンダーラインを引き過ぎないなどの指摘がありました。パワーポイントでの授業そのもののハンドアウトは配らず、毎回その内容をワードにして、必要な箇所、覚えてほしい用語などを（　　）入れにして、学生に書き入れてもらうなどの工夫をしているのですが、今後作成時には、それらの指摘にも留意し、できるところは改善していきたいと思います。

④課題レポートなど自宅学習が必要となってくるときもあるのですが、アンケート結果では、予習や復習等があまり行われていないようですし、また授業中の質問なども積極的にあるとは言えない状態です。今後、主体的積極的に授業に取り組めるような、たとえば、もっと学生に問いかける、自分の意見を述べるような時間を増やすなども検討していきたいと考えていますし、受講生もできる限り、そうあってほしいです。

①金成陽一

②地域と文化

③文系のアカデミズムはすぐには役立たなくとも、生きていく上での大きな糧となり続けるでしょう。いろいろな地域の人々の叡智が、様々な文化を創りだしてきたのです。関連する（特に面白く、読みやすい）文献を更にご紹介していきます。

④1 限目というのに、遅刻者も欠席者もほとんどおらず、学生諸子の真面目さにびっくりです。願わくは、ずっとこれが続かんことを！

①木下朋美

②情報サービス論

③授業評価アンケートでは、学生からは特に改善を要する点の指摘はありませんでしたが、毎回のリアクションペーパーでは細かい改善要望がいくつか指摘されています。その中でも授業資料の情報量の多さについては指摘があったため、今後は授業内容を適切に絞り込み、教えるべきことを集中して講義できるよう改善していきます。

④居眠りについては教えているこちらにも責任がありますので、とやかく言えませんが、授業中に堂々とスマートフォンを操作している姿が目立つのは少々困ります。せめて教員から見えないようにしてください。

①藏野ともみ
②精神保健福祉論Ⅱ、精神保健福祉援助実習事前指導、精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助演習(基礎)
③少人数の演習、実習科目だけでなく、講義科目についても、学生が学内では個別やグループでディスカッションすることを重視しています。さらに、自らの主張を、根拠を示しながらプレゼンしたり、学外の実習機関等と交渉をしなければならない内容となっています。授業時間内だけでなく、個別指導や個々人に即した課題の提示等が必要となり、学生自身も主体的に学ばなければならず、それが直接自分に返ってくることになります。また、教員も一人一人の進捗状況に併せた判断や配慮が必要になります。さらに、授業計画だけでなく、課題やレポートについても第1回目の授業で示しているので、学生も計画的に進め、教員も全てを返却しながら授業に反映させる繰り返しです。今回のアンケート結果を参考に、自宅学習について学生によって差が出た点になるので、より全員が取り組める様に、学生が主体的に学ぶ環境をどの様に作るのかを考えたいと思います。
④暗記する学びではない分、各自が「考え」「調べ」「伝える」作業をした上で、ディスカッションを通じて他者の意見を聴くことで、より「疑問が増えたり」、「他の可能性」を考えることになります。

①是澤博昭
②博物館概論
③調査、発表、それをもとにした課題の提出などあったにもかかわらず、予習・復習にかけた時間の点数が低かった。予習・復習の位置づけを明確にしたい。
④できるだけ積極的な授業への参加を求めます。

①佐藤富士子
②介護過程Ⅰ（介護過程の基礎)、社会福祉学基礎セミナーⅠ、介護総合演習Ⅲ
③介護過程Ⅰの評価は学部平均より全ての項目について高く、学生からのコメントにも「理解度を毎回確認しながら進めてくれた」「介護の専門職を目指す上でためになる授業だった」とあった。しかし、社会福祉学セミナー基礎Ⅰの評価は芳しくなく、学生からのコメントも「毎回の記述はストレスを感じた」とあった。介護総合演習Ⅲは可もなく不可もなく学部平均並みであった。
④リアクションペーパーの提出がなぜ行われているのかを理解して欲しい。

①嶋貫真人
②社会保障Ⅰ
③全体の平均値を下回ったのは、質問15（予習・復習のために時間をかけたか）と質問16（授業中に質問するなどの参加をしたか）の2項目であり、おおむね好評であったと思われる。改善策として、前者に関しては受講者の予習を促すために次週の内容を予告すること、後者に関してはマナバを有効活用することを心がけていきたい。

④特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人
②低所得者に対する支援と生活保護制度
③ほとんどの質問項目の評価で全体の平均値を下回ってしまった。低い評価に終わった原因としては、社会福祉士国家試験への対応を意識しすぎるあまり、やや知識偏重の授業となったことが考えられる。次年度においては、もっと具体例を盛り込みながら、現場実務にひきつけた授業展開を行っていきたい。
④ともかく私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人
②社会福祉現場実習事前指導
③全体の平均値を下回った項目は、質問 14（授業への出席回数）のみであった。この点については、教員による有効な改善策は思い当たらず、受講生の自覚に期待するほかない。
④特になし。授業を熱心に聞き、課題もきちんとこなしてくれたと思う。

①嶋貫真人
②福祉行財政と福祉計画 A
③全体の平均値を下回った項目は、上記「社会保障 I 」と同じ 2 項目であった。したがって、改善策も上記と同じ。
④特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①下田敦子
②博物館実習（オムニバス形式により実施。以下は下田が担当する授業に対する回答）
③学生には、国家資格としての博物館学芸員資格を取得する者として、最低限、身に付けてほしい技術があるが、技術の習得、習熟には個人差もあり、時間もかかる。そこで、習得すべき身体技術を個人の能力に合わせて出来るような教材（例えば、技能チェックリスト）を作製し学習の成果に繋げたい。これにより、授業時間外においても、学生が個人のペースで予習、復習が出来るようにしたい。
④座学で得た知識を実際の現場で活かすことができるように、本科目に取り組んでほしい。

①鈴木孝子
②文学の世界（全学共通科目）
③今年度から月曜 5 限の時間割になり、課題を認識しました。まず、5 限目になり、学生からの質問を受け付ける時間の確保と方法を工夫すべきと感じました。また、5 限は、学生の集中力が低下する時間帯であることへの配慮も必要と感じました。私の方でも可能な限り、パワーポイント、電子媒体のテキスト充実も進める所存です。学生の反応が、見事に二分した事を冷静に受け止めています。今後とも真摯に、新たな挑戦を重ねる所存です。

④昨年同様、能力が高く、将来性と可能性の豊かな学生を前に、授業を担当出来ることに、心から感謝します。受講生には「世界の中の日本」という視点から日本文学（日本史、日本文化も含む）を捉える問題意識と姿勢を持つことを要望します。この学部の卒業生は、日本社会の多様化と国際化が進展する最前線に立つことになります。職場で専門知識は無論のこと、豊かな教養と柔軟な感性が人一倍求められる、最初の世代になります。現場で必要不可欠な人材として活躍してください。日本における 21 世紀の豊かな未来は、この人間関係学部の卒業生たちが牽引して行くことになると信じます。私も一教員として、皆様のお役に立てるよう、努力を重ねる所存です。

①田中康雄
②A：「社会福祉学概論Ⅰ」（水曜日 4 時限）、B：「社会福祉学概論Ⅰ」（水曜日 5 時限）
③A について：毎回の授業において、双方向型式の展開を積極的に採用し、議論の設定等をより工夫した授業運営ができるよう自己研鑽していきたい。B について：毎回の授業において、集中力を切らせないように授業展開を、より深く社会福祉学を学びたい学生についてはより詳細の内容も盛り込むなどを工夫した授業運営ができるよう自己研鑽していきたい。
④（要望はございません）Aについては、熱心に授業に取り組む学生が多かった印象を受けた。Bについては、時折、私語等がある学生も見られたため、退屈させない授業づくりを心掛けていきたい。

①丹野眞紀子
②社会福祉援助技術論Ⅱ－A
③相談援助の基本となる科目なのでしっかり授業をしたいと思います。福祉援助職者としてどう命を支えるのか、その難しさを伝えることも多く、学生にとっては、厳しさを感じてしまう方もいるようです。社会福祉士の受験資格を望まない学生に対しても興味を持ってもらえる授業を工夫したいと思います。
④この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野眞紀子
②相談援助演習Ⅲ
③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。「授業への取り組み」「授業への積極的参加」の評価が高く、学生が熱心に取り組む様子がわかります。
④相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野眞紀子
②相談援助実習事前指導
③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に「予習復習」「授業中に積極的参加」の評価がかなり高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。
④この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野眞紀子
②社会福祉学基礎セミナーⅠ
③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に、「予習・復習」と「授業中の積極的参加」の項目は学部平均より高く、学生の意識の高さがうかがえます。
④特になし

①丹野眞紀子
②保健医療サービス
③制度理解が難しい科目ですが、丁寧な授業を意識した結果、学部平均よりも多くの科目が上の評価となりました。教科書を網羅した授業のため、かなり詰め込んだ内容ですが、視覚教材を昨年より多く利用したことも理解のしやすさにつながったと考えます。これは今後も続けたいと思います。
④特になし

①寺島拓幸
②文化とメディア特論Ⅱ
③例年通り視覚教材やアクティブラーニングを取り入れているが、今年度は新しく respon を利用して意見の収集とフィードバックを実施した。かなり使い勝手がよく、受講生にも好評であった。今後も新しい授業支援ツールは試していきたい。
④設問 14（出席）がかなり低評価だったので、より積極的に出席してほしい。

①中田香織
②カウンセリングA（傾聴訓練）
③本授業では、ロールプレイやグループワーク等生徒同士が実際にコミュニケーションをとりながらワークを進める時間を多くとりました。初対面のため、緊張や不安を感じてる生徒もおりなかなか積極的に参加することが難しい様子も見受けられました。ワーク中に雰囲気が緩和するように、グループを回り話しかけることを試みましたが、もう少し工夫が必要に感じています。
④リアクションペーパーでは、大事な質問を書いてくれるのですが質疑応答の時間をとっても、

発言が難しいようです。質問によって、内容の理解が深まるので遠慮せずに発言をして欲しいと感じました。

①奈良環
②在宅介護論
③予習・復習の内容と授業内容のつながりについて丁寧に説明したいと考える。
④自身の考えや意見について、なるべく多くの記述ができるようにしてほしい。

①西河正行
②グループワーク A
③全体的に平均値を若干下回る評価であった。人数が多いのできめ細かいことができず、もう少し評価は低いと思っていた。特に、授業内容に関して、評価がよかったことは意外であった。グループ作業に積極的に参加している学生にとっては、消極的な学生は足を引っ張るだけになるので不満があるだろう。
④来年度からは開講コマが増え、科目当たりの受講生が少なくなる。従って、安易な気持ちでの参加では、積極的な学生との対比が際立つことになる。その点をよく考えて履修をしてほしい。

①野辺陽子
②ライフコース論
③授業中、学生に質問するようにしたい
④遅刻・欠席しないでほしい

①野辺陽子
②ジェンダーと社会生活
③「ジェンダー」概念をより容易に説明するようにしたい
④特になし

①野辺陽子
②社会調査及び演習 I
③この授業で身につくスキルについて説明するようにしたい
④貪欲にスキルを身に着けてください

①野辺陽子
②社会学基礎セミナー I
③社会学がどのように役に立つのかをもっと説明するようにしたい
④特になし

①野辺陽子
②現代社会論セミナーⅠ
③この授業で身につくスキルについて説明するようにしたい
④遅刻・欠席しないでほしい

①藤川信夫
②日本国憲法
③受講生の理解度、授業に対する取り組みなど、おおむね良く対応いただいていると考えている。期末レポート試験の内容を見ても、1年生、2年生が主であるにもかかわらず、相応のレベルに達しており、知識習得面では特段問題はないと考える。今後の改善点であるが、基本的に受講生はおとなしい学生が多く、発言を促してもなかなか対応できていない嫌いもある。知識面のみの押し付け授業にならないように、アクティブラーニングを心がけており、少なくとも各自が個別に考える時間を毎回必ず設けているが、なかなか表現するまでには対応いただいていないのが実情である。次年度は、若干のグルーピングを行って、グループごとに課題に対応し、発表・発言するスタイルを取り入れていきたい。
④昨今は、公務員試験希望者が増えており、父兄からの要望も一般的に高まっている。日本国憲法は、最重要科目であり、また教職の免許も、将来の選択肢の1つとして、ぜひ取得しておいてほしい。外部の予備校に通わなくても済むように、一般的教養としてのみならず、公務員試験などに十分対応が可能なレベルまで、わかりやすく授業を行っている。まったく法律科目に触れたことにない学生を念頭において、基礎の基礎から教えているので、ぜひ、多くの学生に受講していただきたい。

①古田雅明
②社会・臨床心理学基礎セミナー
③3名の教員によるオムニバス形式の体験学習中心の授業です。今年初めて授業アンケートを実施しましたが、概ね好評であり、多くの新入生がこの授業を受けて良かったと思っているようです。次年度も同様に続けたいと思います。唯一、授業前後の学習の時間等が平均以下だったので、来年度はもう少し課題を明確に出すようにしたいと思います。
④特にありません。

①古田雅明
②社会・臨床心理学研究法
③概ね授業評価は高かった。しかしながら、若干名、他の質問項目において相当低い評価をしている学生もいた。グループ学習型の授業についていきにくい、あるいは理解が十分でない可能性があるので、そのような学生には、次年度以降、早めに気づいて丁寧に説明していくなどの対応をしていきたい。
④卒業論文研究に繋がる学びですので、主体的に取り組みましょう。

①干川剛史
②社会学概論Ⅰ（火 1・2）／現代社会論セミナーⅠ（水 3）／社会調査及び演習Ⅰ（木 2）
③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火 1・4）（102 人・97 人）については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低いが、さらに、自由回答を読むと、話し方が聞き取りずらい、配付資料のどの箇所を話しているのかわかりにくい等、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平であるという点での評価が高い。また、自由回答では、パワーポイントがわかりやすい、毎回配られる新聞記事のプリントが興味深く面白いと好評である。他方で、現代社会論セミナーⅠ（16 人）と社会調査及び演習Ⅱ（17 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。
④講義科目もセミナー科目も､教科書を読んで予習してほしい｡講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①本田周二
②社会・臨床心理学研究法
③昨年度の結果と比較して、全体の平均値は少し下がってしまいました。授業への取り組みや総合的な印象が例年よりも下がっていたので、学生の取り組みを促す働きかけを工夫していきたいと思います。
④グループ活動はそれぞれの主体的な役割分担や助け合いがとても大切となります。社会に出た後に重要な点ですので、しっかりと取り組んでもらいたいと思います。

①本田周二
②キャリア心理学セミナー
③昨年度の結果と比較して、全体の平均値が下がってしまいました。昨年度からカリキュラムを変更した点も結果に反映されているかもしれませんので、次年度のカリキュラムを再検討したいと思います。
④特にありません。

①本田周二
②社会心理学実験研究法（心理学実験）
③本授業は授業時間外の学習に力を入れている科目であり、その得点が 3. 38 であったことはまずまずの結果だと捉えています。自由記述での良かった点でもいくつか学生の意欲を感じられるものがあったことは励みになります。「この授業を受けて良かったと思う」の点数が 4. 39 であったので、4. 5 以上を目指し、更なる改善を進めたいと思います。
④最終レポートの提出日を 1 日に指定しているのは、卒業論文の提出のシミュレーションを兼

ねていますので、その点を考えて提出してもらえると助かります。

①本田周二
②人間関係総論Ⅱ
③全体的に得点が高く、安心しました。しかし、授業時間外の学習の数値が 1.95 と低かったため、この部分を向上させる工夫をしていきたいと思います。
④特にありません。

①松山博光
②5 科目の平均値は、高い順から科目名を上げると、1．福祉と現代社会（4.49）2．家族福祉論（4.39）3．社会福祉学基礎セミナーⅠ（4.32）4．地域福祉論Ⅰ（3.60）5．相談援助演習Ⅴ（2.88）でした。
③そこで、平均値が低い「地域福祉論」と「相談援助演習Ⅴ」の授業のみ改善点等を挙げれば、基本的には、両科目とも社会福祉士国家試験指定科目であり、毎年、国のシラバスに従って指導しているため、改善する余地はない。しかし近年、国試を受験する学生が減少していることから、講義内容は国試合格レベルの専門知識・技術を踏まえながら、教養レベルの内容も組み入れてみたい。
④「地域福祉論Ⅰ」は、国試を受験する受講生は、特に社会福祉士養成課程のテキストを購入し、毎回受講した講義内容をしっかり復習するように心がけてほしい。「相談援助演習Ⅴ」の受講生には、15 回の演習を全て受講して、将来、実践現場で役立つ援助技術を真剣に学んでほしい。

①森功次
②美術の世界、哲学と思想
③「美術の世界」では、昨年度より内容を詳細に説明するようにしたら、全体的に点数が下がった。内容が難しすぎたのかもしれない。履修者が昨年度と比べると倍になったので、今年から参考文献論文のプリントアウト配布をやめた（manaba にて pdf 配布に変更）のだが、それも原因かもしれない。受講者が 100 近くいるときの参考文献配布の方法については、よい方法がないか検討しなければならない。「哲学と思想」のほうでは、昨年度と比べるとのきなみ点数がぐっと高くなっていた。理由はよくわからない。昨年度と比べると、レポートに関する説明時間を多くとったし、レポートでやるべき作業をルーブリック表で提示していたので、それが良かったのかもしれない。
④まだ本を読まない学生、読めない学生がけっこういるようだし、学術文献に慣れていない学生も多い。そこは大学全体で意識向上を図っていかなければならないところだと思う。また、履修コマ数が多すぎて、授業時間外の学習時間をあまり取れない、と嘆いている学生がそこそこいる。1，2 年生のときにぎっちりコマ数を詰め込ませるのは、弊害が大きいと思う。「自宅学習時間は授業時間の倍」という原則をふまえると、せいぜい一日 2，3 コマが限界のはずだ。

①馬淵聖二
②心理学特別セミナーA・心理検査学
③「心理学特別セミナーA」については、アンケート結果は概ね良い結果であった。授業の質を向上させるため、より英文の読解力を上げるための工夫をしたい。例えば、教科書の中に出てくる典型的な文法をピックアップして解説した資料を作るなど。「心理検査学」については、出席についての項目が 3. 87 とやや低かった。自由記述欄には、「課題やリアクションペーパーが大変」という感想が見られた。出席率を上げるための工夫として、課題への取り組み方や、リアクションペーパーに求める観点をこちらからもっと丁寧に提示することが考えられる。
④特になし

①八城薫
②人間関係総論Ⅱ
③予習・復習の内容をより具体的に明示して、それらを課題とするなど、授業時間外の学習を促すような発展課題などを用意することを検討したいと思います。
④特にありません。双方向で積極的な授業だったと思います。

①八城薫
②キャリア心理学セミナー
③授業目標を明確に理解して取り組んでくれていることが分かる評価で安心しました。
④ご自身のキャリアについて考え、具現化するための大切な時間にしていただければと思います。

①八城薫
②社会・臨床心理学基礎セミナー
③授業時間外の学習を習慣化できるような課題を工夫したいと思います。
④この授業を通して、学ぶ姿勢とモチベーションを高めていただけたらと思います。

①八城薫
②社会・臨床心理学研究法
③予習・復習、課題という形では提示していませんが、授業時間外での研究活動も活発に実施していたと思います。
④卒業論文に向けての前哨戦としてしっかり取り組んでいたと思います。

①八城薫
②基礎統計学Ⅰ
③予習・復習、課題の内容および分量を改善しようと思います。
④多くの学生が苦手意識や不安を感じる科目である分、面白いと思ってもらえるように工夫し

ています。あまり構えずに受講してほしいです。

①山口育子
②こころとからだのしくみA、こころとからだのしくみB
③私自身、皆さんの熱心に授業に取り組む姿勢に感心しながら、大変楽しく授業させていただきました。科目の特性から知識を伝達することが主となってしまいますが、一方通行にならないよう、できる限り皆さんの授業への興味や主体的な学びを引き出せるように今後は工夫をしてまいります。また、誰もが集中して授業を受けられるように、私語などに対しては適切な注意を行います。
④授業内で疑問に思ったところをすぐに質問していただくことで、私の説明が足りないところなどを補えると思います。その場でどんどん質問してください。

①山本真知子
②児童・家庭福祉論
③学生にリアクションペーパーなどで要望を聞きながら、わからない点などをフォローできるように授業を展開した。しかし、極少数の学生には授業の内容や成果について点数が低いことが見受けられた。あまりこれまでなかったことなので、原因等を探りながら対応していきたいと思う。今年度からmanabaで前の週の質問に関して取り上げるようにしていたが、もしかしたら質問への回答は対面形式の方が良い面もあると考えるので、来年度見直していきたい。
④テストの範囲の中で学習することに慣れる授業でもあると思うので、国家試験を意識しながら受講してほしい。

①山本真知子
②相談援助実習事後指導
③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。受講生の理解度に開きがある授業だったと考えられるので、どの学生にもわかりやすく効果的な授業を展開していきたい。同時に、予習・復習の点数が学生によって差があり、同じ課題を出しているのにもかかわらず、差があることは学習の理解度とも関連しているように感じる。予習・復習の意味を再度確認していきたい。就職活動等によって、授業に集中することが難しい時期でもあるため、その旨を踏まえ話していきたいと思う。
④演習形式の授業のため、自らの授業への取り組み方で理解度も変わると思う。そのため、実習後の指導も予習・復習を踏まえてしっかりと受講してほしい。

①山本真知子
②相談援助実習事前指導
③ロールプレイや事例検討など実習に行った際につながる授業展開を心がけたため、理解度や内容に関してはうまく展開できたと感じる。しかし、予習・復習に関してはもう少し具体的

に指示をして課題など組み合わせていきたいと感じる。また、個別指導的な面も多いため（実習計画書の作成など）、公平性の担保や実習計画書などを課題として提示するかどうかによっても、捉え方に個人差があると考えるため、授業開始時に伝えていきたいと思う。また、春実習の学生に対してのフォローもしっかり行っていきたい。
④演習形式の授業のため、自らの授業への取り組み方で理解度も変わると思う。そのため、実習後の指導も予習・復習を踏まえてしっかりと受講してほしい。

①若林功
②精神保健福祉論Ⅲ
③本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格を得るための必修科目であり、そのために厚労省より扱うべき内容が決められている。一方で受講生は精神保健福祉士受験資格希望者でない者が大半であり、厚労省で決められている内容と学生のニーズとのギャップに悩みながら、授業を行った。今後も今年度のようなことが起こる可能性があると考えられ、その場合、学生のニーズ（精神障害者との接し方を知りたい等）と厚労省で定められている内容（精神障害者の地域生活支援に関する制度の学習。すなわち学生のニーズにあるような精神障害者の特性の理解は他の科目で行うこととなる）とをどのように折り合いを付けながら授業を進めるか、さらに検討することが必要であると感じる。
④受講前に、精神障害のある人を取り巻く社会的課題に関心を持ったり、ボランティア等を通じ、精神障害のある人と接する経験を積んでおくことが望ましい（授業内容が実感を伴って理解しやすくなる）

①吉方りえ
②女性と健康
③授業の進め方が一方向になる傾向があるのは以前より感じていたが、学生数が多くても「授業に参加している」という意識が持てる授業にしていきたい。積極的に授業内容に興味がある学生には個別に対応していくよう心がける。
④興味および関心をもって授業に臨んでほしいと思っている。

資料編　授業に関するアンケート集計結果に対する教員の回答

2019（R1）後期

① 氏名
② 科目名
③ 授業の改善点
④ 受講生への要望

①池見正剛
②環境の社会心理学
③受講生の活発な発言を促す方法を模索していますが、よい方策が思い浮かびません。これまで試行錯誤してきましたが、今年度も上手く行きませんでした。例えば発言にポイントを付与して成績に反映させる方法を試しましたが、発言が得られたのは最初の 1，2 回だけで、それ以降の授業では奇妙な事にぱったりと発言が止んでしまいました。「ポイントで釣るのは良くないと思う」というアンケートの記述も一つありました。いくら頑張ってもアンケート集計結果は平均レベルですので、高い評価を得ている先生方が一体どのように授業をされているのか拝見し、その秘訣やコツをご指導賜りたい気分です。
④遅刻：他の大学では遅刻は全くないか一人いる程度ですが、こちらの大学では毎回 1 割かそれ以上の遅刻者がいます。苦肉の策として時間内に着席している学生に manaba で 1，2 問の簡単な小テストをする名目で大きなポイントを付与して成績を有利にするような対策を施しましたが、驚いたことにほとんど効果がなく、5 分程度の遅延証明を堂々と提出してきます。私の授業だけなのでしょうか？
拒絶的雰囲気：改善点でも述べましたが、発言者にはポイントを付与し成績に反映させる方法によって、他の大学の全ての授業で発言が促され、授業中の雰囲気も良くなり、授業評価も平均を上回るようになりました。某女子大でも 2 コマ担当していますが例外ではありません。大講堂の授業でもこの方法で、時には最後列の学生も発言します。しかこちらの大学だけは、この方法が通用しませんでした。積極的に手を上げて授業に参加し、講師とやり取りすることを排除するかのような無言の雰囲気のようなものが感じられます。最初の 1，2 回の授業では結構な人数の学生が発言してたのですが、途中から空気を読んでいるのか、なぜか静かになります。他の大学にはないこのような奇妙な拒絶的雰囲気は、一部の学生の影響なのかもしれませんが、何か良い方法があればご指導頂きたいです。

①泉進
②生命の科学
③学生の理解度に対する考慮が不足していた。生物学の基礎を分かりやすく解説した上で最新の生命科学について説明するようにあらためる。予習および復習すべき内容について具体的に説明することで、学生からの質問を引き出せるような授業運営に努めたい。
④特にありません。

①伊藤美登里
②社会学基礎セミナー2、社会調査及び演習 2、哲学と思想、身体とファッションの社会学
③ここ数年で板書が大変だというコメントが複数寄せられたため、今年度後期から板書量を減らすために、穴埋め式レジュメを配布してみた。ただ、（おそらく優秀で熱心な）学生からは、「ノートに記入していくスタイルのほうが授業に集中できるので良いと思います」というコメントがあった。来年度は、穴埋めではなく、（かなり分量を減らして）重要な部分は板書、それ以外は資料配布といった形にするか、あるいは穴埋めをやめてすべてレジュメ配布とい

った形にするか思案中である。
④特にありません。

①井上修一
②社会福祉学概論Ⅱ
③概ね良い評価であった。「教材は授業の理解に役立った」の得点が高かった。特別養護老人ホームの看取りを学ぶ授業で、入居者の死と自分の死に向き合い、そこで感じたことを可能な範囲で表現できる進行を考えていたが、抵抗を感じた学生がいた。来年度は、そうした学生に配慮しながら、さらに慎重に進めたい。
④特になし。

①井上修一
②社会福祉学セミナーⅡ
③概ね良い評価であった。「教員の話し方が明瞭で聞き取りやすかった」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
④特になし。

①井上修一
②相談援助実習事後指導
③概ね良い評価であった。来年度はルーブリック等を活用しながら、さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。
④特になし。

①井上修一
②相談援助実習指導Ⅱ
③概ね良い評価であった。「教材は授業の理解に役立った」の得点が高かった。さらに資料内容を工夫して、内容のレベルアップを図りたい。
④特になし。

①井上修一
②相談援助演習Ⅳ
③概ね良い評価であった。来年度はルーブリック等を活用しながら、さらに内容のレベルアップと深さについても取り組みたい。
④特になし。

①今井信治
②現代における宗教
③結果を見るに、「教員のこの授業の進め方について」および「この授業の内容について」は悪

くない評価であったように思います。予復習や積極的な参加のポイントが学部平均よりも低いポイントになっておりますので、講義形式とはいえ、各テーマごとに「自分だったらどのように考えるか」という当事者意識を促す問い掛けをより意識する必要があると思いました。
④宗教学の基礎および現代的トピックを取り扱っておりますので、分からないことがあったらお尋ねいただくことはもちろん、ご自身の関心に照らした場合はどのように考えられるのかについて思考を巡らせていただければと思います。

①上野奈初美
②スポーツ A、スポーツ B、レクリエーション実技
③実技系の科目であるため、「自らが積極的にからだを動かす」ことを学生に意識させている。そのために、授業開始時には、本時の目標と授業の流れをしっかり伝えるよう心掛けている。3 科目とも NO. 15「授業のための予習・復習・・」の得点が低い。講義とは異なるため、どの程度の課題を出すべきなのか難しい点もある。「振り返りシート」の記入など、学生自身が毎回の授業を「見える化」する取り組みが必要かもしれない。
④熱心な学生が多い。

①上野優子
②福祉レクリェーション援助技術
③この科目は、福祉レクリェーション・ワーカーの資格取得に必要な科目の一つである。比較的 2 年生の履修者が多いが、資格取得に向けてというよりは、とりあえず履修しておくという考えの学生が多い。スポーツを取り入れたレクリェーションが多いので、身体を動かすのが苦手な学生は、あまり積極的でない時がある。総合的な評価では、机上での作業的なレクができるような内容を希望するなど、個人の好みによって要望が出やすいため、次年度は内容のバランスを再検討したいと思う。
④特になし

①上野優子
②スポーツ D
③この科目は、レクリェーション・インストラクターの資格取得に必要な科目である。1，2 年生の履修者が多いが、今年度は、資格の取得を考えているという学生が複数名いた。全学共通科目であるので、他学科・他専攻の学生との交流もできる利点をいかし、グループでの競い合う内容など大いに充実したいたようである。全体的な印象として、その日の内容により、必ず、得手不得手の学生が存在するのは仕方がないことであり、特に不得手の内容に対する積極的参加と必要性の理解を再認識できる内容としたい。
④特になし

①牛山美穂
②社会調査及び演習Ⅱ、社会学基礎セミナーⅡ、文化人類学、医療と社会／医療社会学」

③すべての科目において、平均を上回るよい評価を得ることができた。全体的に、人数が少ないほど、学生の満足度も高くなる傾向にあるように感じる。講義科目であっても、人数が少なければ学生に毎回意見を言ってもらう時間を設けることができるため、そうした取り組みが高い評価につながっているように感じる。今後は、大人数の講義であっても学生の意見を述べてもらう時間を確保できるよう努力したい。
④コメントシートにはとてもよい意見を書いてくる学生が多いが、人の前で意見を述べるときには恥ずかしがってしまう人も多い。積極的に授業の中で意見を述べてもらえると嬉しい。

①大出春江
②社会学基礎セミナーⅡ、現代社会論セミナーⅡ、社会調査特論Ⅱ
③演習系科目が学部全体平均を上回るというのは、例年のことだが、今年度は社会学基礎セミナーⅡがこれと異なる結果となった。社会学概念をきちんと身につけることを目的としたテキストを使用しており、昨年と同様である。基本的なセミナー運営も変えていないため、この結果がなにを理由としているのだろうか。1 年セミナーなので、社会学を学ぶことだけでなく学生自身の発言や学生と教員間のコミュニケーションに配慮しているが、今年度は配慮不足ということだったのだろうか。検討課題である。現代社会論セミナーⅡと社会調査特論Ⅱについては学部平均を上回っているのは、受講生の人数が多くないことから、学生の考えを引き出しやすく、双方向授業ができているためだと思われる。全体として次年度から改善したいと思っていることは、通常の授業の提出物に関しても教員の意見（評価）をスタンプにしたりメモを書き入れるなど、随時リアクションを返すことが重要だと気づかされたので（FD 研修で他の先生の取り組みを参考になった)、実践していきたいと思う。
④インターネットの検索だけが「調べる」ということではありません。文章を読むことと書くこと、観察すること、そして考えることを身につけてください。

①小川浩
②人間関係総論Ⅲ、就労支援サービス、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ、相談援助実習事前指導
③人間関係総論Ⅲは、今期から初めて担当した授業であったが、全体に平均を上回る評価を得ることができた。1 年生に自ら学ぶことの意欲を持ってもらえるように、次回以降も内容及び授業方法等を工夫していきたい。就労支援サービスについても、全体に良い評価であった。一方、障害者自立支援制度Ⅱは、初めて平均を下回る項目が複数出てしまった。今年度はこれまで以上に国家試験対策を意識し、従来よりも細かい点まで早いペースで伝えたため、学生の理解が難しかったのかもしれない。次年度は、内容を精査して行うようにしたい。また、リアクションペーパーを manaba で行ったが、公開が遅れたことへの指摘が複数あった。manaba で行うか、紙ベースで行うかは迷っているが、manaba で行った場合には一括でセットして、公開遅れがないように注意したい。少人数科目の相談援助実習事前指導のアンケートは良好であったが、学生への伝達事項、提出物の期限、指導の受け方の手続き等について、学生が見通しを持って準備しやすいように修正をしていきたい。

④特になし

①尾久裕紀
②人体の構造と機能及び疾患、精神疾患とその治療、精神保健とその課題Ⅱ
③受講者の理解度を確認しながら進めるようにしたい。双方向性の授業になるよう工夫したい。
④学生は講義等だけではなく、自己学習（復習・課題等）を通して理解を深めて頂きたい。

①蠣崎尚美（かきざきなおみ）
②相談援助演習Ⅰ
③この演習を担当するのが初年度だったこともあり、授業を理解するための資料が不足していたと感じる。そのために学生の理解度をはかることが難しかった。次年度は、項目にあった資料を用意しつつ、レポート作成に参考になるような文献も提示し、授業への参加意欲を高めていきたい。
④忘れ物、遅刻・欠席のないようお願い致します。

①加藤浩治
②コンピュータ基礎 B、コンピュータ応用
③当該科目につきまして、「挙手による質問」を呼び掛けたところ一定の効果がありました。また、Excel の利用スキルにおいて実力差が大きいため、本年度は復習課題と称した時間制限のある取り組みを予告のうえ実施しました。復習課題に向けて授業で習得したスキルを復習する姿が見られ、結果からも一定の効果をもたらしたものと受け止めています。
④説明は最後までよく聞き、教科書をよく読み、質問の際ははっきり手を挙げてください。

①川上るり子
②相談援助演習Ⅰ・Ⅱ
④素直で学ぶことに前向きで理解力も高く、めきめきと実力をつけていく素敵な学生さんと演習ができたことはとても幸せでした。ありがとうございました。

①木下朋美
②児童サービス論
③授業評価アンケートのどの項目もおおむね好意的な解答となっていたため、前年度の改善点は解決できたように考える。来年度は「どちらとも言えない」の解答が目立った授業資料の構成、私語等に対する注意、学生の理解度の確認、そして学生の積極的な参加を促す授業づくりに重点を置き、授業を行っていきたい。
④今年度の受講生は私語がほとんど無かったので授業がやりやすく助かった。ただ、授業に対する要望を受け取る窓口はコメントシートなどで複数用意しているにもかかわらず教員に直接届けず、授業前後の時間に話していることを耳にする場合が多く、あまり良い気持ちがしなかった場面もあった。これは学生への要望というよりも授業担当者としての改善点だが、

受講生が遠慮なく要望を寄せることができる環境づくりに取り組んでいきたい。

①木本ゆう、二場美由紀
②女性と自立支援
③予習復習の充実。授業内容を充実させ、新らしいものの見方を獲得したいという積極的な姿勢を養えるよう努める。
④講義への積極的・能動的姿勢。事前に配布した資料に目を通し、授業内で積極的に質問して欲しい。

①金美辰
②介護の基本 A
③全体的に高い評価を頂きました。設問項目のうち、「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」の項目が最も高く評価されました。教員の授業の進め方については、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした」等が高く評価されました。授業の内容については、「授業は学習の目標がはっきり示された」「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」「授業の内容はよく理解できるものだった」等が高い評価をいただきました。自由記述では、「勝手に出ていく学生を注意した先生は初めて見たので良い先生だなと思った」「授業に対して興味を引き出そうとしてくれた」「復習テストをしてくれて身になりやすかった」等が挙げられました。今回の結果を踏まえ、授業内容を工夫しながら、学生の理解度を踏まえた授業、わかりやすい授業を展開していきたいです。また、学生がより自発的な学習ができるように予習や復習の課題内容を工夫していきたいです。
④特にありません。

①金美辰
②社会福祉学セミナーⅡ
③全体的に高い評価を頂きました。「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」「教員の学生に対する接し方は公平だった」「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」等、教員の授業の進め方について非常に高い評価を受けました。また、授業内容に関しては「授業内容は科目の選択や学習の参考になった」「授業は自分の将来にとって意味があると思う」等が高く評価されました。予習・復習についても、学生がバランスよく取り組むようになってきました。今回の授業アンケートに結果を踏まえ、学生がより自発的に学習ができるように、予習や復習の課題内容をさらに工夫していきたいです。
④特にありません。

①金美辰
②介護の基本 C

③教員の授業の進め方についての評価が最も高く、授業内容、総合的な印象等、全体的に高い評価を頂きました。予習・復習、課題やレポートに費やす時間とのバランスを考慮しながら、学生にわかりやすい授業が展開できるように工夫していきたいです。
④特にありません。

①葛野章
②ケアマネジメント論
③特に学生からの指摘もなく、カテゴリー別平均点もほぼ平均に位置しているということで現状維持を考えています。

①藏野ともみ
②精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉援助演習Ⅱ、社会福祉学基礎セミナーⅡ、精神保健福祉援助実習事後指導、精神保健福祉論Ⅰ
③4・3・1年生を対象とし、さらに少人数の演習形式と50人程度の講義形式の授業でアンケートを実施することができました。全ての授業では、知識を暗記するのでは無く、法律や制度を学ぶ際も、それらを使う人を想定し、どの様に活用できたり、状況に応じて判断できる能力の習得を目指しています。したがって、演習や実習形式の科目だけで無く、講義科目においても、事例を用いてロールプレイを導入し、学んだ知識を実践的に活用してみることで、理解促進と教員からだけなく学生同士の学び合いの機会を持つよう試みています。今後は、さらに授業参加度と習得状況の評価を明確にし、受講学生と共有しながら、主体的な学習場面の設定を工夫していきたいと考えています。また、授業の予習･復習については、来年度からはmanabaでの小テストの実施を行っていく予定です。紙ベースの小テスト直しと併用し、予習･復習をすることへの形を作っていきたいと思います。学生自身が学びの積み上げを確認できる仕組みと、評価の公平性をより強く意識した組み立てを行っていきたいと思います。
④暗記ではなく理解することに重点を置いた授業です。講義、演習、実習科目を循環させることで、知識や技術を活用しながら、状況に応じた判断と異なる場面での再現性を求めています。したがって、自ら学ぶ基礎を身につけてもらいたいと思っています。間違えることで他の方法や学びが深まります。一緒に学ぶことを楽しんでいきましょう。

①後藤真里
②生活の化学
③興味を引き出せるような体験、実験などを取り入れていきたいと思います。
④身近な化学に興味を持ちながら生活してくれるとうれしいです。

①佐藤富士子
②介護過程Ⅲ、介護総合演習Ⅳ、介護の基本E、生活支援技術A−Ⅰ
③科目平均値は4科目すべて高く、なかでも生活支援技術A−Ⅰは4.66であった。しかし、すべての科目で質問項目の15予習、復習、課題レポートにかける時間では2.70と低かった。

質問項目の 15 に対する改善として、一部の学生による授業発表によって確認するのではなく、すべての学生の内容を確認するなどの改善が必要である。
④特になし

①澤田唯人（さわだ ただと）
②アイデンティティ論（2019 年度後期・火曜 3 限）
③前年度は「身体とファッションの社会学」（前期・金曜 4 限）を一年代講させていただき、本年度からは「アイデンティティ論」を担当させていただきました。アンケート結果をみる限りですが、学部平均に学生のみなさんからの評価がおおむね達していたこともあり、少しほっとしています。とはいえ、別科目ですが前年度の結果よりも下がっている項目もあり、いくつかの点で改善を模索すべきだと思われました。ひとつは 3 時限目という受講生にとってはお昼ごはん後の眠たい時間帯であったこともあり、授業内でワークをする時間を設けるなど、学生たちがめりはりをもって講義に臨める構成にしたいと思います。いまひとつは、受講生が 130 人ほどいて、なかなかグループワークなど相互の意見交換の時間を持てませんでしたので、次年度は受講者数に応じて、より学生相互の（異質な）リアリティが授業内容に噛んでくるように工夫したいと思っています。総じて、アイデンティティの問題は、若い受講生にとっては身近な問題である一方で、ライフステージごとに質的に大きく異なった課題に直面するものでもあり、そうした問題経験に想像力を介して皮膚感覚的にも接近できる授業を心掛けたいと思います。そのため、授業後にも引き続き学生に考えてもらう課題も適宜盛り込みたいと思います。
④受講生のみなさん、半期でしたが、一生懸命に授業をうけてくださり、ありがとうございました。毎回のリアクションペーパーだけでなく、素晴らしい期末課題の小説を書いてくれた学生さんも多くいて、私の一生の宝物です。皆さんへの要望があるとすれば（これは私自身に向けた要望でもあるのですが）、自分の言葉に何かをたくすことを恐れないこと、です。学問をするということは、過去の研究者が考えたことを学び、利用して、自分も考えるということから出発しますが、一方で「あなた」にしか語れないこともあると思います。学問的に言われていることと、「あなた」にしか語れないこと（それはどんなにささやかなことでもいいです）、この二つのあいだの緊張を生きることで、大学での学びは深まっていきます。どちらもおろそかにしないでください。それは他者と自分を尊重して生きる練習だからです。

①嶋貫真人
②社会保障Ⅱ
③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目№15）」と「授業への積極的参加（同№16）」の 2 項目であった。№15 に関して。例年と同じく、本授業に関しては、予習よりも復習の方に自己学習のウェイトを置いていただきたいというのが、授業担当者からの切なるメッセージである。したがって、毎回の授業の最後に「〇〇の部分について、しっかりと復習しておくように」といった具体的な指示を与えていくことを引き続き行っていきたいと思う。№16

に関して。学生にとって比較的身近な生活課題を例にとって、「このことについて、皆さんはどう思いますか？」といった問いかけを頻繁に行っていくことが重要であると考えている。来年度以降もこのような方針で授業に臨みたいと思う。
④疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人
②更生保護制度
③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「授業中の私語への注意（質問項目№3）」、「学生の理解度を考慮しながら授業を進めた（質問項目№4）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同№5）」、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（同№15）」、および「授業への積極的参加（同№16）」の 4 項目であった。№3 に関して。教壇上からは私語が気になるような場面はなかったので、受講生の感じ方と教師の感覚との間で開きがあるものと思われる。したがって、ときどきリアクション・パーパーを配布するなどして、受講者の反応を聞くことが必要かと思われる。№4 に関して。昨年度のアンケートよりは若干評価が向上したものの、やはりこの項目への対応がひとつのカギとなる。例年同様、重要概念についての反復説明が必要であると感ずる。№5 および№16 に関して。本講座は学生にとってなじみの薄い領域ではあるが、反面で素朴な正義感に訴えながら各自に考えさせることもできる科目であるため、これまで以上に教師から学生に対する授業中の問題提起の時間を多く設けていきたいと思う。№15 に関しては、上記「社会保障Ⅱ」で述べた「№15 に関する改善策」が、本科目にもおおむねあてはまると思われる。
④特になし

①嶋貫真人
②社会福祉援助技術現場実習事後指導
③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね受講生には好評であったものと思われる。
④特になし

①嶋貫真人
②社会福祉学基礎セミナーⅡ
③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目№15）」の 1 項目であった。本講座は、授業時間中の熟考・発言を重視するスタイルであったため、たしかに予習・復習を求める場面は多くなかったと思われる。次年度は当講座の担当からはずれるが、将来この授業に復帰した際には、授業中に課題を出すなどの工夫を行っていきたいと思う。
④特になし

①下田敦子
②博物館情報・メディア論
③博物館における情報源－収蔵資料を映像化し、形状、素材、色、構造などの視点から文字情報、数値情報を抽出し、それら情報を図録や（アナログメディア）、博物館資料データベース（デジタルメディア）に再構成して館外に発信できる能力を涵養することが本科目のねらいである。そのために授業においては、学生が知識のみならず、実践力が身につくように更なる改善を図りたい。①分析対象となる博物館資料（教材）を質量ともにより充実させる。②博物館資料から抽出した映像、文字、数値情報をデジタル化し、検索可能なデータベース構築する。そのために令和元年度に試作し授業で実際に活用した「学習用博物館資料データベースプログラム」を幾つかの不都合を解消して引き続き用いる。
④各自が独自の「博物館資料情報データベース」完成にむけて真剣に取り組んで欲しい。授業で提供する博物館資料のほかに、自身の収集品を対象とすることも期待する。

①末松惠
②（1）相談援助実習指導Ⅱ、（2）相談援助演習Ⅳ
③（1）相談援助実習指導Ⅱ：全体評価：昨年、「私語などの『やる気』の見えない状態、グループ活動における議論の不活発」等の状態が解消できなかったことを総括し、今年は授業のすすめ方及び「グループ討議」の活性化に重点を置いて取り組んだ。〈取り組み方法〉：（体の向きだけを変えるのではなく）椅子の向きから変え、対面して座る。グループ討議の内容を書く用紙は個人用とは別に準備し、班総意として記入することを明確化する。班発表は順番制とし、他班からは発表班を補足する意見を引きだすように工夫する。これらの結果、去年と比べると、私語が減り、最後まで課題に集中して取り組む時間が長くなった印象がある。グループ活動の目標を意識させることで、個々の遂行状況をより積極的に変えていくことにつながることが分かった。なお、グループの編成については、授業開始時に「集まりやすい者同士」ではなく、「（教員に）機械的に編成したグループ」にしてほしいという意見が学生より出された。こうした「クラスの雰囲気」も課題への取組みに影響したものと考えられる。
反省点：他方で、人間関係学部全体平均と比較し、獲得点数において大きく差がついた設問は、「話し方の明瞭さ」「教材資料提示」に関するものであった。これについては、今後教員自身が自覚して改善すべきことがらとして理解した。
（2）相談援助演習Ⅳ：全体評価：本科目は、昨年同様、まじめに地域福祉に向き合う学生が多いなかで、クラス全体の学習意欲も徐々に高まっていったという印象がある。また、中間報告の日を設けたことによって互いの班の進捗状況が把握でき、発表日までに何を修正すべきかを意識しながらすすめることができていた。何より、当該授業科目は、到達課題と 15 回授業のそれぞれの内容が明確に関連・設定されていることによって、学生自身のアイデアや工夫も発揮されやすい状況を作り出している。また、授業計画のわかりやすさ、質の高さは、アンケート集計結果において、全設問で学部平均を上回っていることにも表れている。反省点：他方で、反省すべきことは、授業前半における先進事例紹介の DVD 鑑賞と授業後半におけるフィールドワークが別個にすすんでしまっていることである。DVD 鑑賞は 3 回にわ

たり、それなりのボリュームがあるので、これを関連付けて指導し、先進事例を生かせるようなフィールドワークにしていけるようアドバイスしていきたいと考えている。また、パワーポイントの作成やプレゼン方法は個人差の大きい分野であるが、そうであるからこそ、なおさら気を配り、出来る範囲で個々に援助する必要があると感じた。学生からは、「フィールドワークで使う交通費」への不満が記載されていた。通学定期範囲内での担当割り振りを優先するなど工夫は必要だが、それでも支出が不可避で、個々の学生の支払いに差が出るようであれば、なんらかの補填も考慮されるべきなのかもしれないと感じた。その他：フィールドワーク上の安全確認策として、今年は自由解散後の電話連絡を学生に指示したが、全てのグループがこれを励行して取り組むことができていた。一方で、「成果物」の調査先への報告・提出については、学生への声かけのみに終始し確認には至らなかった。次年度、科目教員での話し合いの場において提起したいと考えている。

④とくになし

①関田誠

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③授業内外の積極性や時間の費やし方に問題があるため、今以上に学生中心の授業展開を今後目指す。

④特に無し

①田中優

②人間関係総論Ⅱ

③15「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」以外の項目において、学部全体平均よりよい回答であったが、さらに良い授業を心がけたい。授業への予習・復習等にかける時間が低いので、改善を検討したい。①毎回manaba を使って学生の意見を引き出したこと、②manaba の返事が早かったこと、③動画を使った授業、④Respon を使って、授業中に学生の意見を引き出そうとしたことなどについて、学生から好評であったので、さらに工夫を心掛けたい。

④授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中優

②心理学基礎実験

③すべての項目において、学部全体平均よりよい回答であったが、さらに良い授業を心がけたい。「心理学は難しいです」という自由記述があったので、学生の理解に応じた授業の改善、工夫を心掛けたい。

④授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求

めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中優
②心理学概論Ⅱ
③15「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」および、16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」以外の項目において、学部全体平均よりよい回答であったが、さらに良い授業を心がけたい。授業への予習・復習等にかける時間が低いので、改善を検討したい。また、学生の授業中の質問や討論を引き出す工夫や改善を検討したい。
④授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①丹野眞紀子
②社会福祉援助技術論Ⅱ－B
③学部平均とほぼ同じであった。これからもしっかりした授業を続けて行きたいと思います。今年は、15 の予習・復習の項目が学部平均より低かったので、来年度は工夫したいと思います。
④この授業は、面接の基礎と、グループワークの学びが中心の授業です。相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野眞紀子
②相談援助実習事後指導
③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。「予習復習」の評価も高く、manaba の活用や学生の自主学習への促しがこの評価につながったと考えます。
④この授業は、実習後の振り返りを中心に行う時間です。ここでの学びは、その後の様々な授業に活かすことが出来るので、しっかりと自分の言葉で学びを表現できるようにしましょう。

田中康雄
②社会福祉学概論Ⅱ
③授業を通して、熱心に耳を傾ける受講生が多く、授業への期待を感じた。ただ、社会福祉において関心度の高い分野等を事前に意見していれば、授業への満足度をより高めることができたと考えられ、この点は改善していきたい。
④特になし

①田中康雄
②高齢者への支援と介護保険制度Ⅱ

③授業では介護保険法、高齢者住まい法等の法律や制度がメインの内容であり、授業の内容が複雑かつ単調となることが多かった。学生の関心度、理解度を深めるような具体的な工夫をより詳細に組み込んでいきたい。
④特になし

①丹野眞紀子
②社会福祉援助技術論Ⅲ－A
③学生からの評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にしたところ、5・12・15 の評価が高かったので、今後も続けたいと思います。
④特になし

①土野瑞穂
②科目名：「女性史」
③今後はもう少し学生参加型の授業を設計し、受講生がより主体的に学べる環境作りに務めたい。また受講者数に対して教室が大きすぎると、教員と受講生の物理的距離が開きすぎていまい、そのことが消極的な受講態度をもたらしてしまうことが考えられるため、次年度からは必要であれば受講者数に見合った教室に変更したいと思う。
④特にありません。

①中田香織
②カウンセリング B（援助促進）
③グループワークが多いため、対人接触が苦手な学生にとっては大変だったように感じています。学生が少しでも、チャレンジしてみようと思えるような工夫をしていきたいと思います。
④苦手なワークにも積極的に参加し、体験しながら自分の中に湧いてくる感情や感覚を味わってもらえたらと思っています。

①西河正行
②精神分析
③今年度はまったくレベルを下げずに授業を行った。理解については 3.02 と低いが、それでも興味深い、将来にとって意味がある、授業を受けてよかったが 4 点以上あり、難しい授業と感じたと予想していたので意外であった。今年分かったことは、概念理解の難しさは予想されることであったが、それ以上に、体験の意味付けができていない学生が多いことであった。つまり、ある筋書きを読ませてそこで何が起きているかを分かっていないことが衝撃であった。以前、映画を見ても意味が分からない学生がいることが話題になったが、それと同じ現象である。それが分からないと、その体験を概念化するところには結びつかない。改善点は学生の体験を深めさせること、それを言語化することになるが、非常に難しい課題であると思う。グループでの話し合いをさせることが役立つかもしれない。

④概念が分からなくても教科書を繰り返し読むように指導しており、それを実際に行ってほしい。

①西河正行
②グループワーク B
③今年度は受講生が適度な人数で、お互いが良く知り合うことができて良い効果があった。そのためか、「今までで受けた授業で一番楽しい」という感想があり、これは初めての評価であった。改善点は、授業の初めに各自に目標を持たせているが、それを中間でも自覚させるワークを取り入れると引き締まると思った。
④単位のためだけに授業を取っている学生がいると、全体のモチベーションを下げる。自覚をもって授業に臨んでほしい。

①仁科薫
②ケアの社会学
③受講生がより予習・復習等に取り組みやすいように、manaba 等を有効活用したいです。
④他の受講生の迷惑になる行為をせずに、それぞれの方が自らの関心を探求してくだされればうれしいです。

①西谷内博美
②環境社会学
③昨年度までのアンケート結果等をうけ、授業に対する期待値の齟齬を避ける必要性を感じ、初回授業においてアクティブラーニングの授業方針を共有することに注力しました。しかし、改善には至らなかったようです。アクティブラーニングの限界を感じましたので、今後は取り入れ方を見直そうと思います。
④なし

①野辺陽子
②ジェンダーと社会生活
③次年度はクリッカーも導入したい
④私語・遅刻は慎んでください

①野辺陽子
②社会調査及び演習Ⅱ
③特になし
④特になし

①野辺陽子
②社会学基礎セミナー

③リテラシー教育をより導入したい
④特になし

①野辺陽子
②家族と現代社会
③特になし
④特になし

①原葉子
②女性史
③ヨーロッパという普段なじみのない地域を扱っており、世界史の知識がない学生も多いことから、学生の理解度に合わせた進行や、学生からの質問や発言を引き出す工夫がより必要と感じています。
④私語もなく静かに聞いていただきありがとうございました。授業やグループワークで発言を求められたときは、遠慮せず自分の意見を言ってください。

①平川八尋
②英語 3B
③理解力の改善、リアクションシート等の利用、ミニクイズの実施
④予習、復習のさらなる強化

①干川剛史
②社会学概論Ⅱ（火 1・2)、現代社会論セミナーⅡ（水 3)、社会調査及び演習Ⅱ（木 2）
③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅱ（火 1・4）（75 人・99 人）については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低いが、さらに、自由回答を読むと、話し方が聞き取りにくい､配付資料のどの箇所を話しているのかわかりにくい等､改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平であるという点での評価が高い。また、自由回答では、パワーポイントがわかりやすい、毎回配られる新聞記事のプリントが興味深く面白い、ゲストで授業に招いた方の話が面白かったと好評である。他方で、現代社会論セミナーⅡ（16 人）と社会調査及び演習Ⅱ（20 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行いながら、理解度を把握して授業を進めることができるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等以上である。特に、社会調査及び演習Ⅱについては、学生の授業の準備状況の項目（14）以外の項目の評定平均が 4 点台と高得点であった。
④講義科目もセミナー科目も､教科書を読んで予習した上で､積極的に授業に参加してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①本田周二
②対人コミュニケーション
③昨年度と比べると、「授業の進め方」「授業の内容」「授業への取り組みとその成果」「総合的な印象」のすべてにおいてポイントが低くなっていた。特に、「授業の内容」のうち、「授業は学習の目標がはっきり示された」のポイントが昨年は「4. 69」、今年は「4. 27」と 0. 4 ポイントも下がっていた点は改善する必要がある。扱うテーマが広い分、目標がぶれていた可能性があるので、次年度は授業の最初に、学習の目標を明示したうえで、実施していきたい。
④対人コミュニケーションは自身の経験と結びつけやすい科目だと思います。その分、誤解が生まれやすい科目でもあります。自身の経験だけで考えるのではなく、理論や考え方をしっかり学ぶことを意識してもらいたいです。

①本田周二
②教育心理学
③昨年度より大幅に授業の形式を変更した。昨年度よりも「授業の進め方」「授業の内容」「授業への取り組みとその成果」「総合的な印象」のすべてにおいてポイントが高くなっていた。昨年度よりも予習メモに対するフィードバックを丁寧に行ったことが学生の動機づけを高め、学びにつながったのではないかと考えている。授業外の学習についても、2 年前は「2. 11」、昨年は「3. 45」、今年は「3. 98」と着実に高まってきている。授業の難易度を高めたにもかかわらずこのような結果が出た点については安堵したとともに、頑張って受講してくれた学生に感謝したい。次年度もこれを継続して、さらに高めていきたい。
④本授業では、半期で 1 冊の教科書を自分でまとめ、他者に伝えることで理解を深めていきます。最初は大変ですが、理解度は抜群に上がります。ぜひ、楽しみましょう。

①本田周二
②基礎統計学Ⅱ
③昨年度、教員のこの授業の進め方について「4. 36→4. 64」と向上したが、今年度も「4. 56」と概ね高い点数を維持できた点は良かったと考えている。自由記述での回答でも「プリントが見やすくわかりやすかった」「どの練習問題でも細かく指導していただいたので理解が深まりました」という声があり、安心した。ただ、授業外での学習について、「2. 39」と低い数値のままであった点は改善の余地があると考えている。基礎統計学Ⅱでは、内容理解のために、授業内外で多くの問題を解くことが重要となる。次年度は授業外の学習の位置づけをより明確にして、学生に授業外学習を促し、結果、学びを理解を深めていきたいと考えている。
④統計は、繰り返し課題を解いていくことで身についていきます。授業中だけでなく、授業外での自習を大切にしてください。そして分からない点があれば、ぜひ積極的に聞いて早めに解決して欲しいです。統計は分かるようになると楽しいですよ。

①牧野智和
②社会学基礎セミナーⅡ・基礎統計学Ⅱ

③質問 15（予習復習）について、基礎セミナーⅡは文献購読の発表資料準備が主で、基礎統計学Ⅱはレポート 2、試験、それに各回に小課題と、予習復習の量に大きな差があると思っていたのですが、回答結果について 0.4 ポイント程度しか差がなく、学生にとっての予習復習とは一体何にあたるのか、もう少し詳しく考えてみたいと思いました。
④特になし

①松山博光
②人間関係総論Ⅲ、相談援助演習Ⅳ、相談援助実習指導Ⅱ
③授業の改善点：3 科目とも大きな改善点は必要ないと思われる。人間関係総論Ⅲは、リアクションペーパー（6 回）から学生の理解度や意見・質問を受けて講義に反映させている。しかし次年度は、よりよい学習効果を図るために講義中に質疑応答が出来るような参加型講義を試みたい。相談援助演習Ⅳは、特に学生から改善点が出されていたフィールドワークの効果的な設定（時間帯、場所）を試みたい。相談援助実習指導Ⅱは、学生からの評価（科目平均値 4.28）もよく、これまで通りの指導方法でよいと思われる。
④3 科目とも授業の取り組みとその成果の項目（Q15. 学生の予習・復習等）において、最も低い評価（1.85、1.69、2.69）が出されていた。この項目は、これまでも同様に低い数値である。学生は講義等だけではなく、自己学習（復習・課題等）を通して理解を深めて頂きたい。

①森功次
②ポピュラーカルチャーの世界、言語と文化
③どちらの授業でも昨年は内容が難しいという意見があったので、今年は以下の対応策をとった。a)．昨年と比べて授業であつかう話題を減らし、その分細部まで説明するようにした。b)． 中間課題を増やし、レスポンスの段階で注意点を時間をかけて説明した。結果として、レポートの質は昨年と比べてかなり向上したが、授業アンケートでの評価が下がった。正直なところ、来年の方針をどうするか悩んでいる。
④レポートを読んでいると、文章力のある学生とない学生との差がかなり激しいと感じる。授業では作文課題を積極的に課しているが、文章力、表現力は一朝一夕で伸びるものではないので、ぜひ学生たちには日頃から読書の習慣をつけてほしい。

①馬淵聖二
②心理検査法セミナー
③アンケート結果は概ね良い結果であったが、出席率のみ学部全体平均と同じかそれ以下であった。出席率を上げるための工夫として、課題への取り組み方や、どう評価・採点されるのかという基準の提示、リアクションペーパーに求める観点をこちらからもっと丁寧に提示することが考えられる。
④特になし

①八城薫
②心理学統計法
③この授業は同時期に同じく必修として受講される社会心理学調査研究法の課題を考慮して、予習・復習、課題の内容を設定しています。さらに余力のある学生向けに発展課題などを用意することを検討したいと思います。
④しっかりと取り組んでくれた方が殆んどでした。課題として提出した分析結果レポートを今後の研究に生かしてください。

①八城薫
②社会心理学調査研究法
③この授業は実践重視で取り組んでみる内容が多く、理解は後からジワジワとついてくるようなアクティブラーニング的な授業を意識的にしています。ですが、今後はもう少し理解を実感し、納得しながら進んでいけるような工夫も取り入れたいと思います。
④初めて本格的に調査研究を行う授業で、課題も多く非常に大変だったと思いますが、皆さん積極的に、一研究者としての自覚を持って実施してくれました。この授業と前期の社会心理学実験研究法で得た技能を生かして、今後ご自身の興味のある研究を進めていただきたいと思います。

①山本真知子
②社会的養護論
③学生にリアクションペーパーなどで要望を聞きながら、わからない点などをフォローできるように授業を展開した。しかし、極少数の学生には授業の内容や成果について点数が低いことが見受けられた。前期も同じ受講生のアンケートで同じような数値もあったため、原因等を探りながら対応していきたいと思う。前期は manaba での質問回答を行ったが、後期は対面形式に変更した。数値的にあまり変わらなかったため一定数の授業に対しての意欲等が低い学生がいるのかもしれないなど考えられる。
④テストの範囲の中で学習することに慣れる授業でもあると思うので、国家試験を意識しながら受講してほしい。

①山本真知子
②ソーシャルワーク論 A- I
③1 年生の必修科目だったため、わかりやすい授業をめざしたが、専門的な用語も並ぶため学生にとっては難しかったと思う。予習復習に関しては、毎回の宿題を出さずに新聞などを読むように促し、今話題のトピックを問うようにしていたが、予習復習の時間に関しては前年度同様点数が上がらない。学生が意欲的に参加できるように、少しずつ改善を行っていきたいと思う。マイクの音量、部屋の温度など 100 名以上の受講生の場合、一人ひとりに合うものにしていくことが難しかった。変えられる要望に関してのヒアリングなども行っていきたい。

④一部の意見で教員に対して「苦手」等のコメントが見られるが、授業に関するアンケートのため、何を問われているものなのかを理解したうえで記入してほしい。部屋の温度、マイクの音量などはその都度教員に知らせてくれるとすぐに改善できるので、伝えてほしい。

①山本真知子
②相談援助演習Ⅰ
③演習形式の科目だったので､引き続き個別の学生に応じた授業を展開していきたい｡同時に、予習・復習の点数が学生によって差があり、同じ課題を出しているのにもかかわらず、差があることは学習の理解度とも関連しているように感じる。予習・復習の意味を再度確認していきたい。
④特になし

①山本真知子
②社会福祉基礎セミナーⅡ
③少人数クラスの授業だったため、学生のニーズを理解しやすかったが、レジュメの提示の方法などはさらに改善できると思う。来年度改善していきたい。グループ活動になるため、学生同士の関係性や個別の状況などを踏まえて授業を展開するため、学生の情報なども併せて考えながら授業を展開していきたいと思う。
④特になし。

①吉方りえ
②女性と健康
③授業の進め方が一方的になる傾向があるため、双方向の授業が進められるようにしたい。健康に関連するテーマを絞り、小グループでのディスカッションの機会を増やしていきたい。
④興味および関心をもって授業に臨んでほしいと思っている。

令和元(2019)年度人間関係学部FD委員会

委員長　本田　周二　（人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、准教授）
委　員　福島　哲夫　（人間関係学部長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授）
　　大出　春江　（人間関係学科長、人間関係学科、社会学専攻、教授）
　　尾久　裕紀　（人間福祉学科長、人間福祉学科、教授）
　　伊藤美登里　（人間関係学科、社会学専攻、教授）
　　上野　優子　（人間福祉学科、教授）

令和元（2019)年度　人間関係学部ＦＤ活動報告書

2020(令和2)年5月発行

発　　行　大妻女子大学人間関係学部
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2－7－1

著作・編集　大妻女子大学人間関係学部ＦＤ委員会
ningenfd@ml.otsuma.ac.jp

印刷・製本　株式会社相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1－14－17
TEL　042-772-1275
FAX　042-774-1913